

一般国道9号(羽合道路)改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅱ

鳥取県東伯郡泊村

UTANI

宇谷第1遺跡

鳥取県東伯郡羽合町

MINAMIDANIOONARU

南谷大ナル遺跡

1992

財団法人 鳥取県教育文化財団

建設省 倉吉工事事務所

正 誤 表

頁	行	誤	正
序 文	19	発掘発掘委託契約	発掘委託契約
序 文	23	幸に	幸いに
目 次	21	堅穴	竪穴
図版目次 (1)	図版14 3行目	完掘	完掘
◇(2)	図版19 2行目	SI完掘	SI01完掘
◇(2)	図版21 2行目	(東より)	(南より)
◇(2)	図版21 3行目	(西より)	(東より)
◇(2)	図版25 1行目	Po55~Po58、Po	Po55~Po58
◇(2)	図版25 4行目	Po89)	Po89、Po90)
◇(2)	図版42 4行目	Po455)	Po445)
1	19	1992年4月~1993年3月	1991年4月~1992年3月
1	25	堅穴	竪穴
2	11	堅穴	竪穴
2	26	溝状機構	溝状遺構
10	24	P 6 (26×26-32)	P 6 (26×26-32)cm
17	挿図6	A - A'断面	

20	挿図7	△勾玉	△砥石
21	41	Po190	トル
51	32	やや古い	やや新しい
56	挿表4	(SK15)0.70×0.34×チェック	0.70×0.34
56	挿表4	(SK16)0.89×0.30×チェック	0.89×0.30
63	2	SD00	SD02
109			
図版21		SD02完掘状況(西より)	SD02完掘状況(南より)
図版25		Po71	Po71
図版40		Po403内面	Po403

序

東郷池周辺は、古くから遺跡の宝庫として知られています。東郷池の北東に位置する羽合町には、国史跡の橋津古墳群や砂丘下の大集落であった長瀬高浜遺跡など全国に知られた遺跡があります。また泊村では、集落跡や古墳のほか銅鐸などの貴重な遺物も出土しています。さらに、東郷町では国史跡の北山古墳をはじめとする古墳群や集落跡などがあります。なかでも、伯耆国(鳥取県西部)の一宮であった倭文神社では、経筒・金銅仏などの遺物が出土し、「伯耆一宮経塚出土品」として国宝に指定されています。

このような遺跡地帯を、当財団が昨年度にひきつづき建設省の委託を受け、「一般国道9号(羽合道路)改築工事に伴う発掘調査」として泊村と羽合町で行いました。

その結果、集落跡2か所などが発掘され、砂丘下の大集落であった長瀬高浜遺跡の空白期間を埋める時期の集落跡が丘陵地で調査されるなど、郷土の歴史を解き明かしていくうえで貴重な資料を得ることができました。今回、この貴重な調査成果を報告書にまとめ刊行することができました。

本報告書が教育および学術研究のため広く活用され、歴史の解明の一助になればと期待するとともに、文化財に対する理解や認識がより深まり、その成果が永く後世に伝えられれば幸いです。

最後に、建設省倉吉工事事務所ならびに交通の不便な所にもかかわらず調査に参加して下さった地元の方々をはじめ、ご協力いただいた方々、その他関係各位に対して心から感謝し、厚くお礼申し上げます。

平成4年3月

財団法人 鳥取県教育文化財団

理事長 西 尾 邑 次

序 文

建設省が管理する一般国道9号は、京都市を起点として福知山を経由し、蒲生峠から山陰地方へ入り、日本海に沿って鳥取・島根両県を西走し、山口県下関に至る延長約609kmの路線であり、山陰地方の産業・経済活動の動脈として大きな役割を果たしています。

このうち建設省倉吉工事事務所では、東伯郡泊村から米子市(鳥取・島根県境)まで約80kmを管理しており、各種の道路整備事業を実施しています。そのうちの一つに東伯郡羽合町及び泊村地内において、将来の国土開発幹線道路として当面、活用できる機能を有する高規格な自動車専用道路である羽合道路の整備を進めています。

羽合道路は、泊村原地内でインターチェンジにより現道9号及び①倉吉青谷線とアクセスし、羽合町長瀬でインターチェンジによって北条道路一般部とアクセスしますが、途中東郷湖が見渡せる位置にサービスエリアが予定されている延長6kmの県中部地方ではじめての高規格道路で、昭和61年度に国道9号のバイパス事業として事業に着手しましたが、63年度に高規格な機能を持たすよう構造変更を行い、同年用地買収に着手しました。平成2年度からは、羽合高架橋下部工事に着手し、今年度は6基を残して完了しました。

このルートには、全部で10か所の古墳・散布地がありますが、鳥取県教育委員会と協議を行い、文化財保護法第57条の3の規定に基づき文化庁長官へ通知した結果、事前に発掘調査を行い記録保存を行うこととなりました。

このうち今年度は、工事の予定工程等を考慮し調整した結果、「宇谷第1遺跡」「南谷大ナル遺跡」「南谷大山遺跡」の3か所について財団法人鳥取県教育文化財団と発掘委託契約を締結し、鳥取県教育委員会の指導のもとに発掘調査が行われました。残りの箇所についても4年度に引き続き発掘発掘委託契約を締結し、発掘調査を進めていただく予定です。

本書は、この調査結果に学術的な考察を加え、「記録」として保存するためにまとめられたものです。この貴重な「記録」が文化財に対する認識と理解を深めるため、並びに教育及び学術研究のために広く活用されることを期待するとともに、建設省の道路事業が、文化財保護に深い関心を持っていることに御理解をいただければ幸に存じます。

おわりに、事前の協議をはじめ現地での調査から報告書の編纂に至るまでご協力をいただいた鳥取県教育委員会及び財団法人鳥取県教育文化財団の関係各位のご尽力に対し感謝いたします。

平成4年3月

建設省 倉吉工事事務所長

岡 田 清 彦




例 言

1. 本報告書は、1991年度一般国道9号(羽合道路)改築工事に伴う泊村大字宇谷字宇野谷地区(宇谷第1遺跡)、羽合町大字南谷字大ナル地区(南谷大ナル遺跡)の埋蔵文化財発掘調査記録である。
2. 本報告書に記載した宇谷第1遺跡は周知の名称であるが、南谷大ナル遺跡は新発見の遺跡の為、周知の南谷遺跡と区別するために大字と小字名を並べて命名したものである。
3. 本報告書に記載した遺跡の所在地は、宇谷第1遺跡が泊村大字宇谷字宇野谷474-1、字清水563-5他4筆、南谷大ナル遺跡が羽合町大字南谷字大ナル263-1、263-5である。
4. 本報告書で示す標高は建設省の道路センター杭を基準とし、宇谷第1遺跡はNo.60+20(X:-55420.9577 Y:-37781.9886)、57.412m、南谷大ナル遺跡はNo.89(X:-56047.4965 Y:-40429.8712)、54.148mを起点とする標高値で方位は磁北である。X、Yは国土地院第5系である。
5. 本報告書に記載の地形図は国土地理院発行の1/50000地形図「青谷・倉吉」、調査区位置図は羽合町の1/2500地形図「都市計画計画図5」、泊村の1/2500地形図「地区再編農業構造改善事業計画樹立現況平面図5」を使用した。
6. 本報告書の作成は調査員の討議に基づくものである。
報告書本文については調査員が分担して執筆し、執筆担当者名は目次に記載した。
挿図のうち、遺構実測は調査員、補助員、及び業者委託して行った。
遺構の浄写は中部埋蔵文化財調査事務所、遺物の実測・浄写は、鳥取県埋蔵文化財センターで行った。
遺構写真は発掘担当調査員が、遺物写真は牧本・岸本が撮影した。
本書の編集は米田が行った。
7. 出土遺物、図面、スライド等は鳥取県埋蔵文化財センターに保管されている。ただし、出土遺物は将来的に泊村教育委員会及び羽合町教育委員会に移管する予定である。
8. 今年度調査で確認した竪穴住居跡の構造とこれからの住居跡の調査の方法についての指導助言を奈良国立文化財研究所の浅川滋男研究官から頂いた。
9. 宇谷第1遺跡の住居内土坑出土の炭化物を京都産業大学理学部年代測定室の山田治教授にC¹⁴測定をお願いした。
10. 鳥取県工業試験所の佐藤公彦研究員に宇谷第1遺跡の竪穴住居内より出土した炭化物の樹種鑑定をお願いした。
11. 本年度調査区出土の石器、玉類を鳥取大学教育学部の赤木三郎教授に材質鑑定をして頂いた。
12. 現地調査及び報告書作成にあたって、下記の方々に指導助言・協力して頂いた。

伊藤 和彦、木村 良夫、国田修二郎、小原 貴樹、真田 廣幸、
清水 真一、瀧川 友子、土井 珠美、中野 知照、西尾 克己、
根鈴 輝男、根鈴智津子、広江 耕治、松本美佐子、宮本 正保、
森下 哲哉

(五十音順、敬称略)

凡 例

- 発掘調査時における遺構番号と報告書の番号は、基本的に一致する。
- 本報告書における遺構記号は次のように表す。なお、掘立柱建物跡の柱穴のピット番号は、建物毎の番号とピット群の番号がある。
S I : 竪穴住居跡 SB : 掘立柱建物跡 SK : 土坑・土壕 SD : 溝状遺構 SS : 段状遺構
P : 柱穴・ピット
- 本報告書における実測図は下記の縮尺で掲載した。
(1) 遺構図—竪穴住居跡：1/60、掘立柱建物跡：1/60、土坑・土壕：1/30、溝状遺構：1/60・1/100・1/400、段状遺構：1/60、ピット群：1/60・1/300
(2) 遺物実測図—土器：1/3、土玉：1/2、鉄製品：1/2、勾玉・管玉：1/1、石器：1/1・1/2・1/3
- ピットの規模は(長径×短径—深さ)cmで表した。竪穴住居跡の規模は、壁溝を除いた床面の規模である。
- 遺構図における表示は以下の通りである。
 : 焼土、 : 貼床
- 本報告書における遺物記号は次のように表す。
Po : 土器・土製品 S : 石器・玉製品 F : 鉄製品
- 土器実測図のうち、弥生土器・土師器は断面白抜き、須恵器は断面黒塗りて表現した。遺物実測図中における記号は以下の通りにする。
—> : ケズリの方向(砂粒の動きで判断した)、----- : 擦り範囲、——— : 敲打範囲
 : 敲打面、●Po : 床面出土土器
- 遺物には、遺跡名、遺構名もしくはグリッド名、取り上げ番号、取り上げ年月日を基本的に記載した。遺跡名は次の略号を用いた。宇谷第1遺跡=UT1、南谷大ナル遺跡=ON。実測した遺物については、実測者の頭文字を使った実測者番号(KR-1、NA-1等)を2×5mm程度のシールに記し、それを個体ごとに貼り付け、実測原図にもその番号を記した。
- 遺物観察表については以下の通りとする。
 - 法量の欄の番号は次の通りとする。
①口径②器高③胴部最大径④底部径⑤複合口縁立ち上がり長⑥須恵器環蓋稜径⑦須恵器環蓋口縁高⑧須恵器坯身基部径⑨須恵器坯身立ち上がり長である。その他の計測値については、その都度計測位置を記載した。また、実測の際に復元した計測値には、数値の後に※印、残存値は同様に△印を付した。
 - 手法の欄に記載されている成形・調整・施文の方向は、実測図で表された方向である。
 - 備考欄に記載してあるKR-1等の番号は実測者番号である。

目 次

序		
序 文		
例 言		
凡 例		
目 次		
第1章 調査の経緯		
第1節 調査にいたる経緯 (米田)	1
第2節 調査の経過と方法 (米田)	1
第3節 調査体制 (米田)	4
第2章 位置と環境		
第1節 地理的環境 (岸本)	5
第2節 歴史的環境 (牧本)	6
第3章 宇谷第1遺跡の調査		
第1節 宇谷第1遺跡の概要 (米田)	10
第2節 宇谷第1遺跡の調査結果 (米田・牧本・岸本)	10
第4章 南谷大ナル遺跡の調査		
第1節 南谷大ナル遺跡の概要 (牧本)	57
第2節 南谷大ナル遺跡の調査結果 (牧本)	57
第5章 遺構と遺物の検討		
第1節 宇谷第1遺跡の変遷と性格 (牧本)	65
第2節 竪穴住居跡 (米田)	69
註・参考文献	72
遺物実測図	73
遺物観察表 (米田・牧本・岸本)	111
写真図版		

挿 図 目 次

挿図1 道路建設ルートと調査区位置図	3	
挿図2 泊村・羽合町の位置	5	
挿図3 周辺遺跡分布図	7	
挿図4 宇谷第1遺跡調査前地形測量図	11-12-13	
挿図5 宇谷第1遺跡遺構全体図	14-15-16	
挿図6 宇谷第1遺跡SI01遺構図	17	
挿図7 宇谷第1遺跡SI02-10遺構図	19-20	
挿図8 宇谷第1遺跡SI03委・壘類他出土状況図	22	
挿図9 宇谷第1遺跡SI03高坏出土状況図	22	
挿図10 宇谷第1遺跡SI03遺構図	23-24	
挿図11 宇谷第1遺跡SK14遺構図	24	
挿図12 宇谷第1遺跡SK15-16遺構図	24	
挿図13 宇谷第1遺跡SI04-05遺構図	27-28	
挿図14 宇谷第1遺跡SK12遺構図	29	
挿図15 宇谷第1遺跡SK13遺構図	29	
挿図16 宇谷第1遺跡SI06遺構図	31	
挿図17 宇谷第1遺跡SI07遺構図	32-33	
挿図18 宇谷第1遺跡SI08遺構図	36-37	
挿図19 宇谷第1遺跡SI09遺構図	38-39	
挿図20 宇谷第1遺跡SB01遺構図	41	
挿図21 宇谷第1遺跡SB02遺構図	42	
挿図22 宇谷第1遺跡SB03遺構図	43	
挿図23 宇谷第1遺跡ビット群遺構図	44	
挿図24 宇谷第1遺跡SK01遺構図	45	
挿図25 宇谷第1遺跡SK02遺構図	46	
挿図26 宇谷第1遺跡SK03遺構図	47	
挿図27 宇谷第1遺跡SK04遺構図	48	
挿図28 宇谷第1遺跡SK05-06遺構図	48	
挿図29 宇谷第1遺跡SK07遺構図	49	
挿図30 宇谷第1遺跡SK08遺構図	49	
挿図31 宇谷第1遺跡SK10遺構図	49	
挿図32 宇谷第1遺跡SK09遺構図	50	
挿図33 宇谷第1遺跡SK11遺構図	50	
挿図34 宇谷第1遺跡SD01遺構図	52-53	
挿図35 宇谷第1遺跡SD04遺構図	54	
挿図36 南谷大ナル遺跡調査前地形測量図	58-59	
挿図37 南谷大ナル遺跡遺構全体図	58-59	
挿図38 南谷大ナル遺跡SI01遺構図	60	
挿図39 南谷大ナル遺跡SD01遺構図	61	
挿図40 南谷大ナル遺跡SD02遺構図	62	
挿図41 南谷大ナル遺跡SD03遺構図	62	
挿図42 南谷大ナル遺跡SS01遺構図	63	
挿図43 南谷大ナル遺跡ビット群遺構図	64	
挿図44 宇谷第1遺跡の変遷過程図	67	
挿図45 住居跡平面プラン変遷図	70	
挿図46 宇谷第1遺跡SI01 (Po1・Po2)		
	SI02 (Po3~Po15) 遺物実測図	73
挿図47 宇谷第1遺跡SI02 (Po16~Po18・S1~S3)		
	SI10 (Po19~Po22) 遺物実測図	74
挿図48 宇谷第1遺跡SI03 (Po23~Po29) 遺物実測図	75	
挿図49 宇谷第1遺跡SI03 (Po30~Po43) 遺物実測図	76	
挿図50 宇谷第1遺跡SI03 (Po44~Po58) 遺物実測図	77	
挿図51 宇谷第1遺跡SI03 (Po59~Po74) 遺物実測図	78	
挿図52 宇谷第1遺跡SI03 (Po75~Po90) 遺物実測図	79	
挿図53 宇谷第1遺跡SI03 (Po91~Po97) 遺物実測図	80	
挿図54 宇谷第1遺跡SI03 (Po98~Po104) 遺物実測図	81	
挿図55 宇谷第1遺跡SI03 (Po105~Po112) 遺物実測図	82	
挿図56 宇谷第1遺跡SI03 (Po113~Po125) 遺物実測図	83	
挿図57 宇谷第1遺跡SI03 (Po126~Po147) 遺物実測図	84	
挿図58 宇谷第1遺跡SI03 (Po148~Po158) 遺物実測図	85	
挿図59 宇谷第1遺跡SI03 (Po159~Po168) 遺物実測図	86	
挿図60 宇谷第1遺跡SI03 (Po169~Po179) 遺物実測図	87	
挿図61 宇谷第1遺跡SI03 (Po180~Po197) 遺物実測図	88	
挿図62 宇谷第1遺跡SI03 (Po198~Po222) 遺物実測図	89	
挿図63 宇谷第1遺跡SI03 (Po223~Po239) 遺物実測図	90	
挿図64 宇谷第1遺跡SI03 (Po240~Po258) 遺物実測図	91	
挿図65 宇谷第1遺跡SI03 (Po259~Po261・F1・F2・S4~S6)		
	遺物実測図	92
挿図66 宇谷第1遺跡SI03 (S7~S9)		
	SI04・05 (Po262~Po271) 遺物実測図	93
挿図67 宇谷第1遺跡SI04・05 (Po272~Po283・S10~S13)		
	遺物実測図	94
挿図68 宇谷第1遺跡SI06 (Po284~Po296) 遺物実測図	95	
挿図69 宇谷第1遺跡SI06 (Po297~Po300)		
	SI07 (Po301~Po310) 遺物実測図	96
挿図70 宇谷第1遺跡SI07 (Po311~Po320) 遺物実測図	97	
挿図71 宇谷第1遺跡SI07 (Po321~Po330・S14) 遺物実測図	98	
挿図72 宇谷第1遺跡SI08 (Po331~Po344) 遺物実測図	99	
挿図73 宇谷第1遺跡SI08 (Po345~Po360) 遺物実測図	100	
挿図74 宇谷第1遺跡SI08 (Po361~Po374) 遺物実測図	101	
挿図75 宇谷第1遺跡SI08 (Po375~Po389) 遺物実測図	102	
挿図76 宇谷第1遺跡SI08 (Po390~Po407・S15) 遺物実測図	103	
挿図77 宇谷第1遺跡SI08 (S16・S17)		
	SI09 (Po408~Po413・S18・S19) 遺物実測図	104
挿図78 宇谷第1遺跡SK02 (Po414)		
	SK03 (Po415~Po418・F3)	
	SK04 (Po419~Po421)	
	SK06 (Po422)	
	SK07 (Po423~Po424) 遺物実測図	105
挿図79 宇谷第1遺跡SK09 (Po425)		
	SK11 (Po426)	
	SD01 (Po427~Po439) 遺物実測図	106
挿図80 宇谷第1遺跡SD02 (Po440~Po452)		
	SD03 (Po453~Po459) 遺物実測図	107
挿図81 宇谷第1遺跡SD03 (Po460~Po461)		
	SD05 (Po462)	

挿 表 目 次

挿表1 宇谷第1遺跡壁穴住居跡一覽表 …………… 55	挿表16 宇谷第1遺跡出土土器観察表⑩ …………… 121
挿表2 宇谷第1遺跡ピット群一覽表 …………… 55	挿表17 宇谷第1遺跡出土土器観察表⑪ …………… 122
挿表3 宇谷第1遺跡掘立柱建物跡一覽表 …………… 56	挿表18 宇谷第1遺跡出土土器観察表⑫ …………… 123
挿表4 宇谷第1遺跡土坑・土壇一覽表 …………… 56	挿表19 宇谷第1遺跡出土土器観察表⑬ …………… 124
挿表5 南谷大ナル遺跡ピット群一覽表 …………… 64	挿表20 宇谷第1遺跡出土土器観察表⑭ …………… 125
挿表6 宇谷第1遺跡出土土器観察表① …………… 111	挿表21 宇谷第1遺跡出土土器観察表⑮ …………… 126
挿表7 宇谷第1遺跡出土土器観察表② …………… 112	挿表22 宇谷第1遺跡出土土器観察表⑯ …………… 127
挿表8 宇谷第1遺跡出土土器観察表③ …………… 113	挿表23 宇谷第1遺跡出土土器観察表⑰ …………… 128
挿表9 宇谷第1遺跡出土土器観察表④ …………… 114	挿表24 宇谷第1遺跡出土土器観察表⑱ …………… 129
挿表10 宇谷第1遺跡出土土器観察表⑤ …………… 115	挿表25 宇谷第1遺跡出土土器観察表⑳ …………… 130
挿表11 宇谷第1遺跡出土土器観察表⑥ …………… 116	挿表26 宇谷第1遺跡土製品観察表 …………… 131
挿表12 宇谷第1遺跡出土土器観察表⑦ …………… 117	挿表27 宇谷第1遺跡鉄製品観察表 …………… 131
挿表13 宇谷第1遺跡出土土器観察表⑧ …………… 118	挿表28 宇谷第1遺跡石製品観察表 …………… 132
挿表14 宇谷第1遺跡出土土器観察表⑨ …………… 119	挿表29 南谷大ナル遺跡出土土器観察表 …………… 133
挿表15 宇谷第1遺跡出土土器観察表⑩ …………… 120	挿表30 南谷大ナル遺跡石製品観察表 …………… 133

図 版 目 次

図版1 宇谷第1遺跡調査前全景(西上空より) 宇谷第1遺跡全景(南上空より)	宇谷第1遺跡SI07内砥石(S14)出土状況(北より)
図版2 宇谷第1遺跡SI01完掘状況(西より) 宇谷第1遺跡SI01機土検出状況(北より) 宇谷第1遺跡SI02-10完掘状況(北より)	図版10 宇谷第1遺跡SI08完掘状況(北より) 宇谷第1遺跡SI09完掘状況(南より) 宇谷第1遺跡SI09柱穴位置(北より)
図版3 宇谷第1遺跡SI03土器出土状況(南より) 宇谷第1遺跡SI03完掘状況(南より) 宇谷第1遺跡SI03完掘状況(西より)	図版11 宇谷第1遺跡SI09柱穴位置(南より) 宇谷第1遺跡ピット群完掘状況(その1)(南より) 宇谷第1遺跡ピット群完掘状況(その2)(東より)
図版4 宇谷第1遺跡SI03南側仕切り溝完掘状況(北より) 宇谷第1遺跡SI03内SK15-16完掘状況(西より) 宇谷第1遺跡SI03壘(Po91)出土状況(南より)	図版12 宇谷第1遺跡SB01完掘状況(北より) 宇谷第1遺跡SB02完掘状況(西より) 宇谷第1遺跡SB03完掘状況(北より)
図版5 宇谷第1遺跡SI03高塚(Po190)壘(Po26)出土状況(南より) 宇谷第1遺跡SI03壘(Po30)小型丸底壘(Po241)出土状況(北東より) 宇谷第1遺跡SI03刀子(F2)出土状況(北より)	図版13 宇谷第1遺跡SK01完掘状況(北より) 宇谷第1遺跡SK02完掘状況(東より) 宇谷第1遺跡SK03完掘状況(西より)
図版6 宇谷第1遺跡SI04-05完掘状況(北より) 宇谷第1遺跡SI04-05完掘状況(西より) 宇谷第1遺跡SI04-05貼床除去後完掘状況(西より)	図版14 宇谷第1遺跡SK04遺物出土状況(東より) 宇谷第1遺跡SK04内合付鉢(Po421)出土状況(東より) 宇谷第1遺跡SK05(右)・06(左)完掘状況(北より)
図版7 宇谷第1遺跡SI05内SK12炭化物出土状況(東より) 宇谷第1遺跡SI05内SK13炭化物出土状況(東より) 宇谷第1遺跡SI05内SK13完掘状況(東より)	図版15 宇谷第1遺跡SK07検出状況(北より) 宇谷第1遺跡SK08遺物出土状況(南より) 宇谷第1遺跡SK09完掘状況(南より)
図版8 宇谷第1遺跡SI06-07完掘状況(北より) 宇谷第1遺跡SI06ピット検出状況(北より) 宇谷第1遺跡SI06壘(Po284)出土状況(南より)	図版16 宇谷第1遺跡SK10完掘状況(北より) 宇谷第1遺跡SK11検出状況(南より) 宇谷第1遺跡SD02検出状況(南より)
図版9 宇谷第1遺跡SD04完掘状況(北より) 宇谷第1遺跡SI07完掘状況(西より)	図版17 宇谷第1遺跡SD01検出状況(南より) 宇谷第1遺跡SD01完掘状況(南より) 宇谷第1遺跡SD03検出状況(東より)

- 図版18 宇谷第1遺跡SD05検出状況(西より)
南谷大ナル遺跡調査前全景(東より)
南谷大ナル遺跡全景(北上空より)
- 図版19 南谷大ナル遺跡SI01検出状況(南より)
南谷大ナル遺跡SI完掘状況(南より)
南谷大ナル遺跡SI01貼床除去後完掘状況(南より)
- 図版20 南谷大ナル遺跡ピット群完掘状況(北西より)
南谷大ナル遺跡SS01石検出状況(北より)
南谷大ナル遺跡SS01完掘状況(北より)
- 図版21 南谷大ナル遺跡SD01完掘状況(北より)
南谷大ナル遺跡SD02完掘状況(東より)
南谷大ナル遺跡SD03完掘状況(西より)
- 図版22 宇谷第1遺跡SI01(Po1, Po2)・SI02(Po4~Po7, Po12
~Po14, Po16, Po18, S1~S3)
- 図版23 宇谷第1遺跡SI03(Po23, Po24, Po26, Po27)
- 図版24 宇谷第1遺跡SI03(Po25, Po28~Po39)
- 図版25 宇谷第1遺跡SI03(Po44~46, Po52, Po55~Po58, Po
Po62, Po66, Po67, Po71~Po74,
Po76, Po78, Po81, Po83, Po84, Po
89)
- 図版26 宇谷第1遺跡SI03(Po91~Po97)
- 図版27 宇谷第1遺跡SI03(Po98, Po99, Po104~Po110, Po119)
- 図版28 宇谷第1遺跡SI03(Po121~Po123, Po142~Po144, Po
151, Po153, Po157)
- 図版29 宇谷第1遺跡SI03(Po148, Po150, Po152, Po158~Po
161)
- 図版30 宇谷第1遺跡SI03(Po162~Po169)
- 図版31 宇谷第1遺跡SI03(Po170, Po171, Po173~Po179)
- 図版32 宇谷第1遺跡SI03(Po182, Po186~Po188, Po190, Po
191, Po193, Po194, Po198)
- 図版33 宇谷第1遺跡SI03(Po195, Po197, Po203, Po210, Po
212~Po218, Po224~Po227, Po236,
Po239)
- 図版34 宇谷第1遺跡SI03(Po228, Po230, Po240~Po243, Po
245~Po250, Po252, Po254~Po257)
- 図版35 宇谷第1遺跡SI03(Po244, F1, F2, S4~S9)
- 図版36 宇谷第1遺跡SI04・05(Po263~Po266, Po270~Po283,
S10~S13)
- 図版37 宇谷第1遺跡SI06(Po284, Po288, Po295, Po297, Po
301, Po302, Po304, Po306, Po307,
Po314)
- 図版38 宇谷第1遺跡SI07(Po311~Po313, Po320~Po326, Po
328, Po330, S14)
- 図版39 宇谷第1遺跡SI08(Po331~Po348, Po353)
- 図版40 宇谷第1遺跡SI08(Po352, Po354, Po355, Po357, Po
359, Po360, Po368, Po382, Po384,
Po388, Po395~Po403)
- 図版41 宇谷第1遺跡SI08(Po406, Po407, S15~S17)
SI09(Po408, Po412, Po413, S18, S19)
- 図版42 宇谷第1遺跡SK03(Po417, Po418, F3)・SK04(Po419
~Po421)・SK06(Po422)・SK11(Po426)・
SD01(Po429, Po436, Po438, Po439)・SD
02(Po440, Po444, Po455)
- 図版43 宇谷第1遺跡SD03(Po453, Po454, Po460, Po461)・SD
05(Po462)・SB03(Po463)・遺構外(Po464,
Po465, S20, S21)・炭化種子
- 図版44 南谷大ナル遺跡SI01(Po1~Po4, S1)・SD02(Po10,
Po11)
遺構外(Po17, Po18, Po20, Po22~Po
24, S2)

第1章 調査の経緯

第1節 調査に至る経緯

- 羽合道路** 鳥取県中部地域の交通混雑緩和を図るために、1973年より一般国道9号改築工事として北条バイパスの建設が進められ、1990年11月に全面開通した。さらに、この工事の副産として羽合道路が1986年度に自動車専用道路として都市計画決定され、事業に着手し、その後、1988年度に高規格道路として計画変更された。この道路は、現道9号の泊村原地内のインターチェンジから、羽合町長瀬のインターチェンジを抜けば北条バイパスに結ぶものである。
- 周辺遺跡** 計画地内とその周辺は橋津・南谷・宇野(羽合町)、園(泊村)などの古墳群、南谷遺跡・乳母ヶ谷遺跡(羽合町)、宇谷第1遺跡・原第2遺跡(泊村)などの土器の散布地が丘陵上に存在し、文化財の宝庫である。
- 試掘調査** 工事計画地内は、このように多くの遺跡が密集している地域でもあり、建設に先立って計画地内の遺跡の広がりを確認する必要性が生じた。そこで、1988～1990年度に亘って羽合町教育委員会が、1988年度には泊村教育委員会が、それぞれ国庫補助事業として各丘陵の尾根を中心に試掘調査を行った。そのうち、今年度調査にかかわる調査結果としては、羽合町地内においては、南谷大ナル遺跡(南谷所在遺跡)で溝状遺構1(T7)、南谷大山遺跡(イ)(南谷大山所在遺跡群)で竪穴住居跡・掘立柱建物跡各1・古墳2・周溝1・土壕2(T3～T7・T9)が確認され、泊村地内においては宇谷第1遺跡で竪穴住居跡2・貯蔵穴1(T8・T10)が確認された。
- 調査計画** これを受けて、建設省中国地方建設局倉吉工事事務所は、鳥取県教育委員会文化課と協議し、財団法人鳥取県教育文化財団に記録保存のため事前調査を委託した。委託を受けた当文化財団が調査計画を作成し、それに基づき、1992年4月～1993年3月の予定で中部埋蔵文化財調査事務所が発掘調査を担当することになった。今年度は宇谷第1遺跡4642㎡、南谷大山遺跡9932㎡、南谷大ナル遺跡342㎡の調査を実施した。
- 調査予定** 来年度以降には、南谷ヒジリ遺跡、南谷大山遺跡(ロ)(ハ)、宇谷第1遺跡、原第2遺跡、園7号墳の調査が予定されている。

第2節 調査の経過と方法

- 宇谷第1遺跡** 泊村教育委員会の行った宇谷第1遺跡の発掘調査で、弥生時代の貯蔵穴と竪穴住居跡、古墳時代の竪穴住居跡が確認報告され、この丘陵上に集落が営まれていたことが想定された。
- 本調査にかかるにあたって、4月2日より発掘用具の搬入を行い、まず、土層の確認と遺構の広がりを確認するために、6本のトレンチを設定して掘り下げた。その結果、調査区の北側の表土が15cmと薄く、DKP層がすぐに検出された。また、遺構の広がりとしては土坑状の遺跡が見られたが、耕作による攪乱がひどく、トレンチだけでは判断できない落ち込みが多く全面を調査することにした。次に、業者委託によって調査前の地形測量を行い、並行して、地区設定を行った。地区設定の方法は、(ア) $[X=-55340.568; Y=-37724.913]$ 杭と(イ) $[X=-55377.079; Y=-37770.699]$ 杭の2点を結ぶ直線を東西軸とし、(ア)杭を通り東西軸と直行する直線を南北軸とした。さらに、この2つの軸線を基準に10mごとに杭を打ち、調査地区全体を10m方眼に区画した。基線は東西方向を西からA～Pとし、南北方向を北から1～5と設定した。杭名はその基線の交点で表し、グリッド名は南西隅方向の

杭名を用いた。従って、(ア)杭は0-3杭となった。さらに、4月4日に調査前の航空写真撮影を行い、本調査にかかる準備作業を終了した。

本調査は4月4日から調査区北側の表土の薄い部分より人力によって表土剥ぎを始めた。表土の厚い部分については4月9日から重機によって表土剥ぎを行った。また、排土置場を建設省と協議の上、南側の比較的急勾配の斜面に設けた。このため、排土の流出の危険性を考慮し、安全を期するために土留め柵を建設省に依頼して設置した。

遺構検出作業によって、竪穴住居跡、ピット群、土坑、溝状遺構が検出され、弥生時代後期後半から古墳時代中期前半にかけての期間に、この高地に集落が存在していたことが明らかになった。さらに、各遺構について詳細に考察できるように、奈良国立文化財研究所の浅川滋男研究室に2度にわたって調査指導を受け、特に竪穴住居跡の構造について詳しく検討した。また、遺構検出が進む中で、調査区外の方に延びていく竪穴住居跡が1棟検出されたため、鳥取県教育委員会文化課を通して建設省と協議した結果、予定面積の中で調査が可能という結論に達し、調査を開始した。しかし、この住居跡の調査範囲の中に現行の農道があり、調査期間中は使用不能になるという問題が起こってきたが、道板を使い調査区内を迂回する仮設道を敷設することによって、この問題は解決できた。本遺跡の調査は平成3年7月25日に遺構実測が終わりすべて終了した。調査面積は4642㎡であった。

南谷 羽合町教育委員会の行った南谷大ナル遺跡の試掘調査で、古墳時代後期の古墳の存在が想定された。

本調査にかかるにあたって、7月17日に調査前の地形測量を行い、並行して[X=—56054.224; Y=—40425.816]杭と[X=—56063.370; Y=—40438.451]杭の2点を結ぶ直線を基準として、宇谷第1遺跡と同様に地区設定を行った。基準線は東西方向を西からA～Eとし、南北方向を北から1～3と設定した。従って、前者の杭はE-2となった。表土剥ぎは調査面積が狭かったため手剥ぎで行うことにし、7月30日に調査を開始した。しかし、調査区が農農道に囲まれているため、排土場所が確保できず、梨園の近くに排土することになり、建設省と協議の上、土留め柵を設置し土砂が流出しないよう安全を期した。

遺構検出作業によって竪穴住居跡、溝状遺構、段状遺構が確認された。遺構は弥生時代後期後半から古墳時代後期後半の期間の時期であった。溝状遺構については耕作による攪乱が著しかった。

本遺跡の調査は、平成3年9月10日に遺構実測が終わりすべて終了した。調査面積は342㎡であった。

南谷 本年度調査として南谷大山地区も行ったが、この地区については来年度も継続して調査を実施するため、報告は来年度調査分と合わせて行う。本年度の調査面積は9932㎡(丘下143㎡を含む)であった。

調査日誌(抄)

4月4日	宇谷第1遺跡の掘り下げ開始。		宇谷第1遺跡を視察、調査を指導される。
4月19日	SI03・04・05・09を検出。	7月23日	SI05の陥没除去、新たにピット確認。
4月30日	SI03より勾玉、SI05より菅玉出土。	7月25日	宇谷第1遺跡の調査終了。
5月1日	SI03より多量の土器が出土始める。	7月30日	南谷大ナル遺跡の調査開始。
5月13日	SD05検出、掘り下げ。	8月2日	C-3グリッドで溝状遺構検出。
5月30日	SB01・02・03を確認。	8月9日	SI01・SS01を確認。
6月1日	宇谷第1遺跡現地説明会を開く。	8月19日	SD02・SS01を掘り下げ。
6月7日	SI02で勾玉出土。	8月20日	SD02・SS01の掘り下げ終了。
6月18日	SI03より菅玉出土。	8月23日	SS01土層断面・石室掘。
6月21日	SI03の床面土器実測開始。	8月29日	SS01・SD02完掘状況写真。
7月11日	SI03実測終了。	9月2～6日	記録的残暑。
7月16日	奈良国立文化財研究所浅川滋男研究室、	9月10日	南谷大ナル遺跡調査終了。



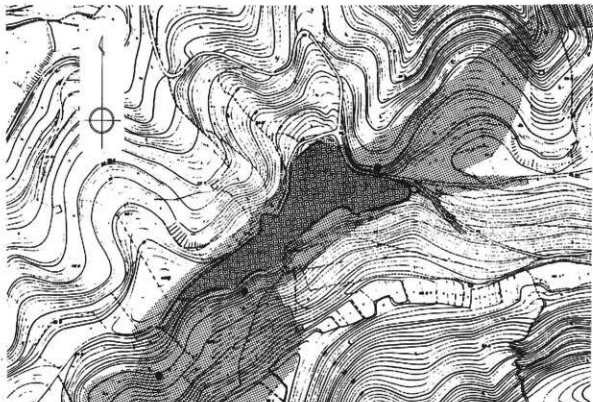
写真1 重機による表土制ぎ



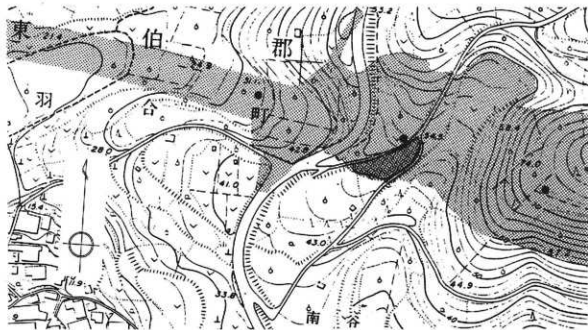
写真2 実測作業風景



写真3 整理作業を終えて



宇谷第1遺跡



南谷大ナル遺跡

挿図1 道路建設ルートと調査区

第3節 調査体制

調査は鳥取県教育委員会、鳥取県埋蔵文化財センターの指導のもと下記の体制で実施された。

○調査主体 財団法人鳥取県教育文化財団

理事長	西尾 邑次 (鳥取県知事)
副理事長兼常務理事	坂田 昭三
事務局長	若松 良雄
財団法人鳥取県教育文化財団 埋蔵文化財センター	
所長	土井田 憲治 (鳥取県教育委員会文化課長)
次長	山根 豊巳
調査指導係長	田中 弘道 (鳥取県埋蔵文化財センター次長)
庶務係長	中村 金一 (鳥取県埋蔵文化財センター庶務係長)

○調査担当 財団法人鳥取県教育文化財団中部埋蔵文化財調査事務所

所長	入江 輝三
主任調査員	米田 規人
調査員	牧本 哲雄・岸本 浩忠
調査補助員	山根 雅美

○調査協力

下記の方々に発掘調査作業員、整理作業員として協力していただいた。

青木輝明、朝倉郁雄、綾女勝子、池原美代子、市橋貴志子、伊藤義輝、
入江淑恵、岩室紀男、楠原昭典、浦木伊都子、大嶋貞夫、大嶋由起枝、
奥田和美、小倉厚子、上本明子、河口智津子、吉川久子、木戸孝行、
久野洋子、倉益和美、蔵本重信、桜井きみ子、嶋崎久子、清水房子、
杉原光雄、杉村秀吉、陶山勝利、竹田 肇、竹本富美代、谷本美智恵、
高浜とし子、田伏敏子、丹波 稔、角田 勲雄、角田磨智子、津村勝子、
中田 都、中原子恵、中村勝恵、中村博子、中本和子、西垣吟枝、
西本てる子、羽田政夫、浜口みち子、林 博、福田延子、藤田広子、
藤田恭人、船越トシ子、前條一重、前 宮子、前田二三枝、松井久雄、
松田悦雄、松田澄子、松本美重、村口いつ子、森脇幸子、安田成行、
山上道訓、山崎定雄、山田輝美、山本さわ系、若杉道子 (五十音順、敬称略)



写真4 発掘参加記念写真

第2章 位置と環境

第1節 地理的環境

鳥取県 鳥取県は本州の西部、中国地方の北東部に位置する。北は日本海、東は兵庫県、南は標高1200mを越える中国山地を県境として岡山県・広島県、西は島根県と接する。鳥取県の県域は東西126km、南北61.85km、面積349,269km²で、日本全体の約1%を占める。鳥取県は、鳥取市を中心とする東部、倉吉市を中心とする中部、そして米子市・境港市などからなる西部の三地域に分けられる。各地域とも地勢は山がちで、山地が県総面積の86.3%を占める。それぞれの地域には千代川(東部)、天神川(中部)、日野川(西部)の県下を代表する河川が流れ、その下流域に東部の鳥取平野、中部の倉吉・北条・羽合平野、西部の米子平野が発達している。また各平野の海岸線には鳥取平野の鳥取砂丘、北条・羽合平野の北条・長瀬砂丘、米子平野の弓が浜半島などの砂丘、砂州が発達している。その中でも代表的なものは鳥取砂丘で、東西長15km、南北幅最大2kmの規模を持つ。

泊村 泊村は鳥取県の中央部を占める東伯郡の東端に位置し、東は気高郡脊谷町、西は東伯郡羽合町、南は東郷町に接し、北は日本海に面している。人口約3400人、面積15.5km²の村である。地形は、中国山地より北方に伸びた100~300mの低平な山地が海浜まで迫っており、平地が少ない。分岐した尾根と尾根の間を流れる小河川沿岸には、水田化された小平野が見られる。海岸線は砂丘と岩石海岸からなっており、いくつかの漁港がある。

羽合町 羽合町は、鳥取県の中央部に位置し、東には泊村、東郷池をはさんで東郷町、西には天神川を境に北条町、南は倉吉市と接している。北には日本海が、その波頭を光らせている。人口約7000人、面積12.4km²の田園風景の広がる町である。地形は、馬ノ山の低い丘陵と天神川の河口部に発達した長瀬砂丘、天神川から東郷池に向かって広がる羽合平野、東郷池とかなる。

東郷池 東郷池は、約420haの汽水湖で、かつては日本海の内湾だった。縄文海進の後、河川の土砂の運搬などにより、北条・長瀬砂丘が発達した。その結果、湾口が塞ぎ止められてきた海湖である。最深部は4.6mで、湖底より温泉が湧き出る。

現在、東郷池には舎人川・東郷川・羽衣石川・埴見川が流れ込み、その水は橋津川を通じて日本海へ至る。古代においては天神川も、流路の変動はあったものの同池に注いでいた。

池には淡水魚だけでなく、橋津川を逆流して流入する海水によって海産の魚介類が入る。

調査地域 泊村字谷の東西に伸びる丘陵上にあるのが、宇谷第1遺跡である。ここは宇谷海岸から600mほど南で、日本海を望むことができる。

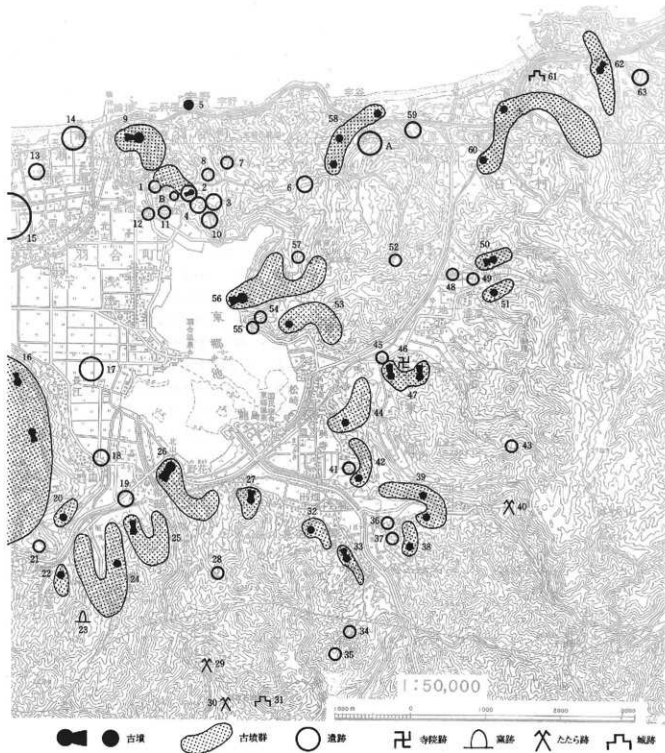
前述の東郷池の北東にある丘陵から、東郷池に向かって伸びる尾根上に存在するのが、南谷大ナル遺跡である。東郷池・羽合平野・日本海はもとより、遠く島根半島まで視野に入れることができる。



図2 泊村・羽合町の位置

第2節 歴史的環境

- 旧石器時代** 東郷池周辺に限らず鳥取県において遺構を伴う旧石器遺跡は確認されていないが、大山山麓の丘陵上でいくつかの旧石器が見つっている。笠江町小波で出土した黒曜石製の東山・杉久保型系統のナイフ型石器、関金町野津三の黒曜石製ナイフ型石器、倉吉市和田の石刃、倉吉市上神及び勤の細石刃石核、倉吉市国府の掻器、倉吉市中尾遺跡の国府型のナイフ型石器などである。このうち、野津三のナイフ型石器・中尾遺跡のナイフ型石器は県下では唯一のローム層中の発見であり、大変貴重なものである。
- 縄文時代** 縄文時代早期中に盛行するとされる隆線土器群は県内では発見されていないが、石器類は二十数カ所で確認されている。中部地区では有茎尖頭器が、大栄町穂波、東伯町堰下、関金町笹ヶ平などで見つっている。やはり大山山麓の丘陵上での発見であり、低地ではこの時期のものは見つっていない。早期でも丘陵上・台地上に遺跡が確認されている。倉吉市取水遺跡では竪穴住居跡・炉跡・押型文の深鉢などが見つっている。東郷池周辺においても、南谷19号墳(2)の旧表下より安山岩製のスクレイパーが見つかった。正確な時期は特定できないが、縄文時代人が海岸部の丘陵上にも足跡を残していたことが窺える。前期になると気候が温暖になり海進が進み、この地域では広いラグーンが形成され、この周辺で遺跡が確認されるようになる。北条町島遺跡は、前期から晩期の貝塚を伴う遺跡で、土器のほかには石器、丸木舟、貝、人骨、動物骨が検出されている。丸木舟は県内でも数例知られるに過ぎず、貴重なものである。また、花粉分析の結果や貝の種類から古環境の変化の様子を復元することができるようになった。中期の遺跡は、倉吉市平林遺跡、北条町船渡遺跡、羽合町雨谷ヒジリ遺跡などが知られるにすぎず、遺跡の密度も少ない。後期になると遺跡の数は増加し、倉吉市津田峰遺跡・東伯町森藤第2遺跡・関金町横峰遺跡ではこの時期の住居跡が見つっている。これらの住居の中央には、石組の炉が作られている。この周辺では、倉吉市天神川下流遺跡、東郷町北福第3遺跡(49)で磨滑縄文土器などが表採されている。晩期では、倉吉市松ヶ坪遺跡で配石墓、土器陪墓、土壌が見つっている。なかでも、土器陪墓は県内においても岸本町林ヶ原遺跡とここにしか見つかっておらず、この時期の葬制を知る貴重な資料である。長瀬高浜遺跡では刻目突帯文土器、北条町北尾遺跡でもこの時期の土器を出土している。時期ははっきりしないが、東郷町別所第2(34)・第6遺跡(35)、福永第3遺跡(52)、野花第2遺跡(28)、白石第1遺跡(43)でも縄文土器が表採されている。泊村宮の山遺跡(63)では、漁撈具としての石錘が見つっており、縄文人が海や湖で盛んに魚を獲っていたことが想像される。
- 弥生時代** 大陸から伝播した稲作は、日本列島をかなりの速さで北上したと考えられ、鳥取県でも前期には米子市目久美遺跡で水田跡が確認されている。東郷池周辺では水田跡は確認されていないが、稲作に伴う遺物が各所で見つっており、弥生時代水田の調査が行われるのも近いものと思われる。この時期には、天神川の沖積作用と日本海からの風によって形成された砂丘上に、長瀬高浜遺跡(15)が現われる。この遺跡は弥生時代前期から中世までの複合遺跡であるが、この時期の遺構には4棟の玉作工房跡のほか、土壌墓などがある。玉作工房跡は日本で最も古いものの一つである。
- 中期** 長瀬高浜遺跡では中期の土壌墓がわずかに見られるが、後期の遺構は全く見られず、古墳時代に入ってからが最も栄える。東郷池周辺では、この時期の遺構は長瀬高浜の土壌墓を除いては確認されておらず、遺跡の密度が少なくなっている。かわりに、丘陵上での遺跡の密度が増すと推定される。
- 後期** 後期においても同様の現象が見られ、焼失住居が見つかった倉吉市福庭遺跡、炭化米・貝



- A 字谷第1遺跡 B 南谷大ナル遺跡 1 南谷ヒジリ遺跡 2 南谷19号墳・南谷夫婦塚遺跡 3 乳母ヶ谷第2遺跡
 4 南谷大山遺跡 5 河古墳 6 字野第1遺跡 7 字野第4遺跡 8 字野第5遺跡 9 橋津(馬ノ山)4号墳 10 乳母ヶ谷遺跡
 11 南谷遺跡 12 南谷貝塚 13 和助北遺跡 14 橋津台場 15 長瀬高浜遺跡 16 大平山古墳群 17 隈ヶ坪遺跡
 18 門田遺跡 19 津浪遺跡 20 片平4号墳 21 佐美遺跡 22 佐美古墳群 23 埴見中ノ谷古竈跡
 24 埴見古墳群 25 長和田古墳群 26 野花北山1号墳 27 引地古墳群 28 野花第2遺跡 29 羽衣石第1生産遺跡
 30 羽衣石第2生産遺跡 31 羽衣石城跡 32 小鹿谷古墳群 33 別所古墳群 34 別所第2遺跡 35 別所第6遺跡
 36 高辻第1遺跡 37 高辻第3遺跡 38 高辻古墳群 39 川上古墳群 40 川上生産遺跡 41 久見古瓦出土地
 42 久見古墳群 43 白石第1遺跡 44 中興寺古墳群 45 野方第3遺跡 46 野方・弥陀ヶ平廃寺 47 野方古墳群
 48 北福第1遺跡 49 北福第3遺跡 50 北福古墳群 51 漆原古墳群 52 福永第3遺跡 53 藤津古墳群 54 大鼻遺跡
 55 船岡遺跡 56 宮内孤塚古墳 57 伯耆一高経塚 58 字谷古墳群 59 原第2遺跡 60 園古墳群 61 河口城跡
 62 石脇2号墳(尾尻古墳) 63 宮の山遺跡

挿図3 周辺遺跡分布図

殻などを包蔵する4基の貯蔵穴が見つかった大鼻遺跡(54)、竪穴住居が調査された南谷ヒジリ遺跡(1)・南谷大ナル遺跡(B)・南谷夫婦塚遺跡(2)・乳母ヶ谷遺跡(9)・乳母ヶ谷第2遺跡(3)・南谷大山遺跡(4)・字谷第1遺跡(A)など、丘陵上の遺跡の密度が増加する。低地においては、和助北遺跡(13)で祭祀関係の土器と思われる、赤色塗彩された御付注口土器が見られるのみである。この地域は銅鐸の出土例が多く、倉吉市小田で2口(外縁付鉋Ⅱ式・扁平鉋式)、北福第1遺跡(48)・長瀬高浜遺跡で小銅鐸がそれぞれ1口、泊村池ノ谷で2本の舌とともに1口(外縁付鉋Ⅰ式)、北条町米里で1口(外縁付鉋式)、やや離れて東伯町八橋で1口(扁平鉋式)が見つっている。そのほかにも、伝伯耆国とされるもの1口(外縁付鉋Ⅰ式)がある。東伯者においては、弥生時代における集団墓から卓越した倉吉市阿弥大寺1~3号墓、藤和墳丘墓などの四隅突出型弥生墳丘墓が計4基存在する。

古墳時代前期 主な前期古墳には、三角縁神獸鏡を含む多数の副葬品をもつ、復元全長100mを測る前方後円墳である橋津(馬ノ山)4号墳(9)がある。橋津4号墳を含む24基からなる橋津古墳群のうち22基は、国の史跡に指定されている。さらにこの古墳群には橋津2号墳などの大型前方後円墳が築造され、東郷池周辺だけではなく広く東伯者一帯を支配した集団の存在が想定できる。また、泊村には小規模な前方後円墳ではあるが仿製斜縁鏡帯鏡をもつ石誌2号墳(尾尻古墳)(62)がある。北条町には土下古墳群・曲古墳群など前期から後期にかけての古式群集墳がある。橋津古墳群を仰ぎ見る砂丘に立地する長瀬高浜遺跡において、160数棟の竪穴住居、40棟の掘立柱建物をもつ大集落が再び現われる。この集落は前期から中期にかけて造営されているが、中期の中頃にはその規模も縮小している。集落が廃絶されると古墳が築造されるようになる。また、性格は不明であるがおびただしい数の器財型埴輪群が見つっている。他に田下駄・刀状木製品・火きり臼・彩色礫・手捏ね土器など祭祀に伴う遺物が出土している津波遺跡(19)が知られている。この時期の住居跡は、佐美古墳群において4号墳に切られるかたちで検出されたもの(22)など丘陵上でも確認されている。

中期 橋津4号墳以後もこの地域では、東郷池の東岸には全長90mを測る前方後円墳である宮内狐塚古墳(56)、南岸には山陰最大級の規模を誇る全長110mを測る前方後円墳である野花北山1号墳(26)と大型前方後円墳が累々と築造される。このように、墳丘規模及び内容で他の古墳をはるかに凌駕する古墳が存在する東郷池周辺は、古墳時代前期から中期にかけて東伯者の中心的な地域であると考えられる。この地域は子持勾玉の出土が多く、東郷町高辻第1遺跡(36)1例、泊村壱1例、倉吉市でも計2例が知られている。

後期 後期になると大型の前方後円墳は見られなくなるが、中小規模の前方後円墳が各古墳群においても見られるようになる。また、従来の竪穴系の埋葬施設に代わって、横穴式石室が採用される。片平4号墳(20)は基底部を箱式石棺状に組み、板石を持ち送りながら小口積みにするもので、東伯者では倉吉市大宮古墳とならび導入期の横穴式石室である。その後、この地域で比較的に容易に手に入れることができる板状採掘の安山岩を使用する横穴式石室が後期群集墳に取り入れられ、爆発的に増加する。片平1・5号墳、長和田20号墳(25)、中興寺1号墳(44)、久見17号墳(45)、北福23号墳(50)、宮内31号墳、橋津9号墳、福庭古墳、園古墳群(60)、宇谷古墳群(58)などで知られている。このうち中興寺1号墳などのように各壁が一枚石で構成されている石室や、福庭古墳に見られるような切石石室は終末の様相を示す。古墳以外では、畑見中ノ谷古窠跡(23)がある。6世紀前葉の窠跡で、この地域の須恵器を生産した数少ない遺跡の一つである。また、各所で土師器・須恵器が表採されており、各古墳群を造った集団の集落の存在が確かめられる日も近いであろう。

歴史時代 この地域は古代寺院路がたくさん見ついている。白鳳期には、大御堂庵寺、野方・弥陀
白鳳期~ ヶ平庵寺(46)、大原庵寺が造営される。大御堂庵寺は法起寺式の伽藍配置であったと考えら

奈良時代 れている。礎石の中央には柱を据えた穴が穿たれており、炭化した柱の一部が残っていたという。この寺院は、発掘された墨書土器より8世紀後半頃には久米寺と呼ばれていたようである。野方・弥陀ヶ平廃寺からは川原寺式の瓦の他に、塔心中央に柱穴をもつ塔心礎・礎石が見つかった。大原廃寺からは、柱穴をもつ塔心礎、川原寺式の瓦が見つかった。また、発掘調査により塔の基壇の一部が明らかになり、法起寺式の伽藍配置であったことが確認された。久見(41)でも7世紀後半頃と8世紀後半頃の瓦が見つかっており、寺院跡が官衙跡の存在が考えられる。奈良時代には現在の倉吉市国府に伯耆国衙、伯耆国分寺、国分尼寺も建立されるなど、東伯耆は奈良・平安時代の政治の中心地であった。この地域は律令体制下にあつては伯耆国河村郡にあたり、河村郡は笏賀、舎人、多駄、埴見、日下、河村、竹田、三朝の八郷から成る。郡衙の所在地は不明であるが、河村郷、舎人郷、多駄郷の三か所が候補地として考えられている。この地域には古代律令体制の名残りとしての奈良遺構が残っている。天保地図などには整然と並んだ方格地割りがあり、当時の名残りを留めていると考えられている。

平安時代 平安時代に入り自隳地系荘園が現われ律令体制が崩壊し、次第に封建制社会が形成されるようになる。このようななか、力を得てきたのが国司・郡司・寺社であった。東郷池周辺では、伯耆一宮、東郷氏である。東郷氏は、中央の貴族や寺社に所領を寄進して、地方豪族としての地位を高めていった。伯耆一宮である倭文神社は「伯耆六社」の一つで、承和4(837)年に従五位下の神階が与えられていたが、広大な社領を経済基盤として在地領主層の信仰を集めながら伯耆一宮の地位を獲得したものと考えられている。平安時代末期になると、末法思想が広まる。伯耆一宮の境内に隣接した山林で経塚(57)が発見された。経塚のなかには石室があり、そのなかに金銅製経筒、金銅製観音菩薩立像、銅製千手観音立像、銅板線刻弥勒立像などが安置されていた。経筒には「(中略)康和五年癸未(中略)」銘が刻まれている。これら出土品は国宝に指定されている。

中世 地頭の勢力は鎌倉幕府権力の伸長を背景に次第に強大になった。大阪府柳沢真次郎氏所蔵の正嘉2(1258)年銘の「伯耆国河村郡東郷荘下地中分絵図」によって地頭の荘園侵略の様子が窺われる。長瀬高浜遺跡では約80基の火葬墓や土壌墓が調査され、この時期の葬制が明らかとなった。

室町時代 中世城郭も数多く知られており、南条貞宗によって築城された羽衣石城(31)、山名氏によって築城された河口城(61)などがある。応仁の乱後は各地で騒擾戦乱が絶えず、この地においても大永4(1524)年尾子経久によって羽衣石城が落城し、また馬ノ山で尾子氏と山名氏が合戦をするなど争いの跡をとどめている。天正9(1581)年には羽柴秀吉と吉川元春が対陣した。秀吉は御冠山に、元春は馬ノ山に陣を設けたが、馬ノ山にはこの時に築かれた土塁状遺構が残っている。また、乳母ヶ谷第2遺跡で調査された土塁状遺構も馬ノ山のものと同様であり、この対陣の際に築かれたと思われる。山間地にはこの時期と思われるタタラ跡が数か所確認されている。また、橋津川改修にともない、中世の貝塚が検出された。南谷貝塚(12)は、ヤマトシジミなどの貝類のほか、漆器などの木製品が出土している。

近世近代 文久3(1863)年には外国に対する海岸防備のために砲台が設置された。鳥取県には由良、橋津、赤碓、淀江、境などに台場が建設され、海岸防備にあつた。橋津の台場(14)建設にあつて馬ノ山4号墳の前部分が削られたといわれている。

第3章 宇谷第1遺跡の調査

第1節 宇谷第1遺跡の概要

- 位置** 宇谷第1遺跡は、泊村宇谷地内の御冠山から北に派生する、標高61～67mの狭い丘陵頂部に位置し、北側では日本海が一望できる。
- 遺構** 本遺跡は弥生時代後期後半、古墳時代中期前葉～中葉を中心とした時期の遺構を持つ遺跡であり、確認した遺構数は竪穴住居跡10棟、掘立柱建物跡3棟、ビット群、土坑・土壇16基、溝状遺構5条であった。竪穴住居跡は弥生時代後期のもの5棟、古墳時代中期前葉～中葉のもの4棟、不明のもの1棟であった。弥生時代後期のS105・09は柱穴だけでなく壁溝のすぐ内側に太い柱状の杭を多数配置し、構造的にかなり強固に造られていたと思われる。古墳時代中期のS103はたくさんの遺物を包含し、埋土上面から床面までびっしりと遺物が出土した。遺物は、高坏(70点以上)、小型丸底壺(20点程)が多数あり、勾玉、管玉、砥石、鉄製方形板工具刃先、刀子が出土した。その他の遺構で、掘立柱建物跡1棟、土坑10基、溝状遺構4条は弥生時代後期であることを確認した。この内、土坑6基は屋外貯蔵穴であり、土坑2基は屋内貯蔵穴であった。また、溝状遺構の1つは区画性を持つものであり、本遺跡で重要な意味を持つものであると考えられる。

第2節 宇谷第1遺跡の調査結果

1. 竪穴住居跡

S101 (挿図6・46、図版2・22)

- 位置** 調査区のほぼ中央、K5グリッドの北東隅、尾根の頂部で標高65.5m付近に位置する。
- 形態** 住居全体が後世の削平でかなり失われている。特に、南西側半分は埋土が認められなかった。平面は六角形と考えられる。規模は南西側を復元して考えると長軸7.0m×短軸6.4m、床面積44.8㎡と推定される。残存壁高は最も遺存の良い東壁で最大0.11mである。壁溝は南東隅と北西隅でだけ認められた。規模は幅20cm程、深さ6.1cmあり、断面U字形を呈する。
- 柱穴は床面上で34個確認することができたが、主柱穴はP1～P6の6個である。それぞれの規模はP1(56×45-62)cm、P2(41×38-62)cm、P3(40×31-56)cm、P4(32×32-38)cm、P5(40×28-37)cm、P6(26×26-32)である。主柱穴間距離はP1-P2間から順に、3.3m、2.0m、2.2m、3.0m、2.7m、2.6mである。さらに、P9、P12は補助柱、P35、P36は杭の可能性があり、P10、P11、P13～P14はしっかりしたものであるが、用途は不明である。
- 中央ビット** 中央ビットは攪乱で土層とプラン共に確認できなかったが、深さは45.3cmと推定される。
- 焼土** 床面の中央北側には平面が直径90cm程の円形の焼土面が確認できた。この焼土は厚さが10cmあり、その下層もさらに掘り下げることができ、継続的に使用されていたような焼土であった。この周囲には、柱穴がP27～P34の8個あり、規模はそれぞれ順に(34×22-31)cm、(18×15-36)cm、(16×16-36)cm、(15×13-37)cm、(23×20-58)cm、(13×13-20)cm、(32×32-45)cm、(13×13-17)cmであった。これらの柱穴はP8(102×90-22)cm上面にある焼土を囲むような状況で確認されたことから、床面を少し掘り下げて作られた炉のような施設に係わるものである可能性が考えられる。中央南東側にも15cm×20cmの焼土があった。

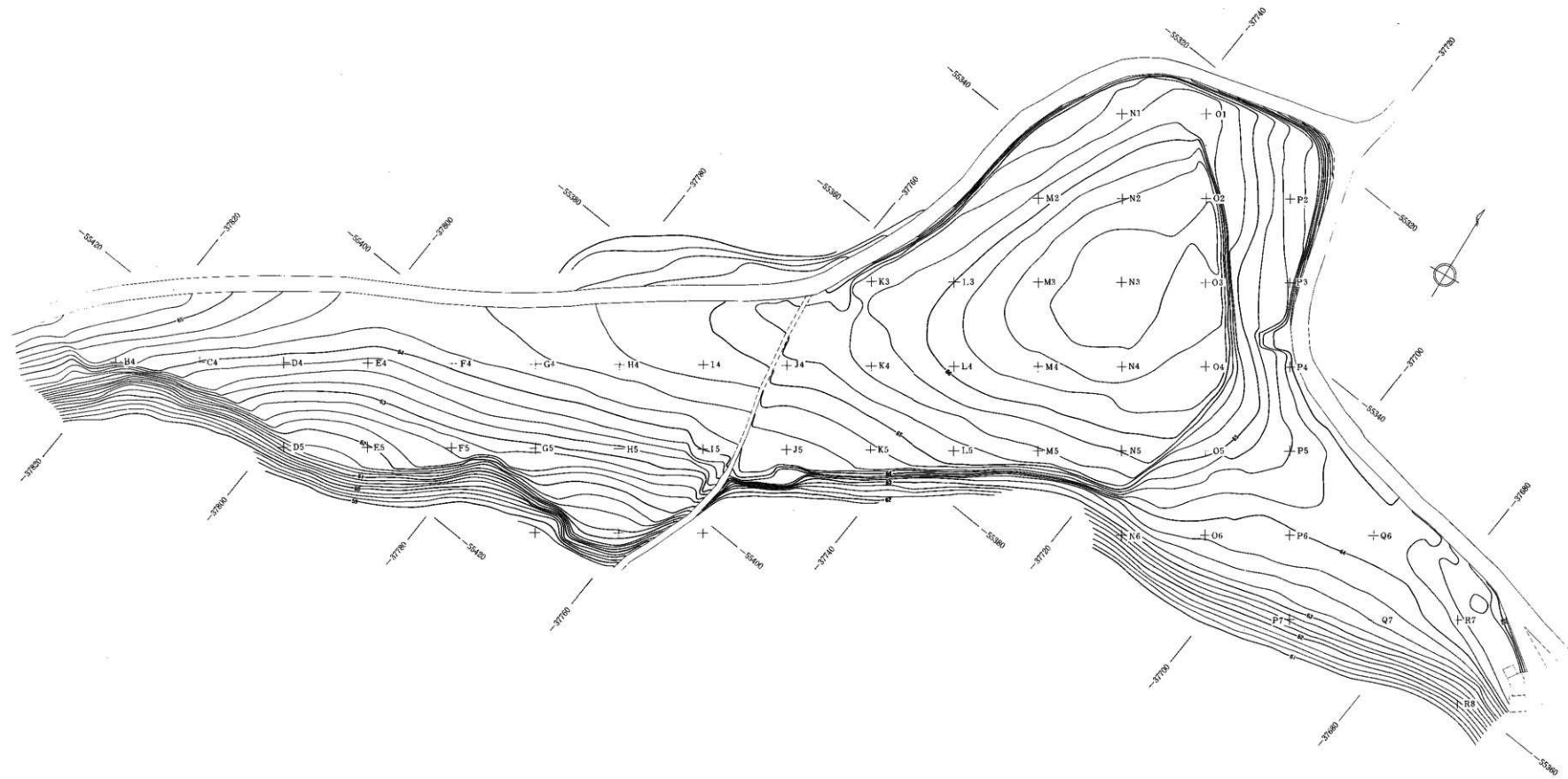
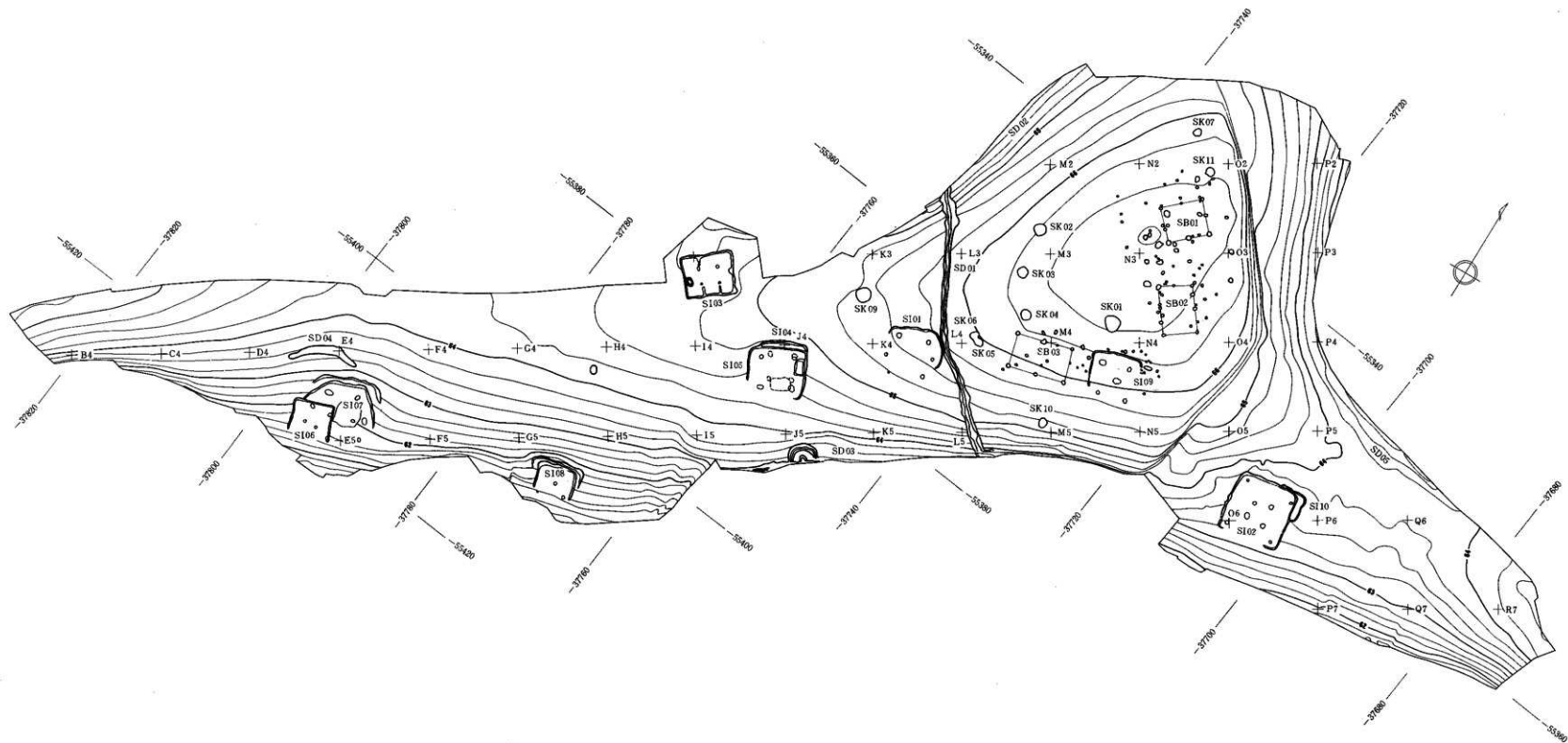
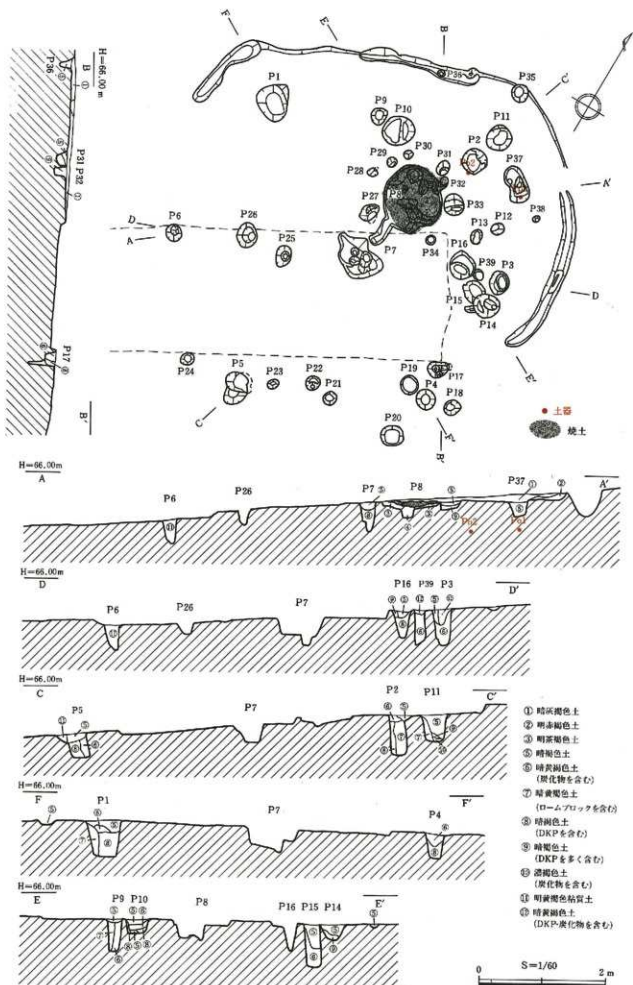


圖4 宇谷第1遺跡調査前地形測量圖



挿図5 宇谷第1遺跡遺構全体図



挿図6 宇谷第1遺跡S101遺構図

埋土 遺構埋土はほとんど削平されて残っていなかったが、隣接して掘られたSD01より廻ると考えられる。

遺物出土状況・時期 遺物は、壺口縁Po1、甕の平底の底部Po2が床面より出土した。

時期は、床面出土土器により弥生時代後期後半と考えられる。

S102・10 (挿図7・46・47、図版2・22)

位置 調査区東端、O6～7グリッドの南西隅、尾根が緩やかに南側に向かって下がり始める標高64.5m付近に位置する。

S102は耕作により攪乱を受けていて、北側の壁が明瞭に確認できなかったが、サブトレントチを入れ、土層によって確認した。また、S110と重複して建てられていた。

形態 S102は平面が方形を呈していた。また、規模は南側に残る壁溝の延びを繋いで復元すると長軸6.7m×短軸6.6m、床面積44.9㎡と推定され、大きな住居跡であることが分かった。残存壁高は北壁の最も遺存状態の良い所で最大0.69mである。壁溝は北側の一部と南側の中央部で検出できなかったが、北側の場合は床面が削りとられて壊されたと考えられる。規模は幅が最大で28cm、深さが18.6cmであり、断面はU字形である。

柱穴は床面上で36個確認できたが、主柱穴はP1～P4の4個である。それぞれの規模はP1(32×32-12)cm、P2(58×41-49)cm、P3(54×52-53)cm、P4(72×54-37)cmである。主柱穴間距離はP1-P2間から順に2.0m、2.2m、2.2m、1.8mである。これらの柱穴は住居跡の各隅の壁溝から2.6～3.2m内側に位置する。また、主柱穴を繋ぐ対角線のほぼ延長線上にP7～P10の4個の柱穴があり、それぞれの柱穴は各隅の壁溝から30～80cm内側に位置することから、4隅に向かう垂木を支える補強柱と考えられる。規模はP7から順に、(35×31-14)cm、(36×29-14)cm、(27×25-29)cm、(50×44-29)cmである。その他、P12・P29・P34は補助柱、P35・P36は側板を押える杭の可能性がある。

中央ピット 中央ピットはP5と思われるが、P1、P4、P5の周辺は床面より深い所で33cm削り込まれ、皿状に下がっている。従ってP5の残存の規模は長軸38cm、短軸34cm、深さ22.7cmで、平面は円形である。また、P5のすぐ南東にあるP6も深さが39.3cmあり、しっかりしたピットであった。

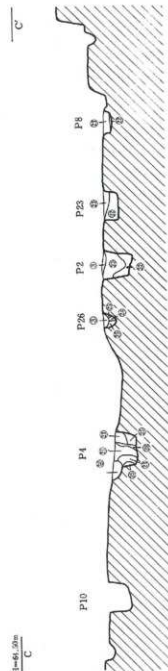
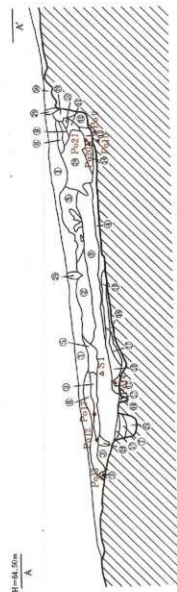
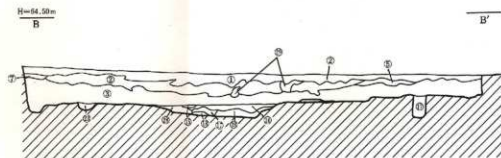
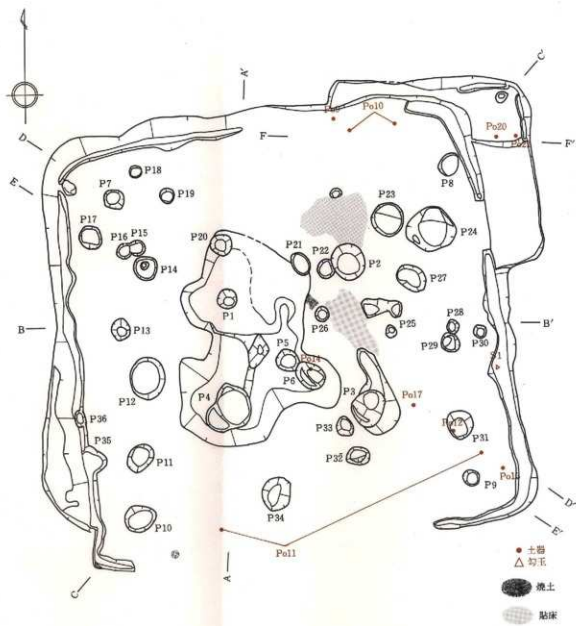
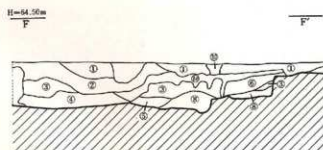
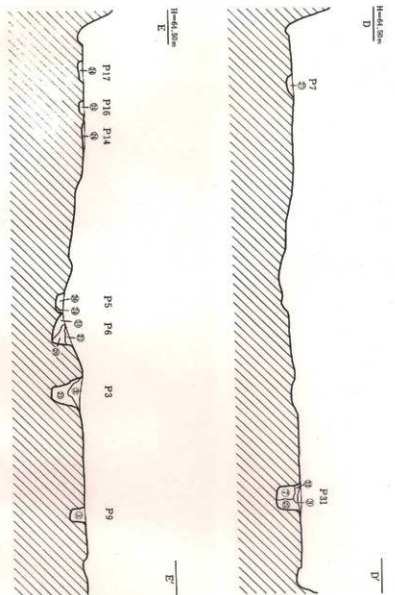
S102では貼床が2箇所部分的に残っており、1箇所は中央の北東寄り、もう1箇所は中央の東寄りにあった。そして、その周りは貼床面より、2～9cm削り込まれており、住居を放棄するときに床面を壊したと考えられる。また、中央の東側には焼土もあった。

S110 S110は主柱穴と中央ピット共に確認できなかったが、平面は隅丸方形で、規模は南西側を復元して考えると、長軸、短軸共に3.0mと推定され、残存壁高は北壁で0.48mで、床面積は9.0㎡であり、小型の住居跡であった。壁溝は北東隅に一部残っており、規模は幅が10cm、深さ4.6cmであり、断面はU字形を呈する。

埋土 中央ピット付近の皿状の落ち込みの部分だけに暗褐色土が入る。

遺物出土状況 S102では、床面上で高坏底部Po14が中央付近から、大型高坏Po16が中央ピット(P5)から出土し、さらに、石製品として敲石S1が北西隅から、勾玉S3がP28からそれぞれ出土した。また、埋土中で図化できたものは、壺口縁Po4、高坏Po9～Po13・Po17があり、Po10・Po11・Po13は床面近くで出土している。Po4は中央東より出土しているが、S110床面出土土器と接合した。埋土中から壺口縁Po3・Po5～Po7、高坏Po8、砥石S2が出土している。Po15は遺構外より出土している。S110では、床面上で壺口縁Po4、壺口縁Po20、高坏Po21が出土している。埋土中で、壺口縁Po19、甕底部Po22が出土している。

時期 S102、S110の時期は、共に床面出土土器により古墳時代中期前葉から中葉であり、2



- ① 緑褐色土 (DKPを含む)
- ② 緑褐色土
- ③ 緑褐色土
- ④ 赤褐色土 (粘質土)
- ⑤ 赤褐色土
- ⑥ ①と②の混合
- ⑦ 明黄褐色土
- ⑧ 暗黄褐色土 (DKPを含む)
- ⑨ 暗黄褐色土 (DKPを少量含む)
- ⑩ 明黄褐色土 (DKPを多く含む)
- ⑪ 明黄褐色土
- ⑫ ⑫: DKPのブロック状のものを含む
- ⑬ 暗黄褐色土 (DKPを含む)
- ⑭ 暗黄褐色土 (DKPを含む)
- ⑮ 暗黄褐色土
- ⑯ 暗黄褐色土
- ⑰ 暗黄褐色土 (DKPを含む)
- ⑱ 暗黄褐色土 (DKPを含む)
- ⑲ 暗黄褐色土 (DKPを含む)
- ⑳ 暗黄褐色土 (DKPを含む)
- ㉑ 暗黄褐色土 (DKPを含む)
- ㉒ 暗黄褐色土 (DKPを含む)
- ㉓ 暗黄褐色土 (DKPを含む)
- ㉔ 暗黄褐色土 (DKPを含む)
- ㉕ 暗黄褐色土 (DKPを含む)
- ㉖ 暗黄褐色土 (DKPを含む)
- ㉗ 暗黄褐色土 (DKPを含む)
- ㉘ 暗黄褐色土 (DKPを含む)
- ㉙ 暗黄褐色土 (DKPを含む)
- ㉚ 暗黄褐色土 (DKPを含む)
- ㉛ 暗黄褐色土 (DKPを含む)
- ㉜ 暗黄褐色土 (DKPを含む)
- ㉝ 暗黄褐色土 (DKPを含む)
- ㉞ 暗黄褐色土 (DKPを含む)
- ㉟ 暗黄褐色土 (DKPを含む)
- ㊱ 暗黄褐色土 (DKPを含む)
- ㊲ 暗黄褐色土 (DKPを含む)
- ㊳ 暗黄褐色土 (DKPを含む)
- ㊴ 暗黄褐色土 (DKPを含む)
- ㊵ 暗黄褐色土 (DKPを含む)
- ㊶ 暗黄褐色土 (DKPを含む)
- ㊷ 暗黄褐色土 (DKPを含む)
- ㊸ 暗黄褐色土 (DKPを含む)
- ㊹ 暗黄褐色土 (DKPを含む)
- ㊺ 暗黄褐色土 (DKPを含む)
- ㊻ 暗黄褐色土 (DKPを含む)
- ㊼ 暗黄褐色土 (DKPを含む)
- ㊽ 暗黄褐色土 (DKPを含む)
- ㊾ 暗黄褐色土 (DKPを含む)
- ㊿ 暗黄褐色土 (DKPを含む)

挿図7 中谷第1遺跡SI02-10遺構図

つの住居跡はほぼ連続して立て替えられたものと思われる。

S I 03 (捕図8~12・48~66、図版3~5・23~35)

位 置 調査区のはぼ中央部北側のH 4グリッド・I 4グリッドにあり、標高64.7mのはぼ平坦面に位置している。

形 態 S I 03は、西側が耕作によって擾乱されてはいるが、比較的周壁の遺存状態は良く、長軸5.35m×短軸4.25mを測り、床面積は約22.7㎡で平面は長方形を呈す。

残存壁高は、最も遺存状態のよい南壁で、最大0.69mである。

壁溝は、北壁、東壁際でとぎれる部分はあるもののほぼ全周し、幅7~25cm、深さ5~10cmを測り、断面逆台形状を呈す。

南壁際及び北壁際では、壁溝に接続して中央にむかって延び出す溝が検出された。南側のものは1.7m離れて平行して延びるもので、長さ0.9m、幅14~20cm、深さ8cmを測る。北側のものは1本で、長さ1.0m、幅15cm、深さ7cmを測る。これらは住居を仕切る溝と考えられる。

柱穴は11個検出されているが、それぞれの規模はP 1 (60×34-97)cm、P 2 (38×34-93)cm、P 3 (29×25-83)cm、P 4 (24×20-89)cm、P 5 (53×53-16)cm、P 6 (41×36-43)cm、P 7 (45×36-33)cm、P 9 (55×37-9)cm、P 10 (70×45-9)cm、P 11 (27×25-41)cm、P 12 (24×24-21)cmである。主柱穴はP 1~P 4の4個で、主柱穴間距離P 1-P 2間から順に、2.1m、1.7m、2.1m、1.7mである。他の柱穴については、P 5・P 6が主柱穴の対角線上に並ぶことから補助柱穴と考えられる。また、P 7は仕切り溝の間にあり、特別な用途をもったものと考えられる。P 10内には粘土が入っていた。

中央ピット・焼土面 中央ピットと考えられるものはP 8で、規模は(55×37-16)cmである。住居の中央部に位置し、不整形のものである。埋土は暗褐色土で、炭化物は認められなかった。P 8に接して50×40cmに広がる焼土面があるが、炉として機能したとは考え難い。

土 坑 東側壁際にS K 14及び西側壁際にS K 15・16が検出された。SK 14は長軸0.65m×短軸0.38m、深さ15cmを測り平面は長方形を呈す。SK 15はSK 16によって切られていた。規模は、長軸0.92m×短軸0.46m、深さ38cmを測り平面は長方形を呈す。SK 16はSK 15の北側を切っている。規模は、長軸1.15m×短軸0.7m、深さ13~18cmを測り平面は不整形を呈す。これらの土坑は、規模の面から屋内貯蔵穴とは考え難く、S K 16を除いて特殊土坑と考えられる。

貼 床 住居のはぼ中央部に、D K P に粘土粒を含む土が不整形にやや高く貼られていた。貼床部分は固く締まっていた。

土 層 埋土は耕作土・擾乱土を除いて8層に分層できた。これらは住居の中央部に傾斜しており、自然堆積の状況を示す。

周 辺 S I 03の南東隅に4個のピットが検出された。規模はそれぞれ、P 13 (21×21-24)cm、P 14 (20×20-39)cm、P 15 (26×21-5)cm、P 16 (36×27-28)cmを測る。P 13・14、P 15・16と並んでおり、これらは垂木または乗木を支える柱のためのものと考えられる。

遺 物 S I 03からは、埋土および床面から大量の土器・鉄器・石器が出土している。図化できたものには、壺Po23~Po25の3点、甕Po26~Po142の117点、高坏Po148~Po239の92点、小型丸底壺Po240~Po258の19点、直口壺Po143~Po147の5点、鉄製方形板耕具刃先F 1、鉄製刀子F 2、瑪瑙製勾玉S 4、軟玉製管玉S 5・S 6、砥石S 7・S 8、凹石S 9、摺鉢Po259、把手付鉢Po260、須恵器甕Po261である。これらのうちPo24、Po26、Po27、Po28、Po91、Po92、Po105、Po121、Po123、Po148、Po161、Po169、Po174、Po175、Po176、Po178、Po190、Po190、Po224、Po244は床面上から出土した。その他の土器の出土状況を見ると、埋土上方から弥生土器Po89・Po90など時期が遡るものや、Po259~Po261など後世混入したもの

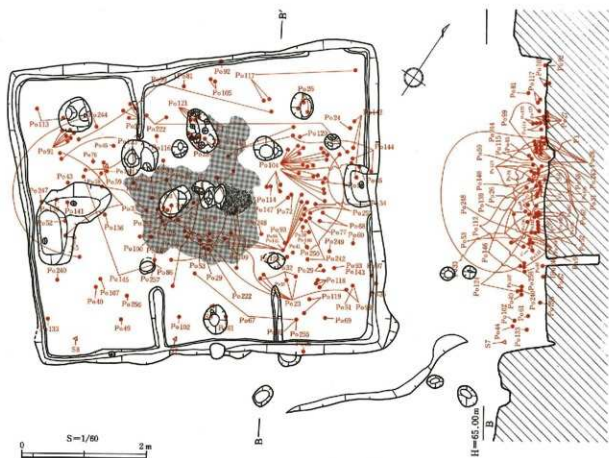


插图8 宇谷第1遺跡S103壺・甕類他出土状況図

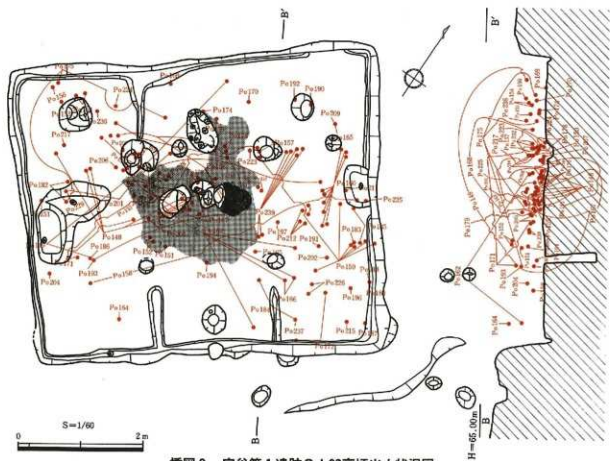
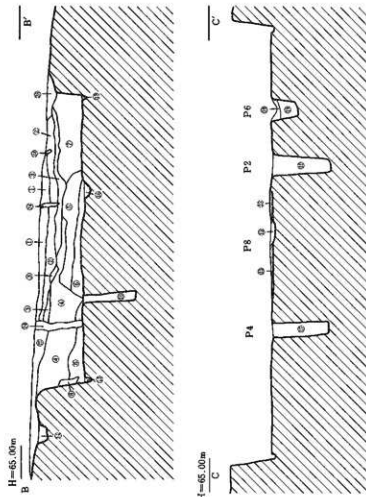
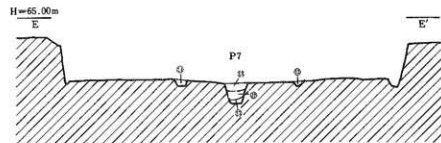
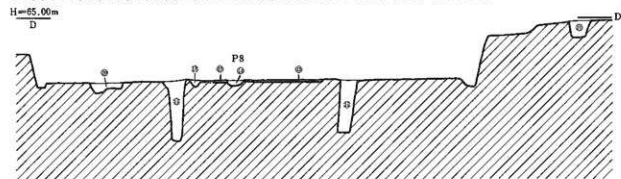
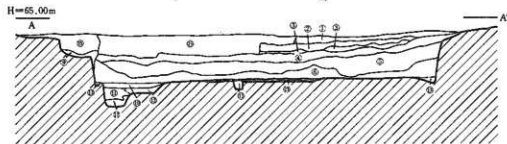
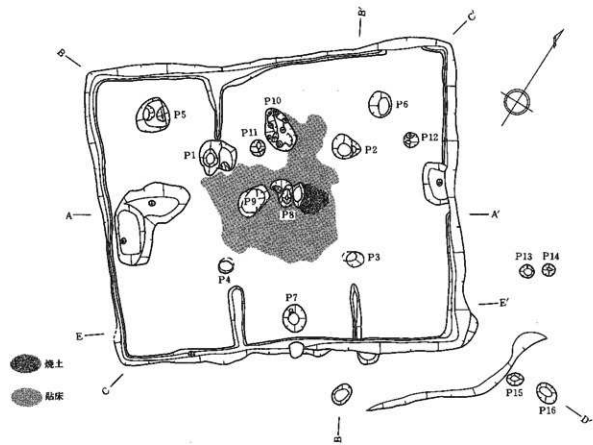


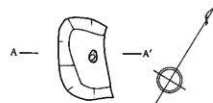
插图9 宇谷第1遺跡S103高坏出土状況図



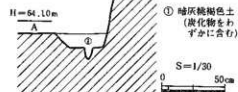
- ① 暗褐色土(耕作土)
- ② 黒褐色土
- ③ 暗褐色土
- ④ 暗褐色褐色土
- ⑤ 暗褐色土(土器片を含む、ブロックをおずかに含む)
- ⑥ 暗褐色土
- ⑦ 暗褐色土
- ⑧ 明褐色土
- ⑨ 明褐色粘質土
- ⑩ 暗褐色土(炭化物を多量に含む)
- ⑪ 暗褐色土
- ⑫ 暗褐色土(DKPブロックを含む)
- ⑬ 暗褐色土
- ⑭ 淡褐色土(しりがない)
- ⑮ 暗褐色土(炭化物をおずかに含む、しりがない)
- ⑯ 暗褐色土(炭化物、DKPブロックをおずかに含む)
- ⑰ 暗褐色土(しりがないDKP粒をおずかに含む)
- ⑱ 暗褐色土(炭化物をおずかに含む)
- ⑲ 暗褐色土(しりがない)
- ⑳ 淡褐色土(DKPブロック、粘土粒を含む)
- ㉑ 暗褐色粘質土(よくしる)
- ㉒ 暗褐色土
- ㉓ 淡褐色土(粘床、粘土粒を含む、よくしまっている)
- ㉔ その上の粘床
- ㉕ 耕作による擾乱

0 S=1/60 2m

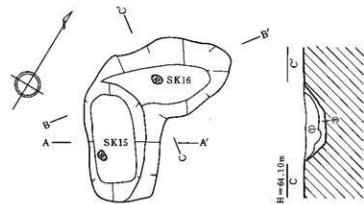
挿図10 宇谷第1遺跡S13遺構図



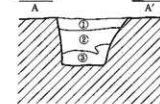
H=64.70m



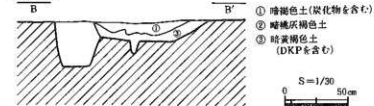
挿図11 宇谷第1遺跡SK14遺構図



H=64.10m



H=64.10m



- ① 暗褐色土(炭化物を含む)
- ② 暗褐色褐色土
- ③ 暗褐色土(DKPを含む)

挿図12 宇谷第1遺跡SK15・16遺構図

もある。これらの土器は一括廃棄されたものと考えられる。

時期 S I 03の時期は、床面出土の土器から古墳時代中期前葉～中葉頃と考えられる。

S I 04・S I 05 (挿図13・66・67、図版6・36・43)

位置 調査区の中央、標高64.25m～65m、I 5・J 5グリッド付近で、2棟の住居跡が切り合って検出された。これらの住居跡は北から順次構築されており、順にS I 04・05とした。

形態 両者の立地場所は、南側に緩やかに下る斜面であるために、後世の削平等が及びやすいと思われ、いずれの住居跡も南周壁は検出されなかった。

S I 04 S I 04は大半をS I 05に切られており、遺存状態が悪い。わずかに残っている北壁および床面北部付近から推測すると、平面は隅丸方形を呈していたと思われる。残存規模は、長軸5.0m×短軸0.54mである。残存している床面積は2.7㎡である。残存壁高は、北壁で最大0.37mである。

S I 04にはピットが10個存在する。そのうち主柱穴はP 1～P 4の4個である。規模はP 1(66×54-60)cm、P 2(68×64-62)cm、P 3(64×47-73)cm、P 4(50×39-73)cmとなっている。主柱穴間距離はP 1-P 2から順に、2.6m、2.6m、2.8m、2.9mである。当遺構では中央ピットと壁溝は、検出されなかった。

S I 05 S I 05も平面は隅丸方形を呈している。その規模は長軸6.1m×短軸5.4mである。残存する床面積は32.94㎡で、ほぼ全面に貼床が施されている。

残存壁高は北壁で、最大0.39mである。ピットは63個検出されている。主柱穴はP 1～P 4の4個である。規模はそれぞれP 1(43×41-107)cm、P 2(49×46-81)cm、P 3(72×61-84)cm、P 4(64×40-93)cmとなっている。主柱穴間距離はP 1-P 2から順に、3.7m、3.3m、3.7m、3.4mである。

中央ピット 中央ピットP 5は床面中心の僅かに東南に位置する。上縁部は円状で、規模は(40×39-53)cmである。埋土は6層に分けられ、そのほとんどが炭化物を含む。

杭列 S I 05にも壁溝は存在しない。しかし、周囲を杭列で囲まれた強固な造りになっていたと思われる。杭列に相当するのは、以下のピットである。東壁付近P 56～P 63、西壁付近P 11～P 22、南側P 23・P 24・P 55、北壁付近P 25～P 27・P 32～P 36・P 48～P 50である。

土坑 また、S I 05の遺構内で土坑S K 12とS K 13を認めた。これらの詳細については項を改めて述べることにする。

焼土 S I 05の貼床上には焼土面が8箇所存在する。多くは楕円状である。P 6付近のものが規模が大きく長軸70cm×短軸38cmである。厚さはP 10付近のものが3～4cmに達している。

埋土 S I 04・05の埋土を観察すると、S I 04がS I 05に切られていることがわかる。さらにS I 05の貼床の下から、S I 04のピットが出てきている。よって、S I 04のほうがS I 05よりも古い時期に建てられていたことが確実になる。

S I 04の埋土のうち、残っていたのは3層である。中でも2層目の淡褐色土は、炭化物を含んでいる。

S I 05については、炭化物・焼土粒を含む埋土がかなり上から検出されている。とりわけ、床面中央付近の淡黒褐色土・暗褐色土は炭化物・焼土粒を多く含んでいる。このことより、S I 05は焼失した可能性が強いといえる。

遺物 出土遺物としては、S I 04で高坏Po272・土玉Po274～Po283がある。この他、甕胴部も北壁東付近で見つかったが図化できなかった。

一方S I 05では、甕口緑Po263～268・270、甕底部Po271、高坏Po273、管玉S 10、砥石S 13がみられる。

この中で甕Po264は暗褐色土中より、甕口縁Po270はP4の埋土中より、砥石S13は貼床中より出土した。

甕Po269はS I 04・S I 05境界付近の上方の埋土より出土した。他の土器の出土状況などから推察して、Po269はS I 04・05に伴う土器と考えるのではなく、後の時期の流れ込みとした。

時 期 S I 04では時期を決定する土器がみつからなかった。

S I 05は、P4内の甕口縁Po270から判断して、弥生時代後期後半と思われる。よって、S I 04は弥生時代後期後半のS I 05に切られているため、弥生時代後期後半よりも時期が過かのぼるといえる。

S K 12 (挿図14、図版7)

位 置 SK12はSI05床面東側の壁際に位置する。当遺構にはSI05の貼床がかかっていることから、SK12はSI05に伴うものと考えられる。

S I 05の床面を検出した際、貼床のない落ち込んだ面から炭化物片を多数検出した。四分割して、北東部・南西部より、ベルトを残して掘り下げた。

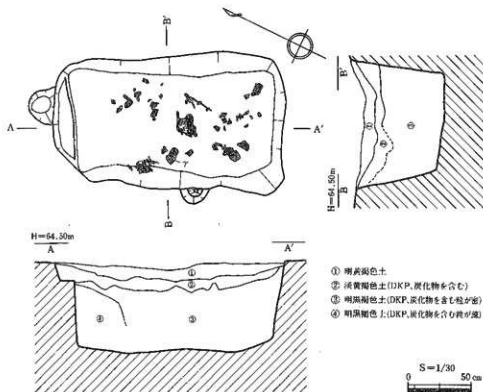
形 態 平面は長方形で、断面は逆台形状をしている。底面は硬い粘土層まで掘り込まれている。

規 模 規模は上縁部で長軸1.85m×短軸1.08m、底面で長軸1.64m×短軸0.83mとなっている。深さは、最も残りのよいところで0.73mである。長軸はほぼ南北方向を向いている。

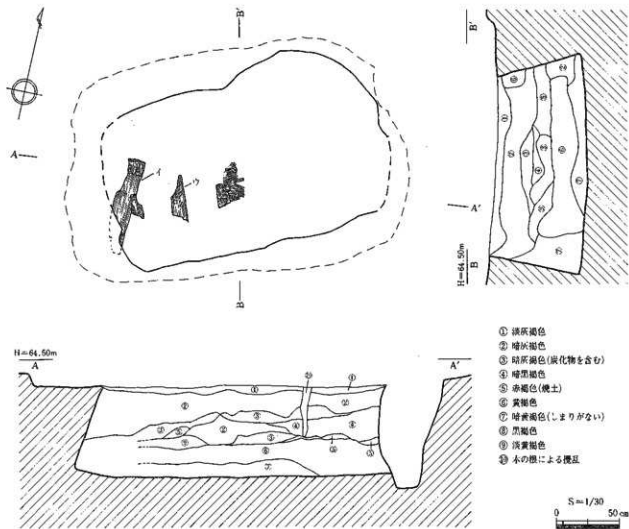
埋 土 埋土は4層に分けられる。②～④層は炭化物を含んでいる。なかでも③・④層は大量の炭化物を伴っていた。

遺 物 出土状況 遺構全域で、炭化物が検出された。構造材の他に、茅も含まれていた。特に茅材は焼土と密着しており、S I 05の屋根がSK12に焼け落ちたものと思われる。この他に埋土中より砥石S12と土器片が確認された。後者は固化することができなかった。

時 期 SK12はS I 05に伴うものである。よって、SK12は弥生時代後期後半のものである。また京都産業大学山田治教授によるC¹⁴の分析結果によると、当遺構より出土した炭化物Aは、1590±20BPとなる。



押図14 宇谷第1遺跡SK12遺構図



押図15 宇谷第1遺跡SK13遺構図

SK13 (挿図15、図版7)

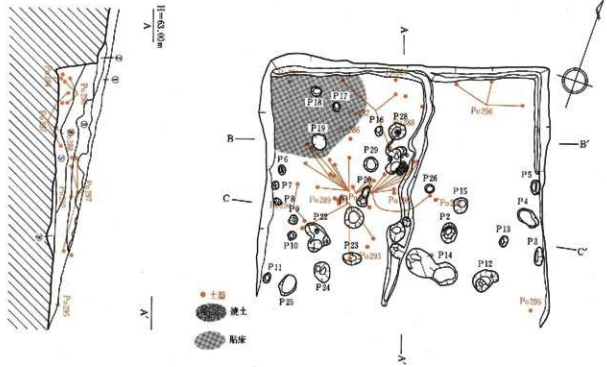
- 位置** S I 05南側の貼床下で、ややいびつな長楕円の淡灰褐色色を検出した。四分割して、北東・南西区より掘り下げを始めた。
- 形態** 貼床の下にあったものの、東側をS I 04の主柱穴P 3とS I 05の主柱穴P 3に、西側をS I 04の主柱穴P 4に切られている。遺存状態が悪かったため、当遺構とこれらのピットとの切り合い関係はわからなかった。平面は方形で、断面は袋状を呈する。規模は上縁部で長軸2.30m×短軸1.47m、底面で長軸2.76m×短軸1.84mである。深さは、最も残りのよいところで0.73mとなっている。長軸はほぼ東西方向を向いている。
- 埋土** 埋土は全部で9層に分けられる。③層暗灰褐色土・⑤層赤褐色土など炭化物や焼土を含む埋土が見られる。当遺構の埋土も、焼失による堆積と思われる。
- 遺物出土状況** 遺構全域で炭化物が検出された。とくに、中央部③層暗灰褐色土・⑨層淡黄褐色土中で茅が、南西区で垂木と思われる炭が3つ出土した。三者とともに南壁からA-A'ベルトに向かって下がるようなかたちで検出された。これらのうち炭化物イは、鑑定の結果スギである。同様に炭化物ウは、樹種は不明だが広葉樹である。この他の炭化物は図化できなかった。また、斐口縁Po262も埋土中より出土した。
- 時期** S I 05の貼床の下から検出されたことから、当遺構はS I 05よりも古いと思われる。前項より、S K12はS I 05に伴うものである。よって、S K13はS K12よりも時期が古いといえる。

また、C¹⁴の分析結果によると、S K13の炭化物イは1680±20BPである。これに対しS K12炭化物アの時期が1590±20だから、S K12とS K13の新旧関係が土層のみならず、遺物の面でも再確認される。

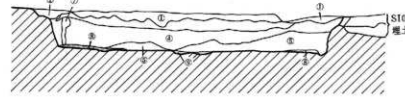
ただ、S K13とS I 04との新旧関係ならびにS I 04・05との従属関係については、明らかにできなかった。当遺構はS I 04・05の主柱穴に切られていることから、これらとは別の住居に伴っていたとも考えられる。

S I 06 (挿図16・68・69、図版8・37)

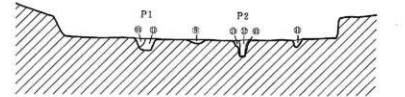
- 位置** 調査区の西側のD 5グリッドの、標高62.0m～62.5mのなだらかな斜面に位置する。S I 07の南西側を切って作られている。
- 形態** S I 06は、南側が流失しており原形を留めていなかったが、平面は方形を呈す。規模は、南側を復元して考えると、東西4.2m、南北4.0mを測り、床面積約16.8㎡と推定される。残存壁高は、最も遺存状態の良い北壁で最大0.63mである。
- 壁溝は北側壁際及び東側壁際にのみ残っており、幅15～20cm、深さ3～6cmを測り、断面は逆台形状を呈す。
- 柱穴は床面上で29個検出されたが、主柱穴と考えられるものはP 1、P 2である。それぞれの規模はP 1 (34×30-19)cm、P 2 (31×25-27)cmで、主柱穴間距離は1.6mである。他の柱穴については、P 3～P 11が壁際にあり、杭を立てて壁を補強したのと考えられる。それぞれの規模は、P 3 (30×13-10)cm、P 4 (37×20-11)cm、P 5 (23×13-13)cm、P 6 (15×10-13)cm、P 7 (14×11-14)cm、P 8 (14×10-15)cm、P 9 (16×13-9)cm、P 10 (14×14-6)cm、P 11 (13×11-3)cmである。
- 中央ピット・焼土** 中央ピットと思われるものは確認できなかった。P 21、28、29の周囲または上面に焼土面があったが、殻として機能したのとは考え難い。
- 貼床** 住居の北側半分の部分で赤褐色粘質土の貼床が認められたが、埋土との区別がつかず除去



H=63.00m
B

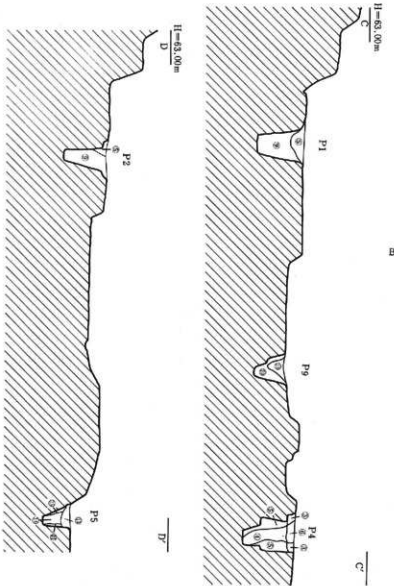


H=63.00m
C

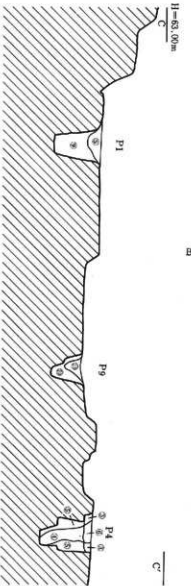


- ① 暗黄褐色土(耕作土)
- ② 暗灰黄褐色土
- ③ 暗褐色土
- ④ 暗黄褐色土(炭化物をわずかに含む)
- ⑤ 暗緑灰褐色土(基盤ブロックを含む)
- ⑥ 明黄褐色土
- ⑦ 暗赤褐色土
- ⑧ 暗赤灰褐色粘質土(粘土)
- ⑨ 暗褐色土
- ⑩ 淡黄褐色土
- ⑪ 暗褐色土(均質)
- ⑫ 暗褐色土(基盤ブロックを含む)
- ⑬ 暗黄褐色土

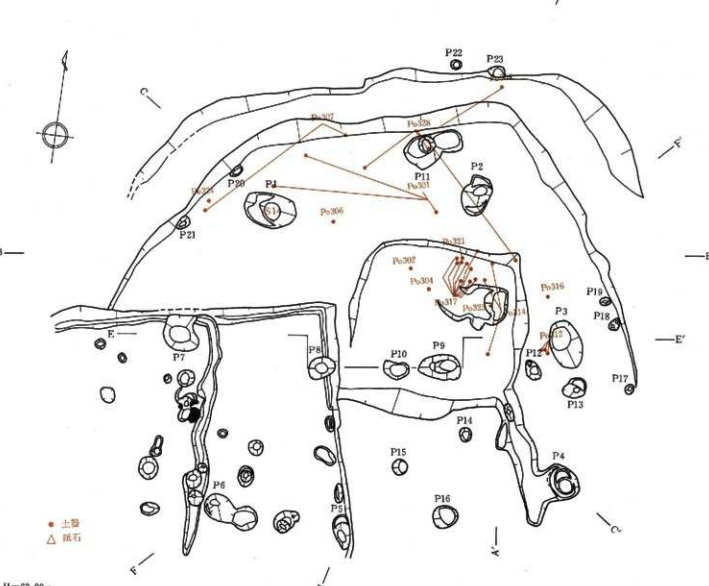
挿図16 宇谷第1遺跡S106遺構図



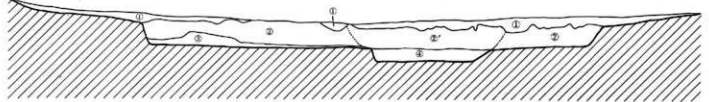
H=63.00m
D



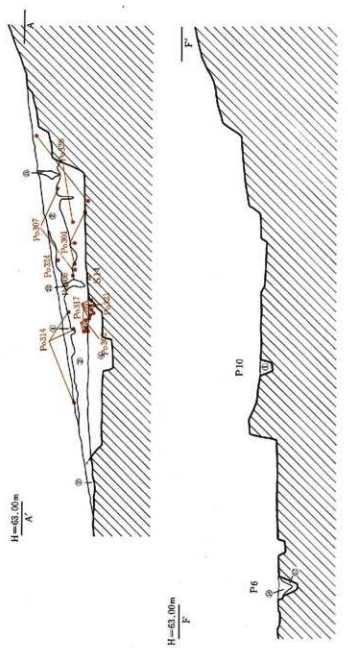
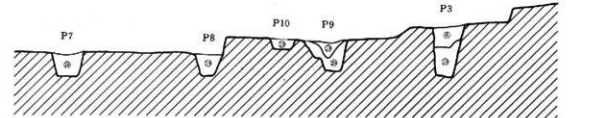
H=63.00m
E



H=63.00m
B



H=63.00m
E



H=63.00m
F

- ① 暗褐色土
- ② 暗黄褐色土
- ③ 暗褐色土
- ④ 暗褐色土
- ⑤ 暗褐色土
- ⑥ 暗褐色土
- ⑦ 暗赤褐色土
- ⑧ 暗赤灰褐色粘質土
- ⑨ 暗褐色土
- ⑩ 暗褐色土
- ⑪ 暗褐色土
- ⑫ 暗褐色土
- ⑬ 暗褐色土
- ⑭ 暗褐色土
- ⑮ 暗褐色土
- ⑯ 暗褐色土
- ⑰ 暗褐色土
- ⑱ 暗褐色土
- ⑲ 暗褐色土
- ⑳ 暗褐色土
- ㉑ 暗褐色土
- ㉒ 暗褐色土
- ㉓ 暗褐色土
- ㉔ 暗褐色土
- ㉕ 暗褐色土
- ㉖ 暗褐色土
- ㉗ 暗褐色土
- ㉘ 暗褐色土
- ㉙ 暗褐色土
- ㉚ 暗褐色土
- ㉛ 暗褐色土
- ㉜ 暗褐色土
- ㉝ 暗褐色土
- ㉞ 暗褐色土
- ㉟ 暗褐色土
- ㊱ 暗褐色土
- ㊲ 暗褐色土
- ㊳ 暗褐色土
- ㊴ 暗褐色土
- ㊵ 暗褐色土
- ㊶ 暗褐色土
- ㊷ 暗褐色土
- ㊸ 暗褐色土
- ㊹ 暗褐色土
- ㊺ 暗褐色土
- ㊻ 暗褐色土
- ㊼ 暗褐色土
- ㊽ 暗褐色土
- ㊾ 暗褐色土
- ㊿ 暗褐色土

挿図17 宇谷第1遺跡S107遺構図

してしまい、正確な範囲を知ることができなかった。

- 埋 土** 埋土は耕作土を除いて6層に分層でき、自然堆積の状況を示すが、西壁で暗黄褐色土が立ち上がる部分があり、壁際のピットと合わせて杭が立っていたと考えられる。
- 遺 物
出土状況** 床面からは、甕Po284・Po288、小型丸底壺Po295が出土している。埋土中からは、黒褐色土中で須恵器長頸壺Po297がばらばらの状態で、また、須恵器短頸壺Po298、須恵器甕Po299・300が出土している。そのほかにも、暗黄褐色土中から甕Po285～Po287・Po289～Po294、高坏Po296が出土している。
- 時 期** S I 06の時期は、床面出土の土器から古墳時代中期頃と考えられる。黒褐色土中の須恵器類は、奈良時代のもと考えられる。

S I 07 (挿図17・69～71、図版8・9・38)

- 位 置** 調査区の南西側のD 5・E 5グリッドにあり、標高62m～62.75mのなだらかな斜面に位置している。S I 07の東側約20mにはS I 08がある。
- 形 態** S I 07は、南西側がS I 06によって大きく切られ、また、南東側が流失しており原形を留めていなかったが、平面は六角形を呈すと思われる。

規模は、南西側、南東側を復元して考えると、東西7.7m、南北7.4mを測り、床面積約57㎡と推定される。住居の一边は約3.8mを測る。北側には、幅0.3～0.7mのテラスが住居のプランに添って作られている。残存壁高は、最も遺存状態の良い北壁で最大0.85m(上縁～テラス0.25m、テラス～床面0.60m)である。

壁溝は認められなかった。

柱穴は床面上でP 1～P 4、P 9、P 11～P 21の16個検出されているが、その他にも、S I 06の床面上でS I 07に伴うと考えられる深いピット、P 5～P 8の4個を検出することができた。それぞれの規模はP 1(83×54-74)cm、P 2(60×42-70)cm、P 3(76×50-82)cm、P 4(52×43-81)cm、P 5(56×25-45)cm、P 6(51×39-33)cm、P 7(66×48-42)cm、P 8(44×32-33)cm、P 9(65×40-51)cm、P 11(42×36-7)cm、P 12(34×21-18)cm、P 13(38×32-25)cm、P 14(23×18-10)cm、P 15(25×23-27)cm、P 16(40×35-22)cm、P 17(15×14-13)cm、P 18(21×13-9)cm、P 19(16×14-11)cm、P 20(22×13-6)cm、P 21(22×16-22)cmである。

支柱穴はP 1～P 7の7個で、支柱穴間距離はP 1-P 2間から順に3.3m、2.7m、2.4m、3.7m、2.1m、2.7m、2.5mである。他の柱穴については、P 8・P 9が棟持柱の柱穴と考えられる。P 17～21は壁際にあり、杭を立てて壁を補強したものと考えられる。

- 周辺ピット** テラスの周辺にもP 22、P 23の2個のピットを検出した。規模は、P 22(16×15-16)cm、P 23(27×18-11)cmである。これらは垂木を立てたものと考えられる。

- 中央ピット** 中央ピットと思われるものはP 10で、P 8・P 9間にある。周辺は後述する不明遺構によって削平されており完存していなかったが、規模は(40×26-18)cmを測る。埋土は暗灰褐色粘質土で、炭化物等は認められず、灰として機能したとは考え難い。

- 不明遺構** S I 07の中央部に、2.8m×2.8mの隅丸方形を呈す掘り込みが検出された。土層断面では確認できなかったが、この掘り込みの埋土から出土した甕Po317、高坏Po321から判断すると、この掘り込みはS I 07の廃絶後に掘り込まれたものと考えられる。

- 埋 土** 埋土は4層で、自然堆積の状況を示すが、最下層は炭化物を多量に含むものであり、焼した可能性がある。

- 遺 物
出土状況** 床面及びピット内からは、壺Po301・Po302、甕Po304・Po311・Po312・Po319・Po320、鼓形器台Po322、蓋Po328、礫石S 14が出土している。埋土中及び南側斜面からは、甕Po303-

Po305～Po310・Po313～Po316・Po318、高坏Po323～Po326、小型丸底鉢Po327、須恵器高坏Po329、土玉Po330が出土している。

時期 S I 07の時期は、床面出土の土器から弥生時代後期後半頃と考えられる。また、中央部の不明遺構の時期は、古墳時代中期前半頃と考えられ、S I 06に関わるものとも考えられる。

S I 08 (挿図18・72～77、図版10・39～41)

位置 調査区の南西部、G 5グリッド・H 5グリッドにあり、標高62.5m辺りの尾根がなだらかに下った斜面に位置する。S I 08の西側約20mのところにS I 07が位置している。

形態 S I 08は、南側が流失しているものの比較的周壁の遺存状態は良く、南西側を復元して考えると長軸4.5m×短軸4.0mを測り、床面積は18㎡と推定され、平面は方形を呈す。北側には住居のプランに沿ってテラスが作られている。

残存壁高は、最も遺存状態のよい北壁で、テラスも含めて最大0.98m(上縁～テラス0.38m、テラス～床面0.6m)である。

壁溝は、北東コーナーでとぎれる。幅8～12cm、深さ2～4cmを測り、断面はU字状を呈す。

柱穴は、床面上ではP 1～P 4・P 6～P 8の7個、貼床下ではP 9～P 10の2個が検出されている。それぞれの規模はP 1(27×26-7)cm、P 2(38×34-93)cm、P 3(36×36-19)cm、P 4(27×25-20)cm、P 6(27×21-13)cm、P 7(21×16-7)cm、P 8(22×20-7)cm、P 9(89×64-24)cm、P 10(16×7-9)cmを測る。主柱穴はP 1・P 2の2個と考えられ、主柱穴間距離は、3.1mである。P 3・P 4は、補助柱穴と考えられる。

中央ピット 中央ピットと考えられるものはP 5で、住居の中央部に位置する。規模は、(50×44-26)cmを測り、ほぼ円形を呈す。埋土は2層に分層でき、上層は暗赤褐色土、下層は暗赤褐色粘質土で、炭化物等は認められず、炉として機能したとは考え難い。

焼土面 P 1とP 6との間に、45×32cmに広がる焼土面が検出された。

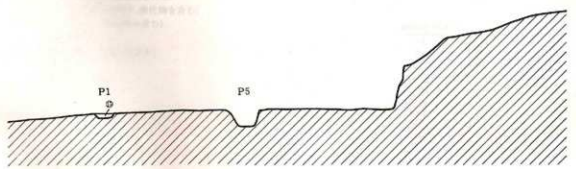
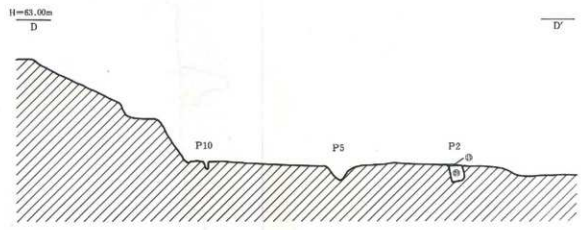
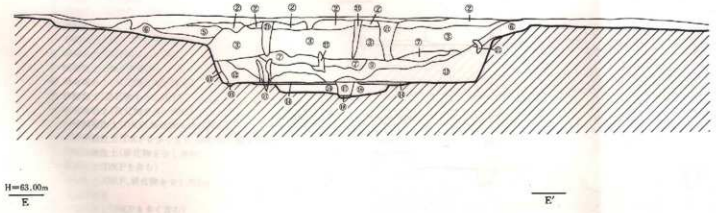
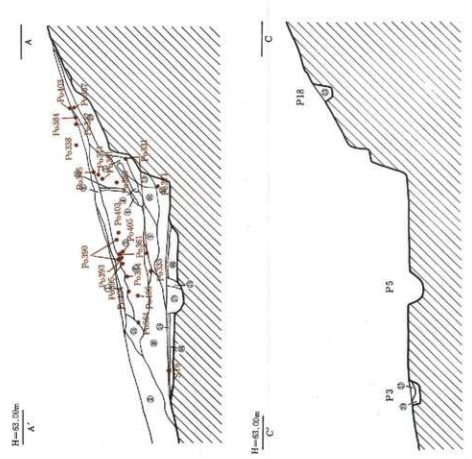
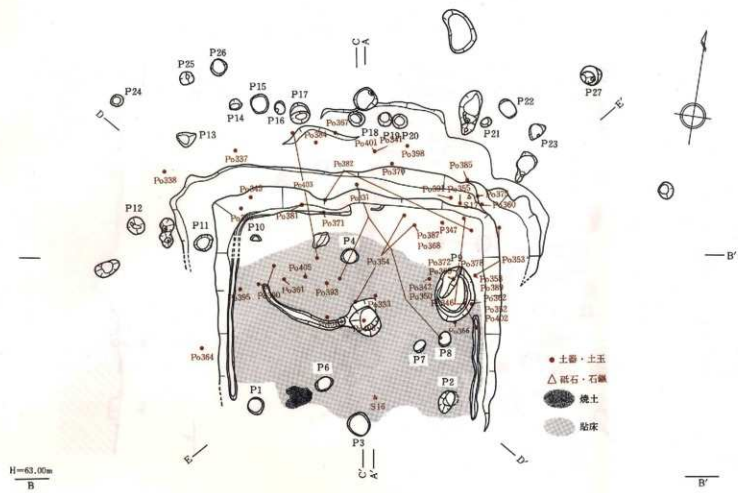
貼床 住居のほぼ中央部の基盤層を深さ約10cm掘り込み、層で埋め戻した後に暗黄褐色土で貼床がなされていた。

埋土 埋土は、耕作土を除いて12層である。このうち、③層下面がほぼ平坦で、⑦層がよく締まる土層であった。平面では確認できなかったが、この面で再利用されたものと考えられる。⑦層以下は自然堆積したものと考えられる。

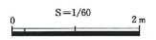
周辺ピット S I 08の北側には、P 11～P 28の計18個のピットが検出された。規模は、径20～30cm、深さ5～20cmのものが殆どである。これらは、垂木を立てたピットと考えられる。

遺物出土状況 S I 08からは、埋土から多くの土器・石器が出土している。凶化できたものには、壺Po332・Po352・Po353、甕Po331・Po333～Po351・Po354～Po382、高坏Po384～Po405、小型丸底壺Po406、土玉Po407、石鎌S 15、砥石S 16・S 17、瓦質土器底部Po383がある。これらの内、床面から出土したものはS 16だけである。土器の出土状況を見ると、③層を境に土器の様相が異なっている。①～③層上層ではPo337、Po338、Po345、Po354、Po364、Po367、Po384、Po390、Po393、Po395、Po403、Po406、③層下層以下ではPo331、Po333、Po371が出土している。

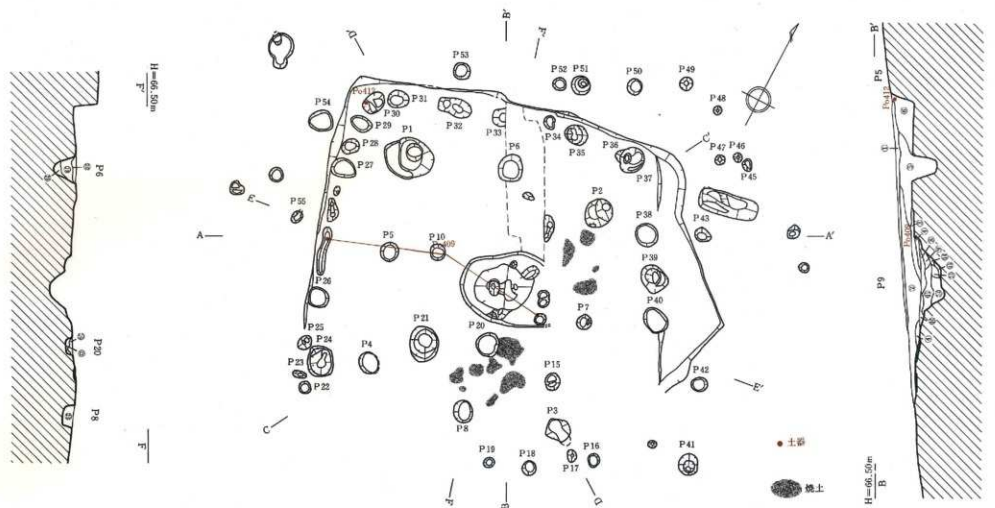
時期 S I 03の時期は、上層の土器が古墳時代中期頃のもの、下層の土器が弥生時代後期頃と考えられるものが多いことから、S I 03は弥生時代後期後半に作られ、古墳時代中期頃に再利用されたものと考えられる。



- | | | |
|------------------|------------------|------------------|
| ① 耕作土 | ⑥ 暗灰赤褐色粘質土 | ⑫ 暗灰赤褐色土(DKPを含む) |
| ② 黒褐色土 | ⑦ 暗黄褐色土 | ⑬ 暗赤褐色土 |
| ③ 暗褐色粘質土(炭化物を含む) | ⑧ 明黄褐色土(しまりがよい) | ⑭ 暗赤褐色土 |
| ④ 暗灰赤褐色粘質土 | ⑨ 暗灰黄褐色土 | ⑮ 暗赤褐色粘質土 |
| ⑤ 暗褐色土 | ⑩ DKPを含む、よくしまる | ⑯ 明黄赤褐色土 |
| ⑥ 明茶褐色土 | ⑪ 暗茶褐色粘質土(よくしまる) | ⑰ 明茶褐色土 |
| ⑦ 明黄褐色粘質土(よくしまる) | ⑫ 暗灰黄褐色土(炭化物を含む) | |
| ⑧ 明茶褐色土 | ⑬ 暗褐色土 | ⑱ 木の根の擾乱 |



挿図18 宇谷第1遺跡S108遺構図



- ① 暗褐色土
- ② 暗褐色土(炭化物混じり)
- ③ 暗褐色土(暗褐色土が混じる)
- ④ 濃褐色土
- ⑤ 暗褐色土(DKP, 炭化物を含む)
- ⑥ 暗褐色土(炭化物を多く含む)
- ⑦ 暗褐色土(DKPを含む)
- ⑧ 明黄褐色土(炭化物を少し含む)
- ⑨ 暗褐色土(炭化物を少し含む)
- ⑩ 暗黄褐色土(炭化物を少し含む)
- ⑪ 淡黄褐色土(DKP, 炭化物を少し含む)
- ⑫ 淡黄褐色土(DKPを多く含む, 炭化物を極少含む)
- ⑬ 淡緑黒褐色土(炭化物を少し含む)
- ⑭ 暗褐色土(DKPを含む)
- ⑮ 暗褐色土(DKP, 炭化物を少し含む)
- ⑯ 暗黄褐色土
- ⑰ 暗黄褐色土(DKPを多く含む)
- ⑱ 暗黄褐色土(DKPを含む)
- ⑲ 暗黄褐色土(DKP, 炭化物を含む)
- ⑳ 暗褐色土(炭化物を含む)
- ㉑ 暗褐色土
- ㉒ 暗褐色土(DKPを含む)
- ㉓ 明黄褐色土
- ㉔ トレンチ様瓦土

S=1/60
0 2m

挿図19 宇谷第1遺跡S109遺構図

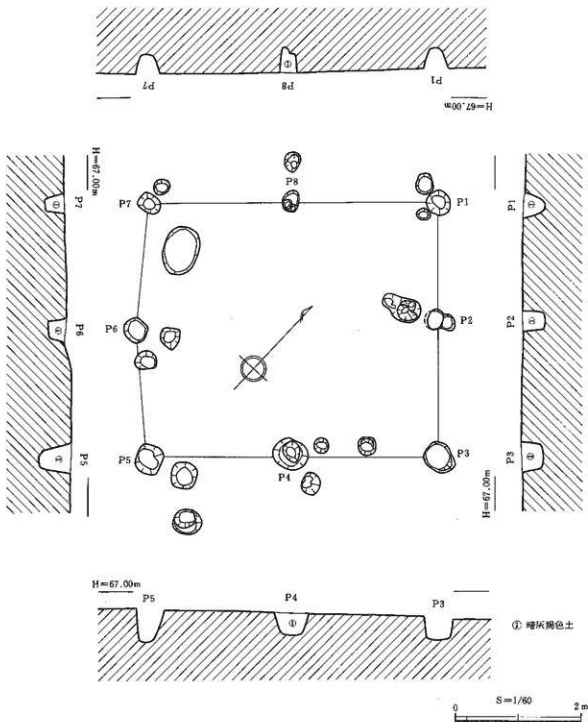
- 位 置** 調査区の中央、M5グリッドの北東隅、屋根が緩やかに南側に向かって下がり始める標高66m付近に位置する。周辺には貯蔵穴群、掘立柱建物群、ピット群が位置する。
- 形 態** この住居跡は試掘調査(泊村T8)によって確認されており、すでに床面の検出も一部行なわれていた。東側と南側で正確な壁が検出できなかったが、平面は方形である。規模は壁際に掘られたピットをもとに復元すると、長軸5.7m×短軸5.6m、床面積31.5㎡と推測される。残存壁高は最も遺存状態の良い北壁で最大0.53mである。西側の壁際ほぼ中央で2つに短く切れた壁溝が検出され、その両端にP26とP27がある。規模は南側の溝が長さ80cm、幅10cm、深さ6.6cm、北側の溝は長さ39cm、幅17cm、深さ8cmである。
- 柱穴は床面上で40個、周辺で14個が確認されている。床面のピットを観察すると、主柱穴はP1～P4の4個である。規模はP1から順に(78×68-79)cm、(48×42-59)cm、(41×41-58)cm、(36×30-81)cmである。主柱間距離はP1-P2間から順に、3.3m、3.5m、3.2m、3.5mである。それぞれの主柱穴を結ぶ直線のほぼ中間の外側に、P5～P8の4個の柱穴があり、これらは棟持柱または補助柱であろう。深さはP5から順に29cm、34cm、29cm、20cmである。また、この住居跡で最も特徴的なことは、P22～P40の18個の柱穴が壁際に並ぶことである。規模は径が最大40cm程、最小20cm程のもので、深さが10～35cmである。これらのピットは側板を押さえる杭の穴と考えられるが、柱状の太い杭が想定され、構造上、柱に抵触するほどの役目を果たしていたと考えられる。周辺のピットはP41～P54である。垂木を差し込んだ柱穴と考えられるが、規模は最大径のものが(40×30)cm、最小径のものが、(14×13)cmであり、深さは71～29cmである。
- 中央ピット** 中央ピット(P9)は2段に掘り込まれ、平面が楕円形である。規模は1段目が長軸1.4m以上×短軸1.2m、2段目が長軸0.94m×短軸0.74m、深さが最大0.42mである。また、1段目と2段目の間にはテラスが巡り、東側のテラスにはP11～P14の4個の浅いピットが掘り込まれていた。
- 焼 土** 焼土は床面上の東側と南側に集中して11箇所確認され、すべて主柱穴を繋ぐ線上もしくはその内側で検出された。規模は最大(40×35)cm、最小(12×9)cmである。
- 埋 土** 東西ベルトの埋土は試掘トレンチによって大半が失われていたが、埋土は自然堆積であり、壁から中央に向かって流れ込んだ様な状態である。また、焼土面が多いことと埋土の大半に炭化物が含まれていることから、この住居は焼失したと考えられる。
- 遺 物** 壁口縁Po410は床面から、壁口縁Po409、軽石は中央ピットの埋土中から出土している。⑤
- 出土状況** 層中から壺口縁Po408・甕底部Po412が出土し、①層中から壁口縁Po411も出土している。また、砥石S18がP20から、砥石S19、土玉Po413が埋土中からそれぞれ出土している。さらに、北西隅の埋土中から炭化した種子が見つかった。
- 時 期** 時期は、床面出土土器Po410、中央ピット出土土器Po409により、弥生時代後期後半と考えられる。

2. 掘立柱建物跡

SB01 (挿図20、図版12)

位置 調査区のほぼ中央やや北側のN3グリッドに位置している。周辺には多数のピットが存在している。

形態 桁行2間・4.6m、梁行2間・4.0mの掘立柱建物跡である。主軸方向はN-46°30'-Eである。柱穴は8個で、規模はそれぞれP1(40×38-33)cm、P2(34×24-36)cm、P3(50×42-37)cm、P4(56×46-43)cm、P5(47×42-54)cm、P6(38×38-30)cm、P7(38×28-31)cm、P8(34×26-37)cmを測る。柱穴間距離は、P1-P2間から順に、1.8m、2.1m、2.3m、2.3m、2.0

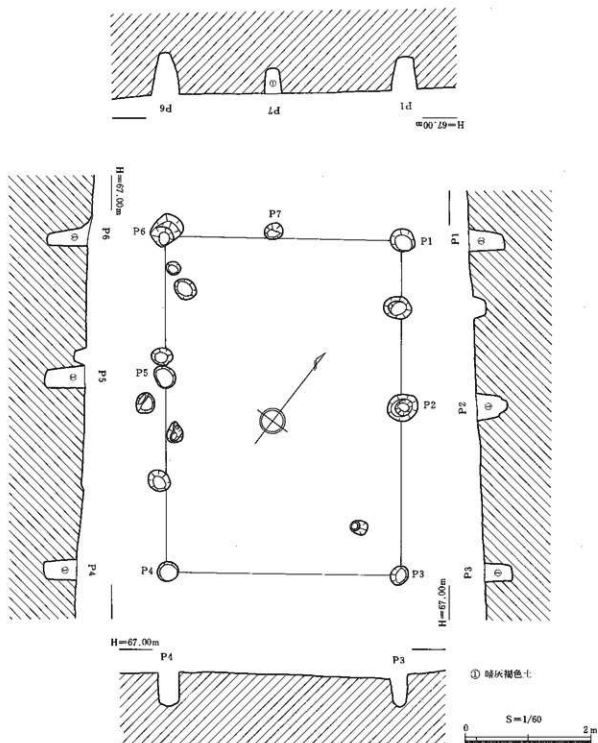


挿図20 宇谷第1遺跡SB01遺構図

- 埋 土 m、2.2m、2.3mである。しかし、P6とP2の外側のピットが近接棟持柱の柱穴の可能性もある。
 土 ビットの埋土は、いずれも締まりのあまりない暗灰褐色土で、炭化物をわずかに含む。
 時 期 P4内から土器片が出土しているが図化できず、時期は不明であるが、掘立柱建物跡はS
 D01以来にだけ存在し、このうちSB03から弥生時代後期後半の土器が出土しており、同時
 期のもと考えられる。

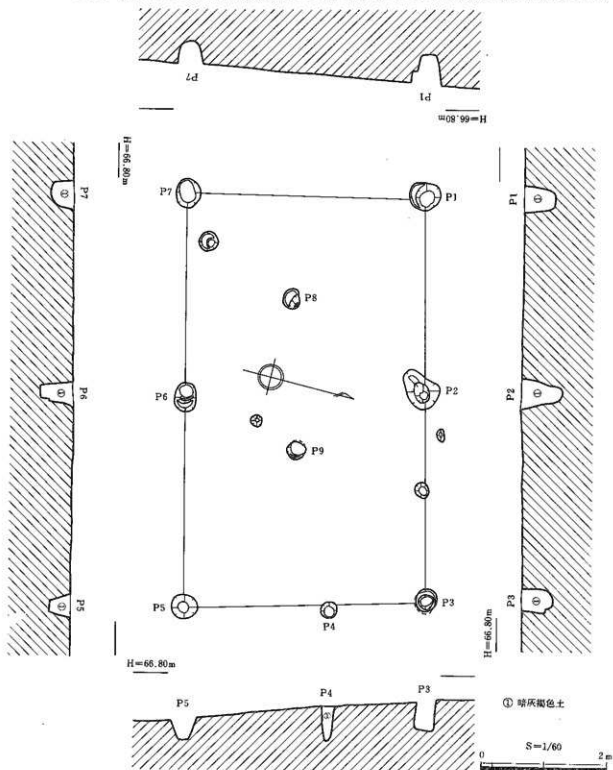
SB02 (挿図21、図版12)

- 位 置 調査区のほぼ中央部のN4グリッドに位置している。周辺には多数のピットが存在し、北
 側約5mにSB01がある。



挿図21 宇谷第1遺跡SB02遺構図

- 形 態** 桁行2間・5.2m、梁行1間・3.8mの掘立柱建物跡である。主軸方向はN-38°-Wである。柱穴は7個で、規模はそれぞれP 1 (40×36-56)cm、P 2 (50×42-47)cm、P 3 (32×26-46)cm、P 4 (33×30-54)cm、P 5 (38×32-67)cm、P 6 (52×40-72)cm、P 7 (30×24-38)cmを測る。柱穴間距離は、P 1-P 2間から順に、2.6m、2.7m、3.7m、3.1m、2.2m、1.7m、2.1mである。P 7は、梁のラインからやや外側にあり、近接棟持柱の柱穴と考えられる。
- 埋 土** ビットの埋土は、いずれも締まりのあまり無い暗灰褐色土で、炭化物をわずかに含む。
- 時 期** 遺物は全く出土しておらず時期は不明であるが、掘立柱建物跡はS D01以东にだけ存在し、このうちS B03から弥生時代後期後半の土器が出土しており、同時期のもと考えられる。



挿図22 宇谷第1遺跡SB03遺構図

SB03 (挿図22・81、図版12・43)

位 置 調査区のほぼ中央部南側のL4・L5・M5グリッドに位置している。周辺のピットの密度はN3・N4グリッドほど高くない。SB03の東側約1.9mにはSI09がある。

形 態 桁行2間・6.6m、梁行1間・3.8mの掘立柱建物跡である。主軸方向はN-75°15'-Eである。主柱穴はP1～P6の6個で、各主柱穴の規模はそれぞれP1(48×40-50)cm、P2(67×45-65)cm、P3(42×32-51)cm、P4(42×38-46)cm、P5(46×34-54)cm、P6(46×41-38)cmを図る。柱穴間距離は、P1-P2間から順に、3.1m、3.3m、3.8m、3.4m、3.2m、3.8mである。P7は、P3・P4間にあり、やや外側に位置するもので、規模は、(26×26-54)cmを測る。P8・P9は建物内にあり、規模は、P8(32×24-21)cm、P9(30×25-45)cmを測る。P7は近接棟持柱の柱穴、P8・P9は屋内棟持柱の柱穴と考えられる。

埋 土 ピットの埋土は、いずれも締まりのあまり無い暗灰褐色土で、炭化物をわずかに含む。

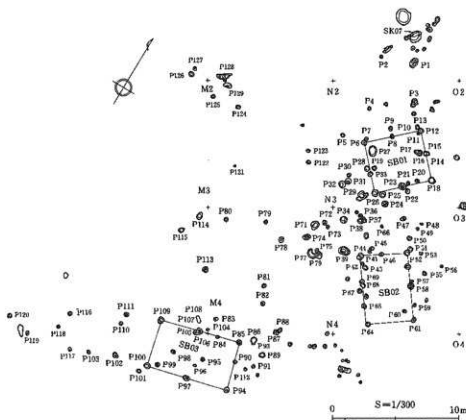
遺 物 P1内から鍔Po463が出土している。そのほかにもP9内から土器片が出土しているが図化できなかった。

時 期 SB03の時期は、弥生時代後期後半頃と考えられる。

ピット群 (挿図23、図版11)

位 置 調査区の中央、標高65.75m～66.75m辺り、尾根頂部の平坦部と南側緩斜面に129個のピットを検出した。N3、N4、N5、M5、L4、L5、グリッドにほぼ取まる範囲にピットが集中している。その広がりには南北約25m、東西約30mである。

各ピットの詳細については、ピット群一覧表(挿表2)のとおりである。



挿図23 宇谷第1遺跡ピット群遺構図

3. 土坑・土壙

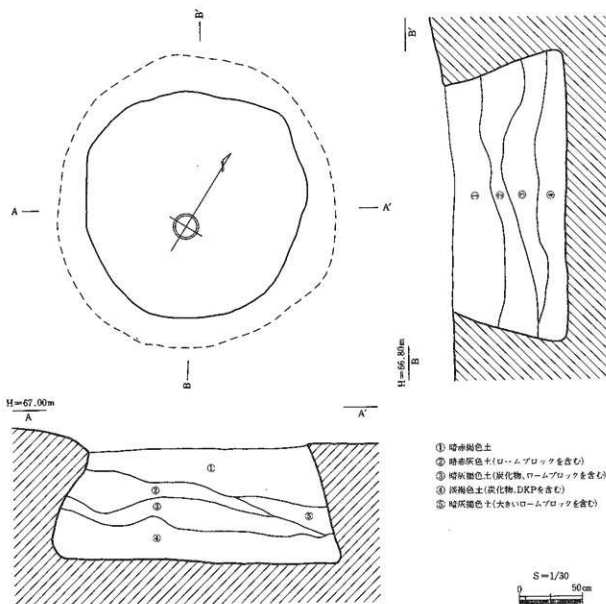
SK01 (挿図24、図版13)

位置 調査区のほぼ中央、M4グリッドの南東隅で尾根の頂部が広がった最上部辺りで、標高66.5m付近に位置する。すぐ南側にはSI09がある。試掘調査によってすでに底面の調査が行われていた。

形態 非常に遺存状態がよく、本遺跡最大の土坑である。上縁部、底面共に平面はほぼ円形を呈し、断面は上縁部から16~34cm壁面が内彎する顕著な袋状である。規模は上縁部が長径1.80m、短径1.76m、底面が長径2.31m、短径2.20mである。残存する部分の最大の深さは0.94mである。

埋土層 は5層に分層できる。細かい炭化物が③④層中に含まれており、断面が袋状を呈すことなどを考え合わせると、この土坑は貯蔵穴に使われていたと考えられる。また、この土坑はDKP層を掘り込み、その下の淡赤褐色の粘土層まで達している。

遺物 土器片が③層中から出土しているが、図化できなかった。



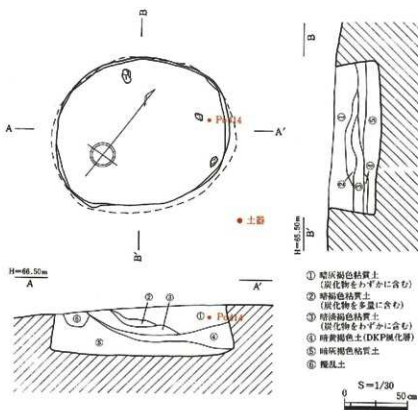
挿図24 宇谷第1遺跡SK01遺構図

時期 時期は他遺構との位置関係、形態、出土土器片などから推察すると弥生時代後期後半と思われる。

SK02 (挿図25・78、図版13)

位置 調査区ほぼ中央、L3グリッドの南東隅で尾根頂部が広くなくて、尾根が緩やかに西側に下がり始める標高66.25m付近に位置する。すぐ南側にSK03がある。

形態 上縁部、底面共に平面はほぼ円形を呈し、断面は上縁部から最高9cm程壁面が内彎する袋状である。規模は上縁部が長径1.34m、短径1.23mあり、底面が長



挿図25 宇谷第1遺跡SK02遺構図

径1.47m、短径1.30mある。残存する部分の最大の深さは0.47mである。

埋土 埋土は5層に分層できる。比較的粒の大きい炭化物が①～③層中に含まれており、断面が袋状を呈すことを考え合わせると、この土坑は貯蔵穴に使われていたと考えられるが、この土坑はDKP層中で掘り込みが終わっている点は、他の貯蔵穴と異なる。

遺物 土玉Po414は①層中から出土している。また、①⑤層中から土器片や石が出土しているが、図化できなかった。

時期 時期は他遺構との位置関係、出土土器片より推察すると弥生時代後期後半と思われる。

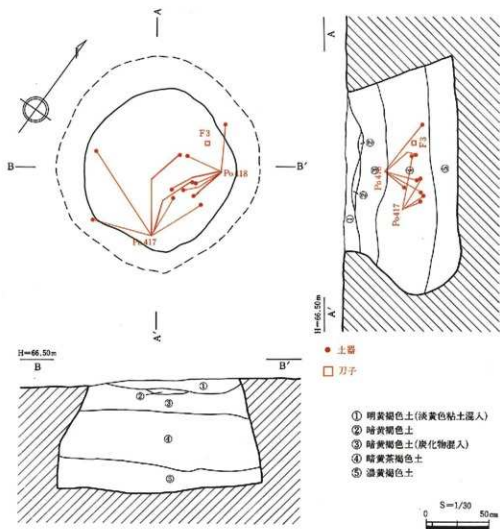
SK03 (挿図26・78、図版13・42・43)

位置 調査区のほぼ中央、L4グリッドの北東隅で尾根頂部が広くなくて、尾根が緩やかに南西側に下がり始める標高66.25m付近に位置する。すぐ北側にSK02、南東側にSK04がある。

形態 上縁部、底面共に平面はほぼ円形を呈し、断面は上縁部より13～28cm壁面が内彎する袋状である。規模は上縁部が長径1.30m、短径1.22mであり、底面が長径1.70m、短径1.63mである。残存する部分の最大の深さは0.9mである。

埋土 埋土は5層に分層できる。大きな炭化物が③層中に含まれており、断面が袋状を呈すことから、この土坑は貯蔵穴に使われていたと考えられる。また、この土坑はDKP層を掘り込み、その下の淡赤褐色の粘土層まで達している。

遺物 甕口縁Po417、甕底部Po418は平面で見ると土坑内の中央より西側で散乱した状態で、断面で見ると35～45cm厚みをもって堆積した④層の下層より出土している。また、それぞれを復



挿図26 宇谷第1遺跡SK03遺構図

元してみると胴部は確認できないが同一個体であろうと考えられる。さらに、甕口縁Po415・416が埋土中から、刀子F3が④層中から出土している。

時期 時期はPo417、Po418より弥生時代後期後半と考えられる。

SK04 (挿図27・78、図版14・42)

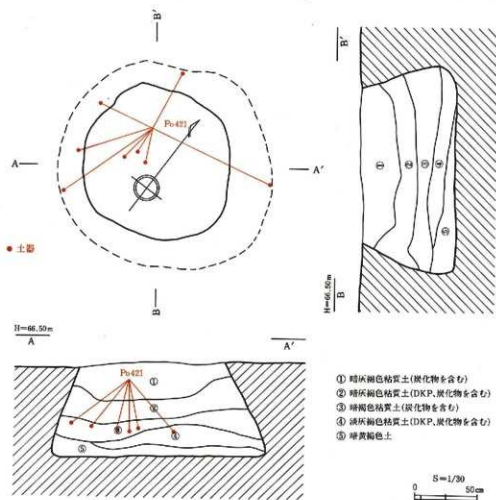
位置 調査区ほぼ中央、L4グリッドの南東隅で尾根頂部が広くなくて、尾根が緩やかに南西側に下り始める標高66.25m付近に位置する。すぐ北西側にSK03、南側にSB03がある。

形態 上縁部、底面共に平面はほぼ円形を呈し、断面は上縁部より17～35cm壁面が内彎する袋状である。規模は上縁部が長径1.18m、短径1.17mであり、底面が長径1.73m、短径1.60mである。残存する部分の最大の深さは0.78mである。

埋土 埋土は5層に分層できる。大きな炭化物が②～④層中に含まれており、断面が袋状を呈することからも、この土坑は貯蔵穴に使われていたと考えられる。またこの土坑はDKP層を掘り込み、その下の淡赤褐色の粘土層まで達している。

遺物 台付鉢Po421は平面で見ると土坑内全面に散乱した状態で、断面で見ると③④層中で出土した。また、甕口縁Po419、甕底部Po420が④層付近で出土している。

時期 時期はPo419～421より弥生時代後期後半と考える。

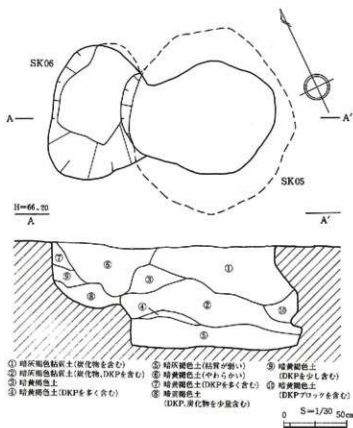


挿図27 宇谷第1遺跡SK04遺構図

SK05・06
(挿図28・78、図版14・42)

位置 調査区のほぼ中央、L4グリッドに南西隅で、尾根頂部が徐々に狭くなり南西側に緩やかに下り始める標高66m付近に位置する。2つの遺構は重複して掘り込まれ、南側がSK05、北側がSK06である。すぐ西側にSD01が、東側にSK03がある。

SK05 SK05は平面は上縁部、底面共にほぼ円形を呈し、断面は上縁部より10~27cm壁面が内彎する袋状である。規模は上縁部が長径0.92m、短径0.90mであり、底面が長径1.50m、

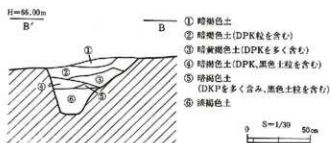
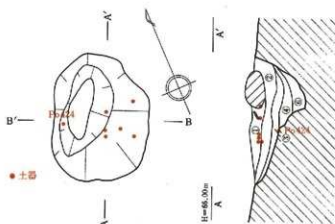


挿図28 宇谷第1遺跡SK05・06遺構図

短径1.32mである。残存する最大の深さは0.83mである。埋土は6層に分層できる。①②層に炭化物が含まれており、断面が袋状を呈すことからこの土坑は貯蔵穴と考えられる。また、この土坑はDKP層を掘り込み、その下の淡赤褐色の粘土層まで達している。

S K 06 SK06は平面が楕円形を呈し、断面が摺鉢状である。規模は上縁部で長径1.07m、短径0.8mと推定される。埋土は4層に分層でき、締まりのない土質である。用途は不明である。

両者の関係は、土層によって、SK05よりSK06の方が古いと思われる。



挿図29 宇谷第1遺跡SK07遺構図

遺物 甕口縁Po422はポイントで取り上げていない上、出土地区が両者の重複するところにあるためSK05の遺物である可能性がある。その他に、図化できなかったがSK05は土器片が出土している。しかし、SK06は出土していない。

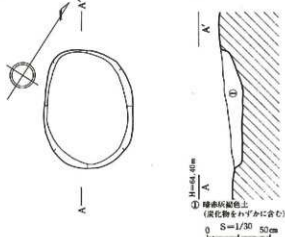
時期 時期はSK05が形態、土器片より弥生時代後期後半、SK06が土層より弥生時代後期後半以前と思われる。

SK07 (挿図29・78、図版15)

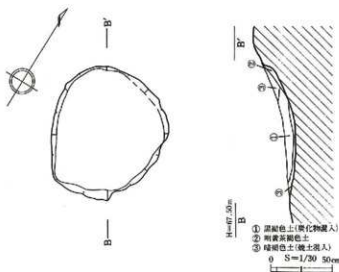
位置 調査区の北端、N2グリッドの北東隅で尾根の頂部が広がって、尾根が緩やかに北東側に下がり始める。標高66m付近に位置する。すぐ東側にSK11がある。

形態 上縁部の平面は不整形を呈し、断面は摺鉢状である。規模は上縁部が長径1.0m、短径0.7mあり、残存する部分の最大の深さは0.65mである。

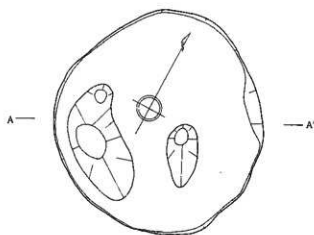
埋土 埋土は4層からなり、他の土坑の埋土に比べて、土質が柔らかく一度攪乱を受けたよ



挿図30 宇谷第1遺跡SK08遺構図



挿図31 宇谷第1遺跡SK10遺構図



H=85.50m

A

A'

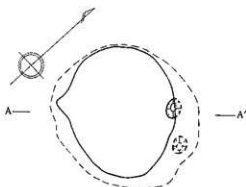


① 暗褐色土
② 暗褐色土(DKPを含む)

S=1/30 50cm

0 50cm

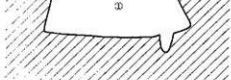
挿図32 宇谷第1遺跡SK09遺構図



H=86.60m

A

A'



① 暗褐色土(しまりが無い,炭化物をわずかに含む)

S=1/30 50cm

0 50cm

挿図33 宇谷第1遺跡SK11遺構図

うな埋土である。用途は土城墓と思われる。

遺物 検出面で径が30cm程の石が出土し、その周辺と底面近くから焼きが悪く、格子目印きを持つ須恵器Po424が出土している。須恵器Po423は検出面から出土している。

時期 時期はPo424より奈良から平安時代と考えられる。

SK08 (挿図30、図版15)

位置 調査区西側、G 5グリッドの北東隅で標高64m付近に位置する。

形態 平面は楕円形、断面は皿状の土壇である。規模は長径0.95m、短径0.71m、深さ7cmである。

遺物 また、遺物は埋土中から土器片が出土しているが図化できなかった。

時期 時期は出土土器により弥生時代後期後半と考えられる。

SK09 (挿図32・79、図版15)

位置 調査区中央、J 4グリッドの北東側で標高65.75m付近に位置する。

形態 平面は円形、断面は皿状である。規模は長径1.77m、短径1.68m、深さ0.11mである。用途

は貯蔵穴の可能性がある。また、遺物は窠口縁Po425が埋土上面より出土している。

時期 時期はPo425により弥生時代後期後半と考えられる。

SK10 (挿図31、図版16)

位置 調査区ほぼ中央、L 5グリッドの南東隅で標高65m付近に位置する。

形態 平面は円形、断面は皿状である。規模は長径1.07m、短径0.94m、深さ0.1mである。また、

遺物 遺物は出土していない。

時期 時期、用途とも不明である。

SK11 (挿図33-79、図版16-42)

- 位置** 調査区の北端、N 3グリッドの北東隅で尾根の頂部が広く、尾根が緩やかに北東側に下がり始める。標高66.25m付近に位置する。すぐ東側にSK07がある。
- 形態** 上縁部、底面共に平面はほぼ円形を呈し、断面は上縁部から3~23cm壁面が内彎する顕著な袋状である。規模は上縁部で長径1.03m、短径0.95mあり、底面で長径1.22m、短径1.11mである。残存する部分の最大の深さは0.42mである。
- 埋土** 層は1層である。細かい炭化物が層中に含まれており、断面が袋状を呈することなどを考え合わせると、この土坑は貯蔵穴に使われていたと考えられる。また、この土坑はDKP層を掘り込み、その下の淡赤褐色の粘土層まで達している。
- 遺物** 底部Po426が埋土中から出土している。また、検出面で(23×16)cmの不整形の石が見つかっている。
- 時期** 時期はPo426により弥生時代後期後半と考えられる。

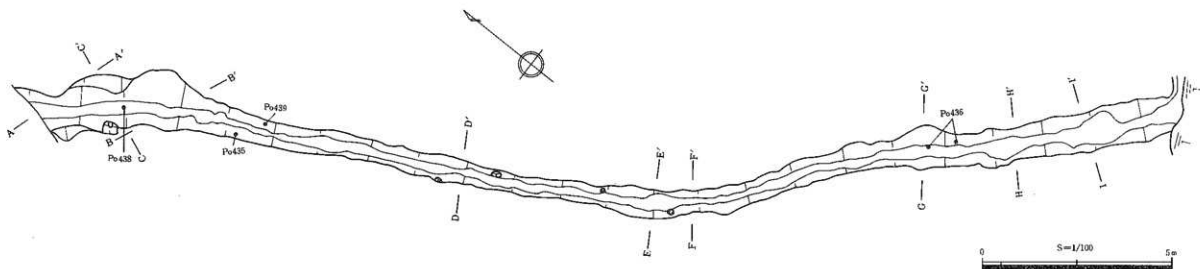
4. 溝状遺構

SD01 (挿図34-79、図版17-42)

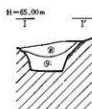
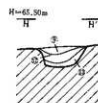
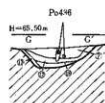
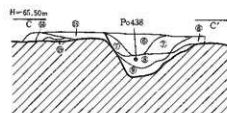
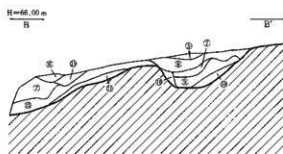
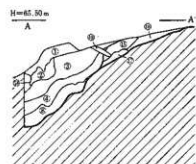
- 位置** 調査区の中央、尾根が急にくびれ始めるLライン付近に位置する。この溝は尾根に直行して走り、頂部で緩やかに屈曲しながら南北方向に延びていく様相を呈し、尾根を区画するものと考えられる。また、標高は南側で64m付近、尾根頂部で65.75m、北側で64.5m付近である。すぐ西側に接してSI01がある。
- 形態** SI01の壁の依存状態が非常に悪いことを考えると、SD01もかなり削平を受けていることが推察できるが、規模は全長30.78m以上、最大幅1.5m程、最小幅0.6m程である。深さは0.21~0.64m程である。断面はほぼ逆台形状を呈する。
- 埋土** 埋土はほとんど自然堆積によるものと考えられるが、C-C'ラインで⑥層暗茶褐色土が⑦層暗褐色土を掘り込んだ後に堆積していると考えられる。また、A-A'、B-B'、C-C'を見ると、SD02の埋土である④層がSD01によって切られていることが分かり、SD01はSD02より新しい遺構であると考えられる。
- 遺物** 甕口縁Po427・431、底部Po435、高環Po433、静止糸きり底の小型の環Po438、土玉Po439が北側の遺溝埋土から出土している。この内、Po438はC-C'ベルトから20cm離れた地点で出土しており、⑥層に含まれる土器である。また、甕口縁Po429・430、底部Po436が南側の遺溝埋土から出土している。この内、Po436はSD02出土の土器と接合している。さらに、甕口縁Po428、高環Po434が埋土中から、甕口縁Po432がF-F'ベルトからそれぞれ出土している。
- 時期** 時期はPo436より弥生時代後期後半頃と思われる。SD01はSI01、SD02・SD03を切って掘り込まれていた。従って、SD01はSI01、SD02・03よりやや古い。

SD02・03・05 (挿図5-80-81、図版16~18-42-43)

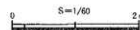
- 位置** 3条の溝状遺構、調査区中央から東側で黒褐色土の帯として検出されたが、SD02・05は農道に、SD03は崖に阻まれて底面を確認することができなかった。
- SD02** SD02はK3杭とM2杭を結ぶ辺りに延び、標高65m付近に位置する。全長は30m以上である。遺物はK3杭付近で甕口縁Po440・443~445・450が、SD01と交差する地点の東側付近で甕口縁Po442・447・449、高環Po452が、M2杭付近で甕口縁Po441・446・448がそれぞれ黒褐色土中から出土している。



● Po436



- | | | |
|----------------|----------------|-----------------|
| ① 淡黄褐色土 | ⑦ 暗褐色土 | ⑬ 明黄褐色土 |
| ② 明黄褐色土 | ⑧ 明黑茶褐色土 | ⑭ 暗黑茶褐色土 |
| ③ 明褐色土(しまりが無い) | ⑨ 暗黒褐色土 | ⑮ 黒褐色土 |
| ④ 明褐色土(よくしまる) | ⑩ 暗褐色土(DKPを含む) | ⑯ 淡褐色土 |
| ⑤ 暗黄褐色土 | ⑪ 明黄茶褐色土 | ⑰ 明黄茶褐色土(粒径がある) |
| ⑥ 暗茶褐色土 | ⑫ 暗黄褐色土 | ⑱ 埋土 |
| | | ⑲ 木の根の擾乱 |



柳図34 宇谷第1遺跡SD01遺構図

S D 03 S D03はI5杭とN5杭を結ぶ辺りに延び、標高64m付近に位置する。全長は30m以上である。遺物はS D01と交差する地点の西側で甕口縁Po454~456・458、高環Po451が、M5杭付近でPo458がそれぞれ出土している。その他、甕口縁Po453、底部Po459、高環Po460が出土している。

S D 05 S D05はP2杭、P5杭、Q6杭を順に結ぶ辺りを彎曲して延び、標高64m付近に位置する。全長は45m以上である。遺物は黒褐色土中より甕口縁Po462が出土している。

時期 時期は3条共に出土土器により弥生時代後期後半と考えられる。また、すべて同時期と考えると、S D02とS D05は調査区中央北側から北西に向かって延びだす丘陵上で繋がる可能性が考えられる。

S D04 (挿図35、図版9)

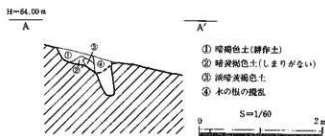
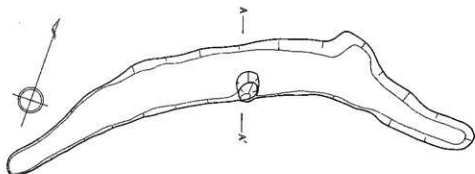
位置 調査区の西側のD4・5、E5グリッドにあり、標高63.5m辺りに位置している。南側約6mにはS I06がある。

形態 長さ7.9m、幅0.4~0.9m、深さ6~20cmを測り、斜面側にむかって彎曲し、三日月状を呈す。

土層 後世の攪乱が著しいが、暗黄褐色土・淡黄褐色土の2層に分層できた。

時期

遺物は全く出土していないため時期は不明であるが、S I06の排水施設と考えられ、古墳時代中期頃と思われる。



挿図35 宇谷第1遺跡SD04遺構図

5. 遺構外遺物について (挿図81、図版43)

調査区全域で、各遺構に伴わない遺物として土器、石器を検出している。図化できたものには、甕Po465・Po466・Po467、底部Po468・Po469、高環Po470・Po472、環Po471、須恵器甕Po473・Po474、小壺Po475、丸瓦Po476、石英安山岩製石錘S20、輝蛇紋石製玉未製品S21である。

時期 これらのうち、甕口縁部・底部Po466・Po467、Po468・Po469は弥生時代後期後半頃、甕口縁部Po465・Po466、高環Po470・Po472は古墳時代中期頃のものと思われる。

須恵器甕は古墳時代後期後半頃、環は奈良時代、丸瓦、小壺は中世頃のものと思われる。石器の時期は不明である。

遺構名	形態	規模(m)	床面積(m ²)	残存高さ(m)	主柱穴(本)	遺物	時期	備考
SI-01	六角形	7.0m×6.4m	44.8	0.11	6	弥生環	弥生時代後期後半	
SI-02	方形	6.7m×6.6	44.9	0.69	4	土師器壺・甕・高環・土玉・磁石、勾玉、凹石	古墳時代中期前半	
SI-03	長方形	5.5 ×4.4	24.2	0.80	4	土師器壺・直口壺・甕・高環・小型丸底釜、弥生環、勾玉、管玉、磁石、軽石、方形板鏡共刃先、刀子	古墳時代中期前半	
SI-04	隅丸方形	5.0△×6.5△	2.7	0.37	4	高環・土玉	弥生時代後期後半以前	
SI-05	隅丸方形	6.1 ×5.4m	32.9	0.39	4	弥生環、土師器壺・高環、管玉、磁石、磁石	弥生時代後期後半	壁際に柱列あり。焼失住居。
SI-06	方形	4.2 ×4.0m	16.8	0.63	2	須恵系長頸壺・短頸壺・甕、土師器壺・高環・小型丸底釜、弥生環	古墳時代中期前半	
SI-07	六角形	7.7m×7.4m	57.0	0.85	7	弥生環・甕・高環、蓋、土師器壺・高環・小型丸底釜、須恵系高環、土玉、磁石	弥生時代後期後半	焼失住居。
SI-08	方形	4.0 ×3.3m	13.2	0.65	2	弥生環、土師器壺・甕・高環、小冢、土玉、磁石	弥生時代後期後半	
SI-09	方形	5.7m×5.6m	31.9	0.53	4	弥生環、土玉、磁石	弥生時代後期後半	壁際に柱列あり。中央ビット2段あり。
SI-10	隅丸方形	3.0△×3.0△	9.0	0.48	不明	土師器壺・甕	古墳時代中期前半	

附表1 宇谷第1遺跡壁柱住居跡一覽表

ビット番号	規模(m) (長径×短径-深さ)	備考	ビット番号	規模(m) (長径×短径-深さ)	備考	ビット番号	規模(m) (長径×短径-深さ)	備考
1	78×55-81		44	28×28-24		87	41×36-15	
2	25×22-32		45	37×26-55		88	39×28-60	
3	68×42-33		46	30×27-39	SB02柱穴	89	38×33-18	SI01 周辺ビット
4	24×22-7		47	43×28-37	土器片	90	25×25-55	SB03柱穴
5	24×24-18		48	22×13-27		91	22×22-15	
6	37×27-31	SB01柱穴	49	18×17-3		92	26×20-49	
7	28×24-33		50	33×28-18		93	23×17-6	
8	35×26-41	SB01柱穴	51	37×35-29	土器片	94	41×30-24	SB03柱穴、463
9	32×24-36		52	36×30-54	SB02柱穴	95	29×27-45	SB08柱穴、土器片
10	33×26-28		53	31×26-9		96	17×17-17	
11	23×13-9		54	44×35-18		97	45×35-52	SB03柱穴
12	29×38-31	SB01柱穴	55	30×27-4		98	32×26-19	SB03柱穴
13	30×26-24		56	19×19-7		99	28×28-58	
14	29×25-8		57	22×17-5		100	45×41-36	SB03柱穴
15	34×24-34	SB01柱穴	58	50×44-46	SB02柱穴	101	30×24-23	
16	40×37-72		59	24×19-8	土器片	102	45×33-32	土器片
17	24×23-22		60	27×20-17		103	24×24-21	
18	52×44-34	SB01柱穴	61	32×25-43	SB02柱穴	104	19×12-14	
19	36×31-38		62	23×19-30		105	53×43-62	SB02柱穴、土器片
20	30×30-22		63	17×17-9		106	30×22-16	
21	24×24-22		64	35×30-49	SB02柱穴	107	23×16-35	
22	36×30-50		65	39×32-11		108	33×23-90	
23	55×48-38	SB01柱穴、土器片	66	66×27-34	木ノ根	109	48×43-45	SB03柱穴
24	24×40-71		67	34×44-13		110	27×25-29	
25	44×41-30		68	39×30-54	SB02柱穴	111	32×31-14	
26	54×45-82	SB01柱穴	69	37×27-18		112	23×18-21	
27	78×58-11		70	28×28-17		113	41×40-22	
28	40×38-25	SB01柱穴	71	70×58-32		114	57×43-6	
29	60×57-39		72	36×29-49	木ノ根	115	35×34-25	
30	28×27-8		73	27×23-20		116	28×27-17	
31	44×40-29	土器片	74	63×38-31		117	28×26-58	
32	56×50-78		75	33×30-29		118	23×21-22	
33	33×29-65		76	53×48-40		119	31×25-43	
34	50×46-70	土器片	77	76×35-19	土器片	120	33×30-35	
35	18×17-9		78	38×37-7		121	16×14-7	
36	25×25-41		79	31×30-28		122	29×28-41	
37	26×17-66		80	32×26-9		123	28×24-28	
38	70×30-50	土器片	81	28×26-9		124	30×27-10	
39	48×40-38		82	32×29-54		125	30×28-13	
40	45×35-22		83	45×29-19		126	38×34-38	
41	53×41-65	SB02柱穴	84	25×21-11		127	28×23-45	
42	25×23-8		85	35×33-48	SB03柱穴	128	94×40-37	
43	39×30-31		86	43×40-7		129	62×22-35	

附表2 宇谷第1遺跡ビット群一覽表

遺構名	桁×梁 (間)	規 模 (桁) (m)		規 模 (梁) (m)		長方形度	床面積 (㎡)	主 軸 方 向	遺 物	時 期
S B - 01	2×2	4.60	4.65	4.0	4.0	1.16	18.6	N - 46°30' - E		弥生時代後期後半
S B - 02	1×2	3.80	3.70	5.35	5.35	1.45	19.80	N - 38° - W		弥生時代後期後半
S B - 03	1×2	3.80	3.75	6.6	6.4	1.66	24.64	N - 75°15' - E	弥生土	弥生時代後期後半

標表3 宇谷第1遺跡掘立柱建物跡一覽表

遺構名	平 面	断 面	規 模 (m)		遺 物	時 期	備 考
			①上縁部 ②底 面 (長径×短径)	深さ			
S K - 01	円 形	竪 状	①1.8×1.76 ②2.31×2.20	0.94	土器片	弥生時代後期後半	
S K - 02	円 形	竪 状	①1.34×1.23 ②1.47×1.30	0.47	土玉	弥生時代後期後半	
S K - 03	円 形	竪 状	①1.30×1.22 ②1.70×1.63	0.90	弥生土、刀子	弥生時代後期後半	種子出土
S K - 04	円 形	竪 状	①1.18×1.17 ②1.73×1.60	0.78	弥生土、台付鉢	弥生時代後期後半	
S K - 05	円 形	竪 状	①1.23×0.91 ②1.50×1.32	0.83	土器片	弥生時代後期後半	
S K - 06	楕円形	掘鉢状	①1.07×0.88 ②0.78×0.50	0.61	弥生土器壁	弥生時代後期後半以前	
S K - 07	不整形	掘鉢状	①1.00×0.77 ②0.50×0.17	0.65	土師器片、須恵器壁片	奈良～平安時代	
S K - 08	楕円形	竪 状	①0.95×0.71 ②0.89×0.65	0.07	土器片	弥生時代後期	
S K - 09	円 形	竪 状	①1.77×1.68 ②1.74×1.52	0.11	弥生土	弥生時代後期後半	
S K - 10	円 形	竪 状	①1.07×0.94 ②0.97×0.86	0.10		不明	
S K - 11	円 形	竪 状	①1.03×0.95 ②1.22×1.11	0.42	弥生土	弥生時代後期後半	
S K - 12	方 形	凹 状	①1.85×1.08 ②1.64×0.83	0.73	弥生土	弥生時代後期後半	SI05内にあり。炭化物出土。
S K - 13	隅丸方形	竪 状	①2.30m×1.47 ②2.76×1.84	0.73		弥生時代後期後半	SI05内にあり。柱材出土。
S K - 14	長 方 形	逆台形状	①0.65×0.38 ②0.45×0.28	0.15		古墳時代中期前半	SI03内にあり。
S K - 15	不整形	竪 状	①1.00×0.70 ②0.70×0.34×チェック	0.13 ~0.18	土器片	古墳時代中期前半	SI03内にあり。
S K - 16	長 形	掘鉢状	①0.92×0.46 ②0.89×0.30×チェック	0.38		古墳時代中期前半	SI03内にあり。

標表4 宇谷第1遺跡土坑・土櫃一覽表

第4章 南谷大ナル遺跡の調査

第1節 南谷大ナル遺跡の概要

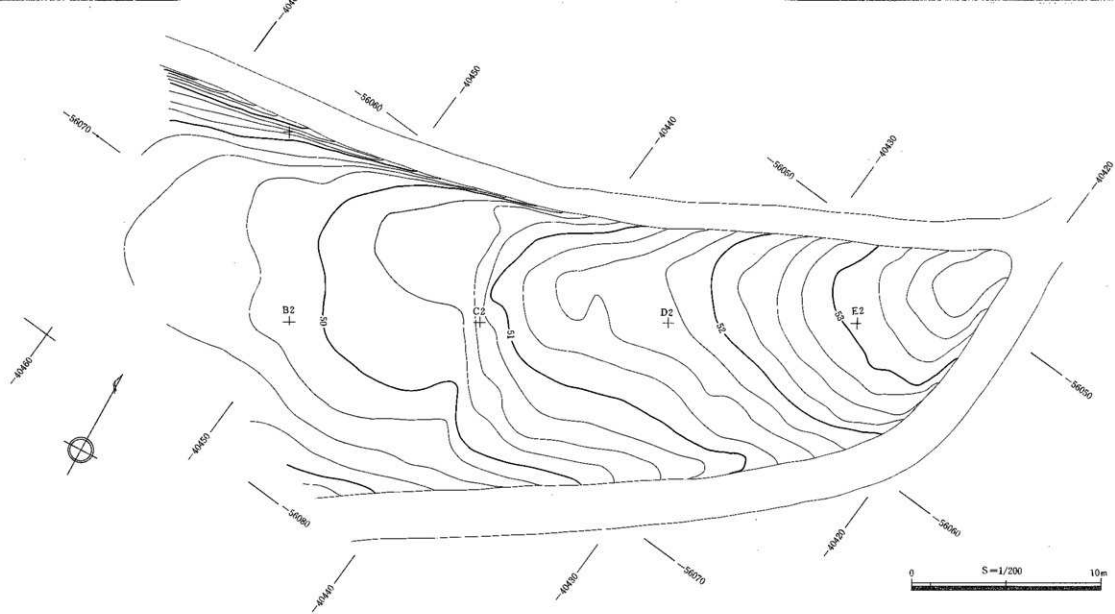
- 位置** 南谷大ナル遺跡は、東郷池の北側の西方に緩く延び出す標高47～53mの丘陵上に位置する。水出面からの比高は45～51mである。調査区の北西側250mには、弥生時代後期後半から古墳時代前期にかけての竪穴住居跡・土坑などが調査された南谷ヒジリ遺跡、東側150mには、弥生時代後期後半の竪穴住居跡・土坑などが調査された南谷夫婦塚遺跡、南谷古墳群中唯一の前方後円墳である南谷19号墳や円墳である20～23号墳がある。
- 遺構** 調査区は、後世の開墾等による擾乱が著しく、遺構の遺存状況は悪い。今回調査できた遺構は、竪穴住居跡1棟、溝状遺構3条、段状遺構1基、ピット群である。竪穴住居跡は、弥生時代後期後半頃の築造と思われる、建て増しの状況が残された。溝状遺構は、SD02が古墳時代後期後半頃のものと思われる、古墳の周溝と考えられる。その他については時期・性格とも不明である。段状遺構は、SD01を切って作られたものである。ピット群はS101の埋土(黒褐色土)上のみ見られた。

第2節 南谷大ナル遺跡の調査結果

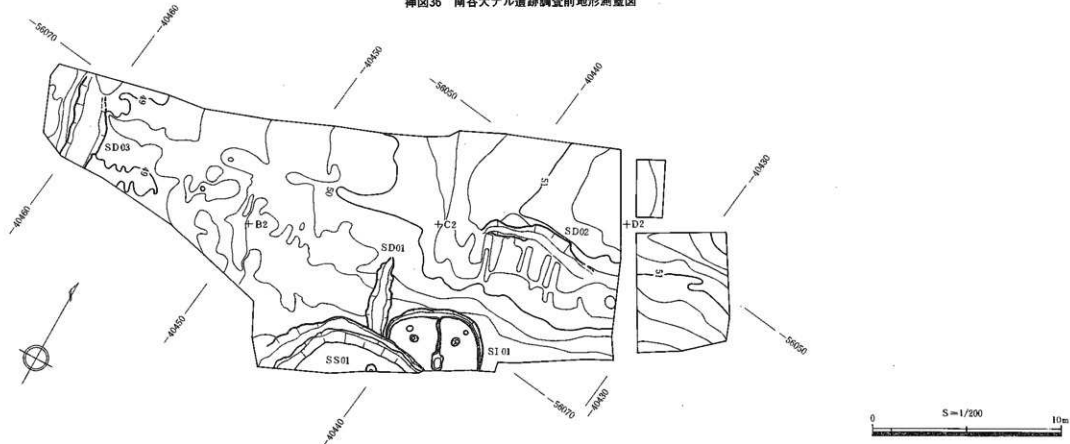
1. 竪穴住居跡

S101 (挿図38-82、図版19-44)

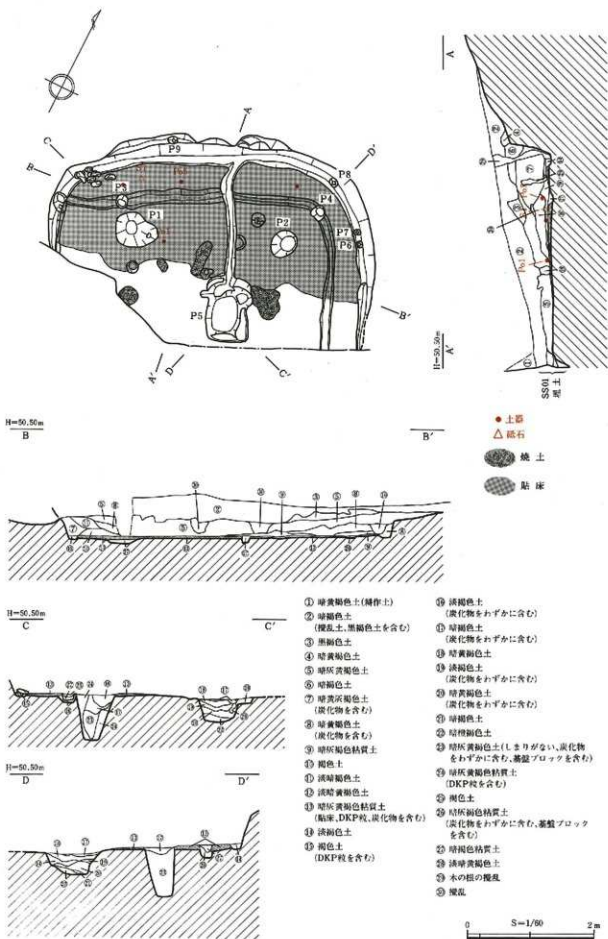
- 位置** 調査区の中央部南側のB3・C3グリッドの調査区際であり、標高48.9m～49.5mの緩やかに傾斜する斜面に位置している。西側には、SD01が接している。南側は調査区外のために調査することができなかった。
- 形態** 南側が調査区外のため、南西側がS S01によって切られており原形を知ることはできなかったが、平面は隅丸方形を呈すものと思われる。
規模は、東西4.72m、南北2.85m以上を測り、床面積13.5㎡以上と推定される。残存壁高は、最も依存状態の良い北壁で最大0.68mである。
壁溝は西壁際及び東側壁際でとぎれる部分はあるものの、ほぼ全周するものと思われる、幅8～16cm、深さ2～5cmを測り、断面は逆台形状を呈す。溝内から小ピット3個を検出した。
支柱穴は4本と思われるが、P1・P2の2本だけ検出した。それぞれの規模はP1(68×56～70)cm、P2(48×40～80)cmを測る。支柱穴の外側には、補助柱穴と思われるP3・P4がある。それぞれの規模は、P3(22×19～10)cm、P4(23×22～19)cmを測る。
- 中央ピット** 中央ピットはP5で、規模は上縁部で(100×66～38)cmを測る。平面は隅丸長方形で、南側には幅12cmの段がある。埋土は5層に分層でき、炭化物をわずかに含むものである。中央ピットから北側の壁溝にむかって、幅15cm、深さ8～10cmを測る溝が延びている。
- 焼土** 住居の中央部床面には、中央ピット付近に不整形に広がる4ヶ所の焼土面がある。
- 貼床** 住居の北側半分だけに、厚さ2～5cmの暗灰黄褐色粘質土による貼床がなされている。貼床除去後に、壁から50～60cm内側に壁溝に並行して走る幅15～20cm、深さ3～8cmの溝を検出した。この溝は、S103が拡張される以前の壁溝と考えられ、埋土中から炭化物(茅と思われる)が出土している。このことから、拡張以前の住居は、支柱穴及び西側壁溝を共有し、焼失したものと考えられる。



挿図36 南谷大ナル遺跡調査前地形測量図



挿図37 南谷大ナル遺跡遺構全体図



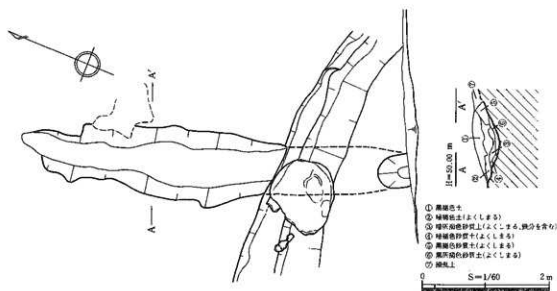
挿図38 南谷大ナル遺跡S101遺構図

- 埋土 埋土は耕作土を除いて12層で、住居の中央に向かって傾斜しており、自然堆積の状態を示す。
- 遺物 床面からは、甕Po1・Po5、砥石S1が出土している。また、北西隅で円礫が集中して出土している。埋土中からは、甕Po2～4・底部Po6、須恵器坏身Po7が出土している。
- 時期 S101の時期は、床面出土の土器から弥生時代後後半頃と考えられる。

2. 溝状遺構

SD01 (挿図39、図版21)

- 位置 SD01は、1988年の羽合町教育委員会の試掘調査、第7トレンチによって確認されていたものである。調査区の南側のB3グリッドにあり、標高49.25m～49.75mに位置している。東側にはS101が接し、南側はSS01によって切られているが、SS01の床面にわずかに底面の一部が残る。
- 形態 周辺は耕作によって大きく攪乱されており、遺存状況は悪い。規模は長さ6.05m以上、幅は上縁部0.68～1.06m、深さ6～20cmを測り、斜面側にむかって直線状に下り、調査区外へ延びる。
- 埋土 埋土は6層に分層できたが、①層以下は大変よく締まる砂質層である。
- 時期 遺物は全く出土していないため、時期は不明であるが、切り合い関係から、S101より新しくSS01より古い。性格は不明である。

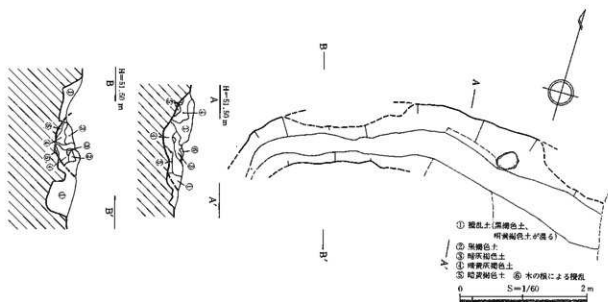


挿図39 南谷大ナル遺跡SD01遺構図

SD02 (挿図40・82、図版21・44)

- 位置 調査区の中央部のC2・C3グリッドにあり、標高50.5～51mのわずかに南側に傾斜する斜面に位置している。南側5mにはS101がある。
- 形態 周辺は耕作によって大きく攪乱されており、遺存状況は悪い。規模は長さ5.9m以上、幅は上縁部0.7m、深さ28～38cmを測り、断面はU字状を呈す。斜面側にわずかに彎曲している状況が窺われた。
- 埋土 埋土は攪乱土を除いて5層に分層できた。②・③層は、溝状遺構に通常の自然堆積した腐食土層と考えられる。
- 遺物出土 出土遺物には、黒褐色土中から須恵器坏蓋Po8～Po10、坏身Po11、鷄Po12が出土している。

状況・ 出土した土器から、SD02は古墳時代後期後半（山本編年Ⅳ期前半）⁶⁹³頃と考えられ、古墳時期の周溝の残骸と思われる。



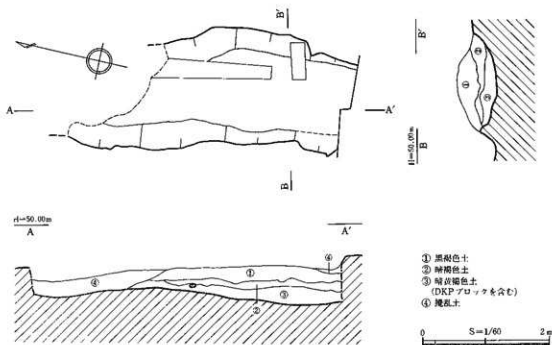
挿図40 南谷大ナル遺跡SD02遺構図

SD03 (挿図41、図版21)

位置 調査区の最も西側のA2グリッドにあり、標高48.75~49mのほぼ平坦な部分に位置している。

形態 SD03は南北にほぼ直線状に延び、北側は耕作によって大きく攪乱され、また南側は調査区外へ延びる。遺存状況は悪い。規模は長さ3.2m以上、幅は上縁部1.5~1.8m、深さ14~32cmを測り、断面はU字状を呈す。

埋土 埋土は攪乱土を除いて3層に分層できた。①層は、溝状遺構に通常の自然堆積した腐食土層と考えられる。



挿図41 南谷大ナル遺跡SD03遺構図

遺物出土 出土遺物には、黒褐色土中から土師器片が出土しているが図化できなかった。

状況・ 時期は不明であるが、同様の溝状遺構のSD00が古墳時代後期後半（山本編年Ⅳ期前半）

時期頃と考えられ、ほぼ同時期と思われる。性格は不明である。

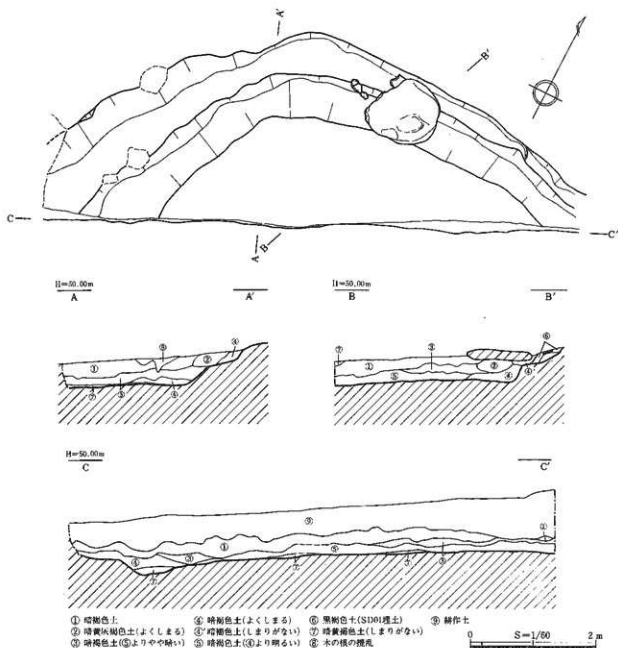
3. 段状遺構

SS01（挿図42、図版20）

位置 調査区中央部の、最も南側のB3グリッドの調査区際内にあり、標高48.6m～49.2mの緩やかに傾斜する斜面に位置している。北側でSD01を、北東側でSI01を切っている。南側は調査区外のために調査することができなかった。

形態 SS01は、南側が調査区外のために原形を知ることはできなかったが、平面は隅丸方形を呈すものと思われる。北側、西側には幅28～65cmのテラスを設ける。

規模は、東西4.65m以上、南北2.2m以上を測り、床面積10㎡以上である。残存壁高は、最も



挿図42 南谷大ナル遺跡SS01遺構図

遺存状態の良い北壁で最大0.54m（上縁部～テラス0.23m、テラス～床面0.22m）を測る。

壁際は、幅33～59cmにわたり僅かにくぼんでいる。南側調査区際の床面にはS D01の底部の一部が残っていた。

柱穴は全く検出されていないために、竪穴住居跡ではなく段状遺構と判断した。

埋 土 埋土は耕作土、攪乱土を除いて7層に分層できた。壁際の土層は中央にむかって傾斜しており、自然堆積の状態を示す。①層上に幅約1.1m、厚さ15cmの平石が検出された。この平石は1988年の羽谷町教育委員会の試掘調査、第7トレンチで検出されたものである。

遺物出土 埋土中から、須恵器片、磁器片が出土しているが図化できなかった。

状況 はっきりとした時期は不明であるが、

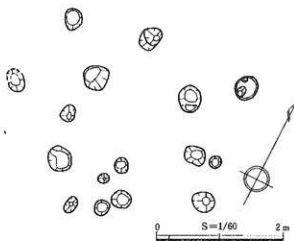
時期 出土した須恵器から古墳時代後期後半のものと考えられる。

ピット群 (挿図43、図版20)

位 置 調査区中央部の最も南側、C3グリッドの標高49.1～49.4mにあり、全てS I 01の埋土上に16個掘り込まれていた。これらは、掘立柱建物跡等の柱穴とは考え難い。

遺物は全く出土していないため、時期は不明である。

規模は以下の表にまとめた。



挿図43 南谷大ナル遺跡ピット群遺構図

ピット番号	規 模 (長径×短径×深さ) (cm)	ピット番号	規 模 (長径×短径×深さ) (cm)	ピット番号	規 模 (長径×短径×深さ) (cm)	ピット番号	規 模 (長径×短径×深さ) (cm)
1	(34×28-21)	5	(40×35-27)	9	(25×22-19)	13	(37×33-41)
2	(43×42-20)	6	(35×32-26)	10	(33×29-10)	14	(26×26-29)
3	(40×29-37)	7	(41×36-23)	11	(31×27-22)	15	(20×16-26)
4	(42×35-27)	8	(37×17-20)	12	(19×19-15)	16	(26×24-19)

挿表5 南谷大ナル遺跡ピット群一覧表

4. 遺構外遺物について (挿図81、図版44)

調査区全域で、各遺構に伴わない遺物として上器、石器を検出している。図化できたものには、須恵器坏身Po13～Po18、須恵器罎Po19、須恵器高坏Po20・Po22、須恵器甕Po21・Po23、甕Po24・Po25、雲母安山岩製砥石S2である。

時 期 これらのうち、甕口縁部Po24は弥生時代後期後半頃、須恵器類Po13～Po23・甕口縁部Po25は古墳時代後期後半頃のものと思われる。砥石の時期は不明である。

第5章 遺構・遺物の検討

第1節 宇谷第1遺跡の変遷と性格

宇谷第1遺跡の変遷を述べるまえに、時期を決定する土器について考えてみたい。

今回の調査で出土した土器は総数476点である。そのうちの大半を占める弥生土器、土師器についての分類を行う。

壺形土器 壺形土器はa複合口縁をもつもの、b直口壺に分類できる。

(1) 壺a類

a1類 直立・外傾する複合口縁部を呈し、端部が丸く収められ、外面には平行沈線が施されるものである。SI07床面Po301・302、SI09Po408がある。

a2類 口縁部の形態は1類に類似するが、外面はナデのみの調整となるものである。SI08Po332は、口縁部内面をミガキ、胴部外面タテ～ヨコ方向ハケ、内面頸部以下ヨコ方向ケズリを施す。

a3類 やや内傾して立ち上がるもので、端部は内外方に肥厚し、平坦面をもつ。胴部は球形を呈し、外面ヨコ～斜方向ハケ、内面上半部ヨコ方向ケズリ、下半部斜方向ケズリを施すものである。SI02床面Po4、SI03床面・埋土Po23～25、SI08埋土Po352・353がある。

(2) 壺b類

直線的に高く外傾する口縁部をもち、胴部は球形を呈す直口壺である。SI03Po143～Po145などがある。

甕形土器 甕形土器は大きくa複合口縁をもつもの、b「く」の字口縁をもつもの、c上下に拡大して内傾する口縁をもつものに分類できる。

(1) 甕a類

a1類 口縁部はやや短く外反・外傾して立ち上がり、端部は丸く収める。外面に平行沈線文・波状文を施し、内面はナデまたはミガキのもので、口縁部下端は下垂する。胴部内面は頸部以下ケズリを施す。SI01床面Po1、SI05埋土中Po263～266、SI07床面Po304・311・312、SI08埋土下層Po333～340、SI09床面Po409・410、SK06埋土中Po422、SK09埋土中Po425、SD02埋土中Po441～446、SD03埋土中Po453～456などがある。

a2類 口縁部の形態はa1類に類似し、外面の沈線文を一部または全部ナデ消すものである。SI08Po346、SD02Po444がある。

a3類 口縁部の形態はa1類に類似するが、外面はナデのみの調整、内面はナデまたはミガキとなるものである。SI05埋土中Po267・268、SI08埋土中Po343・351、SD01埋土中Po429・431、SD02埋土中Po440・449などがある。

a4類 口縁部の立ち上がりは低くほぼ直立し、端部は丸く収める。外面は凹線が入る。胴部は肩があまり張らず、倒卵形を呈し、底部は平底となる。外面ミガキ、内面ケズリの後ミガキ。SK03Po417・418のみである。

a5類 口縁部の立ち上がりが高くなり、外反・外傾し、端部は丸くなるもので、外面には多條化した平行沈線・波状文が施される。胴部は肩があまり張らない倒卵形を呈すものと思われる。SI08埋土下層Po331、SK13埋土Po262がある。

a6類 口縁部は外傾して立ち上がるもので、端部が肥厚して平坦面をもち、口縁部下端の縁が鈍く、胴部は球形を呈すもので、器壁は厚い。外面ヨコ～斜方向ハケ、底部付近ナデ、内面は頸部付近指頭圧痕が残り、以下ヨコ～斜方向ケズリが施され、底部には指頭圧痕

が残るものである。SI03床面Po26~28が好例である。そのほかにもSI10床面Po20、SI06床面Po284、SI07不明遺構Po317、SI08埋土上層Po354~369などがある。

a7類 口縁部の形態はa5類に類似するが、口縁部下端の稜が更に鈍く丸みをもつものである。SI03埋土Po39・57・60・85・86などがある。

a8類 口縁部の立ち上がりは低く、口縁部下端の稜が鈍い。分厚い感じとなるものである。胴部が扁球状を呈すものがある。SI05ピット内Po270、SB03ピット内Po463がある。

(2) 壺b類

b1類 端部が肥厚し、やや内傾する平坦面をもつもので、胴部は球形を呈すものである。大型のものと中型のものがある。SI03床面Po91・92・121・123が好例である。

b2類 端部は丸く収めるものである。SI03埋土中Po96がある。

(3) 壺c類

口縁部が上下に拡大して内傾し、外面に凹線文を施すものである。SK04Po419のみである。

高坏形土器

高坏形土器は、a大きく外反し複合口縁状を呈す坏部をもつもの、b有段で大型の坏部をもつもの、c浅い碗状・皿状を呈す坏部をもつもの、d小型で碗状を呈す坏部をもつものに分類できる。

(1) 高坏a類

SI07床面Po322のみである。外面はナデ、内面はミガキが施され、赤色塗彩される。

(2) 高坏b類

b1類 底部と口縁部の段(稜)が鋭く、器壁が薄いものである。SD01埋土中Po433のみである。

b2類 底部と口縁部の段(稜)が鈍くなり、坏部にくらべてやや低い脚部となるものである。淡黄色のものと橙色のものがある。SI03床面Po148、埋土中Po149~158、SI07不明遺構Po321などが好例である。そのほかにもSI02床面Po16がある。

(3) 高坏c類

胎土が橙色で浅い坏部に筒部が直線的に開き、裾部で大きく広がる脚をもつものである。SI03床面Po161・174~176・178などが好例である。他の遺構から出土している高坏はb類である。

(4) 高坏d類

形態はc類に類似するが小型のものである。SI03埋土中Po237~239がある。

小型丸底壺

小型丸底壺は、a口縁部径が胴部最大径とほぼ同じもの、b口縁部径は胴部最大径を下回るものに分類できる。

(1) 小型丸底壺a類

立ち上がりがやや低く、胴部が扁平な球形を呈すもので、胴部外面ハケ調整である。SI03埋土中Po240・241・243などがある。

(2) 小型丸底壺b類

立ち上がりが更に低くなり、胴部が扁平な球形を呈すもので、外面肩部に羽状文を施すものもある。SI03床面Po244が好例である。

小型丸底鉢

小型丸底鉢はSI07埋土中Po327のみである。口縁部は外反し、屈曲して体部に至るもので、内外面ともナデ調整である。

台付鉢

深い鉢部をもち、端部はやや外反し丸く収める。直線的に広がる台をもつもので、SK04Po421のみである。

蓋

蓋はSI07床面Po328のみである。調整は風化のため不明である。

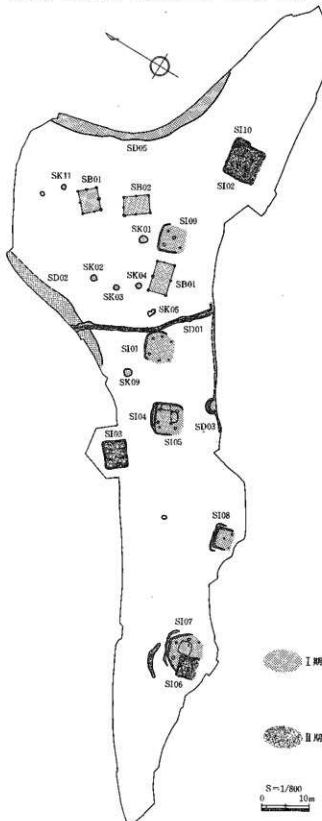
時期 以上、出土土器を分類した。この分類に基づいて遺構ごとに構成を見ていくことにする。対象は床面及び埋土下層からの出土例が多いSI01・02・10・03・05・06・07・08・09、SB03、SK03・04・06・09・11、SD01・02・03とし、土器も床面及び埋土下層のものについて見ていく。

SI01は甕a1類、SI02は壺a3類・高環b2類・c類、SI10は甕a6類・高環c類、SI03は壺a3類・b類・甕a6類・b1類・b2類・高環b2類・c類・d類、小型丸底壺a・b類、SI05は甕a8類、SI06は甕a6類、SI07は壺a1類・甕a1類・高環a類・蓋Po328、SI08は壺a2類・甕a2類・a3類・a5類、SI09は壺a1類・甕a1類、SB03は甕a8類、SK03は甕a4類、SK04は台付鉢Po421、SK06・09・11は甕a1類、SD01は甕a1類・a3類・高環bi類、SD02は甕a1類・a3類、SD03は壺a1類・甕a1類である。

当遺跡の土器の共存関係は必ずしも良好とは言えずさらに検討を要する点もあるが、これまでに鳥取県中部地区で総括的に編年された編年案に照らし合わせると、壺a1・a2類、甕a1～a5類、高環a類、蓋Po328、台付鉢Po421は、土井編年⁸⁹阿弥大寺Ⅲ期段階～上種第5遺跡貯蔵穴7号・住居址27号段階に相当するものと考えられる。

土井編年では阿弥大寺Ⅲ期段階と、次段階である上種第5遺跡貯蔵穴7号・住居址27号段階を壺・甕類口縁部の施文をスリ消す手法の導入で明瞭に区分できるとしているが、当遺跡でははっきりとした区別ができないため大きく同時期として考えた。これらは弥生時代後期後半に比定できると思われる。よってこの時期の遺構は、竪穴住居跡SI01・04・05・07・08・09、貯蔵穴SK01・02・03・04・05・06・09・11、掘立柱建物跡SB01・02・03、溝状遺構SD01・02・03・05となる。

壺a3類・b類、甕a5類・a6類・b1類・b2類、高環a2・b1・b2類、小型丸底壺a・b類は、長瀬高浜編年⁸⁹Ⅲ期に相当するものと思われる。この時期の遺構は、SI02・10・03・06、SI07不明遺構である。このう



挿図44 宇谷第1遺跡の変遷過程図

ち、SI03では壘a5類・b2類、高坪b2類、小型丸底壘b類が若干新しい様相を呈すものであるが、これらも床面上から出土しており、同時期に含めた。古墳時代中期前半に比定することができると思われる。

以上、土器の様相から宇谷第1遺跡には、大きく弥生時代後期後半(I)期、古墳時代中期前半(II)期の2時期に分かれて遺構が存在していることになる。

それでは、宇谷第1遺跡の時期ごとの変遷を考えてみたい。

I 期 I期には、竪穴住居、貯蔵穴、掘立柱建物、溝状遺構が造られている。しかし、遺構の切り合い関係から見ると同時に一括して造られたものではないようである。

SD01は、SI01、SD02・03を切っており明らかに後出するもので、また、SI05は切り合い関係からSI04より新しいことも確実である。

これらのことから、まず竪穴住居ではSI01・04・07・08・09が造られると考えられる。床面積はそれぞれ、44.8㎡、(20㎡)、57㎡、18㎡、44.9㎡で比較的規模の大きな住居と小さな住居が混在して造られている。平面形も六角形、方形、隅丸方形とバラエティーにとんでいる。

若干遅れてSI05が造られる。床面積は32.9㎡で、平面形は隅丸方形となる。SI05は、屋内貯蔵穴と思われるSK12を有し、他の住居と異なる。

屋外貯蔵穴SK01～05・09・11もあわせて造られると考えられる。分布状況を見ると、SK01～04が半環状に近接して並び、中央に広場的な空間ができている。この一群の貯蔵穴は共同管理された貯蔵穴群と考えることができる。

さらに、掘立柱建物SB01～03が造られる。掘立柱建物群は、竪穴住居跡に比べてやや高い位置に造られている。掘立柱建物の性格については、はっきりとした見解はないが、竪穴住居と掘立柱建物がほぼ同時期に造られていることから、居住以外の目的で造られたと考えることもできよう。

溝状遺構SD02・03・05は、ほとんど調査区外にあるためにはっきりとした全体像はつかめなかったが、西伯町清水谷遺跡に見られるように、斜面の途中に溝が現状に掘り込まれる例があり、同様な溝となる可能性がある。

SD01は造られた時期もやや新しく、他のものと異なり尾根を横断するように掘り込まれ、集落の西側と東側を区切る性格をもつものと考えられる。SD01を挟んで東側には貯蔵穴や掘立柱建物が集中しており、これらと住居とを区切る溝であったと考える。

I期には、全体像は明らかではないが溝で区画された場所に、竪穴住居・屋外貯蔵穴・掘立柱建物をもった集落が形成されると考えられる。

II 期 ところが、I期に造営された集落が、古墳時代になるといったん造営が止まる。そして、古墳時代中期に再び集落が営まれるようである。この時期の竪穴住居跡は、SI02・10・03・06である。床面積はそれぞれ、44.9㎡、(9.0㎡)、22.7㎡、16.8㎡である。平面形もSI10を除いて方形または長方形に限られている。これらのうちSI02は規模が大きいことから中心的な住居と考えられる。

貯蔵穴は、屋内・屋外ともこの時期には見られなくなり、掘立柱建物も見られなくなる。古墳時代中期と弥生時代後期では貯蔵形態に変化があったものと推定される。

立地的特徴 さて、宇谷第1遺跡は、標高61～67mの狭い丘陵上にあり、水田面からの比高は60mを測り、かなり高い位置に立地していることが特徴である。

このような立地の特色を示すものとして、高地性集落がある。高地性集落の特質として小野忠照は、①山麓の傾斜変換線以下の居住適地や生産地域との比高差が高く、②標高があまり高くなくても斜面の勾配が急峻で、登り降り困難な反面展望のよい場所を占地していることを条件とし、高地性と低地性を区別する具体的な日安として比高20m以上としている。

また、高地性集落のなかには、瀬戸内・近畿地方に見られるように、大量の武器類が出土したり環濠が巡る例もあり、弥生時代中期以降にあったと推定される争乱の反映として出現したものと考えられるものもある。

宇谷第1遺跡の場合、標高・比高の点から小野の①、②が当てはまり、広い意味で高地性集落と呼べる。しかし、周囲に溝が巡るものの、具体的に争乱を想定できる多量の武器類は出土していないという違いが指摘される。また、周囲には宇谷第1遺跡と同様、羽合町南谷夫婦塚遺跡・南谷大丸遺跡など比較的標高の高い集落跡があるが、いずれも武器類の出土は少ない。

こうした点から考えると、この地域での丘陵上の集落は瀬戸内・近畿地方の高地性集落とは性格を異にしているといえる。

東郷池周辺では、低地で調査された集落跡はわずかに弥生時代前期に玉作工房をもつ長瀬高浜遺跡のみであるが、この遺跡では中期～後期には集落の造営がストップしているようである。この地域では、弥生時代後期の宇谷第1遺跡などの丘陵上の集落は、少なくとも争乱以外の要因（気候・政治的变化・生産形態など）で造営されるものと思われるが、現在のところ断定できない。

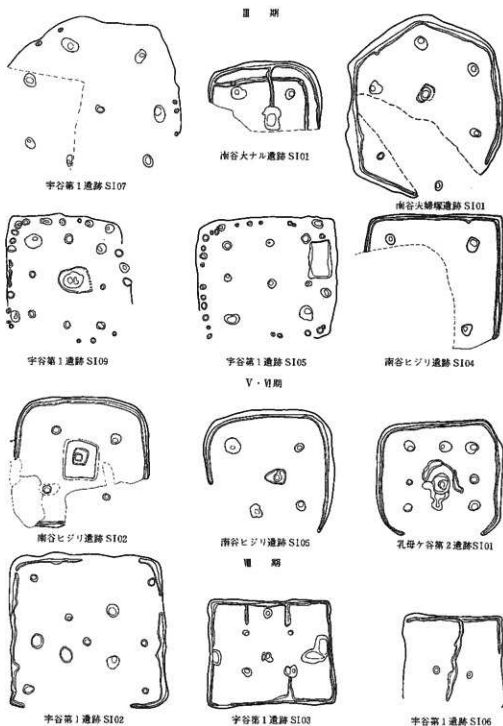
以上、検出された遺構・遺物に基づいて宇谷第1遺跡の弥生時代後期後半～古墳時代中期の集落の変遷など若干の考察を試みたが、当遺跡では住居と貯蔵施設との関係に変化が生じていることが解る。しかし、宇谷第1遺跡を含め東郷池周辺の丘陵上の集落の性格については、低地での調査例が少なく、比較する資料が不足しているため今後十分に検討されるものである。また、土器編年についてもさらに検討を要す点がある。これらの点については今後の課題とした。

第2節 竪穴住居跡

- 遺構数** 中部埋蔵文化財調査事務所により発掘調査された竪穴住居跡は羽合町南谷ヒジリ遺跡5棟、南谷夫婦塚遺跡2棟、乳母ヶ谷第2遺跡1棟(以上1991年度報告)、同町南谷大丸遺跡1棟、泊村宇谷第1遺跡10棟(以上1992年度調査)の合計19棟である。これらはすべて日本海に面する小高い丘陵上に位置する。
- 時期** 次に時期別の棟数を分けようと思うが、平面プランや中央ピット等の検討を行うため、青木遺跡の編年を参考にし、2年間に亘る本事務所調査によって出土した土器の様相をもとに行なうこととする。これに従って分類してみると、青木Ⅲ期が11棟(宇谷第1遺跡6棟、南谷夫婦塚遺跡2棟、南谷大丸遺跡1棟、南谷ヒジリ遺跡2棟)、青木Ⅴ・Ⅵ期が4棟(南谷ヒジリ遺跡3棟、乳母ヶ谷第2遺跡1棟)、青木Ⅶ期が4棟(宇谷第1遺跡4棟)と大別できる。
- 青木Ⅲ** まず、青木Ⅲ期の住居跡の平面プランは円形、多角形、隅丸方形が中心となるが、六角形のは宇谷第1遺跡SI01-07、南谷夫婦塚遺跡SI01、隅丸方形のは宇谷第1遺跡SI04・05、南谷大丸遺跡SI01、方形のは宇谷第1遺跡SI08-09、南谷夫婦塚遺跡SI02、南谷ヒジリ遺跡SI04がこれに該当する。南谷ヒジリ遺跡SI03は多角形と考えられる。他遺跡で確認された同時期の遺構として、上種第1遺跡SI41(円形)、上種第5遺跡SI27(隅丸八角形)・SI10(隅丸方形)等、多角形または円形、隅丸方形プランのものが多く確認されている。この時期に方形プランのものはほとんど報告されていないが、本事務所の調査では確認された。今回の調査で検出した方形プランのもので、特に宇谷第1遺跡SI09は大規模で、壁際の床面に柱ともある杭のピットが巡るという他には例のない構造を持っている。浅川滋男研究官から、この杭が備板の押さえに使われるだけでなく、垂木や投首を支えるために使われてい

たであろうという指摘を受けた。また、この時期のもうひとつの特徴として、平面プランが楕円又は長方形系で二段に掘り込まれた中央のピットを持つ住居跡がたくさん確認されている。この調査では、このような中央のピットが2棟から確認され、その内の1棟が宇谷第1遺跡SI09であった。もう1棟は南谷夫婦塚遺跡SI01である。

青木V VI 次に、青木V・VI期の住居跡の平面プランは隅丸方形、方形が中心となるが、隅丸方形のものが南谷ヒジリ遺跡SI02・SI05、乳母ヶ谷第1遺跡SI01、方形のものが南谷ヒジリ遺跡SI01である。他遺跡で確認された同時期の遺跡として、上種第1遺跡SI03(方形)・SI39(隅丸方形)などがあり、弥生時代後期と比べると、円形及び多角形のものが姿を消し、隅丸方形、方形を呈するものが多くなっていくのが顕著である。従って住居跡のプランが方形化に向かう過渡期にあると考えられる。また、『青木遺跡発掘調査報告書Ⅲ』の中で、「特殊ピット



押図45 住居跡平面プラン変遷図

トはV・VI期に竪穴方形化とあいまって壁際に固定される。」と記述されているのに対して、今回の調査で、青木Ⅲ期に見られた中央のピットの形態がこの時期の隅丸方形プランの住居跡に残っていることは興味深いことである。また、青木Ⅳ期に大集落を形成していた長瀬高浜遺跡の住居跡のプランはほとんどが方形ないし隅丸五角形である。

青木Ⅳ さらに、青木Ⅳ期の平面プランは長方形、方形が中心となるが、長方形のものが宇谷第1遺跡SI03、方形のものが宇谷第1遺跡SI02・06である。宇谷第1遺跡SI10は非常に小規模な隅丸方形である。他遺構で確認された同時期の遺構として、上種第5遺跡SI02(方形)・SI12(方形拡張後五角形)、上種第6遺跡SI02-04(長方形)などがある。この時期に長方形プランが存在し、方形プランの割合が高いことは、方形プランの住居が一般的になったと考えられる。また、用途が同じかどうか判断できないが、中央にあったピットが壁際に移り、中には宇谷第1遺跡SI03と同じようにピットが細い溝に囲まれたものが多く見られる。

時期区分 以上のことから考えてみると、青木Ⅲ期と青木V・VI期の平面プランに大きな変化があり、これをもって弥生時代と古墳時代に分けたい。従って、青木Ⅲ期が弥生時代後期後半、青木V・VI期が古墳時代前期とし、青木Ⅳ期が古墳時代中期と考えてみた。終わりに、住居跡の平面プランと中央ピット等について見てきたが、限られた地域と時期しか考慮に入れておらず十分な考察ではないため、今年度調査した南谷大山遺跡、来年度調査予定のものを含めてさらに考察していきたい。

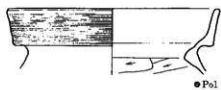
むすびにかえて

残雪の大山を横目に宇谷第1遺跡の調査を始めたのは、4月の初めだった。雨に悩まされた梅雨。記録的な猛暑。我々が歩んだ道は、決して平坝ではなかった。調査・報告を無事終了した今、宇谷・南谷の山々にもまた春がめぐってきた。宇谷第1遺跡・南谷大ナル遺跡にとっては、最後の春となるであろう。消えゆく遺跡のことを、1人でも多くの方に語り継いでいただければ、と願う今日この頃である。

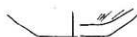
多くの方々の協力により、ここに調査報告書を上梓することができた。本報告書は事実記載に力点を置き、報告の責を果たすよう努めたつもりである。本書に収めた内容が研究の一助となれば幸いである。最後に、調査の実施、報告書の作成にあたり指導・協力・助言をいただいた各位に深く感謝申し上げます。

註・参考文献

- 註1. 羽合町教育委員会「南谷所在遺跡群
(ナナル地区・ヒジリ地区)」1990
2. 泊村教育委員会「泊村内遺跡発掘調査報告書」1989
3. 新日本海新聞社「鳥取県大百科事典」1984
4. 泊村「泊村誌」1989
5. 羽合町「羽合町史」前編 1967
6. 東郷町「東郷町史」1987
7. 鳥取県教育研修センター「天神川流域とその周辺」1983
8. 稲山孝司「旧石器集団の行動軌跡」
『古代史復元1旧石器人の生活と集団』講談社1988
9. 鳥取県埋蔵文化財センター
『旧石器・縄文時代の鳥取県』1988
10. 倉吉市教育委員会「高鼻2号墳(瀬子2号墳)
発掘調査報告書」1982
11. 倉吉市教育委員会「伯耆国片跡発掘調査概報(第3次)」
1975
12. 鳥取県埋蔵文化財センター「鳥取県文ニユース」
No.28 1990
13. 倉吉市教育委員会「立越遺跡群 取木遺跡・
一反半田遺跡発掘調査報告書」1984
14. 鳥取県教育文化財団
「南谷ヒジリ遺跡・南谷夫婦塚遺跡・南谷19～23号墳・
乳母ヶ谷第2遺跡・宇野3～9号墳」1991
15. 北条町教育委員会「鳥道遺跡発掘調査報告書第1集」1983
16. 名越 勉「原始・古代」『倉吉市史』1973
17. 倉吉市教育委員会「津山峰遺跡発掘調査報告書」1986
18. 東伯町教育委員会「森塚第1・森塚第2遺跡発掘調査
報告書」1987
19. 関金町教育委員会「横峯遺跡発掘調査報告書」1986
20. 山陰考古学研究所「山陰の前期古墳文化の研究I」1978
21. 山陰中央新報社「さんいん古代史の周辺-上-」1978
22. 鳥取県教育文化財団「久古第3遺跡・貝田原遺跡・
林ヶ原遺跡発掘調査報告書」1984
23. 鳥取県教育文化財団「長瀬志洲遺跡発掘調査報告書」
II-VI 1981-1983
24. 北条町教育委員会「北尾遺跡発掘調査報告書」第1集 1987
25. 米子市教育委員会「目久美遺跡」1986
26. 佐々木謙也「倉吉福庭遺跡」1970
27. 鳥取県教育委員会「東郷町大鼻遺跡」
『埋蔵文化財発掘調査概報』1973
28. 鳥取県埋蔵文化財センター「弥生時代の鳥取県」1985
29. 名越 勉・甲斐忠彦「鳥取県東郷町出土の小銅鐸」
『考古学雑誌』第59巻2号 1973
30. 鳥取県教育委員会「鳥取県文化財調査報告書第1集」1960
31. 倉光清六「伯耆八幡町銅鐸出土遺跡」
『考古学雑誌』第23巻4号 1933
32. 倉吉市教育委員会「上米横遺跡発掘調査報告II
-阿奈大寺地区-」1980
33. 東倉市良「四隅突出型墳丘墓」ニューサイエンス社 1989
- 註34. 北条町教育委員会「土下古墳群発掘調査報告書第1集」
1983
35. 北条町教育委員会「曲古墳群発掘調査報告書」1981
36. 鳥取県教育文化財団「長瀬高浜遺跡発掘調査報告書」
IV 稲輪編 1982
37. 東郷町教育委員会「津波遺跡発掘調査報告書」1974
38. 東郷町教育委員会「佐美4-13号墳発掘調査報告書」1979
39. 倉吉市教育委員会「大宮古墳発掘調査概報」1979
40. 近藤哲雄「東伯者における横穴式石室の様相」
『鳥取考古学会誌』第4集 鳥取考古学会 1987
41. 東郷町教育委員会「片平5号墳発掘調査報告書」1977
42. 鳥取県教育委員会「鳥取県美郷古墳分布調査概報」1981
43. 梅原米治「因伯二国に於ける古墳の調査」
『鳥取県史跡踏査地調査報告』第二冊 1924
44. 羽合町教育委員会「鳥ノ山古墳群」1961
45. 泊村教育委員会「国古墳群発掘調査報告書」1990
46. 鳥取県教育委員会「鳥取県生産遺跡分布調査報告書」1984
47. 真田康幸「伯耆国大御堂堂寺寺」
『山陰考古学の諸問題』1986
48. 真田康幸「奈良時代の伯耆国に見られる軒瓦の様相」
『考古学雑誌』第66巻2号 1980
49. 倉吉市教育委員会「史跡大原高寺跡第2次発掘調査概報」
1988
倉吉市教育委員会「史跡大原高寺跡第3次発掘調査概報」
1991
50. 倉吉市教育委員会「伯耆国片跡発掘調査概報」
第3次・第5次・第6次 1975-1978
51. 倉吉博物館「伯耆国分寺」1983
52. 倉吉市教育委員会「伯耆国分寺発掘調査概報」1973
53. 佐々木謙・亀井照人「原始古代編」『鳥取県史』1 鳥取県
1972
54. 羽合町教育委員会の御好意により、「天正14年河村都南谷
村田畑地絵図」を拝見させていただいた。
55. 羽合町教育委員会「南谷貝塚発掘調査報告書」1991
56. 山本 清「山陰の須恵器」
『鳥取大学開学10周年記念論文集』人文科学編 1960
57. 土井珠英「鳥取県下の状況」
『弥生時代後期から古墳時代初期のいわゆる山陰系
土器について』埋蔵文化財研究会 1989
58. 大栄町教育委員会「上種第5遺跡発掘調査報告書」1985
59. 西伯町教育委員会「清水谷遺跡現地説明会資料」1991
60. 大きく削られているため、覆元した数値である。
61. 小野忠照「高地性集落研究の課題」
『高地性集落と領国大乱-小野忠照博士追善記念論集-』
1984
62. 鳥取県教育委員会「青木遺跡発掘調査報告書III(本文編)」
1978
63. 大栄町教育委員会「上種第6遺跡発掘調査報告書」1985



●Po1



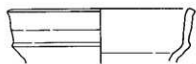
●Po2



Po3



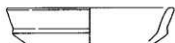
●Po4



Po5



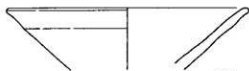
Po7



Po6



Po8



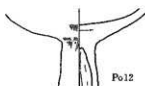
Po9



Po10



Po11



Po12



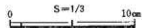
●Po13



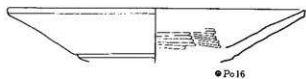
Po14



Po15



押図46 宇谷第1遺跡 S101(Po1・Po2)
S102(Po3~Po15)



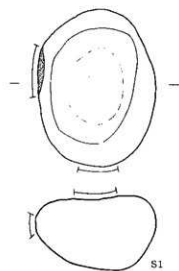
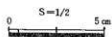
●Po16



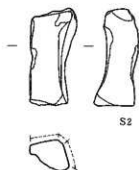
Po17



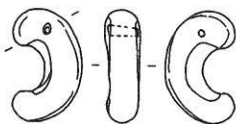
Po18



S1



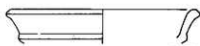
S2



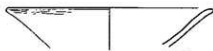
S3



Po19



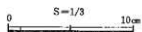
●Po20



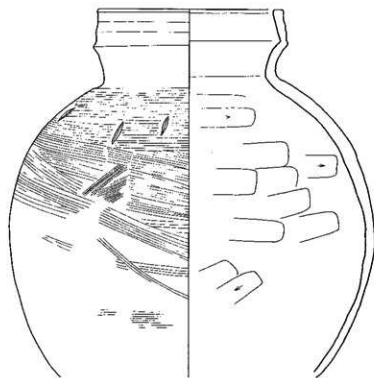
●Po21



Po22



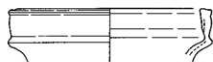
棟図47 宇谷第1遺跡 S102(Po16~Po18・S1~S3)
S110(Po19~Po22)



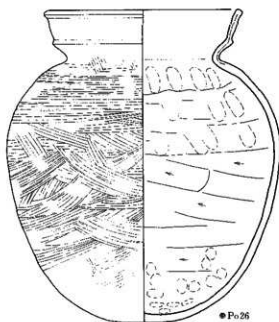
Po23



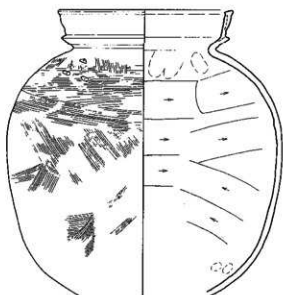
●Po24



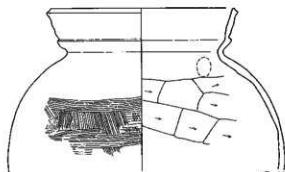
Po25



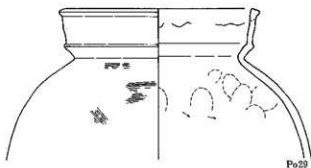
●Po26



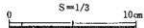
●Po27



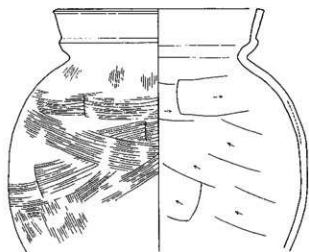
●Po28



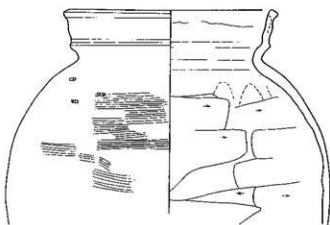
Po29



押図48 宇谷第1遺跡S103 (Po23~Po29)



Po30



Po31



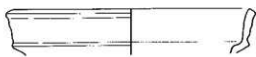
Po32



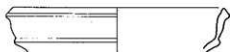
Po33



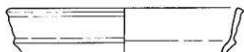
Po34



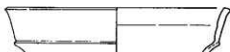
Po35



Po36



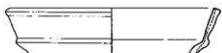
Po37



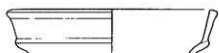
Po38



Po39



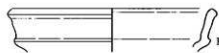
Po40



Po41

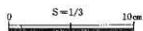


Po42



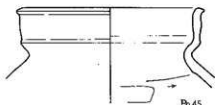
Po43

挿図49 宇谷第1遺跡SI03(Po30~Po43)





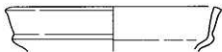
Po 44



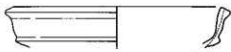
Po 45



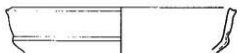
Po 46



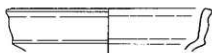
Po 47



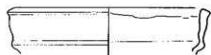
Po 48



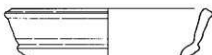
Po 49



Po 50



Po 51



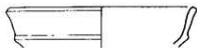
Po 52



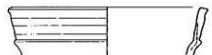
Po 53



Po 54



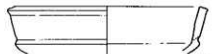
Po 55



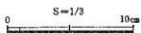
Po 56



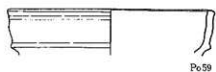
Po 57



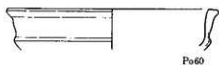
Po 58



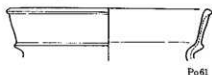
挿図50 宇谷第1遺跡S103(Po44~Po58)



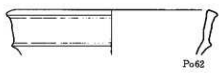
Po59



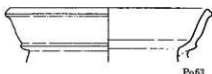
Po60



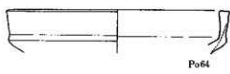
Po61



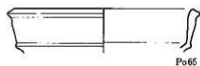
Po62



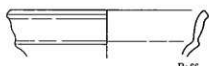
Po63



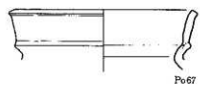
Po64



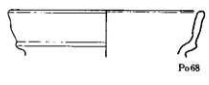
Po65



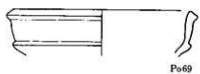
Po66



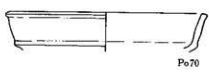
Po67



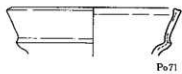
Po68



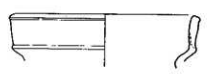
Po69



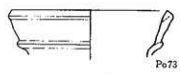
Po70



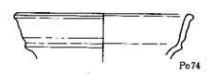
Po71



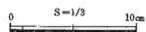
Po72



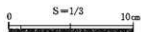
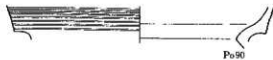
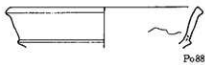
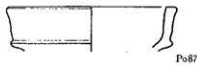
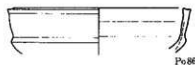
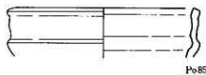
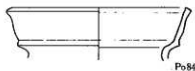
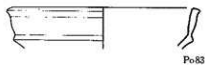
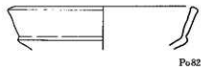
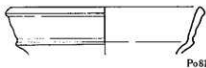
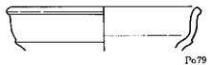
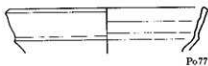
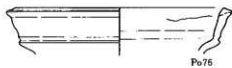
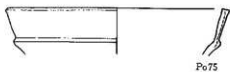
Po73



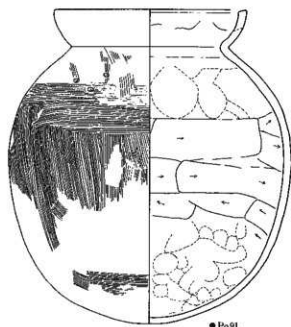
Po74



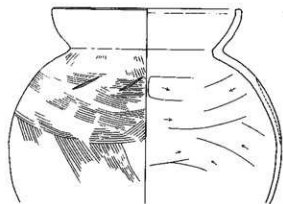
挿図51 宇谷第1遺跡S103(Po59~Po74)



挿図52 宇谷第1遺跡S103(Po75~Po90)



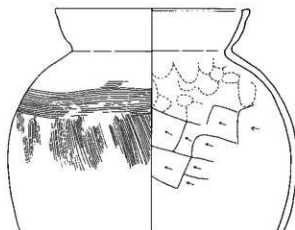
●Po91



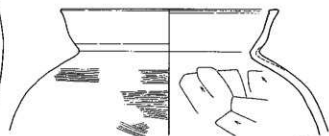
●Po92



Po93



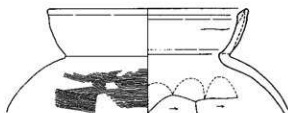
Po95



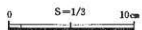
Po94



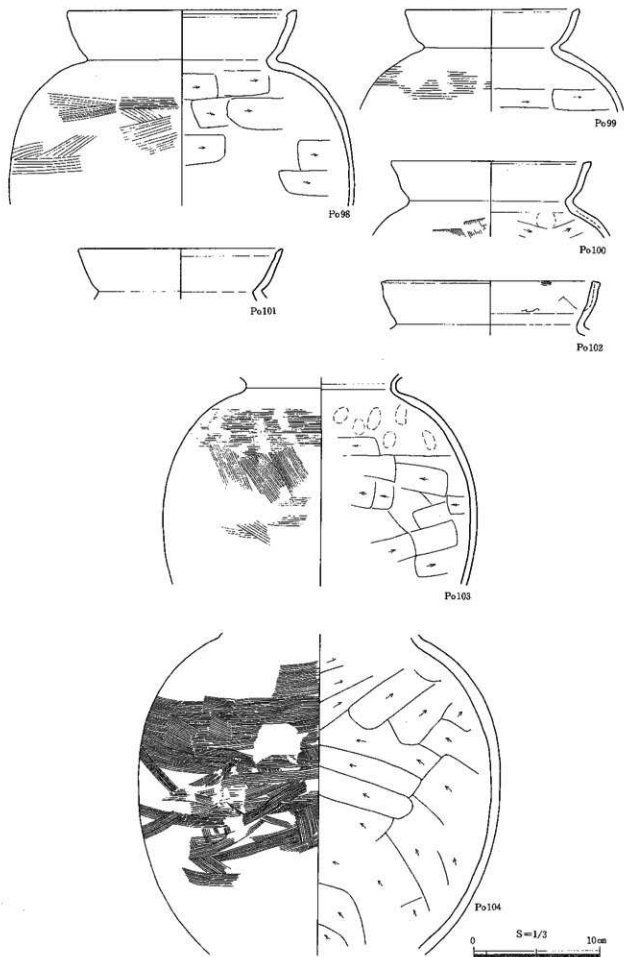
Po96



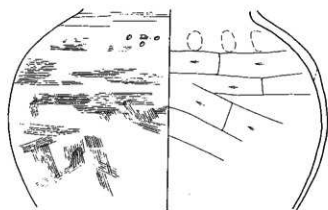
Po97



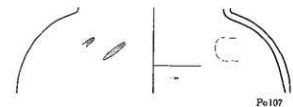
挿図53 宇谷第1遺跡SI03(Po91~Po97)



押図54 宇谷第1遺跡S103(Po98~Po104)



●Po105



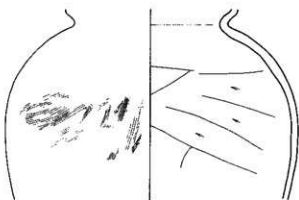
Po107



Po108



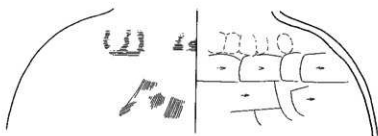
Po106



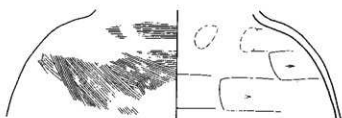
Po109



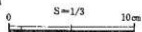
Po110



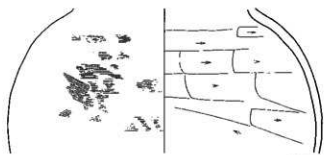
Po111



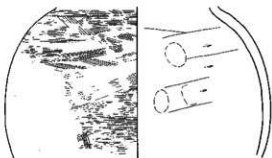
Po112



挿図55 宇谷第1遺跡SI03(Po105~Po112)



Po113



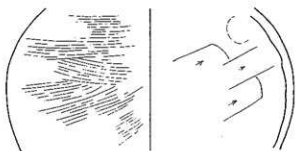
Po114



Po115



Po116



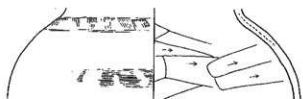
Po117



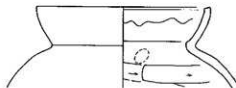
Po119



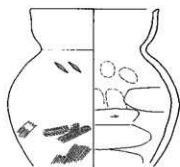
Po120



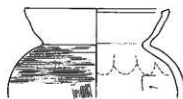
Po118



●Po121



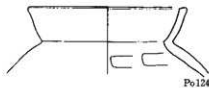
Po122



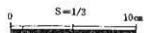
●Po123



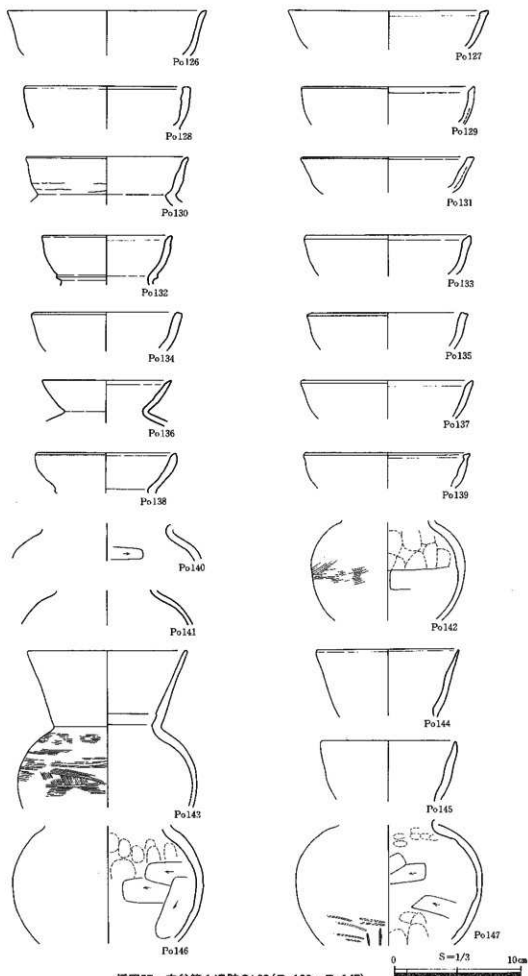
Po125



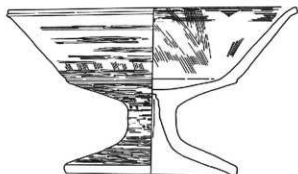
Po124



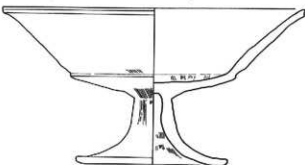
標図56 宇谷第1遺跡S103 (Po113~Po125)



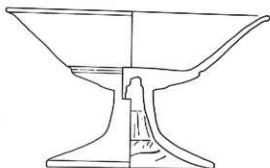
押図57 宇谷第1遺跡S103(Po126~Po147)



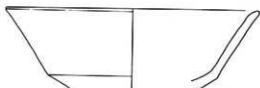
●Po148



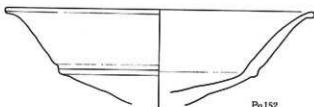
Po149



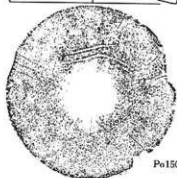
Po151



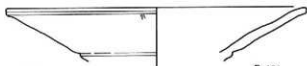
Po152



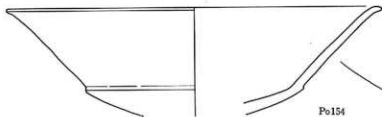
Po153



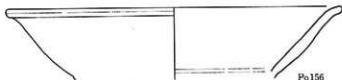
Po150



Po154



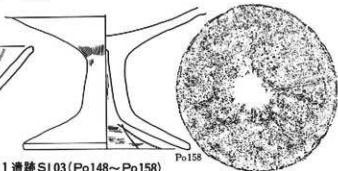
Po155



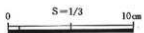
Po156



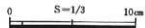
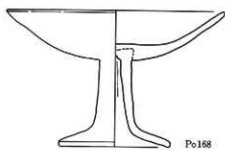
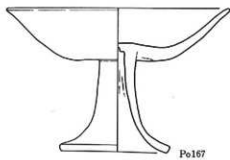
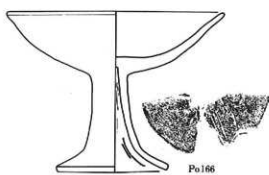
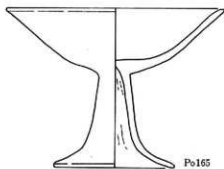
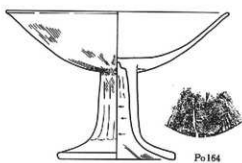
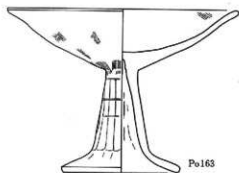
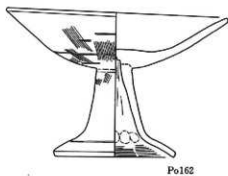
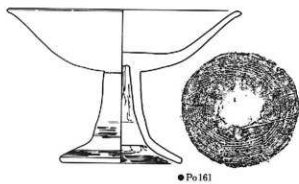
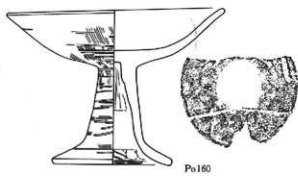
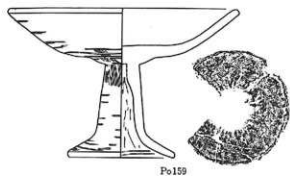
Po157



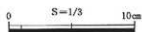
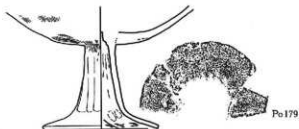
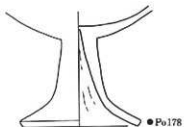
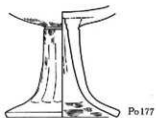
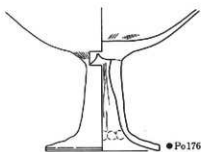
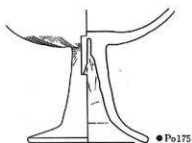
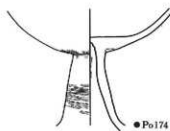
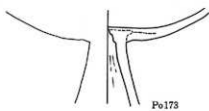
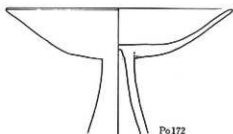
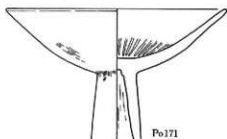
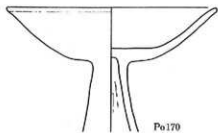
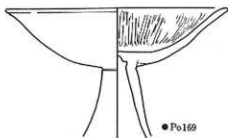
Po158



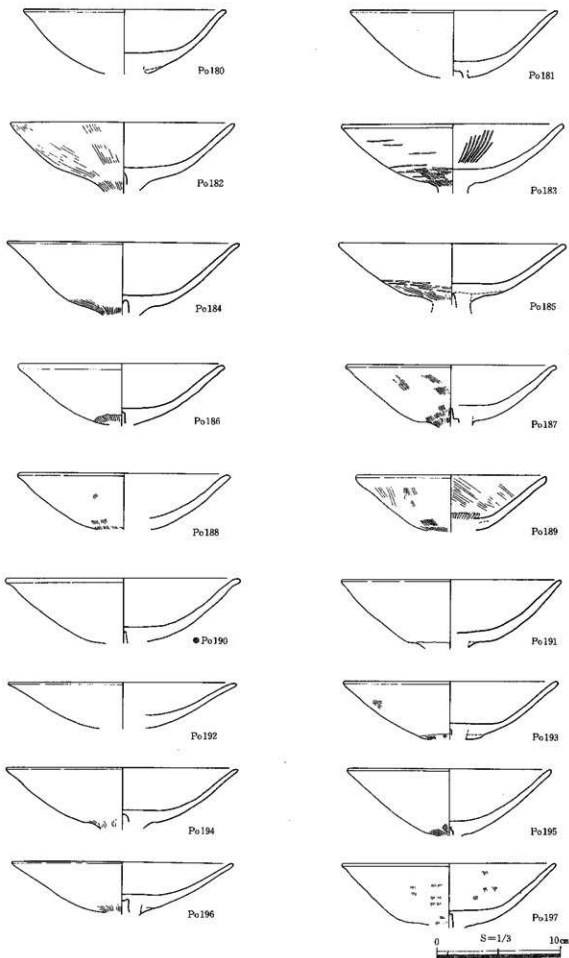
挿図58 宇谷第1遺跡S103 (Po148~Po158)



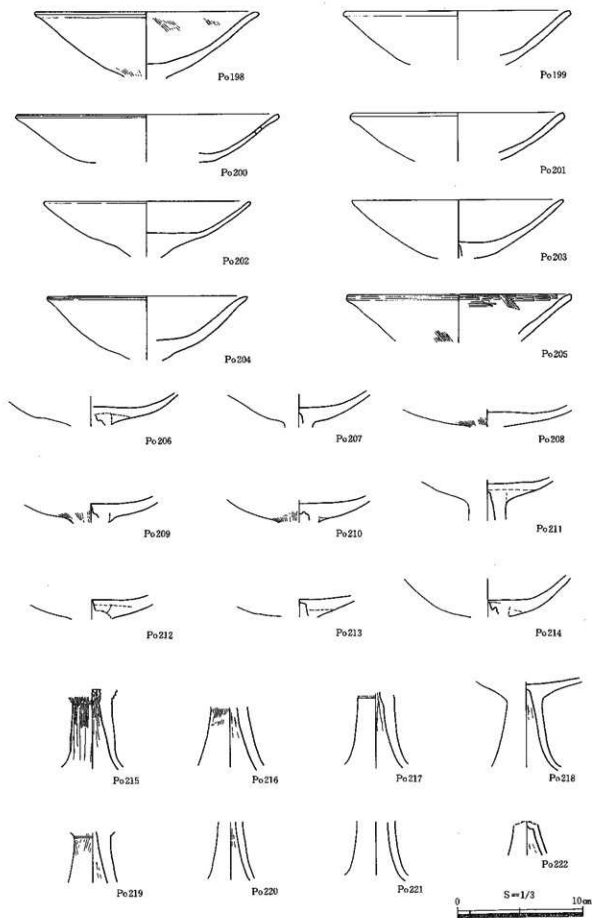
挿図59 宇谷第1遺跡S103(Po159~Po168)



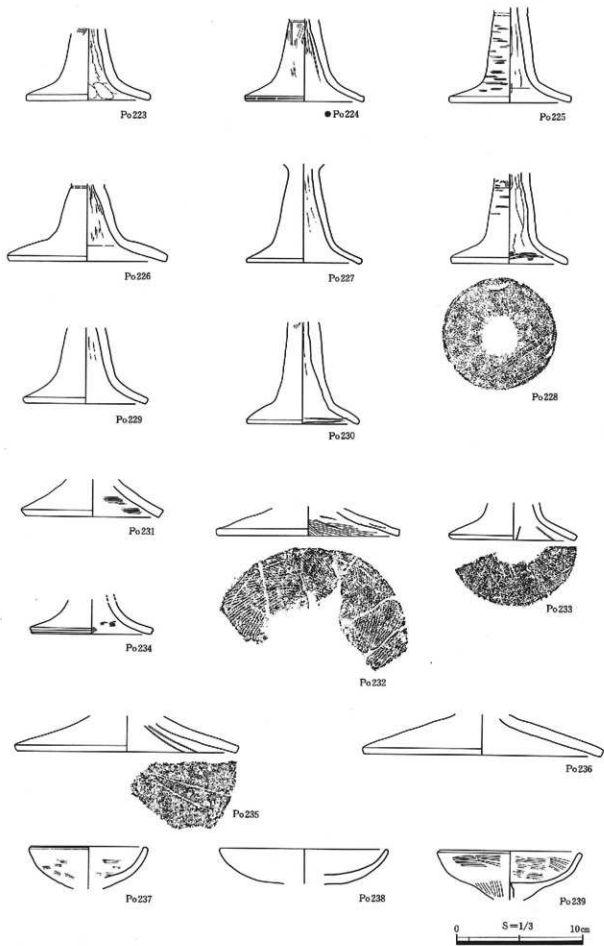
挿図60 宇谷第1遺跡S103(Po169~Po179)



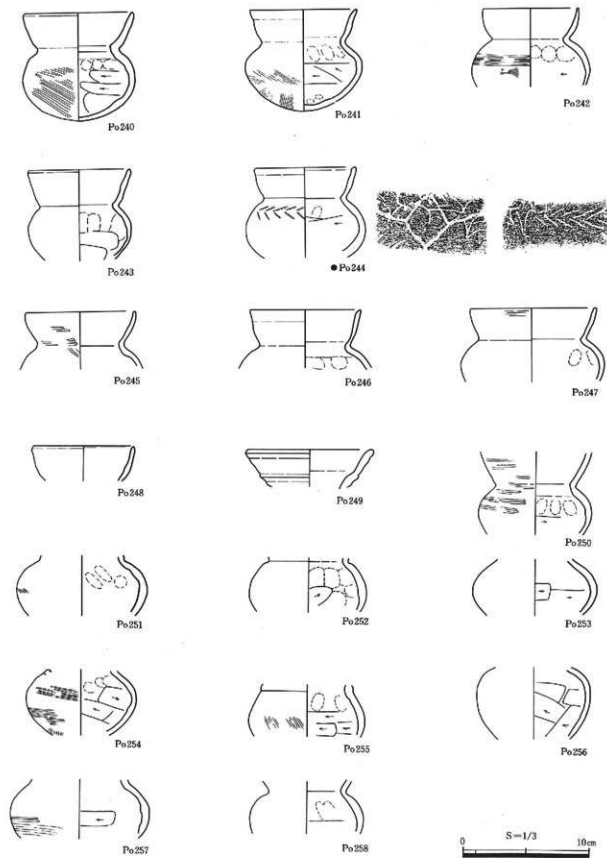
挿図61 宇谷第1遺跡SI03(Po180~Po197)



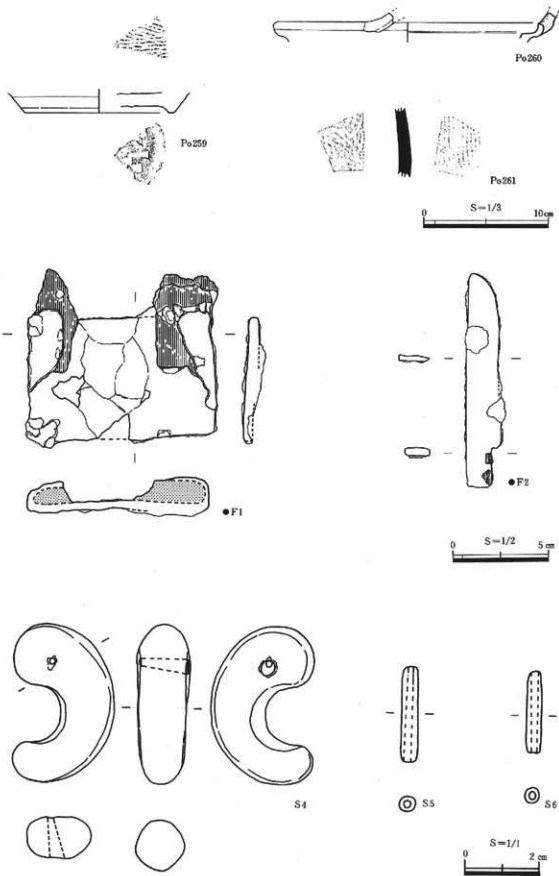
挿図62 宇谷第1遺跡S103(Po198~Po222)



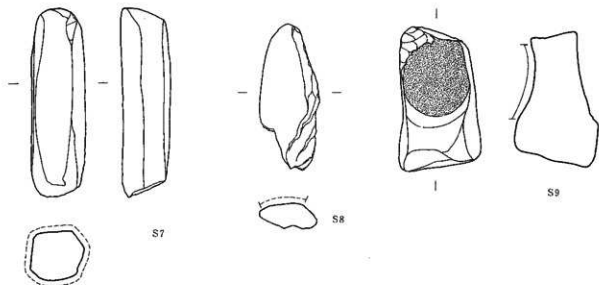
挿図63 宇谷第1遺跡S103 (Po223~Po239)



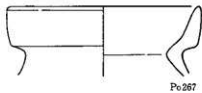
挿図64 宇谷第1遺跡S103(Po240~Po258)



挿図65 宇谷第1遺跡S103(Po259~Po261・F1, F2・S4~S6)



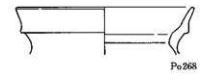
Po262



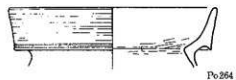
Po267



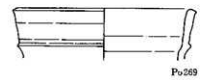
Po263



Po268



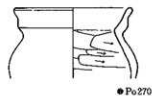
Po264



Po269



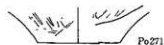
Po265



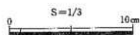
●Po270



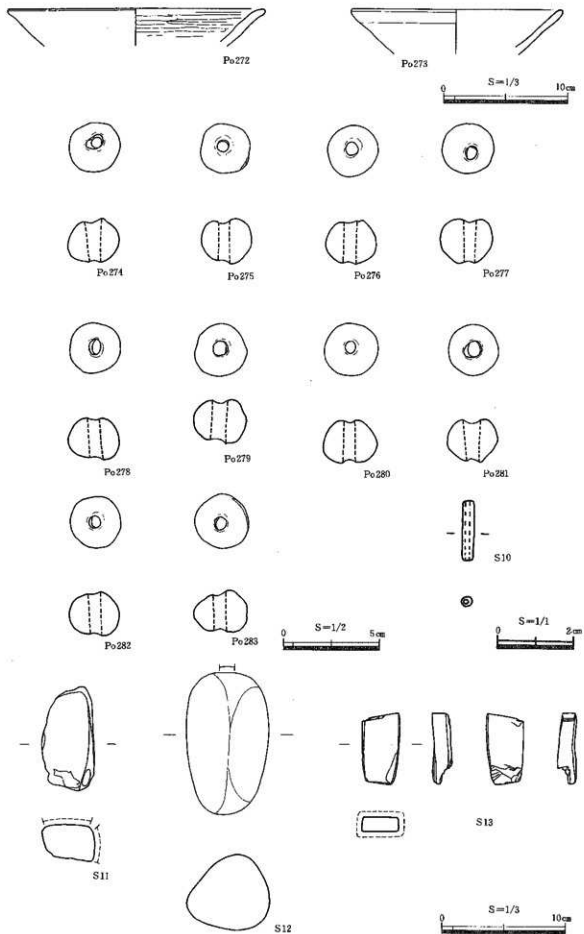
Po266



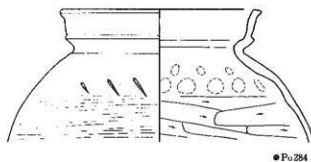
Po271



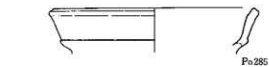
挿図66 宇谷第1遺跡SI03(S7~S9)
SI04・05(Po262~Po271)



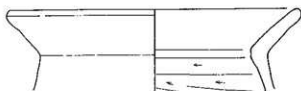
挿図67 宇谷第1遺跡S104-05(Po272~Po283・S10~S13)



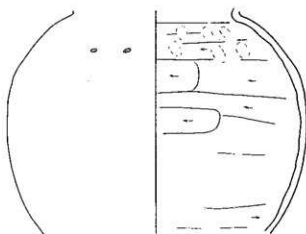
● Po284



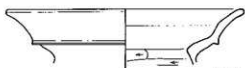
Po285



Po286



● Po288



Po287



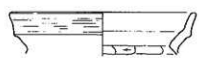
Po289



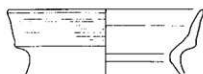
Po290



Po291



Po292



Po293



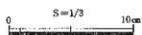
Po294



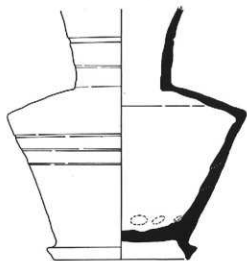
● Po295



Po296



挿図68 宇谷第1遺跡S106(Po284~Po296)



Po 297



Po 298



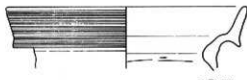
Po 299



Po 300



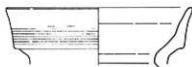
● Po 301



● Po 302



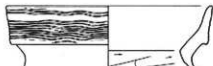
Po 303



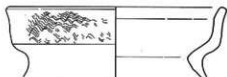
● Po 304



Po 305



Po 306



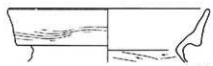
Po 307



Po 308

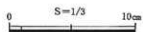


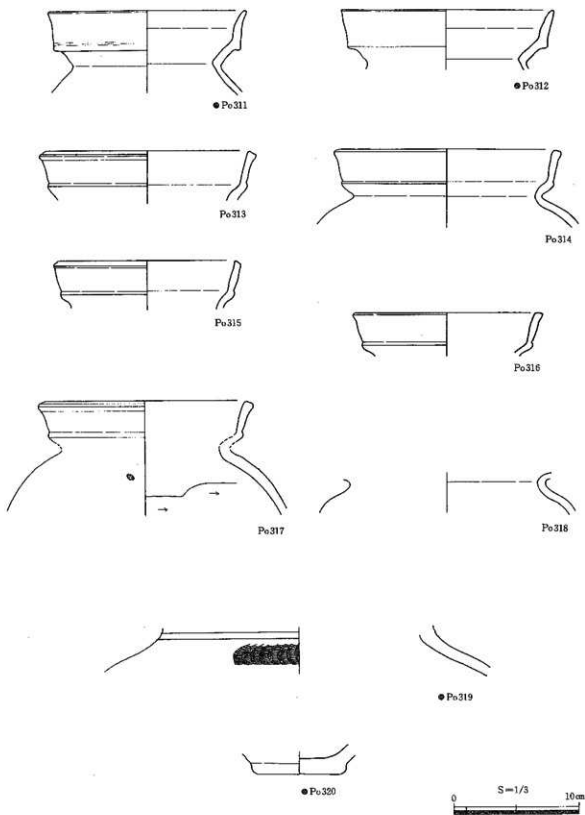
Po 309



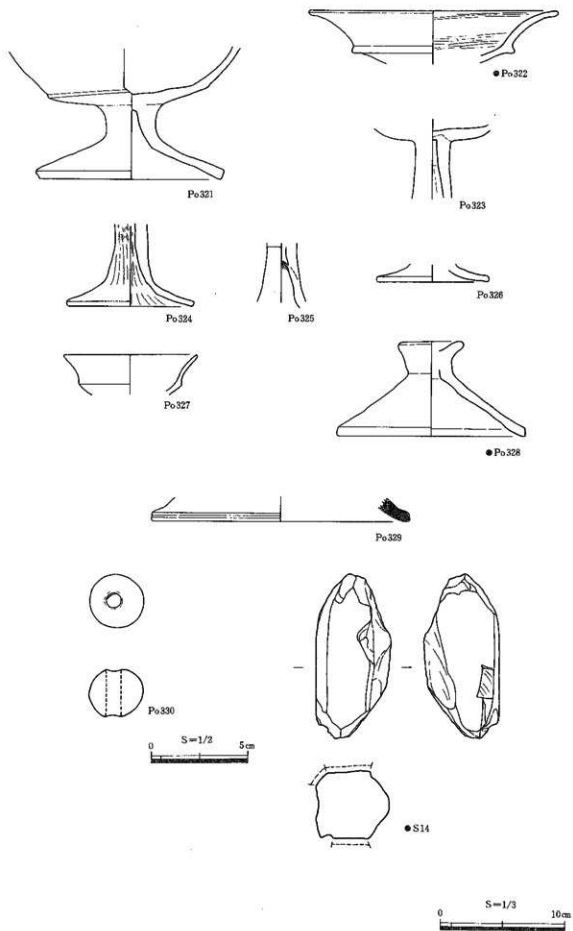
Po 310

挿図69 宇谷第1遺跡S106 (Po297~Po300)
S107 (Po301~Po310)





挿図70 宇谷第1遺跡SI07 (Po311~Po320)



挿図71 宇谷第1遺跡S107(Po321~Po330・S14)

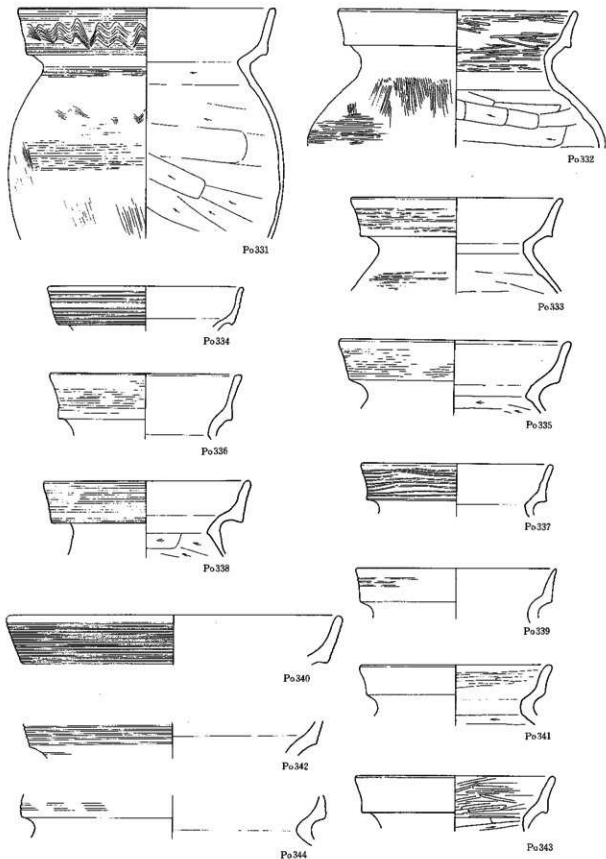
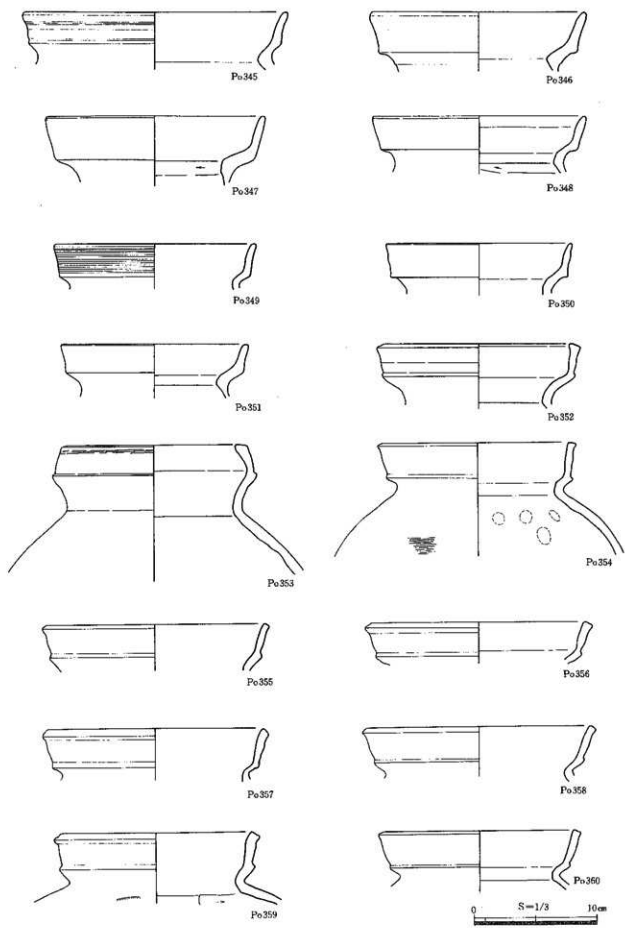


插图72 宇谷第1遺跡S108(Po331~Po344)



挿図73 宇谷第一遺跡S108 (Po345~Po360)

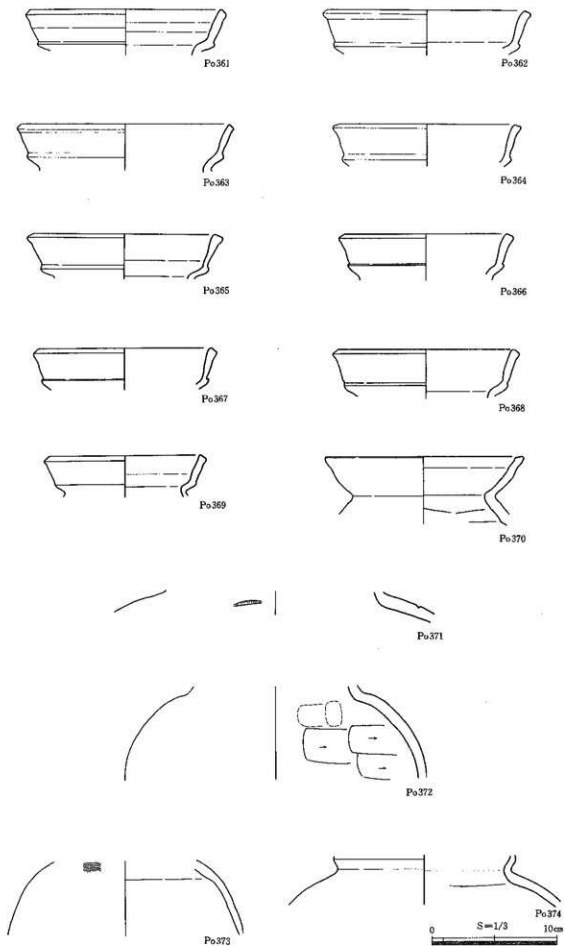


插图74 宇谷第1遺跡S108(Po361~Po374)



Po375



Po376



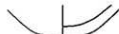
Po377



Po378



Po379



Po380



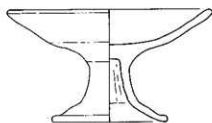
Po381



Po382



Po383



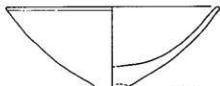
Po384



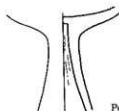
Po385



Po386



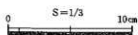
Po387



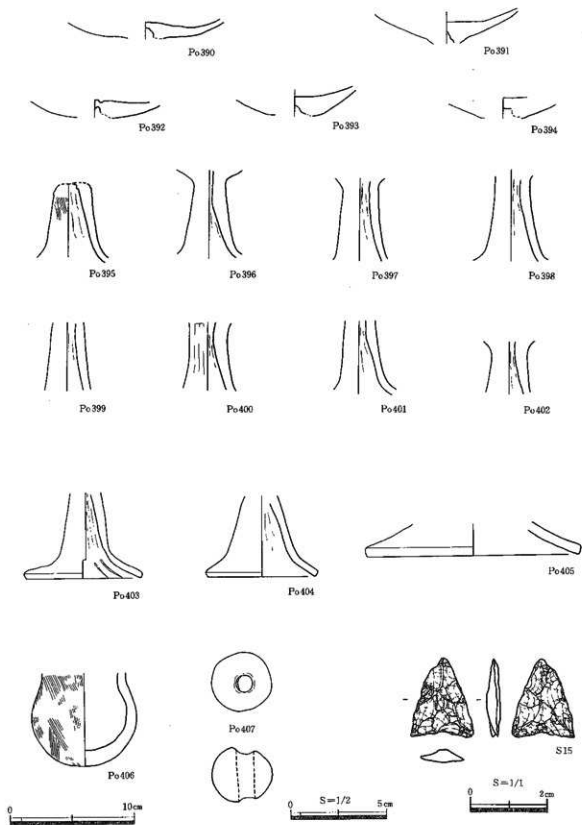
Po388



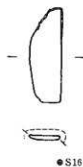
Po389



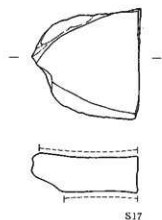
挿図75 宇谷第1遺跡S108(Po375~Po389)



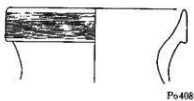
押図76 宇谷第1遺跡S108(Po390~Po407)



●S16



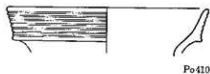
S17



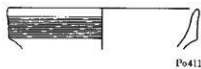
Po408



Po409



Po410



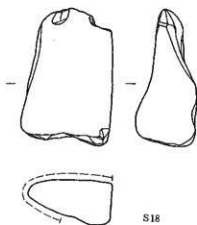
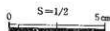
Po411



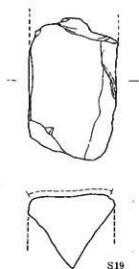
Po412



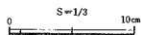
Po413



S18



S19



挿図77 宇谷第1遺跡S108(S16-S17)
S109(Po408~Po413 S18-S19)



Po414

S=1/2

5cm



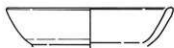
Po417



Po415



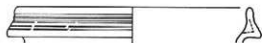
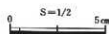
Po418



Po416



F3



Po419



Po421



Po420



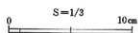
Po422



Po423



Po424



挿図78 宇谷第1遺跡SK02(Po414)

SK04(Po419~Po421) SK07(Po423・Po424)

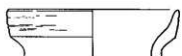
SK03(Po415~Po418, F3) SK06(Po422)



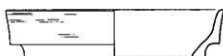
Po425



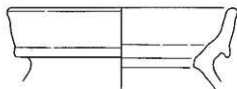
Po426



Po427



Po428



Po429



Po430



Po431



Po432



Po433



Po434



Po435



Po436



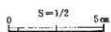
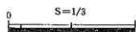
Po437



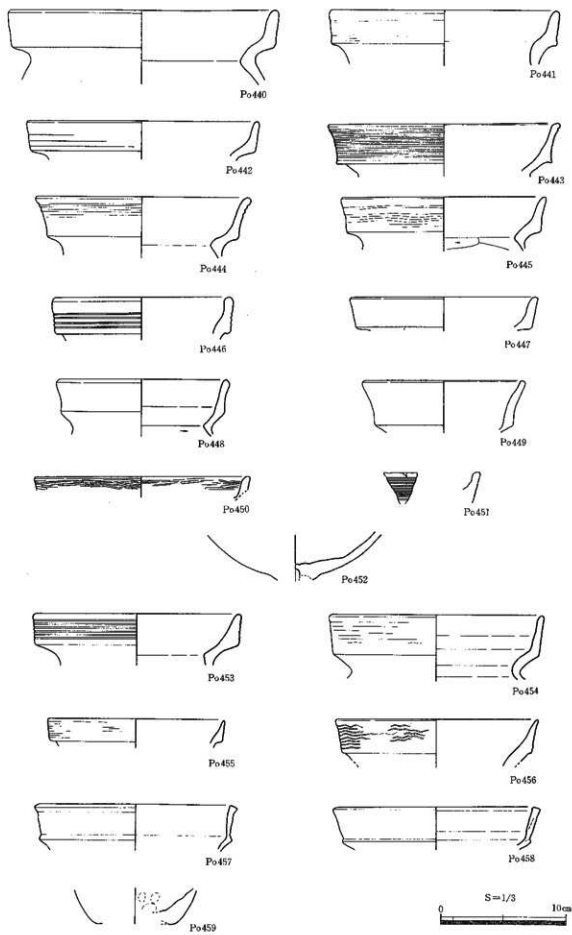
Po438



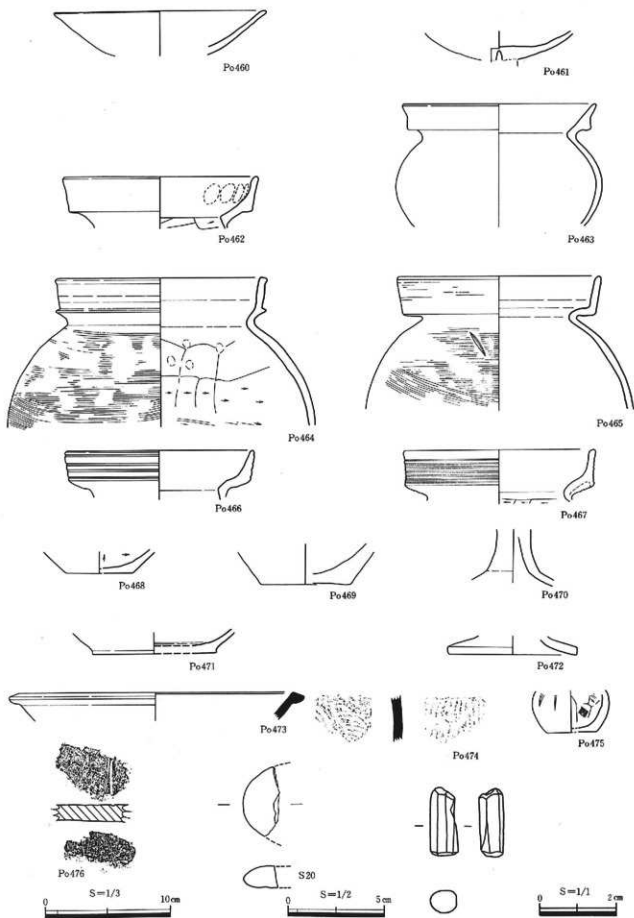
Po439



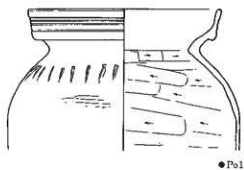
挿図79 宇谷第1遺跡SK09 (Po425) SD01 (Po427~Po439)
SK11 (Po426)



挿図80 宇谷第1遺跡SD02(Po440~Po452) SD03(Po453~Po459)



押図81 宇谷第1遺跡SD03(Po460・Po461) SD05(Po462) 遺構外(Po464~Po476, S20・S21) SB03(Po463)



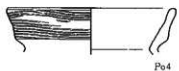
●Po1



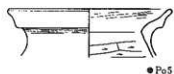
Po2



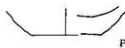
Po3



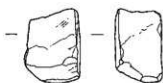
Po4



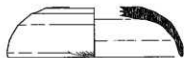
●Po5



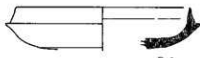
Po6



●S1



Po8



Po9



Po10



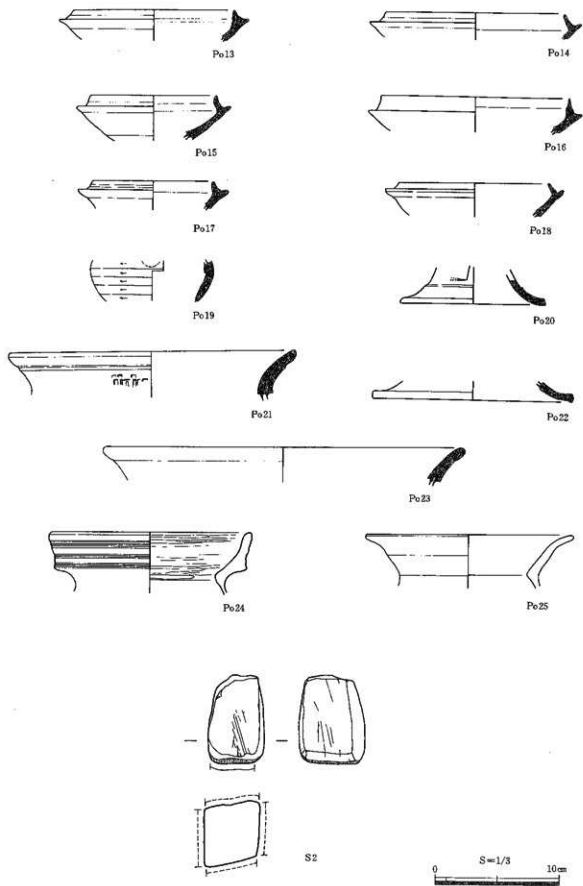
Po12



Po11



挿図82 南谷大ナル遺跡S101(Po1~Po7・S1)
SD02(Po8~Po12)



挿図83 南谷大ナル遺跡遺構外(Po13~Po25・S2)

出土遺構 土器番号	図面	取上げ 位置	法線(m)	形 態 上 の 特 徴	手 法 上 の 特 徴	胎 土	組成成分	色 調	備 考
SI 01 壁	●R1	46	22	584 ①16.0m ② 3.7m ③ 3.0	口縁部は、やや傾して立ち上がる複合口縁である。端部は、放射状に凹凸をもち、口縁部下方は、ごくわずかな平面をなす。	外面→口縁部2分の平行的隆起が認められる。以下ナダ。 内面→口縁部→縁部ヨコナダ。以下下方角のケズリ。	密(1-2mの石英を含む)。	良好	内外両面に淡黄褐色色 外面スチ付帯。 N-8-34
SI 01 壁(高部)	●R2	46	22	583 ① 1.7m ② 5.4m	平面的な部分。	外面→ナダ。 内面→上方角ケズリ。	やや粗(ワツム)0.5-4mの石英を含む。	良好	外面→淡黄褐色 内面→黄褐色 KR-111
SI 02 壁	●R3	46	-	592 ①15.8 ② 2.6m ③ 2.6	外傾しながら立ち上がる複合口縁。下部はわずかに突出している。口縁下部が肥厚。	外面→口縁部縁部平行的隆起が認められる。以下ナダ。 内面→風化が著しい。調整不明。	やや粗(石英、鉄石、ワツムを含む)。	良好	内外両面に淡黄褐色 N-A-80
SI 02 SI 10 壁	●R4	46	22	717 ①16.0m ② 5.0m ③ 2.8	口縁部は、やや傾して立ち上がる複合口縁である。端部は、水平な平直面をなす。口縁部下方は、外方に突出し、尖角をもった縁部に至る。	外面→ヨコナダ。 内面→風化している。	やや粗(1-4mの石英を含む)。	やや不良	外面→淡黄褐色 内面→淡黄褐色 K-R-44
SI 02 壁	●R5	46	22	583 ①14.2m ② 4.4m ③ 2.8	口縁部は、ほぼ傾して立ち上がる複合口縁。端部は、外方に突出し、外傾した平直面をなす。口縁部下方は、外方に突出し、尖角をもった縁部に至る。	内外両面にヨコナダ。	密(ワツム、1-3mの石英を含む)。	良好	内外両面に黄褐色 KR-35
SI 02 壁	●R6	46	22	429 ①13.1m ② 3.0m ③ 1.8	口縁部は、外傾して立ち上がる複合口縁。端部は、やや内傾した平直面をなす。口縁部下方は、外方に突出し、尖角をもった縁部に至る。	内外両面にナダ。	密(ワツム、砂鉄を含む)。	良好	内外両面に淡黄褐色 KR-58
SI 02 壁	●R7	46	22	816 ①13.6m ② 2.9m ③ 2.8	口縁部は、僅かに外方に突出し、外傾した平直面をなす。尖角をもつ。	外面→ナダ。 内面→口縁部→縁部ナダ。以下ケツリ。	密(1-4mの石英を含む)。	良好	内外両面に淡黄褐色 KR-36
SI 02 大型高坪	●R8	46	-	429 ①17.6m ② 4.5m	大型高坪の口縁部の破片である。端部は、外方に直立する平直面をなす。	外面→口縁部縁部方向ナダ。 縁部肥厚あり。 内面→口縁部縁部方向ナダ。	密(1-2mの石英を含む)。	良好	内面→淡黄褐色 外面→淡黄褐色 外面スチ付帯。 N-A-70
SI 02 高坪	●R9	46	-	689 ①19.1m ② 5.0m	大型高坪の口縁部破片。口縁部は急峻的に大きく広がり、端部は外方に突出し、尖角をもつ。	内外両面にヨコナダ。	密(ワツム、1m程度の石英を含む)。	良好	内面→灰色 外面→暗黄褐色 KR-55
SI 02 高坪	●R10	46	-	700 ①18.4m ② 3.5m	高坪の破片である。端部は、ごくわずかに外反し、尖角をもつ。	内外両面に風化している。	密(1-2mの石英、鉄石を含む)。	良好	内外両面に褐色 N-A-76
SI 02 高坪	●R11	46	-	880 ①18.4m ② 4.5m ③ 0.96	高坪の口縁部破片。端部は、尖角をもつ。	内外両面に風化している。	やや粗(ワツム、1-4mの石英を含む)。	やや不良	内外両面に褐色 KR-70
SI 02 高坪	●R12	46	22	695 ② 6.3m	高坪の破片であり、縁部と縁部との間に凹凸がある。	外面→縁部部分ナダナダ。縁部ナダナダ。 内面→縁部部分ナダナダ。縁部ナダナダナダ。	密(1mの石英を含む)。	良好	内外両面に淡黄褐色 N-A-78
SI 02 高坪	●R13	46	22	698 ① 1.9m	高坪の破片である。	内外両面に風化している。底部外面に割裂が認められる。	密(1-2mの石英、鉄石を含む)。	やや不良	内外両面に褐色 N-A-75
SI 02 高坪	●R14	46	22	691 ① 1.8m	高坪の破片である。	外面→縁部部分ナダナダ。縁部外側に割裂がある。 内面→ナダ。	密(1-2mの石英、鉄石を含む)。	良好	内面→暗褐色 外面→同外縁部。 N-A-74
SI 02 高坪	●R15	46	-	81 ① 1.5m ② 9.2m	高坪の破片。	内外両面にナダ。	密(1-2mの石英を含む)。	良好	内外両面に淡褐色 N-A-71
SI 02 大型高坪	●R16	47	22	532 ①24.6m ② 4.3m	口縁部と底面との間に凹凸がある。端部は、わずかに外反し、直立する平直面をなす。	外面→口縁部の縁部方向ナダ。段の所に凹凸がある。 内面→縁部方向ナダ。	密(1mの石英、ワツムを含む)。	良好	内面→暗褐色 外面→同外縁部。 N-A-77
SI 02 高坪	●R17	47	-	683	高坪の破片である。端部は、外反し、尖角をもつ。	内外両面にナダ。	密(1-2mの石英、ワツムを含む)。	良好	内外両面に褐色 N-A-77
SI 10 壁	●R19	47	-	721 ①14.9m ② 2.9m ③ 2.0	口縁部は、やや傾して立ち上がる複合口縁。端部は、やや外反し、外傾した平直面をなす。口縁部下方は、外方に突出し、尖角をもつ。	内外両面にヨコナダ。	密(ワツム、1m程度の石英を含む)。	良好	内外両面に淡黄褐色 KR-51
SI 10 壁	●R20	47	-	718 ①14.7m ② 2.8m ③ 2.0	口縁部は、外傾して立ち上がる複合口縁。端部は、やや外反し、外傾した平直面をもつ。口縁部下方は、外方に突出し、尖角をもつ。	内外両面にヨコナダ。	密(ワツム、1m程度の石英を含む)。	良好	内外両面に淡黄褐色 KR-52
SI 10 高坪	●R21	47	-	719 ①16.1m ② 3.2m	高坪の口縁部破片。端部は、やや外反し、尖角をもつ。	内外両面にナダ。	密(ワツム、1m程度の石英を含む)。	良好	内面→黄褐色 外面→黄褐色 KR-46
SI 10 高部	●R22	47	-	757 ① 1.7m ②10.9m ③ 7.4	平面的な部分。	外面→風化が著しい。調整不明。 内面→風化が著しい。調整不明。	密(鉄石、ワツムを含む)。	良好	内面→淡黄褐色 外面→黄褐色 N-A-81
SI 01 壁	●R23	48	23	389 ①15.0m ②29.6m ③30.0 1654 ④ 2.7 1058 1139 1241	口縁部は、わずかに内傾しながら立ち上がる複合口縁をもつ。端部は、ほぼ水平な平直面をなす。口縁部下方は、外方に突出し、外傾した平直面をなす。口縁部下方は、外方に突出し、外傾した平直面をなす。口縁部下方は、外方に突出し、外傾した平直面をなす。口縁部下方は、外方に突出し、外傾した平直面をなす。	外面→口縁部縁部ナダ。縁部上平ナダナダ。縁部上平ナダナダ。縁部上平ナダナダ。 内面→口縁部縁部ナダ。縁部上平ナダナダ。縁部上平ナダナダ。縁部上平ナダナダ。	密(石英を含む)。	良好	内面→淡黄褐色 外面→同外縁部。 N-A-82
SI 03 壁	●R24	48	23	1170 ①16.2m ② 5.4m ③ 2.4	口縁部は、わずかに内傾しながら立ち上がる複合口縁。端部は、内外へ肥厚し、水平面をなす。口縁部下方は、外方へ傾く突出し、縁部に至る。口縁部縁部の段は明瞭。	外面→口縁部縁部ヨコナダ。縁部ヨコナダ。 内面→口縁部縁部ヨコナダ。	密(1mの石英、鉄石を含む)。	良好	内外両面に褐色 口縁部に黄褐色 F-19
SI 03 壁	●R25	48	24	976 ①16.2m ② 4.3m ③ 2.5	口縁部は、やや内傾して立ち上がる複合口縁。口縁部下方は、内面や密かに内傾した平直面に至る。端部は、肥厚して外方に突出し、平直面に凹凸がある。口縁部下方は、外方に突出する尖角をもつ。口縁部縁部の段は明瞭。	外面→口縁部ヨコナダ。 内面→口縁部ヨコナダ。縁部に粘土の塊状調整。	密(1-2mの石英を含む)。	良好	内外両面に黄褐色 KN-3
SI 03 壁	●R26	48	23	977 ①16.0m ②21.1 1021 ③ 2.4 1068 1172 1318	口縁部は、やや内傾して立ち上がる複合口縁。端部は、外方へ肥厚し、外傾した平直面をなす。口縁部下方は、わずかに内傾した平直面に凹凸がある。口縁部下方は、外方に突出する尖角をもつ。口縁部縁部の段は明瞭。	外面→口縁部縁部ヨコナダ。縁部ヨコナダ。縁部ヨコナダ。 内面→口縁部縁部ヨコナダ。縁部ヨコナダ。縁部ヨコナダ。	密(1-6m程度の石英、鉄石を含む)。	良好	内外両面に淡黄褐色 内外両面にスチ付帯。 F-38

表6 宇谷第1遺跡出土土器観察表 ①

出土遺物	土器番号	経度	緯度	取上層	深さ(m)	形状上の特徴	手法上の特徴	胎土	焼成保存	色	調査者
SI 07 壺	●R27	45	23	1186	①14.0m ②13.0m ③2.2m	口縁部は、外縁して立ち上がる唇状口縁。肩部は、内外方に肥厚し、外縁する平坦面をなし、口縁部内面の段はゆるやか。胴部は肩が太く張り、ほぼ球形を呈す。最大径は中位よりやや上にもつ。	外壁→口縁部にヨコナガ。肩縁部はハタケ目。胴部はほぼ四方筒。肩以下はハタケ目。胴部は特注工法による縦筋が三角形帯にヨコ所見。内面→口縁部ヨコナガ。肩部指紋は縦線。胴部以下は方向ナズリ。胴部下半部方向ナズリ。底部付指紋は縦線。	泥(1~2mm)の石灰、黒石を含む。	良好	内外面共に黄褐色	口縁部に黒色帯。胴部に赤いスス付着。F-41
SI 07 壺	●R28	45	24	875 976 977 981	①15.4m ②13.2m ③2.2m	口縁部は、やや外縁して立ち上がる唇状口縁。肩部は、平坦面を持ち、内外方に肥厚し、外縁する平坦面をなし、口縁部内面の段はゆるやか。胴部は肩が太く張り、ほぼ球形を呈す。最大径は中位よりやや上にもつ。	外壁→口縁部→胴部ヨコナガ。胴部一帯はハタケ目。胴部以下はハタケ目。内面→口縁部一帯ヨコナガ。胴部指紋は縦線。口縁部以下は方向ナズリ。	泥(1~5mm)の石灰を含む。赤色の指紋を含む。	良好	内面→黄褐色 外面→黄褐色	KN-12
SI 07 壺	R29	48	24	1289	①16.2m ②12.6m ③2.9m	口縁部は、直立型にして立ち上がる唇状口縁。肩部は、内外方に肥厚して、外縁した平坦面をなし、口縁部内面に、外方に突出するが、丸味をもつ。胴部は球形に近く、口縁部内面の段はゆるやか。胴部は太く張り、ほぼ球形を呈す。	外壁→口縁部ヨコナガ。胴部一帯はハタケ目。胴部以下はハタケ目。内面→口縁部ヨコナガ。胴部指紋は縦線。口縁部以下は方向ナズリ。	泥(1~3mm)の石灰を多く含む。	良好	内面→黄色 外面→灰褐色	外壁スス付着。KN-11
SI 07 壺	R30	49	24	1229	①17.0m ②15.5m ③2.4m ④2.5m	口縁部は、やや外縁して立ち上がる唇状口縁。肩部は、内外方に肥厚し、外縁する平坦面をなし、口縁部内面に、外方に突出するが、丸味をもつ。胴部は球形に近く、口縁部内面の段はゆるやか。胴部は太く張り、ほぼ球形を呈す。	外壁→口縁部一帯ヨコナガ。胴部一帯はハタケ目。胴部以下はハタケ目。内面→口縁部ヨコナガ。胴部指紋は縦線。口縁部以下は方向ナズリ。	泥(1~4mm)の石灰、黒石を含む。	良好	内外面共に黄褐色	口縁部に胴部にかけてスス付着。胴部以下は赤褐色。F-17
SI 07 壺	R31	49	24	400 975 976 996	①17.2m ②17.2m ③2.4m ④2.6	口縁部は、外縁しながら立ち上がる唇状口縁。肩部は、内外方に肥厚し、外縁した平坦面をなし、口縁部内面に、外方に突出するが、丸味をもつ。胴部は球形に近く、口縁部内面の段はゆるやか。胴部は太く張り、ほぼ球形を呈す。	外壁→口縁部一帯ヨコナガ。胴部一帯はハタケ目。胴部以下はハタケ目。内面→口縁部ヨコナガ。胴部指紋は縦線。口縁部以下は方向ナズリ。	泥(石灰、黒石、ワタを含む)。	良好	内外面共に黄褐色	口縁部内面に穴の目が見える。NA-28
SI 07 壺	R32	49	24	389 390 977 978 1054 1245	①17.0m ②16.8m ③2.6	口縁部は、やや外縁して立ち上がる唇状口縁。肩部は、内外方に肥厚し、外縁した平坦面をなし、口縁部内面に、外方に突出するが、丸味をもつ。胴部は球形に近く、口縁部内面の段はゆるやか。胴部は太く張り、ほぼ球形を呈す。	外壁→口縁部一帯ヨコナガ。胴部一帯はハタケ目。胴部以下はハタケ目。内面→口縁部ヨコナガ。胴部指紋は縦線。口縁部以下は方向ナズリ。	泥(1~4mm)の石灰、黒石を含む。	良好	褐色	F-20
SI 07 壺	R33	49	24	975 1057 1099 1138 1147	①15.0m ②13.2m ③2.1m	口縁部は、外縁して立ち上がる唇状口縁。肩部は、内外方に肥厚し、外縁した平坦面をなし、口縁部内面に、外方に突出するが、丸味をもつ。胴部は球形に近く、口縁部内面の段はゆるやか。胴部は太く張り、ほぼ球形を呈す。	外壁→口縁部一帯ヨコナガ。胴部一帯はハタケ目。胴部以下はハタケ目。内面→口縁部ヨコナガ。胴部指紋は縦線。口縁部以下は方向ナズリ。	やや硬い石灰、黒石、ワタを含む。	良好	内外面共に黄褐色	NA-27
SI 07 壺	R34	49	24	916 917 918	①19.0m ②5.6m ③2.5	口縁部は、外縁して立ち上がる唇状口縁。肩部は、内外方に肥厚し、外縁した平坦面をなし、口縁部内面に、外方に突出するが、丸味をもつ。胴部は球形に近く、口縁部内面の段はゆるやか。胴部は太く張り、ほぼ球形を呈す。	外壁→口縁部一帯ヨコナガ。胴部一帯はハタケ目。胴部以下はハタケ目。内面→口縁部ヨコナガ。胴部指紋は縦線。口縁部以下は方向ナズリ。	泥(1~3mm)の石灰、黒石を含む。クワコウ土を含む。	良好	内外面共に黄褐色	胴部以下は黒色帯。D-1
SI 07 壺	R35	49	24	993 994 1023 1067	①20.2m ②3.6m ③2.7	口縁部は、外縁して立ち上がる唇状口縁。肩部は、内外方に肥厚し、外縁した平坦面をなし、口縁部内面に、外方に突出するが、丸味をもつ。胴部は球形に近く、口縁部内面の段はゆるやか。胴部は太く張り、ほぼ球形を呈す。	外壁→口縁部一帯ヨコナガ。胴部一帯はハタケ目。胴部以下はハタケ目。内面→口縁部ヨコナガ。胴部指紋は縦線。口縁部以下は方向ナズリ。	泥(石灰、黒石を含む)。	良好	内面→黄褐色 外面→黄褐色	NA-6
SI 07 壺	R36	49	24	402	①17.9m ②3.7m ③2.3	口縁部は、外縁して立ち上がる唇状口縁。肩部は、内外方に肥厚し、外縁した平坦面をなし、口縁部内面に、外方に突出するが、丸味をもつ。胴部は球形に近く、口縁部内面の段はゆるやか。胴部は太く張り、ほぼ球形を呈す。	外壁→口縁部一帯ヨコナガ。胴部一帯はハタケ目。胴部以下はハタケ目。内面→口縁部ヨコナガ。胴部指紋は縦線。口縁部以下は方向ナズリ。	泥(石灰、黒石を含む)。	良好	外面→灰褐色 内面→黄褐色	NA-03
SI 07 壺	R37	49	24	1323	①19.2m ④4.0m ⑤2.5	口縁部は、外縁して立ち上がる唇状口縁。肩部は、内外方に肥厚し、外縁した平坦面をなし、口縁部内面に、外方に突出するが、丸味をもつ。胴部は球形に近く、口縁部内面の段はゆるやか。胴部は太く張り、ほぼ球形を呈す。	外壁→口縁部一帯ヨコナガ。胴部一帯はハタケ目。胴部以下はハタケ目。内面→口縁部ヨコナガ。胴部指紋は縦線。口縁部以下は方向ナズリ。	やや硬い(1~4mm)の石灰、黒石を多く含む。	良好	内外面共に黄褐色	F-112
SI 07 壺	R38	49	24	1364	①18.0m ②3.8m ③2.7	口縁部は、外縁して立ち上がる唇状口縁。肩部は、内外方に肥厚し、外縁した平坦面をなし、口縁部内面に、外方に突出するが、丸味をもつ。胴部は球形に近く、口縁部内面の段はゆるやか。胴部は太く張り、ほぼ球形を呈す。	外壁→口縁部一帯ヨコナガ。胴部一帯はハタケ目。胴部以下はハタケ目。内面→口縁部ヨコナガ。胴部指紋は縦線。口縁部以下は方向ナズリ。	やや硬い(1~3mm)の石灰、黒石を多く含む。	良好	内外面共に黄褐色	F-32
SI 07 壺	R39	49	24	1150	①19.2m ②3.6m ③2.5	口縁部は、外縁して立ち上がる唇状口縁。肩部は、内外方に肥厚し、外縁した平坦面をなし、口縁部内面に、外方に突出するが、丸味をもつ。胴部は球形に近く、口縁部内面の段はゆるやか。胴部は太く張り、ほぼ球形を呈す。	外壁→口縁部一帯ヨコナガ。胴部一帯はハタケ目。胴部以下はハタケ目。内面→口縁部ヨコナガ。胴部指紋は縦線。口縁部以下は方向ナズリ。	泥(1~2mm)の石灰、黒石を含む。	良好	内外面共に黄褐色	口縁部外面に黒褐色。F-116
SI 07 壺	R40	49	-	363	①17.0m ②3.8m ③2.6	口縁部は、外縁して立ち上がる唇状口縁。肩部は、内外方に肥厚し、外縁した平坦面をなし、口縁部内面に、外方に突出するが、丸味をもつ。胴部は球形に近く、口縁部内面の段はゆるやか。胴部は太く張り、ほぼ球形を呈す。	外壁→口縁部一帯ヨコナガ。胴部一帯はハタケ目。胴部以下はハタケ目。内面→口縁部ヨコナガ。胴部指紋は縦線。口縁部以下は方向ナズリ。	泥(1~2mm)の石灰、黒石を含む。	良好	内外面共に黄褐色	F-14
SI 07 壺	R41	49	-	1254	①17.0m ②3.8m ③2.6	口縁部は、外縁して立ち上がる唇状口縁。肩部は、内外方に肥厚し、外縁した平坦面をなし、口縁部内面に、外方に突出するが、丸味をもつ。胴部は球形に近く、口縁部内面の段はゆるやか。胴部は太く張り、ほぼ球形を呈す。	内外面ともヨコナガ。	泥(石灰、黒石、クワコウ土を含む)。	良好	内外面共に黄褐色	F-2
SI 07 壺	R42	49	-	679	①16.6m ②3.5m ③2.7	口縁部は、やや外縁して立ち上がる唇状口縁。肩部は、内外方に肥厚し、外縁した平坦面をなし、口縁部内面に、外方に突出するが、丸味をもつ。胴部は球形に近く、口縁部内面の段はゆるやか。胴部は太く張り、ほぼ球形を呈す。	内外面共にヨコナガ。	泥(1~4mm)の石灰を含む。	良好	内面→黄褐色 外面→黄褐色	KN-4
SI 07 壺	R43	49	-	875 977 1204	①17.0m ②3.6m ③2.6	口縁部は、外縁して立ち上がる唇状口縁。肩部は、内外方に肥厚し、外縁した平坦面をなし、口縁部内面に、外方に突出するが、丸味をもつ。胴部は球形に近く、口縁部内面の段はゆるやか。胴部は太く張り、ほぼ球形を呈す。	外壁→口縁部一帯ヨコナガ。胴部一帯はハタケ目。胴部以下はハタケ目。内面→口縁部ヨコナガ。胴部指紋は縦線。口縁部以下は方向ナズリ。	泥(1~2mm)の石灰を含む。	良好	内面→褐色 外面→黄褐色	KN-6
SI 07 壺	R44	50	25	1068	①16.0m ②7.2m ③2.6	口縁部は、やや外縁して立ち上がる唇状口縁。肩部は、内外方に肥厚し、外縁した平坦面をなし、口縁部内面に、外方に突出するが、丸味をもつ。胴部は球形に近く、口縁部内面の段はゆるやか。胴部は太く張り、ほぼ球形を呈す。	外壁→口縁部一帯ヨコナガ。胴部一帯はハタケ目。胴部以下はハタケ目。内面→口縁部ヨコナガ。胴部指紋は縦線。口縁部以下は方向ナズリ。	やや不純	良好	内外面共に黄褐色	F-13
SI 07 壺	R45	50	25	1140	①16.0m ②5.6m ③2.5	口縁部は、外縁して立ち上がる唇状口縁。肩部は、内外方に肥厚し、外縁した平坦面をなし、口縁部内面に、外方に突出するが、丸味をもつ。胴部は球形に近く、口縁部内面の段はゆるやか。胴部は太く張り、ほぼ球形を呈す。	外壁→口縁部一帯ヨコナガ。胴部一帯はハタケ目。胴部以下はハタケ目。内面→口縁部ヨコナガ。胴部指紋は縦線。口縁部以下は方向ナズリ。	泥(1~2mm)の石灰、黒石を含む。	良好	内面→黄褐色 外面→黄褐色	NA-8
SI 07 壺	R46	50	25	1277	①15.8m ②3.4m ③2.7	口縁部は、やや外縁して立ち上がる唇状口縁。肩部は、内外方に肥厚し、外縁した平坦面をなし、口縁部内面に、外方に突出するが、丸味をもつ。胴部は球形に近く、口縁部内面の段はゆるやか。胴部は太く張り、ほぼ球形を呈す。	内外面共にヨコナガ。	泥(1~2mm)の石灰を含む。	良好	内外面共に黄褐色	KN-19

神奈川 宇治第1遺跡出土土器観察表 ②

出土遺構	土層番号	緯度	経度	取上番号	法量(m)	形 態 上 の 特 徴	手 法 上 の 特 徴	胎 土	焼成保存	色 調	備 考
S1 04 遺 構	h47	50	-	1023	①17.4m ② 3.4m ③ 2.5	口縁部は、外傾して立ち上がる複合口縁。肩部は、外方へ肥厚して突出し、外傾する平直面をなす。口縁部下縁は、丸味をもつて突出し、腹部に片着。口縁部内面の段はゆるやか。	外面→ヨコナナ。内面→ヨコナナ。	やや中硬(1→2m大の石炭、長石を含む)。	良好	内外両共に近い褐色。	F-114
S1 04 遺 構	h48	50	-	881	①18.0m ② 3.4m ③ 2.4	口縁部は、外傾して立ち上がる複合口縁。肩部は、外方へ突出し、平直面をなす。口縁部下縁は、外方へ突出するが、丸味をもつて腹部に至る。口縁部内面の段はゆるやか。	内外両共にヨコナナ。	密(1→2m大の石炭を含む)。	良好	内外両共に黄褐色	口縁部に腐食あり。 F-3
S1 04 遺 構	h49	50	-	377	①18.5m ② 3.7m ③ 2.5	口縁部は、ゆるやかに外傾して外傾する複合口縁。肩部は、外方へ突出して突出し、平直面をなす。口縁部下縁は、外方へ突出し、丸味をもつて腹部に至る。口縁部内面の段はゆるやか。	外面→狭いヨコナナ。内面→ヨコナナ。	密(1→2m大の石炭、長石を含む)。	良好	内外両ともに近い褐色。	F-111
S1 04 遺 構	h50	50	-	1070 1316	①16.6m ② 3.5m ③ 2.75	口縁部は、やや外傾して立ち上がる複合口縁。肩部は、外方に突出し、やや外傾した平直面に腹部が広がる。口縁部下縁は、やや外方へ突出するが、丸味をもつ。	内外両共にヨコナナ。	密(1→4mの石炭を含む)。	良好	内面→褐色 外面→黄褐色	KN-5
S1 04 遺 構	h51	50	-	397 1130	①16.2m ② 3.7m ③ 2.6	外反斜部に、外傾して立ち上がる複合口縁。肩部は、外傾した平直面をなす。肩部は浅いながらも、段状になっている。外側の縁は、外方へ肥厚している。下部縁は、段状になっており外側に突出し、丸味をもつ。口縁部内面の段はゆるやか。	外側→口縁部はヨコナナ。肩部は右方160°のヘラズリ。内面→ヨコナナ。	やや中硬(長石、石英を含む)。	良好	外面→淡黄褐色 内面→淡黄褐色	口縁部に腐食あり。 口縁部内面に貼り付いた鉄筋の痕跡 NA-15
S1 04 遺 構	h52	50	25	1144 1150	①16.8m ② 4.0m ③ 2.9	口縁部は、外傾して立ち上がる複合口縁。口縁部下縁から上方に段々内向となる。肩部は、肥厚して外方へ突出し、外傾する平直面に腹部が広がる。口縁部下縁は、外方へ突出するが、丸味をもつ。口縁部内面の段はゆるやか。	外側→口縁部はヨコナナ。内面→ヨコナナ。口縁部下縁に粘土の積りがある。	密(1→5mの石炭を含む)。	良好	内面→褐色 外面→淡黄褐色	外両面腐食。 KN-1
S1 04 遺 構	h53	50	-	381 1285	①15.9m ② 4.1m ③ 2.4	口縁部は、外反斜部に立ち上がる複合口縁。肩部は、外傾した平直面をなす。肩部は、やや丸味をもつ。口縁部下縁は、外方へ突出し、丸味をもつ。口縁部内面の段はゆるやか。	外側→ヨコナナ。内面→ヨコナナ。	密(長石、クワソメを含む)。	やや不良	内外両共に淡黄褐色→黄褐色	腐食あり。 NA-7
S1 04 遺 構	h54	50	-	102	①16.2m ② 4.2m ③ 2.4	口縁部は、外傾して立ち上がる複合口縁。肩部は、外方へ大きく肥厚して突出し、彎曲した平直面をなす。口縁部下縁は、わずかに突出し、丸味をもつて腹部に至る。口縁部内面の段はゆるやか。	外側→口縁部はヨコナナ。内面→口縁部はヨコナナ。	密(1→3m大の石炭、長石を含む)。	良好	内外両共に黄褐色	外側にスズ付着 F-7
S1 04 遺 構	h55	50	25	142	①15.3m ② 3.2m ③ 2.2	口縁部は、外傾して立ち上がる複合口縁。肩部は、やや外反して、外傾する平直面をなす。口縁部下縁は、丸く突出する。口縁部内面の段はゆるやか。	外側→ヨコナナ。内面→ヨコナナ。	やや中硬(1→2m大の石炭を含む)。	良好	内外両共に黄褐色	F-115
S1 04 遺 構	h56	50	25	878	①16.0m ② 4.0m ③ 2.6	口縁部は、やや外傾して立ち上がる複合口縁。肩部は、外側に突出して突出し、平直面に腹部はわずかに突出して、なだらかに腹部に至る。口縁部内面の段は不明瞭。	外側→口縁部は狭いヨコナナ。内面→ヨコナナ。	密	良好	内外両共に近い黄褐色	F-27
S1 04 遺 構	h57	50	25	389 1097	①15.2m ② 4.5m ③ 2.8	口縁部は、やや外傾して立ち上がる複合口縁。肩部は、ゆるやかに外傾して突出し、外傾した平直面をなす。口縁部下縁は、外方に突出するが、丸味をもつ。口縁部内面の段はゆるやか。	内外両共にヨコナナ。	密(クワソメ、1→4mmの石炭を含む)。	良好	内面→黄褐色 外面→褐色	口縁部にスズ付着。 KN-7
S1 04 遺 構	h58	50	25	1212	①16.0m ② 3.8m ③ 2.7	口縁部は、外傾して立ち上がる複合口縁。肩部は、外方へ突出し、平直面をなす。口縁部下縁は、外方へ突出し、丸味をもつて腹部に至る。口縁部内面の段はゆるやか。	外側→ヨコナナ。内面→ヨコナナ。	密(1→2m大の石炭、長石を含む)。	良好	内外両共に黄褐色	F-4
S1 04 遺 構	h59	51	-	1158 1212	①16.6m ② 3.8m ③ 3.1	口縁部は、直立した縁に立ち上がる複合口縁。肩部は、外方に突出し、平直面をなす。口縁部下縁は、外方に突出するが、丸味をもつ。	内外両共にヨコナナ。	密(1→4mの石炭を含む)。	良好	内外両共に黄褐色	KN-9
S1 04 遺 構	h60	51	-	872 976	①17.0m ② 3.5m ③ 2.4	口縁部は、やや外傾して立ち上がる複合口縁。肩部は、外方へ大きく肥厚して突出し、平直面をなす。口縁部下縁は、わずかに丸く凸出するが、丸味をもつて、腹部に片着。口縁部内面の段はゆるやか。	外側→ヨコナナ。内面→ヨコナナ。	密(1→2m大の石炭、長石を含む)。	良好	内外両共に黄褐色	F-33
S1 04 遺 構	h61	51	-	1301	①16.4m ② 4.2m ③ 2.7	口縁部は、外傾して立ち上がる複合口縁。肩部は、外方へ大きく肥厚して突出し、平直面をなす。口縁部下縁は、丸く突出し、腹部に至るが、口縁部内面の段はゆるやか。	外側→口縁部→腹部ヨコナナ。内面→口縁部→腹部ヨコナナ。	やや中硬(1→2m大の石炭、長石を含む)。	良好	内面→淡黄褐色 外面→灰白色	F-3
S1 04 遺 構	h62	51	25	996 1056	①17.0m ② 3.7m ③ 2.4	口縁部は、外反斜部に外傾して立ち上がる複合口縁。肩部は、ゆるやかに外傾する平直面をなす。内面と外側の縁がやや異なる凹凸がある。特に外側の縁は、外方へ突出して丸味をもつ。下部縁は、段状になっている。口縁部内面の段はゆるやか。	外側→ヨコナナ。内面→ヨコナナ。	密(石炭、クワソメを含む)。	やや不良	内外両共に淡黄褐色	口縁部に腐食して5箇所あり、スズ付着。 NA-16
S1 04 遺 構	h63	51	-	879	①16.5m ② 3.9m ③ 2.5	口縁部は、外反斜部に外傾して立ち上がる複合口縁。肩部は、外傾する平直面をなす。丸味もつて腹部に至る。口縁部内面の段はゆるやか。	外側→ヨコナナ。内面→ヨコナナ。	やや中硬(石炭、長石、クワソメを含む)。	良好	内外両共に黄褐色	NA-17
S1 04 遺 構	h64	51	-	976 876	①18.0m ② 3.5m ③ 2.4	口縁部は、ほぼ直立する複合口縁。肩部は、内方へ肥厚して突出し、わずかに凸出する。口縁部下縁は、わずかに突出し、丸味をもつて腹部に至る。口縁部内面の段は不明瞭。	外側→口縁部は狭いヨコナナ。内面→ヨコナナ。	やや中硬(1→4m大の石炭、長石を含む)。	良好	内外両共に黄褐色	F-12
S1 04 遺 構	h65	51	-	876	①15.4m ② 3.6m ③ 2.5	口縁部は、外傾して立ち上がる複合口縁。肩部は、外方へ突出して突出し、外傾する平直面をなす。口縁部下縁は、わずかに突出し、丸味をもつ。	外側→ヨコナナ。内面→ヨコナナ。	やや中硬(1→3m大の石炭、長石を含む)。	良好	内外両共に近い褐色	F-113
S1 04 遺 構	h66	51	25	1220 1217	①16.3m ② 3.8m ③ 2.2	外反斜部に外傾して立ち上がる複合口縁。肩部は、外傾した平直面をなす。肩部は、ゆるやかに外傾して突出し、丸味をもつ。口縁部下縁は、外方へ突出し、丸味をもつ。口縁部内面の段は不明瞭。	外側→ヨコナナ。肩部が直線的。内面→ヨコナナ。	やや中硬(クワソメ、石炭を含む)。	良好	内外両共に黄褐色	外側に腐食あり。 NA-2
S1 04 遺 構	h67	51	25	1017 1005 1022 1064	①15.0m ② 4.6m ③ 2.5	口縁部は、外反斜部に外傾して立ち上がる複合口縁。肩部は、外側に肥厚して外傾した平直面をなす。肩部は、ゆるやかに外傾して突出し、丸味をもつ。口縁部下縁は、外方へ突出し、丸味をもつ。口縁部内面の段は不明瞭。	外側→ヨコナナ。内面→ヨコナナ。	密(石炭、長石を含む)。	良好	内外両共に黄褐色	NA-1

挿表8 宇谷第1遺跡出土土器観察表 ⑥

出土遺構	土器番号	探検	図紙	取上番号	法眼(m)	形 態 上 の 特 徴	手 法 上 の 特 徴	胎 土	焼成保存	色 別	附 考
S1 03 竪	P68	51	-	1262	①15.6W ② 3.7A ③ 2.7	口縁部は、外反突縁に外縁して立ち上がる複合口縁。縁部は、全平な平直面で、外縁の縁の下が外へ出てわずかに突出している。口縁部下縁は、鋭くなっており、外へ突出している。口縁部内面の段はゆるやかである。	外歪→ヨコナテ。内面→ヨコナテ。	やや軟(石灰、長石を含む)。	良好	内外歪共に淡黄褐色	NA-52
S1 03 竪	P69	51	-	1283	①15.4W ② 3.7A ③ 2.9	口縁部は、外縁して立ち上がる複合口縁。縁部は、外方へ肥厚して突出し、外縁する平直面をなす。口縁部下縁は、鋭く突出し、丸味をもって縁部に至る。口縁部内面の段はゆるやかである。	外歪→強いヨコナテ。内面→ヨコナテ。	重(1~2mm大の石灰、長石を含む)。	良好	外歪→灰褐色 内面→淡緑褐色	P-117
S1 03 竪	P70	51	-	879	①16.0W ② 3.1A ③ 2.5	口縁部は、外方へ肥厚して立ち上がる複合口縁。縁部は、外方へ肥厚して突出し、外縁する平直面をなす。口縁部下縁は、わずかに突出し、丸味をもって縁部に至る。	外歪→丸化が著しいヨコナテ。内面→ヨコナテ。	やや軟(1~2mmの石灰を含む)。	良好	内外歪共に淡褐色	F-110
S1 03 竪	P71	51	25	402	①14.0W ② 3.7A ③ 2.6	口縁部は、外縁して立ち上がる複合口縁。縁部は、内方へ肥厚して突出する。口縁部下縁は、鋭く突出し、丸味をもって縁部に至る。口縁部内面の段は明確。	外歪→口縁部→縁部ヨコナテ。内面→口縁部→縁部ヨコナテ。	重(1mm大の長石を含む)。	良好	内外歪共に淡黄褐色	口縁部外縁にスズ付着。内面→黒色。P-121
S1 03 竪	P72	51	25	1251	①15.3W ② 4.3A ③ 2.4	口縁部は、外反突縁に外縁して立ち上がる複合口縁。口縁部下縁は、丸味を帯びていて、外縁の縁部が肥厚している。口縁部内面の段は不明瞭。	外歪→ヨコナテ。内面→ヨコナテ。	重(石灰、長石を含む)。	良好	外歪→淡黄褐色 内面→黄褐色	NA-3
S1 03 竪	P73	51	25	1097	①13.3W ② 3.5A ③ 2.0	口縁部は、外反突縁に外縁して立ち上がる複合口縁。縁部は、肥厚してわずかに外へ突出し、外縁する平直面をなす。口縁部下縁は、外方へ突出し、丸味をもって縁部に至る。口縁部内面の段はゆるやかである。	外歪→ヨコナテ。内面→ヨコナテ。	やや軟(石灰を含む)。	良好	内外歪共に淡黄褐色	NA-5
S1 03 竪	P74	51	25	400	①14.4W ② 3.7A ③ 2.65	口縁部は、内歪りや外縁して立ち上がる複合口縁。口縁部は、外方へ突出し、平直面をなす。口縁部下縁は、外方へ突出するが、鋭く丸味をもつ。口縁部内面の段はゆるやかである。	外歪→口縁部はヨコナテ。特に口縁部下縁は強い凸の曲線によって際だたせる。内面→ヨコナテ。	重(1~2mmの石灰を含む)。	良好	外歪→淡黄褐色 内面→褐色	KN-8
S1 03 竪	P75	52	-	1174	①18.0W ② 3.8A ③ 2.5	口縁部は、外縁して立ち上がる複合口縁。縁部は、内方外縁に肥厚し、外縁する平直面をなす。口縁部下縁は、鋭く突出し、丸味をもって縁部に至る。口縁部内面の段はゆるやかである。	外歪→口縁部→縁部ヨコナテ。内面→ヨコナテ。	重(1~2mm大の石灰、長石を含む)。	良好	内外歪共に褐色	F-26
S1 03 竪	P76	52	25	985	①18.1W ② 3.8A ③ 2.65	口縁部は、外縁して立ち上がる複合口縁。口縁部下縁は、外方へ突出し、外縁する平直面をなす。口縁部下縁は、外方へ突出するが、やや丸味をもつ。口縁部内面の段はゆるやかである。	外歪→口縁部ヨコナテ。内面→口縁部ヨコナテ。口縁部上半に粘土の接合痕がある。	重(1~2mmの石灰を含む)。	良好	外歪→淡黄褐色 内面→暗黄褐色	外歪に黒色。KN-2
S1 03 竪	P77	52	-	1266	①16.3W ② 3.7A ③ 2.3	口縁部は、外縁して立ち上がる複合口縁。縁部は、外方へ肥厚して突出し、外縁する平直面をなす。口縁部下縁は、わずかに突出し、丸味をもって縁部に至る。口縁部内面の段はゆるやかである。	外歪→口縁部→縁部強ヨコナテ。内面→口縁部は強いヨコナテ。	やや軟(1~2mm大の石灰、長石を含む)。	良好	外歪→淡黄褐色 内面→淡緑褐色	F-9
S1 03 竪	P78	52	25	978	①16.0W ② 3.6A ③ 2.8	口縁部は、外縁して立ち上がる複合口縁。縁部は、外方へ大々肥厚して突出し、外縁する平直面をもつ。内面へわずかに肥厚する。口縁部下縁は、わずかに突出し、丸味をもって縁部に至る。口縁部内面の段はゆるやかである。	外歪→口縁部→縁部ヨコナテ。内面→口縁部ヨコナテ。	重(1~2mm大の石灰、長石を含む)。	良好	内外歪共に淡褐色	口縁部縁部に黒色。F-6
S1 03 竪	P79	52	-	1070	①15.7W ② 3.5A ③ 2.5	口縁部は、外縁して立ち上がる複合口縁。縁部は、外反し外側に肥厚し、やや内へは出ていない。口縁部下縁は、丸味をもって、縁部に至る。口縁部内面の段はゆるやかである。	外歪→ナテ。内面→ヨコナテ。	やや軟(ワム、石灰を含む)。	良好	外歪→淡黄褐色 内面→黄褐色	NA-69
S1 03 竪	P80	52	-	1067	①16.4W ② 3.4A ③ 2.6	口縁部は、外方へ肥厚して立ち上がる複合口縁。縁部は、外方へ肥厚して突出し、平直面をなす。口縁部下縁は、鋭く突出し、丸味をもって縁部に至る。口縁部内面の段はゆるやかである。	外歪→ヨコナテ。内面→ヨコナテ。	重(1~2mm大の石灰、長石を含む)。	良好	内外歪共に淡褐色	F-122
S1 03 竪	P81	52	25	918	①16.0W ② 3.5A ③ 2.5	口縁部は、外反突縁に外縁して立ち上がる複合口縁。縁部は、外反し外側に肥厚し、やや内へは出ていない。口縁部下縁は、丸味をもって、縁部に至る。口縁部内面の段はゆるやかである。	外歪→ヨコナテ。内面→ヨコナテ。	重(石灰、長石、クロウキを含む)。	良好	内外歪共に暗褐色	口縁部内面の一段が黒色。NA-15
S1 03 竪	P82	52	-	977	①15.7W ② 3.5A ③ 2.5	口縁部は、外縁して立ち上がる複合口縁。縁部は、外反し外側に肥厚し、外縁する平直面をなす。口縁部下縁は、鋭く突出し、丸味をもって縁部に至る。口縁部内面の段はゆるやかである。	外歪→強いヨコナテ。内面→ヨコナテ。	重(1mm大の石灰を含む)。	良好	内外歪共に淡褐色	口縁部縁部に黒色。F-123
S1 03 竪	P83	52	25	978	①15.3W ② 3.3A ③ 2.3	口縁部は、やや外縁して立ち上がる複合口縁。縁部は、外方へ肥厚してわずかに外へ突出し、外縁する平直面をなす。口縁部下縁は、鋭く突出する。口縁部内面の段はゆるやかである。	外歪→ヨコナテ。内面→ヨコナテ。	重(1~2mm大の石灰を含む)。	良好	内外歪共に淡黄褐色	F-121
S1 03 竪	P84	52	25	1068	①15.0W ② 4.4A ③ 2.8	口縁部は、外縁して立ち上がる複合口縁。縁部は、内方外縁に肥厚して突出し、外縁する平直面をもつ。口縁部下縁は、鋭く突出し、やや内へは出ていない。口縁部内面の段はゆるやかである。	外歪→ヨコナテ。内面→ヨコナテ。	やや軟(1~2mm大の石灰、長石、クロウキを含む)。	良好	内外歪共に淡黄褐色	F-95
S1 03 竪	P85	52	-	1070	①15.3W ② 3.5A ③ 2.5	口縁部は、やや外縁して立ち上がる複合口縁。縁部は、外反して外側に肥厚し、外縁する平直面をなす。口縁部下縁は、外方へ突出し、丸味をもって縁部に至る。口縁部内面の段はゆるやかである。	外歪→ナテ。内面→ナテ。	やや軟(石灰、長石を含む)。	良好	外歪→黄褐色 内面→淡黄褐色	縁部がやや黒くなっている。NA-68
S1 03 竪	P86	52	-	385	①15.0W ② 3.6A ③ 2.5	口縁部は、やや内縁して立ち上がる複合口縁。縁部は、肥厚し、凹線が深まる。口縁部下縁は、よく丸く丸味をもって、縁部に至る。口縁部内面の段はゆるやかである。	外歪→口縁部強いヨコナテ。口縁部下縁→縁部ヨコナテ。内面→強いヨコナテ。	重(1mmの石灰を含む)。	良好	内外歪共に明褐色	F-11
S1 03 竪	P87	52	-	978	①13.5W ② 3.6A ③ 2.8	外縁するが立ち上がる複合口縁。縁部は、ほぼ全平な平直面をなす。縁部は、やや内へは出ていない。口縁部は外側に肥厚する。縁部は、鋭くなっており丸く丸味をもって、縁部に至る。口縁部内面の段はゆるやかである。	外歪→ナテ。内面→ナテ。	やや軟(石灰、ワムを含む)。	良好	外歪→淡黄褐色 内面→淡黄褐色	口縁部下縁部にスズ付着。NA-67
S1 03 竪	P88	52	-	976	①16.0W ② 3.3A ③ 2.4	口縁部は、外縁して立ち上がる複合口縁。縁部は、外方へ大々肥厚して突出し、外縁する平直面をなす。口縁部下縁は、外方へ突出し、丸味をもって縁部に至る。口縁部内面の段は不明瞭。	外歪→ヨコナテ。内面→ヨコナテ。口縁部下縁に粘土の接合痕がある。	重(1~2mm大の石灰、長石を含む)。	良好	外歪→淡黄褐色 内面→淡黄褐色	口縁部外縁に黒色。F-31

挿表9 宇谷第1遺跡出土土器観察表 ④

出土遺物	土器番号	種類	図版	存上番号	寸法(㎝)	形 態 上 の 特 徴	手 法 上 の 特 徴	胎 土	焼成保存	色 調	備 考
S103 壺	h89	52	25	1017	①14.6㎝ ②4.9㎝ ③3.5	口縁部は、外壁が内側に傾くようになり上は丸みが出ている。頸部は、外壁に傾く。下部は、やや下進している。口縁部内面の色は不明瞭、口縁下部から腹部にかけて肥厚している。	外壁…口縁部は平直で腹が膨らむ。胎土…口縁部…腹部…コナテ。	やや粗(石灰、土質)	良好	内外両面に赤褐色	外壁…黒褐色、NA-10
S103 壺	h90	52	25	404	①3.6㎝ ②2.1㎝	やや外傾して立ち上がる縁状口縁をもつ。頸部は、内側に傾く。口縁部内面は不明瞭。	外壁…7.5以上の平直な腹。胎土…コナテ。	密(赤褐色を余す)	良好	内外両面に赤褐色	F-168
S103 壺	h91	53	26	1201	①15.4㎝ ②2.2	口縁部は、やや内傾きに傾く。口縁部は、内側に傾き、内側する平面をもつ。頸部は、内側に傾き、中位にある。腹部は丸みである。	外壁…口縁部…頸部…腹部…コナテ。胎土…コナテ。胎土…コナテ。	密(1-2㎝の石灰を含む)	良好	内外両面に赤褐色	内面下部…黒褐色、コナテ…コナテ。
S103 壺	h92	53	26	1177	①15.2㎝ ②1.8	口縁部は、やや内傾きに傾く。口縁部は、内側に傾き、中位にある。頸部は、内側に傾き、最大径はほぼ中位にもつ。	外壁…口縁部…頸部…腹部…コナテ。胎土…コナテ。胎土…コナテ。	やや粗(1-5mmの石灰、長石を含む)	やや不良	内外両面に赤褐色	口縁部及び頸部…黒褐色、コナテ…コナテ、F-15
S103 壺	h93	53	26	802 454 1252	①16.2㎝ ②11.3㎝ ③2.0	外傾し立ち上がりは「く」字状口縁をもつ。頸部は、ほぼ水平な平面をもつ。口縁部は、やや内傾き、内側する平面をもつ。頸部は、中位にある。腹部は丸みである。	外壁…口縁部…頸部…腹部…コナテ。胎土…コナテ。胎土…コナテ。	やや粗(石灰、土質を含む)	やや不良	内外両面に赤褐色	NA-25
S103 壺	h94	53	26	1285	①17.5㎝ ②9.5㎝ ③2.5	口縁部は、外傾し立ち上がりは「く」字状口縁をもつ。頸部は、内側に傾き、内側する平面をもつ。頸部は、中位にある。腹部は丸みである。	外壁…口縁部…頸部…腹部…コナテ。胎土…コナテ。胎土…コナテ。	やや粗(石灰、土質を含む)	良好	内外両面に赤褐色	NA-13
S103 壺	h95	53	26	883 976 1066 1057 1237 1265	①15.5 ②18.0 ③2.2	口縁部は、ロート状に傾く。口縁部は、内側に傾き、内側する平面をもつ。頸部は、中位にある。腹部は丸みである。	外壁…口縁部…頸部…腹部…コナテ。胎土…コナテ。胎土…コナテ。	密(1-5mmの石灰を含む)	良好	内面…赤褐色	口縁部…黒褐色、NA-16
S103 壺	h96	53	26	380	①16.8㎝ ②7.5	口縁部は、やや内傾きに傾く。口縁部は、内側に傾き、中位にある。頸部は、内側に傾き、最大径はほぼ中位にもつ。	外壁…口縁部…頸部…腹部…コナテ。胎土…コナテ。胎土…コナテ。	密(1-2mmの石灰、長石を含む)	良好	内外両面に赤褐色	口縁部…黒褐色、F-18
S103 壺	h97	53	26	857 978 1068 1130	①16.2㎝ ②6.2	口縁部は、やや内傾きに傾く。口縁部は、内側に傾き、中位にある。頸部は、内側に傾き、最大径はほぼ中位にもつ。	外壁…口縁部…頸部…腹部…コナテ。胎土…コナテ。胎土…コナテ。	密(1-4mmの石灰を含む)	良好	内外両面に赤褐色	内外両面に赤褐色、KN-10
S103 壺	h98	54	27	385 367	①18.4 ②15.6 ③2.8	外傾し立ち上がりは「く」字状口縁をもつ。頸部は、内側に傾き、内側する平面をもつ。頸部は、中位にある。腹部は丸みである。	外壁…口縁部…頸部…腹部…コナテ。胎土…コナテ。胎土…コナテ。	密(石灰、土質を含む)	やや不良	内面…赤褐色	頸部の外面…黒褐色、NA-24
S103 壺	h99	54	27	1068 1156 1166	①14.0㎝ ②8.2	口縁部は、やや内傾きに傾く。口縁部は、内側に傾き、中位にある。頸部は、内側に傾き、最大径はほぼ中位にもつ。	外壁…口縁部…頸部…腹部…コナテ。胎土…コナテ。胎土…コナテ。	密(1-5mmの石灰、長石を含む)	良好	内外両面に赤褐色	口縁部…黒褐色、コナテ…コナテ、F-23
S103 壺	h100	54	-	1130 1315	①16.8 ②6.0	口縁部は、下平面にアクセントをもつが、内傾して外側に傾く。口縁部は、内側に傾き、内側する平面をもつ。頸部は、内側に傾き、中位にある。腹部は丸みである。	外壁…口縁部…頸部…腹部…コナテ。胎土…コナテ。胎土…コナテ。	密(1-3mmの石灰、長石を含む)	良好	内外両面に赤褐色	F-24
S103 壺	h101	54	-	977	①16.2	口縁部は、やや内傾きに傾く。口縁部は、内側に傾き、中位にある。頸部は、内側に傾き、最大径はほぼ中位にもつ。	外壁…コナテ。	密	良好	内外両面に赤褐色	口縁部…黒褐色、コナテ…コナテ、F-119
S103 壺	h102	54	-	379	①17.6	口縁部は、外傾し立ち上がりは「く」字状口縁をもつ。頸部は、内側に傾き、内側する平面をもつ。頸部は、中位にある。腹部は丸みである。	外壁…コナテ。	密(コナテを含む)	良好	内面…赤褐色	内外両面に赤褐色、コナテ…コナテ、NA-32
S103 壺	h103	54	-	1097 1229 1287	①15.4 ②2.3	肩が大きく張り、やや内傾とせざる頸部の傾き。	外壁…口縁部…頸部…腹部…コナテ。胎土…コナテ。胎土…コナテ。	密(1-3mmの石灰、長石を含む)	良好	内外両面に赤褐色	内外両面に赤褐色、コナテ…コナテ、F-106
S103 壺	h104	54	27	978 1260 1271 1272 1273 1274 1277	②5.6 ③2.3	頸の傾きである。頸部に大きく張り、最大径はほぼ中位にある。	外壁…コナテ。	密(1-5mmの石灰を含む)	良好	内面…赤褐色	内面…赤褐色、KN-65
S103 壺	h105	55	27	976	①16.3	頸に大きく張り、最大径はほぼ中位にある。	外壁…口縁部…頸部…腹部…コナテ。胎土…コナテ。胎土…コナテ。	密(1-2mmの石灰、長石を含む)	良好	内外両面に赤褐色	F-42

拝表10 宇奈第1遺跡出土土器観察表 ⑤

出土遺構 土器番号	層位	図面	取手 番号	出量(m)	形 態 上 の 特 徴	手 法 上 の 特 徴	胎 土	焼成保存	色 調	備 考
S I 03 突	h108	56	27	876	① 7.1Δ ② 0.2W	肩がなだらかな緩い傾部。 外面—傾部の縁線による羽状状文 が隆る。以下ヨコハテ。 内面—傾部内縁圧痕残る。以下右方向 のケズリ。	黄(石英、長石、 黒ウソを含む)。	良好	内面—明黄褐色 外面—淡黄褐色	NA-61
S I 03 突	h107	56	27	302	① 7.0Δ	ほぼ球形を呈す割断破片。 外面—ナテ。肩縁線による羽状状文あり。 内面—傾部には隆起痕残る。肩部以下 に右方向のケズリ。	黄(1~3mm大の 石英、長石を含む)。	良好	外面—淡黄褐色 内面—淡褐色	F-124
S I 03 突	h108	56	27	976	① 3.5Δ	なだらかな緩い傾部の破片。 外面—ヨコハテ。肩部に隆起が2ヶ所 あり。 内面—傾部には隆起痕残る。	黄(1~3mm大の 石英、長石を含む)。	良好	内外面共に淡黄 褐色	F-125
S I 03 突	h109	56	27	389 389 875 1239 1241	① 15.3Δ	胴部から胴部にかけての破片。肩はあまり隆 ない傾部を呈すものと思われる。 外面—傾部はヨコハテ。肩部以下に斜 方向のハヤ目。 内面—傾部はヨコハテ。肩部以下に右 方向のケズリ。	黄(1~7mm大の 石英、長石を含む)。	良好	外面—淡褐色 内面—淡褐色	外面胴部以下 スチ付着。 F-110
S I 03 突	h110	56	27	494	① 5.3Δ ② 2.2ΔW	肩がなだらかな緩い傾部。 外面—傾部—傾部にナテ。胴部上部に ヘツ工具による刻文。胴部 中央にヨコハテ。 内面—傾部—傾部上部にナテ。胴部上 部に斜方向のハヤ目。	やや粗(長石、石 英を含む)。	良好	内面—明黄褐色 外面—淡黄褐色	外面にスチ 付着。 NA-60
S I 03 突	h111	56	-	1285	① 9.8Δ	肩部が大きく張り、ほぼ球形を呈す割断破片。 外面—傾部—傾部へのケズリナテ。 内面—傾部には隆起痕残る。肩部以下 に右方向のケズリ。	やや粗(1~3mm 大の石英、長石 を多く含む)。	良好	内面—淡灰褐色 外面—淡黄褐色	外面下中に スチ付着。 F-109
S I 03 突	h112	56	-	367	① 8.8Δ	肩が大きく張り、ほぼ球形を呈すと思われる割 断破片。 外面—傾部はヨコハテ。ナテ。肩部以 下にヨコハテ後斜方向のハヤ 目。 内面—傾部—傾部上部にナテ。肩部以下 に右方向のケズリ。	黄(1~3mm大の 石英、長石を含む)。	良好	内外面共に淡黄 褐色	F-107
S I 03 突	h113	56	-	1198 1199	① 11.6Δ	傾部を呈すと思われる割断破片。 外面—ヨコハテナテナテナテ。 内面—傾部以下に右方向のケズリ。	やや粗(1~4mm 大の石英、長石 を含む)。	良好	内外面とも淡黄 褐色	外面胴部以下 スチ付着。 F-101
S I 03 突	h114	56	-	976	① 12.2Δ ② 0.4W	肩部があまり張らない。球形の胴部。最大径は ほぼ中心位であると思われる。 外面—傾部はヨコハテ。胴部下中に以下 に右方向のハヤ目。 内面—傾部はナテ。肩部以下に右方向 のハヤ目。所々に隆起痕残る。	黄(1~3mm大の 石英、長石を含む)。	良好	内外面共に黄褐 色—淡黄褐色	F-43
S I 03 突	h115	56	-	941 942 943 976 1047 1068 1185	① 8.8Δ	肩部が大きく張り、球形を呈す割断破片。 外面—傾部以下にヨコハテ。肩部以下 に右方向のケズリ。	黄(1~3mm大の 石英、長石を含む)。	良好	外面—淡褐色 内面—淡褐色	外面外部に 隆起。胴部 以下スチ付 着。 F-100
S I 03 胴部	h116	56	-	989	① 6.2Δ ② 0.0W	「く」の字状に直線する縁部につづく、ゆるやかな 傾部をもつた胴部。 外面—タテナテ後—ヨコハテ。 内面—傾部—傾部にナテ。上部のやや下 でケズリ後のナテと隆起痕 残る。中央部付近にハヤ目あり。	やや粗(石英、長 石を含む)。	良好	内外面共に黄褐 色	NA-11
S I 03 突	h117	56	-	904 1128 1129 1173	① 11.0Δ ② 0.2W	ほぼ球形を呈す突部。ほぼ中心に最大径をも つ。 外面—傾部—傾部の粗いハヤ目。 内面—傾部には隆起痕残る。肩部以下 に右方向のケズリ。	黄(1~4mm大の 石英、長石を含む)。	良好	内外面共に黄褐 色	外面外部に スチ付着。 F-178
S I 03 突	h118	56	-	1292	① 7.4Δ	破断部の破片。肩はあまり張らない。 外面—傾部付近にタテナテ後ナテナテナテ。 内面—傾部以下にヨコハテ後ナテナ テ。 内面—傾部にナテ。肩部以下に右方向 のケズリ。	黄(1mm大の石英 、長石を含む)。	良好	外面—灰色 内面—淡褐色	F-99
S I 03 中突	h119	56	27	881 1022 1296	① 13.0Δ ② 8.0Δ ③ 16.6W	口縁部は、ゆるやかに内径して外方へ開く「く」 の字状口縁。縁部は、内方へ肥厚し、内径する 平底面を全す。胴部は球形に大きく張る。 外面—口縁部はヨコハテ。肩部に前方 へつぎナテナテナテ。肩部以下に 粗いハヤ目。胴部以下に 内面—口縁部はヨコハテ。肩部に後方 に隆起痕残る。肩部以下に右 方向のケズリ。	黄(1~3mm大の 石英、長石を含む)。	良好	内外面共に黄褐 色	F-35
S I 03 突	h120	56	-	1045 1130	① 14.0Δ ② 6.5Δ	口縁部は、やや内径して外方へ開く「く」の字状 口縁。縁部は、肥厚し内径する平底面を全す。 胴部は大きく張るものもか。 外面—口縁部—傾部にはヨコハテ。 内面—口縁部—傾部にヨコハテ。肩部 以下に斜方向のケズリ後ヨコハ テ。	黄(1mm大の石英 を含む)。	良好	内外面共に灰色	口縁部内 面にスチ付 着。外面 外部にスチ 付着。 F-22
S I 03 突	h121	56	28	977 1180	① 11.0Δ ② 6.5Δ	口縁部は、やや内径するに開く「く」の字状口縁。 縁部は、内径に肥厚し、内径する平底面を全す。 胴部は大きく張る。 外面—口縁部—傾部にはヨコハテ。 内面—口縁部—傾部にヨコハテ。肩部 以下に右方向のケズリ。 胴部には隆起痕残る。肩部以 下に右方向のケズリ。	黄(1~4mm大の 石英、長石を含む)。	良好	内外面共に黄褐 色	口縁部—傾 部にスチ付 着。 F-16
S I 03 突	h122	56	28	877 877 1068 1276	① 11.4W ② 12.8Δ ③ 13.8Δ	口縁部は、内径して外方へ開く「く」の字状口縁。 縁部は、内径して外方へ開く。胴部は「く」 の字状に急がり、胴部へつづく。胴部中央付近 で最大径をとる。 外面—口縁—傾部が隆起。胴部上半 に右方向のケズリ。 内面—口縁—傾部が隆起。胴部上半 に隆起痕が最大。胴部下中に ハヤ目あり。	やや粗(ウソを 含む)。	やや不良	内外面共に黄褐 色	胴部にスチ 付着。 NA-23
S I 03 突	h123	56	28	990 1213 1285	① 11.6Δ ② 14.2Δ	口縁部は、やや内径するに開く「く」の字状口縁。 縁部は、内径に肥厚し、内径する平底面を全す。 胴部は大きく張る。そのまき丸部をもつ胴部に至る 最大径は中心位以上にある。 外面—口縁部はヨコハテ。肩部—傾部 にはヨコハテの浅ヨコハテ。以下傾 方向のハヤ目。 内面—口縁部はヨコハテ。肩部に隆起 痕残る。以下左方向のケズリ。 口縁部上半に粗いハヤ目あり。	黄(1~3mmの石 英を含む)。	良好	内面—明黄褐色 外面—暗褐色	KN-17
S I 03 突	h124	56	-	396 378 598 1087 1139 1300	① 12.9Δ ② 5.4Δ	口縁部は、外径しながら立ち上がり、字状口 縁。縁部は、内径する。粗いハヤ目。胴部は「く」 の字状に急がり、胴部へつづく。胴部中央付近 で最大径をとる。 外面—口縁部—傾部にナテ。胴部が著 しく丸くなる。 内面—口縁部—傾部にナテ。胴部に傾 方向のケズリ。風化が著しい。	やや粗(石英を 含む)。	不良	淡黄褐色	NA-79
S I 03 突(口縁)	h125	56	-	977	① 13.8W ② 5.3Δ	外縁して立ち上がり「く」の字状口縁。縁部は、 内径する平底面を全す。胴部はゆるやかに丸 はっている。口縁は中央よりやや下で、肥厚し ている。胴部は「く」字状に直線してあり、下の 方が丸くなる。 外面—ナテ。 内面—口縁部ナテナテ。肩部にハヤ目あり。	黄(ウソを含む)。	良好	内外面共に黄褐 褐色	NA-19
S I 03 突	h126	57	-	1229	① 15.8Δ ② 3.7Δ	わずかに内径して外方へ開く「く」の字状口縁。 縁部はやや外径し丸くなる。 外面—ヨコハテ。 内面—ヨコハテ。	黄(1~5mm大の 石英を含む)。	良好	内外面共に黄褐 色	F-118

押表11 宇谷第1遺跡出土土器観察表 ⑧

出土遺構	土器番号	種別	図番	取上番号	法高(m)	形態上の特徴	手法上の特徴	胎土	焼成保存	色調	備考	
S103	h127	57	-	875 977	①16.2# ②3.1A	口縁部は、やや内傾して外方へ開く「く」字状口縁。肩部は、内方へ肥厚し、内傾する平坦面をなす。	外側→ヨコナデ。 内側→ヨコナデ。	灰	良好	外側→淡褐色 内側→淡黄褐色	口縁部外側に 黒色付着。 F-129	
S103	h128	57	-	864	①13.4# ②3.4A	口縁部は、外傾して立ち上がり「く」字状口縁。肩部は、ほぼ水平な平坦面をもち、肩縁は、やや角ばっている。口縁下部は内方へと湾入する。肩部内面に凹凸がある。	外側→ナデ。 内側→ナデ。	黄(石灰、炭ウツモを含む)。	良好	内外両面に淡黄褐色	NA-9	
S103	h129	57	-	977	①14.0# ②3.0A	口縁部は、内傾して外方へ開く「く」字状口縁。肩部は、やや内側へ肥厚し内傾する平坦面をなす。	外側→ヨコナデ。 内側→ヨコナデ。	黄(1mmの石英長石を含む)。	良好	内外両面に淡褐色	F-30	
S103	h130	57	-	1316	①13.9# ②3.2A	口縁部は、外反斜めに外傾して立ち上がり「く」字状口縁。肩部は、大きく外方へと湾入して斜上方向へ引込まれている。口縁部内側の段はゆるやか。口縁部では、中央付近に肥厚部がある。	外側→ヨコナデ。 内側→ヨコナデ。	黄(長石を含む)。	良好	内外両面に明褐色	NA-4 F-10	
S103	h131	57	-	1195	①14.0# ②2.8A	口縁部は、やや外反し外方へ開く「く」字状口縁。肩部は、内側へ肥厚し、内傾する平坦面をなす。	外側→一風化しているがヨコナデ。 内側→ヨコナデ。	やや粗(1~2mmの石英、長石を多量に含む)。	良好	内外両面に淡褐色	F-29	
S103	h132	57	-	401	①10.4# ②4.0# ③3.2	口縁部は、内傾して外方へ開く「く」字状口縁。肩部は、外側に向かかってゆるやかに立ち上がり丸味をもつ。下部は、斜になっており実定している。口縁部内側の段は不明瞭。	外側→ナデ。 内側→ナデ。	黄(長石、炭ウツモを含む)。	良好	内外両面に黄褐色	NA-66	
S103	h133	57	-	371 447 977	①13.6# ②3.1A	口縁部は、外反斜めに外傾して立ち上がり「く」字状口縁。肩部は、内方へ肥厚し、内傾した平坦面をなす。	外側→ヨコナデ。 内側→ヨコナデ。	やや粗(石灰、1~2mmの長石を含む)。	良好	内外両面に褐色	NA-18	
S103	h134	57	-	1067	①12.0# ②3.1A	口縁部は、やや内傾して外方へ開く「く」字状口縁。肩部は、外傾する平坦面をなし、肩縁が高くなる。	外側→ヨコナデ。 内側→ヨコナデ。	黄(1~3mmの石英、長石を含む)。	良好	内外両面に淡褐色	F-31	
S103	h135	57	-	1193	①13.0# ②3.2A	口縁部は、やや内傾するように外方へ開く「く」字状口縁。肩部は、外傾する平坦面をなし、肩縁がゆるくなる。	外側→ヨコナデ。 内側→ヨコナデ。	黄(1mmの石英、長石を含む)。	良好	内外両面に淡褐色	F-28	
S103	小型壺	h136	57	-	1141	①10.2#	口縁部一肩部の破片。口縁部は、やや内傾して大きく外方へ開き、肩部は、内方へ肥厚し、内傾する平坦面をなす。肩部は大きく盛り上がるものと見られる。	外側→口縁部ヨコナデ。 内側→一風化のために陶質不明。	黄	やや不良	内外両面に褐色	F-109
S103	h137	57	-	481 1150	①14.6# ②3.1A	口縁部は、外反斜めに外傾して立ち上がり「く」字状口縁。肩部は、大きく内傾する平坦面をなす。口縁下部から下を欠けている。	外側→ヨコナデ。 内側→ヨコナデ。	やや粗(石英、長石を含む)。	良好	内外両面に褐色	NA-9	
S103	h138	57	-	1057	①11.4# ②3.2A	口縁部は、内反斜めに外傾して立ち上がり「く」字状口縁。肩部は、丸味をおびており、やや内傾している。	外側→ナデ。 内側→ナデ。	黄(黒ウツモ、石灰を含む)。	良好	内外両面に淡褐色	NA-53	
S103	h139	57	-	957	①13.4# ②2.8A	口縁部は、外傾して立ち上がる口縁。肩部は、内傾して斜の縁部がゆるやかに上がる段状である。肩部の縁はわずかに丸みをおびている。口縁の厚さは、肩部の下がくびれて、口縁中央部の肥厚し、下方はゆるくなる。	外側→ナデ。 内側→ナデ。	黄(ウツモ、長石を含む)。	良好	外側→淡褐色 内側→淡黄褐色	NA-64	
S103	小型壺(胴部)	h140	57	-	983 1150	①2.4# ②15.2A	胴部の厚はゆるやか。厚も一定。	外側→一肩部にヨコナデ。以下ケズリ。	黄(長石を含む)。	良好	内外両面に明褐色	NA-56
S103	小型壺	h141	57	-	1146	①2.7#	大きく盛り上がる小型壺の胴部。	内外両面とも風化のため陶質不明。	やや不良	外側→褐色 内側→淡褐色	F-105	
S103	h142	57	28	905 908 1048 1280	①8.6# ②13.4	小型の破片又は白磁の破片片。肩縁が盛り最大は中位以上にある。	外側→一肩部にナデ。胴部にケ目。 内側→一肩部に隆起部散在。以下左方向のヘラケズリ。	黄(1~2mmの石英を含む)。	やや不良	内外両面に褐色	胴部外側にスチ付着。 KN-14	
S103	直口壺	h143	57	28	392	①12.8# ②12.7# ③14.3#	口縁部は、長く、外傾して立ち上がる。肩部は、丸く収められる。胴部は段状になるもののみ。	外側→口縁部一肩部にヨコナデ。 内側→口縁部一肩部にヨコナデ。口縁部下半に段状のナデ。肩部以下にヘラケズリナデ。	黄(1~4mmの石英、長石、炭ウツモを含む)。	良好	内外両面に淡褐色	F-25
S103	直口壺	h144	57	28	1047 1068 1279 1281	①11.6 ②5.5A	直口壺の口縁である。口縁部は、下で内傾して立ち上がり、上半でやや外反する。肩部は、丸縁りし、丸味を持つ。	外側→ヨコナデ。 内側→ナデ。	黄(1mmの長石を含む)。	良好	内側→淡褐色 一褐色 外側→褐色	NA-19
S103	直口壺	h145	57	-	808 976	①11.0# ②4.5A	外傾して立ち上がり「く」字状口縁をもつ。肩部は、ややすくなく、わずかに丸味をおびている。口縁部内側の段は不明瞭。	外側→ヨコナデ。 内側→ナデ。	やや粗(長石、石灰、ウツモを含む)。	良好	内外両面に明褐色	NA-21
S103	胴部	h146	57	-	365 404 927 1276	①9.5# ②15.4#	直口壺の胴部である。胴部は隆起に隆る。	外側→ナデ。 内側→上半にナデ後、後段隆起が隆る。左方向と下方にケズリ。	黄(長石、石灰、炭ウツモを含む)。	良好	外側→淡褐色 内側→淡黄褐色	NA-22
S103	胴部	h147	57	-	1251	①9.7# ②15.0	胴部は中央付近でゆるやかに隆起する。最大径は中央付近。厚さは、ほぼ一定だが、胴部上半と下半がやや肥厚部がある。	外側→一肩部に上半→中央部にやや下方にナデ。胴部下はヘラミガキ。 内側→一隆起部ナデ。肩部に隆起部が隆る。中央部→下半は左方向のヘラケズリ。胴部下部に隆起部が隆る。	黄(長石を含む)。	良好	外側→淡褐色 内側→淡黄褐色	外側下部にスチ付着。 NA-57
S103	大型高杯	h148	58	29	976 1202 1205 1251	①23.3 ②12.4 ③13.8	杯部は、底部から隆起して、外方へ直線的にひろがる。肩部は、外傾してわずかに肥厚する。口縁部と肩部との境には明確な段がある。肩部は、中央で強く直線的にひろがり隆起して大きく開く。口縁部と肩部との境に明確な段をもつ。全体の半分以下欠損。	外側→一隆起に押圧による段がある。杯部上半に隆起方向のミガキ。下半→杯部にナデや丸味隆起が隆る。内側→一隆起に斜めヨコナデ。杯部にヨコナデ後、斜め内方へ、肥厚部ナデ。肩部が肥厚する。杯部下へ一隆起ナデ。	黄(1~4mm石英を含む)。	良好	内外両面に淡褐色	KN-25
S103	h149	58	-	361 917	①24.0# ②12.5# ③12.9#	杯部は、底部から隆起して外方へ直線的にひろがる。肩部は、やや外反し、わずかに肥厚して段をなす。肩部は、中央で強く直線的にひろがり、杯部で大きく開く。口縁部と肩部との境に明確な段をもつ。全体の半分以下欠損。	外側→一隆起に押圧による段がある。杯部にナデ、段のところに段がある。隆起部にナデナデ。以下ナデ。杯部は斜め内方へ隆る。内側→杯部にミガキ隆起が隆る。以下ナデ。	黄(1~2mmの石英を含む)。	良好	内外両面に淡褐色	NA-4	

附表12 宇谷第1遺跡出土土器観察表 ⑦

出土遺物	土器番号	種類	図版	取上番号	位置(m)	形 態 上 の 特 徴	手 法 上 の 特 徴	胎 土	焼成状況	色 調	備 考
S103 高杯	h171	60	31	300 1159 1236	①17.5m ②10.5m	杯部は、浅い皿状を呈す。底部は、やや外反し丸く収められる。脚部は、直線的にやや開く。	外面→杯部にコナテ。脚部結合部はテハナテ。脚部は風化のため割裂有り。杯部外側に割裂痕有り。内面→杯部に縦方向のミダテ。脚部にシヨリ目残る。	黒(1-2mm大の石灰を含む)	良好	内外共に淡褐色	F-54
S103 高杯	h172	60	-	384 1250 1291	①18.0m ②10.2m	杯部は、浅い皿状を呈す。底部は、丸く収められる。脚部は、直線的に開く。	外面→風化のため割裂不詳。杯部外側に割裂痕有り。内面→杯部にシヨリ目残る。	やや暗(1-2mm大の石灰、灰石を含む)	やや不良	内外共に淡褐色	F-58
S103 高杯	h173	60	31	875 976	⑦7.5m	杯部→断面の破片。杯部は、浅い皿状を呈すものの、脚部は、直線的に開く。	外面→コナテナテ。杯部外側に割裂痕有り。内面→杯部ナテ。脚部にシヨリ目残る。	黒(1-2mm大の石灰、灰石を含む)	良好	内外共に淡褐色	F-107
S103 高杯	h174	60	31	1179	⑨9.3m	杯部は、大半を欠くが、浅い皿状を呈す。脚部は、直線的に開く。	外面→杯部は風化のため割裂不詳。脚部結合部はコナテナテ。脚部は割裂有り。杯部外側に割裂痕有り。内面→杯部は風化のため割裂不詳。脚部ナテにシヨリ目残りフデは不十分で直線的。	黒(1-3mm大の石灰、灰石を含む)	良好	内外共に淡褐色	F-102
S103 高杯	h175	60	31	361 987 1146 1180	⑩10.5m ④9.6	浅い碗状の杯部をもつ。脚部は、やや直線的にひろがり、底部は大きくひろがる。	外面→杯部上縁に割裂。杯部結合部はコナテナテ。脚部にシヨリ目残る。内面→杯部に縦方向のミダテ。脚部にシヨリ目残る。	黒(1-2mm大の石灰を含む)	良好	内外共に淡褐色	KN-24
S103 高杯	h176	60	31	1232	⑪11.2m ④9.2	浅い碗状の杯部をもつ。脚部は、やや直線的にひろがり、底部は大きくひろがる。	外面→杯部にコナテナテ。脚部→脚部ナテ。杯部結合部はコナテナテ。脚部は割裂有り。内面→杯部に縦方向のミダテ。脚部にシヨリ目残る。	黒(1-2mm大の石灰を含む)	良好	内外共に淡褐色	KN-31
S103 高杯	h177	60	31	1150	⑧8.5m ⑤9.0m	杯部はほとんど欠くが、碗状に呈すもの。脚部は、直線的に開き、底部が大きく広がる。	外面→杯部は縦方向にコナテ。杯部は丁字ナテ。杯部外側に割裂痕有り。内面→杯部上縁部にシヨリ目残り。脚部は直線的に開く。	暗(1mm大の石灰、灰石をわずかに含む)	良好	内外共に淡褐色	F-56
S103 高杯	h178	60	31	1191	⑨9.2m ⑤9.8m	杯部は、大半を欠く。脚部は、直線的に開き、底部が大きく広がる。	外面→杯部は風化のため割裂不詳。杯部結合部はコナテナテ。脚部は直線的に開く。内面→杯部は風化のため割裂不詳。脚部ナテにシヨリ目残る。	黒(1-3mm大の石灰、灰石を含む)	やや不良	内面→暗褐色 外面→暗褐色	F-65
S103 高杯	h179	60	31	404 1287	⑨9.8m ⑤9.0m	杯部は、大半を欠くが、碗状に呈すもの。脚部は、直線的に開き、底部が大きく広がる。	外面→杯部にコナテナテ。脚部→脚部ナテ。杯部結合部はコナテナテ。脚部は割裂有り。内面→杯部に縦方向のミダテ。脚部にシヨリ目残る。脚部外側に割裂痕有り。脚部は直線的に開く。	暗褐色	良好	内面→暗褐色 杯部外側に灰付者	F-55
S103 高杯	h180	61	-	397 706	⑩16.5m ⑤5.2m	浅い碗状の杯部。底部は、やや外反し、丸く収められる。	外面→風化のため割裂不詳。杯部外側に割裂痕有り。内面→杯部は風化のため割裂不詳。	黒(1-4mm大の石灰、灰石を含む)	良好	内外共に淡褐色	F-64
S103 高杯	h181	61	-	404	⑩16.8m ⑤5.5m	浅い碗状の杯部である。底部は外反し丸味をもつ。	内外共にコナテ。	黒(1-2mmの石灰、灰石を含む)	良好	内外共に淡褐色	NA-41
S103 高杯	h182	61	32	1146 1194	⑩13.2m ⑤5.6m	浅い碗状の杯部。底部は丸い。	外面→風化しているがコナテハナテ。杯部外側に割裂痕有り。内面→コナテ。	やや暗(1-5mm大の石灰、灰石を含む)	やや不良	内面→よい黄褐色 外面→よい黄褐色	F-65
S103 高杯	h183	61	-	1051 1067	⑩17.5m ⑤5.5m	浅い碗状の杯部をもつ。底部は丸く収められる。	外面→杯部上縁にテハナテ。杯部結合部はコナテナテ。脚部は直線的に開く。内面→杯部にコナテ。脚部は直線的に開く。	黒(1-2mmの石灰を含む)	良好	内外共に淡褐色	KN-33
S103 高杯	h184	61	-	1017 1054	⑩18.5m ⑤5.3m	浅い碗状の杯部。底部はやや外反し、丸く収められる。	外面→風化しているがコナテが認められる。脚部結合部は縦方向のハナテ。杯部外側に割裂痕有り。内面→風化のため割裂不詳。	黒(1-2mm大の石灰、灰石を含む)	やや不良	内外共に淡褐色 杯部外側に灰付者	F-100
S103 高杯	h185	61	-	873 914 1067	⑩18.0m ④4.7m	浅い碗状の杯部。	外面→杯部付足にコナテ。底部付足にコナテナテ。脚部結合部はコナテナテ。内面→丁字ナテ。	黒(1-2mm大の石灰、灰石を含む)	良好	外面→黄褐色 内面→黄褐色	F-80
S103 高杯	h186	61	32	1310	⑩16.8m ④4.9m	浅い碗状の杯部をもつ。底部は、やや外反し丸味をもつ。	外面→杯部結合部はコナテ。杯部は風化している。杯部外側に割裂痕有り。内面→風化している。	黒(1-3mm大の石灰を含む)	良好	内外共に淡褐色	NA-33
S103 高杯	h187	61	32	1020 1278	⑩17.0m ⑤5.1m	浅い碗状の杯部をもつ。底部は、やや外反し丸味をもつ。	外面→コナテハナテ。杯部結合部はコナテナテ。脚部は直線的に開く。内面→杯部にコナテ。脚部は直線的に開く。	黒(1-2mmの石灰を含む)	良好	内外共に淡褐色 1-底黄褐色	NA-30
S103 高杯	h188	61	32	38 401 454	⑩17.0m ④4.5m	浅い碗状の杯部である。	外面→風化が著しい。ハナテ。内面→風化が著しい。ナズリ。	黒(1-2mmの石灰を含む)	良好	内外共に黄褐色	NA-36
S103 高杯	h189	61	-	394 406 478 1067	⑩15.5m ④4.5m	浅い碗状の杯部の破片。	外面→コナテハナテ。杯部→杯部ナテ。内面→杯部ナテ。	黒(1mm大の石灰を含む)	良好	内外共に淡褐色	NA-42
S103 高杯	h190	61	32	1171	⑩18.9m ⑤5.3m	浅い碗状の高杯。底部は、やや外反し丸味をあげる。全体的に肉薄。	外面→コナテ。杯部外側に割裂痕有り。内面→風化が著しいがコナテ。	やや暗(石灰を含む)	良好	内外共に淡褐色	NA-29
S103 高杯	h191	61	32	871 1175	⑩17.8m ⑤5.4m	浅い碗状の杯部。底部は、やや外反し丸く収められる。	外面→風化のため割裂不詳。脚部結合部に割裂痕有り。杯部外側に割裂痕有り。内面→風化のため割裂不詳。	黒(1-2mm大の石灰、灰石を含む)	やや不良	内外共に淡褐色	F-53
S103 高杯	h192	61	-	1163	⑩17.8m ⑤5.6m	浅い碗状の杯部。底部は、やや外反し丸く収められる。	外面→コナテ。内面→コナテ。	黒(1-2mm大の石灰、灰石を含む)	良好	内外共に淡褐色	F-85
S103 高杯	h193	61	32	361	⑩17.4m ④4.7m	浅い碗状の杯部。底部は、やや外反し、丸く収められる。	外面→風化しているがコナテが認められる。脚部結合部は割裂痕有り。杯部外側に割裂痕有り。内面→コナテ。	黒(1-2mm大の石灰、灰石を含む)	良好	内外共に淡褐色	F-52

表14 宇谷第1遺跡出土土器観察表 ⑨

出土遺構	土層 番号	種類	図例	取上 番号	法盤(m)	形 態 上 の 特 徴	手 法 上 の 特 徴	胎 土	地 産 保 存	色 調	備 考
S1 03 高坪	h194	61	32	1168 1304	①18.2m ② 4.5m	浅い焼状を呈す環状。端部は、中や外反し、丸く収められる。	外側一風化のため調整不明。脚部結合部は四方のハケ目残る。環状部外縁に新築痕。	壁(1-2m)大の石炭、炭石を含む。	中や不貞	内外面共に赤褐色	F-61
S1 03 高坪	h195	61	33	396	①16.5m ② 5.4m	浅い焼状の環状である。	外側一環状の上下にナダ。下中にタナハ。接合部に粘土の塊を積み。環状部は斜交状あり。	壁(1-2m)大の石炭、炭石を含む。	中や不貞	内外面共に赤褐色	NA-39
S1 03 高坪	h196	61	-	397 1226	①17.5m ② 4.2m	浅い焼状を呈す環状の破片。端部は、中や外反し、丸く収められる。	外側一ナダ。脚部結合部は粗いタナハ。内面一ナダのみ。	壁(1-2m)大の石炭、炭石を含む。	良好	内外面共に赤褐色	F-86
S1 03 高坪	h197	61	33	1248	①17.4m ② 5.3m	浅い焼状の破片をもつ。	外側一環状部面に斜交状あり。	壁(1-2m)大の石炭を含む。	中や不貞	内外面共に赤褐色	NA-3b
S1 03 高坪	h198	62	32	1023	①18.0m ② 5.3m	浅い焼状の環状。端部は、中や外反し、丸く収められる。	外側一ナダ。脚部結合部にタナハあり。内面一前方のハケ目残る。	壁(1-1.4m)大の石炭、炭石を含む。	良好	内外面共に赤褐色	F-47
S1 03 高坪	h199	62	-	977 1234	①18.4m ② 4.5m	浅い焼状の環状をもつ。端部は、ごくわずかに外反し、外縁した平面面を呈すが、丸は突出する。	内外面共にナダ。	壁(1-2m)大の石炭を含む。	良好	内外面共に赤褐色	NA-37
S1 03 高坪	h200	62	-	881 1253	①21.2m ② 3.9m	環状の破片。	内外面共に風化が著しい。	壁(1-2m)大の石炭を含む。	良好	内外面共に赤褐色	NA-44
S1 03 高坪	h201	62	-	326 1145	② 9.7m	高径の環状部である。端部は、ごくわずかに外反し、丸味をもつ。	外側一ナダ。	壁(1-2m)大の石炭を含む。	良好	内外面共に赤褐色	NA-35
S1 03 高坪	h202	62	-	861	①16.4m ② 4.4m	浅い焼状を呈す環状。端部は、ほぼ直線的で丸く収められる。	内・外側とも風化のため調整不明。	壁(1-2m)大の石炭、炭石を含む。	中や不貞	内外面共に赤褐色	F-86
S1 03 高坪	h203	62	33	1218	①17.0m ② 4.7m	浅い焼状を呈す環状。端部は、中や外反し、丸く収められる。	外側一風化のため調整不明。環状部外縁に斜交状あり。	壁(1-2m)大の石炭、炭石を含む。	中や不貞	内外面共に赤褐色	環状部外縁にハケ目。F-57
S1 03 高坪	h204	62	-	1314	①16.0m ② 5.2m	浅い焼状の破片。端部は、外反し、先鋭りして丸味をもつ。	内外面共にナダ。	壁(1-2m)大の石炭を含む。	良好	内外面共に赤褐色	NA-47
S1 03 高坪	h205	62	-	1150 1228	①18.1m ② 3.7m	環状の破片。端部は、中や外反し、丸味をもつ。	外側一環状の上下にナダ。ト手にタナハ。内面一前方にミギキ。	壁(1-2m)大の石炭を含む。	良好	内外面共に赤褐色	NA-45
S1 03 高坪	h206	62	-	1215	② 2.4m	環状部の破片。浅い焼状を呈すのみか。底部内面は中や外反する。	内・外側とも風化のため調整不明。	中や不貞(1-3m大の石炭、炭石を含む)。	中や不貞	内外面共に赤褐色	F-87
S1 03 高坪	h207	62	-	1214	② 2.6m	環状部の破片。大先を欠くが、浅い焼状を呈すのみか。	内・外側とも風化のため調整不明。環状部外縁に斜交状あり。	不貞	不貞	内外面共に赤褐色	F-68
S1 03 高坪	h208	62	-	976 1150	① 1.4m	環状部の破片。浅い焼状を呈すのみか。	外側一脚部結合部にナダあり。内面一丁字なナダ。	壁(1m)大の石炭をわずかに含む。	良好	内外面共に赤褐色	F-76
S1 03 高坪	h209	62	-	906	① 1.6m	環状部の破片。浅い焼状を呈すのみか。	外側一脚部結合部にナダあり。環状部外縁に斜交状あり。内面一丁字なナダ。	壁(1-2m)大の石炭、炭石を含む。	良好	内外面共に赤褐色	F-75
S1 03 高坪	h210	62	33	941	① 1.7m	環状部の破片。浅い焼状を呈すのみか。	外側一脚部結合部にナダあり。環状部外縁に斜交状あり。内面一風化のため調整不明。	壁(1-2m)大の石炭、炭石を含む。	良好	内面一赤褐色～灰色 外側一灰色	F-74
S1 03 高坪	h211	62	-	910	② 3.2m	環状一節部の破片。環状は大先を欠くが浅い焼状を呈すのみか。	外側一風化のため調整不明。内面一節部のシボリ目残る。	中や不貞(1-3m大の石炭、炭石を含む)。	中や不貞	内外面共に赤褐色	F-71
S1 03 高坪	h212	62	33	1265	① 1.6m	環状部の破片。	外側一ナダあり。環状部外縁に斜交状あり。内面一丁字なナダ。	壁(1m)大の石炭をわずかに含む。	良好	内外面共に赤褐色	F-77
S1 03 高坪	h213	62	33	396	① 1.4m	環状部の破片。	内・外側とも風化のため調整不明。	中や不貞(1-3m大の石炭、炭石を多く含む)。	中や不貞	内外面共に赤褐色	F-81
S1 03 高坪	h214	62	33	394	③ 3.1m	環状部。大先を欠くが、焼状を呈すのみか。	外側一ヨコナダ。環状部外縁に斜交状あり。内面一風化のため調整不明。	壁(1-2m)大の石炭、炭石を含む。	良好	内外面共に赤褐色	F-63
S1 03 高坪	h215	62	33	1019	② 6.2m	高径の筒状である。接合部はく離層は平坦である。	外側一環状の前方にヘタミギキ。ナダナダ。	壁(1-2m)大の石炭を含む。	良好	内外面共に赤褐色	KN-34
S1 03 高坪	h216	62	33	942 1242	② 4.7m	やや太め、直線的に筒状の破片。	外側一環状部にナダナダあり。内面一上下部にシボリ目が残る。下半部はナダナダ。	壁(脚部を含む)。	良好	内外面共に赤褐色	F-176
S1 03 高坪	h217	62	33	1148	② 16.5m	高径の筒状である。	外側一ナダ。内面一シボリ目残る。	壁(1-2m)大の石炭を含む。	良好	内外面共に赤褐色	KN-35
S1 03 高坪	h218	62	33	876	② 6.9m	外側一節部の破片。筒状は直線的に筒状。	外側一風化のため調整不明。内面一節部上半部にシボリ目が残る。下半部はナダナダ。	中や不貞(1-3m大の石炭、炭石を含む)。	中や不貞	内外面共に赤褐色	F-70
S1 03 高坪	h219	62	-	876	② 4.0m	直線的に筒状の破片。	外側一環状部に粗いタナハ。筒状の破片。	良	良好	内外面共に赤褐色	F-89
S1 03 高坪	h220	62	-	1265	② 4.6m	直線的に筒状の破片。	外側一風化のため調整不明。内面一シボリ目残る。	中や不貞(1m大の石炭、炭石を多く含む)。	中や不貞	内外面共に赤褐色	F-91
S1 03 高坪	h221	62	-	882	② 4.4m	直線的に筒状の破片。	外側一風化のため調整不明。内面一シボリ目はナダナダ。	壁(1-2m)大の石炭を含む。	中や不貞	内外面共に赤褐色	F-90
S1 03 高坪	h222	62	-	876	② 2.8m	中や外反りな筒状の破片。	外側一風化のため調整不明。内面一シボリ目残る。	壁(1m)大の石炭を含む。	良好	内外面共に赤褐色	F-108
S1 03 高坪	h223	63	-	1243	② 5.0m ③ 9.9m	筒状は中や外反りにひらり、端部は大きく広がる。	外側一節部に粗いタナハ。以下ナダ。内面一節部にシボリ目残る。環状部は斜交状あり。	壁(1-3m)大の石炭を含む。	良好	内外面共に赤褐色	KN-30
S1 03 高坪	h224	63	33	1188	② 6.0m ③ 9.9m	筒状は中や外反りにひらり、端部は大きく広がる。	外側一節部に粗いタナハ。端部にナダ。内面一節部にシボリ目。下半部に粗いナダ。環状部ナダ。	壁(1-2m)大の石炭を含む。	良好	内外面共に赤褐色	筒状部に2本のハケ目。KN-29

挿表15 宇谷第1遺跡出土土器調査表 ⑩

出土遺構	土器番号	棟間	高さ	取上げ番号	位置(m)	形 態 上 の 特 徴	手 法 上 の 特 徴	胎 土	焼成状況	色 調	備 考
S1 03 高環	R225	63	33	906 1221	② 7.2a ③ 9.7a	胴部は中央で直線的にひろがり、肩部は大きく広がる。	外側一帯部、胴部以下は傾斜方向にミギキ、胴部上端に波状あり。 胴部にはシボリが顕著。 内側一帯部はシボリが、下半身はナナテ。胴部ナナテ。	密(1-1.4mの石を含む)	良好	内外両面に黄褐色	KN-27
S1 03 高環	R226	63	33	1201	② 15.6a ③ 12.5a	胴部は中央で直線的にひろがり、肩部は大きく広がる。	外側一帯部上端に波状。胴部一帯部共にナナテ。 内側一帯部はシボリが顕著。胴部ナナテ。	密(1-5mの石を含む)	良好	内外両面に黄褐色	KN-26
S1 03 高環	R227	63	33	985	② 8.0a ③ 9.2a	胴部は中央で直線的にひろがり、肩部は大きく広がる。	外側一帯部ナナテ。胴部ナナテ。	密(1m以上の石を含む)	良好	外側一帯部 内側一帯部黄褐色	F-73
S1 03 高環	R228	63	34	1222	② 7.1a ③ 9.75a	胴部は中央で直線的にひろがり、肩部は大きく広がる。	外側一帯部はナナテナナテ上端ミギキ、以下ナナテ。腹にミギキ。胴部はシボリが顕著。 内側一帯部一帯部上端にシボリが目立つ。胴部ナナテ。	密(1-2mの石を含む)	良好	外側一帯部 内側一帯部黄褐色	胴部内側へうはりあり。 KN-25
S1 03 高環	R229	63	-	1145	② 6.0a ③ 9.5a	胴部一帯部の破片。胴部は直線的に狭く、腰部で大きく広がる。	内一帯部と直線的にのびる。胴部は直線的に狭く、腰部で大きく広がる。	密	やや不良	内外両面に黄褐色	F-84
S1 03 高環	R230	63	34	881	② 8.2a ③ 9.0	胴部は中央で直線的にひろがり、肩部は大きく広がる。	外側一帯部は直線的にのびる。胴部は直線的に狭く、腰部で大きく広がる。	密(赤石、ウツキ、1-2mの石を含む)	良好	内外両面に黄褐色	胴部内側へうはりあり。 KN-28
S1 03 高環	R231	63	-	875 976	② 3.0a ③ 10.3a	なだらかに広がる胴部の破片。	外側一帯部ナナテ。 内側一帯部は直線的にのびる。	密	良好	内外両面に黄褐色	外側に赤褐色。 F-82
S1 03 高環	R232	63	-	875 977 983 1243	② 2.2a ③ 14.7a	高環の腰部である。	外側一帯部ナナテ。 内側一帯部は直線的にのびる。	密(1mの石を含む)	良好	内外両面に黄褐色	NA-32
S1 03 高環	R233	63	-	1150	② 3.0a ③ 9.8a	大きく広がる胴部の破片。	外側一帯部ナナテ。 内側一帯部は直線的にのびる。	密(1-2mの石を含む)	良好	内外両面に黄褐色	内側にうはりあり。 F-83
S1 03 高環	R234	63	-	243	② 2.7a ③ 9.5a	大きく広がる胴部の破片。	外側一帯部ナナテ。 内側一帯部は直線的にのびる。	密(1mの石を含む)	良好	内外両面に黄褐色	F-88
S1 03 大型高環	R235	63	-	909	② 2.6a ③ 17.5a	大きく広がる大型高環の胴部の破片。	内一帯部と直線的にのびる。胴部は直線的に狭く、腰部で大きく広がる。	やや不良	やや不良	内外両面に黄褐色	胴部内側にうはりあり。 F-79
S1 03 大型高環	R236	63	33	834	② 3.2a ③ 15.9a	大きく広がる大型高環の胴部の破片。	内一帯部と直線的にのびる。胴部は直線的に狭く、腰部で大きく広がる。	やや不良	不良	内外両面に黄褐色	F-78
S1 03 小型高環	R237	63	-	1097 1017	② 5.6a ③ 3.4a	小型の胴部の破片である。腰部は内側狭く、外側は大きく広がる。	外側一帯部ナナテ。 内側一帯部は直線的にのびる。	密(1-5mの石を含む)	良好	内側一帯部黄褐色 外側一帯部黄褐色	NA-45
S1 03 小型高環	R238	63	-	1188	① 13.4a ② 2.6a	胴部は内側狭く立ち上がり口縁をもつ小型の胴部。	外側一帯部と直線的にのびる。胴部は直線的に狭く、腰部で大きく広がる。	密(1-2mの石を含む)	良好	内外両面に黄褐色	外側外側に黄褐色。 F-72
S1 03 小型高環	R239	63	33	978 1246 1274	① 11.7a ② 4.0a	小で内側狭く立ち上がり口縁をもつ小型の胴部。	外側一帯部と直線的にのびる。胴部は直線的に狭く、腰部で大きく広がる。	密(1-2mの石を含む)	良好	内側一帯部黄褐色 外側一帯部黄褐色	NA-31
S1 03 小型高環	R240	64	34	329	① 9.0a ② 8.7 ③ 9.2	口縁部は内側狭く外側に立ち上がり口縁をもつ小型の胴部。	外側一帯部と直線的にのびる。胴部は直線的に狭く、腰部で大きく広がる。	密(赤石を含む)	良好	内外両面に黄褐色	NA-51
S1 03 小型高環	R241	64	34	1230	① 8.6 ② 8.2 ③ 9.4	口縁部は内側狭く外側に立ち上がり口縁をもつ小型の胴部。	外側一帯部と直線的にのびる。胴部は直線的に狭く、腰部で大きく広がる。	密(1mの石を含む)	良好	内外両面に黄褐色	F-38
S1 03 小型高環	R242	64	34	254 402 507 1255 1305	① 7.6a ② 26.5a ③ 9.4	口縁部は内側狭く外側に立ち上がり口縁をもつ小型の胴部。	外側一帯部と直線的にのびる。胴部は直線的に狭く、腰部で大きく広がる。	密(1-2mの石を含む)	良好	内外両面に黄褐色	KN-15
S1 03 小型高環	R243	64	34	1297 1220 1320	① 8.4a ② 7.2a	口縁部は内側狭く外側に立ち上がり口縁をもつ小型の胴部。	外側一帯部と直線的にのびる。胴部は直線的に狭く、腰部で大きく広がる。	密(ウツキを含む)	やや不良	内側一帯部黄褐色 外側一帯部黄褐色	NA-20
S1 03 小型高環	R244	64	35	304 404 802 857 1194	① 8.0a ② 7.2a ③ 9.6a	口縁部は内側狭く外側に立ち上がり口縁をもつ小型の胴部。	外側一帯部と直線的にのびる。胴部は直線的に狭く、腰部で大きく広がる。	密(1m以上の石を含む)	やや不良	内外両面に黄褐色	F-57
S1 03 小型高環	R245	64	34	400 1229	① 9.0a ② 4.6a	口縁部は短く、ゆるやかに内側狭く外側に立ち上がり口縁をもつ小型の胴部。	外側一帯部と直線的にのびる。胴部は直線的に狭く、腰部で大きく広がる。	密(1mの石を含む)	良好	内外両面に黄褐色	F-36
S1 03 小型高環	R246	64	34	1062	① 9.0a ② 4.7a	口縁部は短く、ゆるやかに内側狭く外側に立ち上がり口縁をもつ小型の胴部。	外側一帯部と直線的にのびる。胴部は直線的に狭く、腰部で大きく広がる。	密(1-2mの石を含む)	不良	内外両面に黄褐色	F-40
S1 03 小型高環	R247	64	34	876 1287 1169 1168	① 10.0a ② 6.0a ③ 11.4a	口縁部は短く、ゆるやかに内側狭く外側に立ち上がり口縁をもつ小型の胴部。	外側一帯部と直線的にのびる。胴部は直線的に狭く、腰部で大きく広がる。	密(1-6mの石を含む)	やや不良	内外両面に黄褐色	F-56
S1 03 小型高環	R248	64	34	1246	① 8.4a ② 2.6a	口縁部は短く、ゆるやかに内側狭く外側に立ち上がり口縁をもつ小型の胴部。	外側一帯部と直線的にのびる。胴部は直線的に狭く、腰部で大きく広がる。	密	やや不良	内外両面に黄褐色	口縁外側にうはりあり。 NA-22

挿表16 宇谷第1遺跡出土土器調査表 ①

出土遺構	土層 番号	棟四	四角	取上 番号	法長(m)	形 態 上 の 特 徴	手 法 上 の 特 徴	胎 上	構成状況	色 調	備 考
S1 03 小型丸蓋 (口縁)	h249	64	34	1256	①0.30 ②0.50 ③0.6	口縁部は外側中央に外縁して立ち上がる複合口縁。底部は丸い。口縁下部は、外方から内方に突出し丸味をもった複雑に凹線に互る。口縁内部の段は、不明瞭。	外側一ナダ。 内側一ナダ。	壁(ウツモ、石灰を含む)	良好	内外共に淡黄色	西蔵省。 NA-25
S1 03 小型丸蓋	h250	64	34	968	①5.60 ②9.20	口縁部はやや切取め、軽く内巻して外方へ丸く。胴部はほぼ球形で、口縁よりやや大きく張る。	外側一口縁部一箇部に横方向のミギキ。内側一口縁部に丁寧なナダ。胴部上半に凹線が横切る。下半部は右方ナダナリ。	壁(砂鉄を含む)	良好	内外共に灰色	F-96
S1 03 小型丸蓋	h251	64	-	977	①4.80 ②10.50	口縁部を扁平な小型丸蓋の形である。胴部は大きく張る。	外側一ナダ。中央に縦方向のハケ目。内側一貫筋に指張り残れる。胴部以下ナダナリ。	壁(1-3mmの石灰、炭灰を含む)	良好	内外共に灰色	外側に黒腐。F-102
S1 03 小型丸蓋	h252	64	34	975 1265 1275	①4.30 ②10.30 ③3.50	小型丸蓋型の胴部である。胴部口縁部は、扁球形の胴部で、最大径はほぼ中央にある。	外側一胴部を強く削り、凹線が入る。内側一上半にナダ。以下ナダナリ。内側一貫筋に指張り残れる。胴部に左方丸ヘラナダナリ。	壁(ウツモ、1-2mmの石灰を含む)	良好	内外共に灰色	KR-13
S1 03 小型丸蓋	h253	64	-	852	①0.40 ②4.50	扁球形を呈し、小型丸蓋胴部の破片。	外側一丁寧なナダ。下半以下に左方丸ヘラナダナリ。	壁(1-2mmの石灰、炭灰を含む)	良好	内外共に灰色	F-104
S1 03 小型丸蓋	h254	64	34	1097	①5.60 ②9.00	口縁部は、中央付近で、軽くカーブする。最大径はほぼ胴部中央。厚さはほぼ一定だが、中央付近が、やや肥厚する。	外側一胴部にナダ。胴部縁方向にミギキ。内側一胴部にナダ。胴部に指張り残れる。以下横方向にナダナリ。	壁(石灰、炭ウツモを含む)	良好	内外共に均質	NA-54
S1 03 小型丸蓋	h255	64	34	402 876 1017	①4.20 ②9.20	胴部が、あまり膨らみない扁球形の胴部。胴部最大径は、上下以下にある。	外側一扁平化しているが、下半部に斜方向のウツモ。内側一貫筋に指張り残れる。胴部以下左方にナダナリ。	壁(1-3mmの石灰、炭灰を含む)	やや不良	内外共に淡黄色	F-37
S1 03 小型丸蓋	h256	64	34	1306	①5.80 ②9.20	胴部は、なだらかかな形をもつ。上半部中央で最大径となる。厚さはほぼ一定。	外側一扁平化している。胴部平明。内側一貫筋にナダナリ。以下ナダナリ。	やや軟(石灰、炭を含む)	不良	内側一淡黄色 外側一淡黄色	NA-58
S1 03 小型丸蓋	h257	64	34	366	①4.60	小型丸蓋型の胴部である。胴部はなだらかで、胴部は横方向に扁球形を呈す。	外側一貫筋にココナダ。以下は横方向にミギキ。内側一貫筋に指張り残れる。以下左方向にナダナリ。	壁(0.5-2mmの石灰、ウツモを含む)	良好	内外共に褐色	胴部外側にスス付着。 NA-55
S1 03 小型丸蓋	h258	64	-	403	①4.20 ②9.00	小型丸蓋型胴部の破片。胴部が大きく張る。	外側一ココナダ。内側一胴部中央に指張り残れる。下半部はヘラナダナリ。	壁(1mmの石灰、炭を含む)	良好	内外共に淡黄色	F-98
S1 03 紀子付鉢	h259	65	-	876	①6.00 ②12.00	胴部の底面である。	外側一底面外周に工具による削り跡あり。内側一底面に、5本の溝状洗滌跡あり。	磁土(1-4mmの炭灰を含む)	良好	内側一暗褐色 外側一褐色	KR-69
S1 03 紀子付鉢	h260	65	-	876	①0.80 ②2.30	口縁部は丸くくり上げるもので、口縁部にはやや上方へ丸く隆起の肥すがつく。	内外共に平坦ナダ。	泥	良好	内外共に淡黄色	内面に赤色塗料。 NA-67
S1 03 煎茶鉢	h261	65	-	876	①5.80	胴部片の破片。	外側一回心印文あり。内側一平打ナダ。	磁土	良好	内外共に淡黄色	KR-70
S1 05 壺	h262	66	-	1366	①5.70	口縁部はほぼ直立して立ち上がる複合口縁。底部は被縁。口縁下部は、わずかに下巻する。胴部はく、字状に凹曲する。口縁部内部の段は、不明瞭。	外側一口縁部平行洗滌が施される。胴部にココナダ。内側一口縁部一箇部にハナ側にココナダ。胴部の左方向にヘラナダナリ。	壁(1-3mmの石灰を含む)	良好	内外共に淡黄色	KR-43
S1 05 壺	h263	66	36	463	①0.40 ①4.40 ②4.4	筒状口縁部。底部に丸味をもつ。口縁部下縁はわずかに下巻する。	外側一縦かいた平行洗滌が施される。内側一ココナダ。	壁(1-3mmの石灰を含む)	良好	内外共に淡黄色	KR-56
S1 04 壺	h264	66	36	145	①6.20 ②6.00 ③3.4	口縁部は、やや外縁して立ち上がる複合口縁。底部に丸味をもつ。口縁部下縁は下巻する。胴部はく、字状に凹曲する。口縁部内部の段は、不明瞭。	外側一口縁部平行洗滌が施される。胴部にナダ。内側一口縁部にナダ。胴部にヨコミギキ。胴部以下ヘラナダナリ。	壁(ウツモ、1-2mmの石灰を含む)	良好	内外共に淡黄色	KR-37
S1 05 壺	h265	66	36	108	①18.00 ①4.30 ②3.6	口縁部は、肉厚でやや外縁して立ち上がる複合口縁。胴部はかすかに平凹面を呈すが、角は丸い。口縁部下縁はわずかに外方にくらむ。口縁部内部の段は、不明瞭。	外側一口縁部に2面以上の平行洗滌が施される。胴部にココナダ。内側一扁平化している。	壁(ウツモ、1mmの石灰を含む)	良好	内外共に淡黄色	KR-10
S1 05 壺	h266	66	36	580	①13.40 ①3.30 ②2.3	口縁部は、肉厚で外縁して立ち上がる複合口縁。胴部は丸味をもつ。口縁部下縁はなだらかに下巻する。	外側一口縁部に不明瞭な平行洗滌が施される。胴部にココナダ。内側一口縁部に強いココナダ。胴部以下に左方丸ヘラナダナリ。	壁(ウツモ、0.5-5mmの石灰を含む)	良好	内外共に淡黄色	KR-54
S1 05 壺	h267	66	-	107	①15.00 ②5.50 ③3.7	口縁部は、肉厚で直立状に立ち上がる複合口縁。	内外共に扁平化している。	やや軟(1-4mmの石灰を含む)	やや不良	外側一褐色 内側一淡黄色	口縁部内面にスス付着。 NA-67
S1 05 壺	h268	66	-	450	①14.00 ②3.60 ③2.0	口縁部は、外縁して立ち上がる複合口縁。底部は丸味をもつ。口縁部下縁はわずかに下巻する。口縁部内部の段は不明瞭。	内外共に扁平化している。	壁(ウツモ、1-3mmの石灰を含む)	良好	内外共に均質	胴部外側に沈状のある高径の付着物あり。 KR-53
S104-95 壺	h269	66	-	30 245	①15.10 ①4.00 ②3.0	口縁部は、直立状に立ち上がる複合口縁。底部は肥厚して、外方へ突出し、外縁した平凹面に凹線が走る。内側は平明。やや外方に突出するが、軽く丸味をもつ。	内外共にココナダ。	壁(ウツモ、1mmの石灰を含む)	良好	内外共に均質	KR-39
S1 05 壺	h270	66	36	885	①9.40 ①5.70 ①1.6	小型の壺である。口縁部は、やや外縁して立ち上がる複合口縁。底部は丸味をもつ。胴部はゆるやかなく字状である。胴部は、なだらかに凹線に互る。口縁部内部の段は、不明瞭。	外側一口縁部にココナダ。胴部以下に左方ナダナリ。内側一口縁部にココナダ。胴部以下に左方ナダナリ。	壁(ウツモ、1-3mmの石灰を含む)	良好	内外共に淡黄色	内外共に淡黄色 KR-45
S1 05 煎茶鉢	h271	65	36	249	①2.50 ①6.50	底面は、平明である。	外側一縦方向にミギキ。底面外側にナダ。内側一上方丸ヘラナダナリ。	やや軟(1-4mmの石灰を含む)	良好	内側一褐色 外側一淡黄色	KR-41
S1 04 高杯	h272	67	36	467	①20.40 ①3.00	高杯の口縁部片である。胴部は、外反して丸味をもつ。	外側一ココナダ。胴部縁が残る。内側一縦方向にミギキ。	壁(ウツモ、0.5-1mmの石灰を含む)	良好	内外共に淡黄色	KR-49
S1 05 高杯	h273	67	36	449 453	①16.70 ①3.60	高杯の口縁部片である。胴部は、丸味をもつ。	内外共にココナダ。	壁(ウツモ、1-2mmの石灰を含む)	良好	内外共に淡黄色	KR-49

押巻17 宇谷第1遺跡出土土器観察 ⑬

出土遺構	土器番号	種類	図版	取上げ番号	法長(m)	形態上の特徴	手法上の特徴	出土	構成保存	色調	備考
S106	●R284	68	37	530	①0.75-0.8 ②0.7A ③2.2	口縁部は、やや外反して立ち上がる複合口縁。胴部は外方へ膨らみ出て突出し、やや外傾する平鉢蓋を有す。口縁部は縁は鋭く外方へ突出し、丸縁をもつて胴部に重なる。口縁部内面の縁はゆるやか。胴部は、ほぼ球形を呈するものと思われる。	外側→口縁部は鋭いコナテ。胴部にコゴハシナテナテ。胴部は工具による割裂文がコゴナテナテ。内面→口縁部はコゴナテ。胴部は指環状の溝を、胴部以下に右方向へラケナテ。	やや中硬(1~5cm大の石実・長石を含む。)	やや不良	内外面に淡褐色～淡黄色	KR-81
S106	●R285	68	-	714	①16.28 ②0.65A ③0.35	口縁部は、やや外反して立ち上がる複合口縁。胴部は、外方へ膨らみ出て突出し、外縁は上下に胴部に重なる。口縁部内面の縁は、不明瞭。	外側→コナテ。内面→コゴナテ。口縁部下縁に土粒の磨擦痕あり。	密(ワコモ)良好	良好	内面→黄褐色～褐色 外側→褐色	KN-38
S106	●R286	68	-	405	①23.0 ②6.5A	大きく丸縁で出て、つぼみ口縁。胴部は丸い。胴部はあまり膨らみがない。	外側→口縁部はコゴナテ。胴部以下に左方向へラケナテ。	密	良好	内外面に淡褐色	口縁部底面部分あり KR-103
S106	●R287	68	-	256	①18.78 ②4.3A ③2.5	口縁部は、大きく丸縁して立ち上がる複合口縁。胴部は丸い。口縁部下縁は下へ膨らみ出て、口縁部内面の縁は、ゆるやか。	外側→「丁重」コナテ。内面→口縁部以下に「重」コナテ。胴部以下に左方向へラケナテ。	密(1~2cm大の石実・長石を含む。)	良好	内外面に淡褐色	口縁部内面に赤褐色。底面あり。 KR-104
S106	●R288	68	37	407 527	①18.0 ②4.08	ほぼ球形に膨らむ胴部。最大径はほぼ中央に立つ。	外側→ナテ。胴部に中央に立つように割裂文2本あり。内面→胴部に指環状の溝がラケナテ。胴部以下に左方向へラケナテ。胴部以下に右方向へラケナテ。	やや中硬(1~5cm大の石実・長石を含む。)	やや不良	内側→淡褐色～淡青色	KR-85
S106	●R289	68	-	323	①20.6 ②5.3A ③3.4	口縁部は、やや外反して立ち上がる複合口縁。胴部は丸縁で出て丸く収まる。口縁部下縁は外方にわずかに突出する。口縁部内面の縁は、不明瞭。	外側→口縁部に2本の平行沈線が描かれる。胴部にコゴナテ。内面→コゴナテ。	密(長石・1~3cm大の石実を含む。)	やや不良	内面→淡褐色～淡黄色 外側→黄褐色	外側スス付 KN-40
S106	●R290	68	-	714	①17.28 ②2.9A ③2.3	口縁部は、やや外反して立ち上がる複合口縁。口縁部は丸縁で出て丸く収まる。口縁部下縁は鋭く丸縁で出て丸く収まる。口縁部内面の縁は、ゆるやか。	外側→口縁部に2本の平行沈線が描かれる。胴部にコゴナテ。内面→口縁部はコゴナテ。胴部以下に左方向へラケナテ。	密(1~3cm大の石実を含む。)	良好	内外面に淡黄色	KN-39
S106	●R291	68	-	406	①16.08 ②5.0A ③3.3	口縁部は、やや外反して外縁に立ち上がる複合口縁。胴部は膨らみ出て丸く収まる。口縁部下縁は鋭く丸縁で出て丸く収まる。口縁部内面の縁は、ゆるやか。	外側→口縁部に1本の平行沈線が描かれる。胴部にコゴナテ。内面→口縁部はコゴナテ。胴部以下に左方向へラケナテ。	密(1~2cm大の石実・長石を含む。)	良好	内外面に淡褐色	KN-108
S106	●R292	68	-	343	①14.8 ②3.2A ③1.9	口縁部は、やや外反して外縁に立ち上がり立ち上がる複合口縁。胴部は丸い。口縁部下縁は外方にわずかに下膨らむ。口縁部内面の縁は、不明瞭。	外側→口縁部平行沈線が描かれる。胴部にコゴナテ。内面→口縁部はコゴナテ。胴部以下に左方向へラケナテ。	密(1~2cm大の石実・長石を含む。)	良好	内外面に淡褐色	KN-107
S106	●R293	68	-	508	①15.38 ②5.2A ③3.0	口縁部は、やや外反して外縁に立ち上がる複合口縁。胴部は丸い。口縁部下縁は鋭く丸縁で出て丸く収まる。口縁部内面の縁は、ゆるやか。	外側→口縁部に1本の平行沈線が描かれる。胴部にコゴナテ。内面→口縁部はコゴナテ。胴部以下に左方向へラケナテ。	やや中硬(1~3cm大の石実・長石を含む。)	良好	内外面に淡褐色	KR-104
S106	●R294	68	-	265 347 511	①15.48 ②5.0A ③2.9	口縁部は、やや外反して外縁に立ち上がる複合口縁。胴部は丸い。口縁部下縁は鋭く丸縁で出て丸く収まる。口縁部内面の縁は、ゆるやか。	外側→口縁部に2本の平行沈線が描かれる。胴部にコゴナテ。内面→口縁部はコゴナテ。胴部以下に左方向へラケナテ。	やや中硬(1~3cm大の石実・長石を含む。)	良好	内外面に淡褐色	KR-105
S106	●R295	68	37	524	①5.5A ②9.2	小型と中型の胴部である。胴部はなだらかで、胴部は丸縁で出て丸く収まる。胴部は丸縁で出て丸く収まる。胴部は丸縁で出て丸く収まる。	外側→丸縁で出て丸く収まる。胴部は丸縁で出て丸く収まる。胴部は丸縁で出て丸く収まる。	密(1~2cm大の石実を含む。)	やや不良	内外面に淡褐色	KN-37
S106	●R296	68	-	521 522	①16.68 ③3.7A	丸縁・丸縁を呈する胴部の破片。胴部はやや外反し、丸く収まる。	外側→丸縁の丸縁を呈する。胴部は丸縁で出て丸く収まる。	やや中硬(1~2cm大の石実・長石を含む。)	やや不良	内外面に淡褐色	内・外面にスス付 KN-110
S106	●R297	69	37	523	①20.0A ②19.9 ③10.68	口縁部は立ち上がり膨らむ。胴部はやや外反して丸く収まる。胴部は丸縁で出て丸く収まる。胴部は丸縁で出て丸く収まる。胴部は丸縁で出て丸く収まる。	外側→口縁部は立ち上がり膨らむ。胴部は丸縁で出て丸く収まる。胴部は丸縁で出て丸く収まる。胴部は丸縁で出て丸く収まる。	密(1~5cm大の石実を含む。)	良好	内外面に淡褐色	胴部・胴部に赤褐色～淡黄色 KN-115
S106	●R298	69	-	226 353	①11.08 ②5.4A ③14.48	胴部はやや外反して立ち上がる。胴部が大きい。胴部は丸縁で出て丸く収まる。	外側→口縁部は丸縁で出て丸く収まる。胴部は丸縁で出て丸く収まる。	密(砂粒を含む。)	良好	外側→淡黄色～褐色 内側→淡褐色	KR-109
S106	●R299	69	-	29	③3.1A	胴部破片。	内面→同方向向き。	密	良好	内外面に淡褐色	KN-42
S106	●R300	69	-	714	④4.6A	丸縁の破片ナテ。	内外面ともナテ。	密	良好	外側→淡褐色 内側→黄褐色	KN-41
S107	●R301	69	37	565 576 642	①18.68 ②5.7A ③3.2	口縁部はやや外反して外縁する複合口縁。胴部は丸い。口縁部下縁は下へ膨らみ出て丸く収まる。口縁部内面の縁は不明瞭。胴部は丸縁で出て丸く収まる。	外側→口縁部平行沈線が描かれる。胴部にコゴナテ。内面→口縁部はコゴナテ。胴部以下に左方向へラケナテ。	やや中硬(1~3cm大の石実・長石を含む。)	やや不良	内外面に淡褐色	口縁部にスス付。 KN-77
S107	●R302	69	37	641	①19.08 ②5.0A ③3.3	口縁部はやや外反して外縁する複合口縁。胴部は丸い。口縁部下縁は下へ膨らみ出て丸く収まる。口縁部内面の縁は不明瞭。	外側→口縁部15本の平行沈線が描かれる。胴部にコゴナテ。内面→口縁部はコゴナテ。胴部以下に左方向へラケナテ。	密(1~7cm大の石実・長石を含む。)	良好	内側→淡褐色 外側→淡黄色	口縁部に黄褐色～淡黄色 KN-88
S107	●R303	69	-	579	①15.78 ②4.7A ③2.9	口縁部はやや外反して外縁する複合口縁。胴部は丸い。口縁部下縁は下へ膨らみ出て丸く収まる。口縁部内面の縁は不明瞭。	外側→口縁部10本の平行沈線が描かれる。胴部にコゴナテ。内面→口縁部はコゴナテ。胴部以下、左方向へラケナテ。	やや中硬(1~2cm大の石実・長石を含む。)	良好	内外面に淡褐色	KR-88
S107	●R304	69	37	637	①14.78 ②4.5A ③3.2	口縁部はやや外反して外縁して立ち上がる複合口縁。胴部は丸縁で出て丸く収まる。口縁部内面の縁は不明瞭である。	外側→口縁部は丸縁で出て丸く収まる。胴部にコゴナテ。内面→口縁部はコゴナテ。胴部以下、左方向へラケナテ。	密(1~4cm大の石実・長石を含む。)	良好	内外面に淡褐色	KR-91
S107	●R305	69	-	1178	①19.68 ②4.5A ③3.2	口縁部はわずかに外反して立ち上がる複合口縁。口縁部下縁は丸く収まる。口縁部内面の縁は不明瞭である。	外側→口縁部は、わずかに平行沈線が描かれる。胴部にコゴナテ。内面→コゴナテ。	密(1~2cm大の石実・長石を含む。)	不良	内外面に淡褐色	KN-54
S107	●R306	69	37	571	①16.48 ②5.2A ③3.1	口縁部はやや外反して立ち上がる複合口縁。胴部は丸い。口縁部下縁は下へ膨らみ出て丸く収まる。口縁部内面の縁は不明瞭。胴部は丸縁で出て丸く収まる。	外側→口縁部は丸縁で出て丸く収まる。胴部にコゴナテ。内面→口縁部はコゴナテ。胴部以下、左方向へラケナテ。	密(1~4cm大の石実・長石を含む。)	良好	内外面に淡褐色	口縁部外側にスス付 KN-95

表18 宇谷第1遺跡出土土器調査表 ⑬

出土品種	土器番号	種類	国産	取上層	径長(m)	形 態 上 の 特 徴	手 上 げ の 特 徴	出土	地域保存	色 調	備 考
S1 07 壺	●K307	69	37	43	①07.00 ② 5.70 ③ 3.0	口縁部はやや外反して立ち上がる複合口縁。肩部は平坦面をなす。口縁部下縁はゆるやかに曲出し、腹部へ至る。口縁部内面の段はゆるやか。	外側→口縁部が丸化しているが、流状文が残る。 内側→口縁部丁寧なヨコナテ。腹部以下、ヘラツクリ。	径(1~2cm)の石炭、灰石を含む。	良好	内外面共に黄褐色 内面→スズ付。 K R - 96	口縁部外縁にスズ付。 K R - 96
S1 07 壺	●K308	69	-	480	①16.20 ② 5.10 ③ 3.4	口縁部はやや外反し外縁に外縁して立ち上がる複合口縁。肩部はゆるやかに曲出し、腹部へ至る。口縁部内面の段はゆるやか。	外側→口縁部は丸化しているが、平行流紋が残り、肩部以下は右方向へツクリ。 内側→口縁部ヨコナテ。腹部以下、右方向へツクリ。	径(1~4cm)の石炭、灰石を多数含む。	良好	内外面共に黄褐色 K R - 97	口縁部内外縁にスズ付。 K R - 97
S1 07 甗	●K309	69	-	129	①05.60 ② 4.40 ③ 3.0	口縁部はやや外反して立ち上がる複合口縁。肩部は丸い。口縁部下縁は緩く凹曲して腹部へ至る。口縁部内面の段は不明。	外側→口縁部肩部付近に一帯の流紋が残り、肩部以下は流紋文を帯び、腹部以下は右方向へツクリ。 内側→口縁部ヨコナテ。腹部以下は右方向へツクリ。	やや径(1~3cm)大の石炭、灰石を含む。	良好	内外面共に黄褐色 K R - 98	内外面共に黄褐色 K R - 98
S1 07 甗	●K310	69	-	1128	①05.90 ② 4.30 ③ 3.0	口縁部はやや外反し外縁に外縁して立ち上がる複合口縁。肩部は丸い。口縁部下縁はやや下弯する。腹部は平坦。	外側→口縁部には流紋が残り、上部はツクリ。口縁部ヨコナテ。 内側→丁寧なヨコナテ。腹部は右方向へツクリ。	やや径(1~3cm)大の石炭、灰石を含む。	良好	内外面共に黄褐色 K R - 94	内外面共に黄褐色 K R - 94
S1 07 壺	●K311	70	38	634	①15.80 ② 6.60 ③ 3.2	口縁部はやや外反して立ち上がる複合口縁。肩部はやや外反り引き出される。口縁部下縁はやや下弯する。口縁部内面の段はゆるやか。	外側→丸化しているが、口縁部に平行流紋が残り、肩部以下はツクリ。 内側→口縁部ヨコナテ。腹部以下へツクリ。	径(1~3cm)大の石炭、灰石を多数含む。	良好	内外面共に黄褐色 K R - 90	内外面共に黄褐色 K R - 90
S1 07 壺	●K312	70	38	634	①06.80 ② 4.60 ③ 3.0	口縁部はやや外反し外縁に外縁して立ち上がる複合口縁。肩部はやや外反り引き出される。口縁部下縁はやや下弯する。口縁部内面の段はゆるやか。	外側→丸化のため流紋不明。 内側→口縁部ヨコナテ。腹部以下へツクリ。	やや径(1~3cm)大の石炭、灰石を含む。	良好	内外面共に黄褐色 K R - 99	口縁部外縁にスズ付。 K R - 99
S1 07 壺	●K313	70	38	290 543	①06.30 ② 3.90 ③ 2.6	口縁部はやや外反して立ち上がる複合口縁。肩部は肥厚して外方へ突出し、外縁した平坦面に凹曲がする。口縁部下縁はやや外方に突出するが、鈍く丸味を帯び、口縁部内面の段はゆるやか。	外側→口縁部は丸いヨコナテ。特に口縁部下縁は、上の凹曲によって、段状となる。 内側→口縁部ヨコナテ。	径(1~2cm)大の石炭を含む。	良好	内外面共に黄褐色 K R - 98	内外面共に黄褐色 K R - 98
S1 07 壺	●K314	70	37	266 343 356 360 362	①08.20 ② 6.00 ③ 2.15	口縁部はやや外反して立ち上がる複合口縁。肩部は肥厚して、外方へ突出し、外縁した平坦面をなす。口縁部内面の段は不明。	内外面共にヨコナテ。	径(1~3cm)大の石炭を多数含む。	良好	淡黄色 S1 06の土器に類似。 K N - 45	
S1 07 壺	●K315	70	-	553	①05.10 ② 3.70 ③ 2.4	口縁部はやや外反して立ち上がる複合口縁。肩部は肥厚して、外方へ突出し、外縁した平坦面をなす。口縁部下縁はやや外方に突出するが、鈍く丸味を帯び、口縁部内面の段はゆるやか。	外側→口縁部はヨコナテ。特に、口縁部下縁は鋭い凹曲あり。 内側→ヨコナテ。	径(ワンコメ5~1cm)大の石炭を含む。	良好	内側→淡黄色 外側→灰褐色 K R - 97	内側→淡黄色 外側→灰褐色 K R - 97
S1 07 壺	●K316	70	-	553	①04.80 ② 3.50 ③ 2.4	口縁部はやや外反して立ち上がる複合口縁。肩部は外方へ肥厚し、平坦面をなす。口縁部下縁は丸くふくらみ、丸味を帯び、口縁部内面の段はゆるやか。	外側→ヨコナテ。 内側→ヨコナテ。	やや径(1~4cm)大の石炭、灰石を含む。	良好	内外面共に黄褐色 K R - 129	口縁部外縁に黄褐色 K R - 129
S1 07 壺	●K317	70	-	629 543	①07.00 ② 8.70 ③ 2.8	口縁部はやや外反して立ち上がる複合口縁。肩部は肥厚して、外方へ突出し、平坦面をなす。口縁部下縁はやや外方に突出するが、鈍く丸味を帯び、口縁部内面の段はゆるやか。	外側→口縁部はヨコナテ。特に、口縁部下縁は1本の凹曲によって、段状となる。肩部はヨコナテ。 内側→口縁部→腹部ヨコナテ。以下、右方向へツクリ。肩部は不明であるが、肩部近辺は段状となる。	径(ワンコメ1~5mm)の石炭を含む。	良好	外側→淡黄色 内側→淡黄色 K R - 90	外側→淡黄色 内側→淡黄色 K R - 90
S1 07 甗(原形)	●K318	70	-	543	② 3.10	肩部「く」の字状に凹曲する。	外側→ヨコナテ。 内側→丸化して不明。	径(ワンコメ1~5mm)の石炭を含む。	良好	外側→淡黄~灰褐色 内側→淡黄色 K R - 91	外側→淡黄~灰褐色 内側→淡黄色 K R - 91
S1 07 甗(原形)	●K319	70	-	647	② 3.40	雙の胴部と思われる。	外側→腹部下縁に凹曲。肩部にかけてはツクリであるが、肩直線による平行流紋文が認められる。 内側→丸化が著しい。	径(0.5~2cm)の石炭、灰石、1cmの石炭を含む。	良好	外側→黄色 内側→黄~灰色 K R - 92	外側→黄色 内側→黄~灰色 K R - 92
S1 07 壺(原形)	●K320	70	38	648	① 1.60 ② 7.40	平底を呈す原形。	外側→ツクリ。 内側→指輪状の痕にツクリ。	径(1~4cm)の石炭、灰石、ツクリ石を多数含む。	やや不良	内外面共に黄褐色 K R - 90	内外面共に黄褐色 K R - 90
S1 07 高杯	●K321	71	38	543 638	①04.60 ②11.40	杯部はやや丸味をもった底面から縁出し、内径きみに外方に出る。口縁部と腹部との段は明確。肩部は短く、縁部が大きく広がる。縁部は肉厚する。	外側→外面と内径のため流紋不明。 内側→ヨコナテ。	径(1~4cm)の石炭、灰石を含む。	良好	内外面共に黄褐色 K R - 93	内外面共に黄褐色 K R - 93
S1 07 高杯	●K322	71	38	660	①09.00 ② 4.30	杯部はやや丸味をもった底面から縁出し、内径きみに外方に出る。口縁部と腹部との段はゆるやか。肩部は短く、縁部は大きく広がる。縁部は肉厚する。	外側→丁寧なヨコナテ。 内側→一方方向のみ。	径(1cm)大の石炭、灰石をわずかに含む。	良好	内外面共に黄褐色 K R - 92	内外面共に黄褐色 K R - 92
S1 07 高杯	●K323	71	38	43 230 232	① 6.00 ② 10.20	杯部は短く、縁部に肉厚し、縁部が大きく広がる。	外側→丸化のため流紋不明。 内側→一方方向のみ。肩部にシクリが残り、縁部はツクリ。	径(1~2cm)大の石炭、灰石を含む。	良好	内外面共に黄褐色 K R - 100	内外面共に黄褐色 K R - 100
S1 07 高杯	●K324	71	38	577	① 6.60 ②10.20	杯部は短く、縁部に肉厚し、縁部が大きく広がる。	外側→縁部にはツクリが残り、下部以下はツクリ。 内側→縁部にツクリが残り、縁部は丁寧なツクリ。	径(1~4cm)の石炭、灰石を含む。	良好	内外面共に黄褐色 K R - 101	内外面共に黄褐色 K R - 101
S1 07 甗(原形)	●K325	71	38	636	①04.70	ゆるやかな底が肉厚な縁部。内面には肩部に向かう流紋文が残り、	外側→ツクリ。 内側→ツクリ。	径(ワンコメ、灰石を含む)。	良好	内外面共に黄褐色 K R - 95	内外面共に黄褐色 K R - 95
S1 07 甗(原形)	●K326	71	38	130	① 1.50 ② 9.00	縁部は短く、ツクリをきたり、肩部は肉厚する。	外側→ツクリ。 内側→ツクリ。	径(1~2cm)の石炭を含む。	良好	内外面共に黄褐色 K R - 44	内外面共に黄褐色 K R - 44
S1 07 小甗(原形)	●K327	71	-	43	①03.60 ② 3.20	口縁部は、「く」の字状に立ち上がり、大きく広がる。口縁部は肉厚する。	外側→ツクリ。 内側→ヨコナテ。	径(0.5~1cm)の石炭を含む。	良好	外側→淡黄色 内側→黄褐色 K R - 93	外側→淡黄色 内側→黄褐色 K R - 93
S1 07 壺	●K328	71	38	572 640 646	①05.00 ② 7.60 ③ 4.80	流紋文が残り、縁部は肥厚する。口縁部はやや外反りした縁部のみが残り、	外側→丸化のため流紋不明。 内側→一方方向のみ。	径(1~3cm)大の石炭、灰石を多数含む。	やや不良	内外面共に黄褐色 K R - 102	内外面共に黄褐色 K R - 102
S1 07 甗(原形)	●K329	71	-	258	① 1.50 ②03.40	縁部は平坦面を持つ。	外側→一段階部平坦面に凹曲。縁部ハケ目。 内側→ヨコナテ。	径(ワンコメ1~2mm)の石炭を含む。	良好	内外面共に黄褐色 K R - 47	内外面共に黄褐色 K R - 47
S1 08 甗	●K331	72	39	283 288 ②02.00 ③ 3.8	口縁部は、外縁して立ち上がる複合口縁。肩部は丸い。口縁部下縁はゆるやかに下弯する。口縁部内面の段は、ゆるやか。肩部は、肩があまり厚くなく、肩筋が残り、肩太縁はほぼ中心にツクリ。	外側→口縁部に平行流紋が残り、流状文、流紋にツクリ。肩部平行流紋の流紋文、中央以下に軽いヨコナテが残り、 内側→口縁部ヨコナテ。腹部→肩部以下方向へツクリ。肩部以下斜上方向へツクリ。	やや径(1~4cm)大の石炭、灰石を含む。	良好	内外面共に黄褐色 K R - 97	外側→黄褐色 内側→黄褐色 K R - 97	

押表19 宇谷第1遺跡出土土器調査表 ④

出土層階	土器番号	種別	取上げ番号	法面(m)	形 態 上 の 特 徴	土 法 上 の 特 徴	結 土	焼成状況	色 調	備 考	
S108	B322	72	39	184 259 319 605	① 0.9.9 ② 1.1A ③ 2.9	口縁部は、やや外反側に外傾して立ち上がる唇状口縁。縁部は丸い。口縁部下縁はわずかに下垂る。縁部はあまり厚くない。口縁部内面の段は、不明確。	外壁→口縁部→胴部ヨコナゲ。唇部がナゲ。胴部以下はヨコナゲ。内面→口縁部は傾斜方向に若干な膨らみを持つ。縁部は5分の2程度の長さで、胴部を上方へハケズリ。	密(2mm大の石灰・長石を含む)	良好	外壁→淡灰白色 内面→暗灰色	KR-120
S108	B333	72	39	290	① 0.6.7 ② 7.5A ③ 3.0	口縁部は、やや外反側に外傾して立ち上がる唇状口縁。縁部は丸い。口縁部下縁はわずかに下垂る。縁部はあまり厚くない。口縁部内面の段は、不明確。	外壁→口縁部→平行洗滌が施される。胴部にナゲ。唇部以下はヨコナゲ。内面→口縁部はヨコナゲ。縁部以下は傾斜方向へハケズリ。	粗(1-3mm大の石灰・長石を多く含む)	良好	内外面に均等に焼色	KR-126
S108	B334	72	39	1134	① 0.5.7 ② 1.5A ③ 3.0	口縁部は薄く、わずかに外傾して立ち上がる唇状口縁。縁部は丸い。口縁部下縁はわずかに下垂る。縁部はあまり厚くない。口縁部内面の段は、不明確。	外壁→10分の5程度の平行洗滌が施される。内面→丁寧なヨコナゲ。	密(1mm大の石灰・長石を含む)	良好	外壁→黄褐色 内面→黄褐色	口縁部外壁にスチ付物 F-107
S108	B335	72	39	599 608	① 0.5.8 ② 1.5A ③ 3.3	口縁部は、やや外反側に外傾して立ち上がる唇状口縁。縁部は丸い。口縁部下縁はわずかに下垂る。縁部はあまり厚くない。口縁部内面の段は、不明確。	外壁→口縁部に酸化しているが、平行洗滌が残る。胴部にナゲ。内面→口縁部にナゲ。縁部以下はナゲの傾斜。縁部以下は下方へハケズリ。	やや中良(1-3mm大の石灰・長石を含む)	やや不良	内外面に均等に焼色	KR-122
S108	B336	72	39	157	① 0.5.1 ② 5.1A ③ 3.7	口縁部は、やや外反側に外傾して立ち上がる唇状口縁。縁部は厚く、丸く下がる。口縁部下縁はわずかに下垂る。口縁部内面の段はゆるやか。	外壁→口縁部は平行洗滌が施される。胴部にナゲ。内面→口縁部にヨコナゲ。縁部以下はナゲ。	やや中良(1-3mm大の石灰・長石を含む)	良好	外壁→淡褐色 内面→黄褐色	口縁部外壁に黒炭 KR-129
S108	B337	72	39	191	① 0.5.3 ② 1.1A ③ 3.0	口縁部は、やや外反側に外傾して立ち上がる唇状口縁。縁部は丸い。口縁部下縁はわずかに下垂る。縁部はあまり厚くない。口縁部内面の段は、不明確。	外壁→口縁部→平行洗滌が施される。胴部にナゲ。内面→口縁部にヨコナゲ。	やや中良(1-3mm大の石灰・長石を含む)	良好	内外面に均等に焼色	口縁部外壁に黒炭あり F-121
S108	B338	72	39	130	① 0.5.3 ② 4.9A ③ 3.4	口縁部は、やや外傾して立ち上がる唇状口縁。縁部は丸い。口縁部下縁はわずかに下垂る。縁部はあまり厚くない。口縁部内面の段は、不明確。	外壁→口縁部に酸化しているが、平行洗滌が施される。胴部にナゲ。内面→口縁部に丁寧なヨコナゲ。	粗(1-2mm大の石灰・長石を含む)	良好	内外面に均等に焼色	KR-138
S108	B339	72	39	693	① 0.6A ② 4.6A ③ 2.6	口縁部は、やや外傾して立ち上がる唇状口縁。縁部は丸い。口縁部下縁はわずかに下垂る。縁部はあまり厚くない。口縁部内面の段は、不明確。	外壁→酸化しているが、平行洗滌が認められる。内面→口縁部にヨコナゲ。胴部以下は傾斜方向へハケズリ。	やや中良(1-3mm大の石灰・長石を含む)	やや不良	外壁→黄褐色 内面→暗褐色	口縁部外壁にスチ付物 F-161
S108	B340	72	39	164	① 0.6.6 ② 4.6A ③ 3.0	口縁部は、やや外傾して立ち上がる唇状口縁。縁部は丸い。口縁部下縁はわずかに下垂る。縁部はあまり厚くない。口縁部内面の段は、不明確。	外壁→10分の5程度の平行洗滌が施される。内面→丁寧なヨコナゲ。	密(1mm大の石灰・長石を含む)	良好	内外面に均等に焼色	F-150
S108	B341	72	39	206	① 0.5.7 ② 1.1A ③ 2.4	口縁部は、やや外反側に外傾して立ち上がる唇状口縁。縁部は丸い。口縁部下縁はわずかに下垂る。縁部はあまり厚くない。口縁部内面の段はゆるやか。	外壁→口縁部に酸化のため焼成不明。胴部にナゲ。内面→口縁部に傾斜方向のミガキ。縁部以下は下方へハケズリ。	粗(1mm大の長石を含む)	良好	内外面に均等に焼色	KR-125
S108	B342	72	39	286 385	① 2.8A ② 2.8A	外傾して立ち上がる唇状口縁の破片。口縁部下縁は不明確。口縁部内面の段は、不明確。	外壁→口縁部→平行洗滌が施される。胴部にナゲ。内面→口縁部にヨコナゲ。縁部以下は傾斜方向へハケズリ。	粗(1-2mm大の石灰・長石を含む)	良好	内外面に均等に焼色	F-185
S108	B343	72	39	157	① 0.5.9 ② 4.3A ③ 3.0	口縁部は、やや外反側に外傾して立ち上がる唇状口縁。縁部は丸い。口縁部下縁はわずかに下垂る。縁部はあまり厚くない。口縁部内面の段は、不明確。	外壁→口縁部にヨコナゲ。胴部にナゲ。内面→口縁部に傾斜方向のミガキ。縁部以下、右方向へハケズリ。	密(1mm大の長石を含む)	良好	外壁→黄褐色 内面→黄褐色	内外面に均等に焼色 F-127
S108	B344	72	39	158	① 3.6A ② 3.6A ③ 3.0	やや内傾して立ち上がる唇状口縁の破片。口縁部下縁は不明確。	外壁→平行洗滌が認められる。内面→ヨコナゲ。	やや中良(1-3mm大の石灰・長石を含む)	良好	内外面に均等に焼色	口縁部外壁にスチ付物 F-184
S108	B345	72	39	277	① 0.2.3 ② 4.2A ③ 2.6	口縁部は、やや外傾して立ち上がる唇状口縁。縁部は丸い。口縁部下縁はわずかに下垂る。縁部はあまり厚くない。口縁部内面の段は、不明確。	外壁→平行洗滌がわずかに認められる。内面→ヨコナゲ。	やや中良(1-3mm大の石灰・長石を含む)	良好	内外面に均等に焼色	F-154
S108	B346	72	39	276 282 298 300 308	① 0.7.4 ② 4.9A ③ 3.3	口縁部は、やや外傾して立ち上がる唇状口縁。縁部は丸い。口縁部下縁はわずかに下垂る。縁部はあまり厚くない。口縁部内面の段は、不明確。	外壁→唇部平行洗滌の痕跡が消失。内面→丁寧なヨコナゲ。	密(1-3mm大の石灰・長石を含む)	良好	内外面に均等に焼色	口縁部外壁にスチ付物 F-152
S108	B347	72	39	317	① 0.5.9 ② 4.5A ③ 2.7	口縁部は、外傾して立ち上がる唇状口縁。縁部は丸い。口縁部下縁はわずかに下垂る。縁部はあまり厚くない。口縁部内面の段はゆるやか。	外壁→口縁部→平行洗滌が施される。胴部にナゲ。内面→口縁部にヨコナゲ。縁部以下は傾斜方向へハケズリ。	密(1mm大の石灰・長石を含む)	やや不良	外壁→淡褐色 内面→黄褐色	KR-124
S108	B348	72	39	317	① 0.5.9 ② 4.5A ③ 2.7	口縁部は、外傾して立ち上がる唇状口縁。縁部は丸い。口縁部下縁はわずかに下垂る。縁部はあまり厚くない。口縁部内面の段はゆるやか。	外壁→口縁部→平行洗滌が施される。胴部にナゲ。内面→口縁部にヨコナゲ。縁部以下は傾斜方向へハケズリ。	密(1-3mm大の石灰・長石を含む)	やや不良	内外面に均等に焼色	KR-123
S108	B349	72	-	610	① 0.6.3 ② 3.7A ③ 2.6	口縁部は、やや外反側に外傾して立ち上がる唇状口縁。縁部は丸い。口縁部下縁はわずかに下垂る。縁部はあまり厚くない。口縁部内面の段はゆるやか。	外壁→酸化しているが、丁寧な平行洗滌が認められる。内面→ヨコナゲ。	密(1mm大の石灰・長石を含む)	良好	内外面に均等に焼色	F-182
S108	B350	72	-	296	① 1.8 ② 1.1A ③ 2.7	口縁部は、外傾して立ち上がる唇状口縁。縁部は丸い。口縁部下縁はわずかに下垂る。縁部はあまり厚くない。口縁部内面の段はゆるやか。	外壁→口縁部→平行洗滌が施される。胴部にナゲ。内面→口縁部にヨコナゲ。縁部以下は傾斜方向へハケズリ。	粗(1-3mm大の石灰・長石を多く含む)	良好	内外面に均等に焼色	口縁部外壁にスチ付物 KR-130
S108	B351	72	-	581	① 0.4.7 ② 4.2A ③ 2.3	口縁部は、やや外反側に外傾して立ち上がる唇状口縁。縁部は丸い。口縁部下縁はわずかに下垂る。縁部はあまり厚くない。口縁部内面の段はゆるやか。	外壁→酸化のため焼成不明。胴部にナゲ。内面→口縁部にヨコナゲ。縁部以下は傾斜方向へハケズリ。	やや中良(1-3mm大の石灰・長石を含む)	良好	内外面に均等に焼色	KR-128
S108	B352	72	40	212	① 0.5.3 ② 5.3A ③ 2.2	口縁部は、ほぼ垂直して立ち上がる唇状口縁。縁部は丸い。口縁部下縁はわずかに下垂る。縁部はあまり厚くない。口縁部内面の段はゆるやか。	外壁→傾いたヨコナゲ。内面→口縁部→胴部ヨコナゲ。胴部以下はナゲ。	密(1-2mm大の石灰・長石を含む)	良好	外壁→黄褐色 内面→暗褐色	KR-135
S108	B353	72	21	121 121A 121B 121C 121D	① 0.1.8 ② 0.2A ③ 2.4	口縁部は、やや内傾して立ち上がる唇状口縁。縁部は丸い。口縁部下縁はわずかに下垂る。縁部はあまり厚くない。口縁部内面の段はゆるやか。	外壁→口縁部→胴部ヨコナゲ。胴部→傾斜したため焼成不明。内面→酸化のため焼成不明。	やや中良(1-3mm大の石灰・長石を含む)	良好	内外面に均等に焼色	KR-119
S108	B354	72	40	185 201 202 203 443 489 580 603	① 0.5.2 ② 9.6A ③ 2.8	口縁部は、ほぼ垂直して立ち上がる唇状口縁。縁部は丸い。口縁部下縁はわずかに下垂る。縁部はあまり厚くない。口縁部内面の段はゆるやか。	外壁→口縁部→胴部ヨコナゲ。胴部→傾斜したため焼成不明。内面→口縁部→胴部ヨコナゲ。胴部以下は傾斜方向へハケズリ。	やや中良(1-2mm大の石灰・長石を含む)	やや不良	内外面に均等に焼色	S107出土土器(No.58)と同様。外壁黄褐色 KR-80
S108	B355	72	40	117	① 0.8.0 ② 3.7A ③ 2.6	口縁部は、厚く外傾して立ち上がる唇状口縁。縁部は丸い。口縁部下縁はわずかに下垂る。縁部はあまり厚くない。口縁部内面の段はゆるやか。	外壁→傾いたヨコナゲ。内面→ヨコナゲ。	密(1-2mm大の石灰・長石を含む)	良好	内外面に均等に焼色	F-149

挿表20 宇谷第1遺跡出土土器観察表 ⑬

所上遺跡	土器番号	種類	国版	取附	法量(cm)	形物上の特徴	手法上の特徴	胎土	焼成保存	色調	備考
S1 08 遺	R-266	73	-	576	① 0.8-4.8 ② 3.6-6 ③ 2.3	口縁部は外傾して立ち上がる複合口縁。縁部は外方へ肥厚し、外傾する平坦面をなし、凹縁が深まる。口縁部下方は鈍く突出し、丸味をもつ。口縁部内面の段はゆるやか。	外側→ヨコナテ、内側→ヨコナテ。	密(1-2cm)の石灰・炭石を含む。	良好	内外面共に黄褐色	F-156
S1 08 遺	R-267	73	40	610	① 0.8-0.9 ② 4.1-6 ③ 2.5	口縁部は、外傾して立ち上がる複合口縁。縁部は外方へ肥厚し外傾する平坦面をなし。口縁部下方はわずかに突出する。口縁部内面の段はゆるやか。	外側→ヨコナテ、内側→ヨコナテ。	密(1-2cm)の石灰を含む。	良好	内外面共に黄褐色	F-158
S1 08 遺	R-268	73	-	211	① 0.8-0.9 ② 3.6-6 ③ 2.4	口縁部は、外傾して立ち上がる複合口縁。縁部は外方へ肥厚し外傾する平坦面をなし。口縁部下方はわずかに突出する。口縁部内面の段はゆるやか。	外側→ヨコナテ、内側→ヨコナテ。	密(1-2cm)の石灰・炭石を含む。	良好	内外面共に黄褐色	F-160
S1 08 遺	R-269	73	40	187/399	① 0.6-3.8 ② 5.5-6 ③ 2.1	口縁部は、肩子や中内傾して立ち上がる複合口縁。縁部は外方へ肥厚して突出し、平坦面をなす。口縁部下方はわずかに外方へ突出し丸味もつ。凹縁が深まる。口縁部内面の段はゆるやか。肩部は大きく張り出す。	外側→口縁部に近いヨコナテ。肩部にへう状の溝による割欠あり。内側→口縁部にヨコナテ。肩部に右方へウケナズ。	密(1-4cm)の石灰・炭石を含む。	良好	内外面共に黄褐色	F-147
S1 08 遺	R-260	73	40	115	① 0.5-6 ② 4.6-6 ③ 2.6	口縁部は、中や内傾して立ち上がる複合口縁。縁部は外方へ肥厚し、外傾する平坦面をなし。口縁部下方はわずかに外方へ突出するが鈍く、丸味もつ。凹縁が深まる。口縁部内面の段はゆるやか。	外側→ヨコナテ、内側→口縁部にヨコナテ。肩部以下へウケナズ。	やや中傾(1-3cm)大の石灰・炭石を含む。	良好	外側→黄褐色～黄褐色 内側→黄褐色	KR-132
S1 08 遺	R-261	74	-	180	① 0.5-3.8 ② 3.1-6 ③ 2.5	口縁部は、外傾して立ち上がる複合口縁。縁部は外方へ肥厚し、外傾する平坦面をなし。口縁部下方は外方へ突出するが鈍く、丸味もつ。凹縁が深まる。	外側→強いヨコナテ、内側→ヨコナテ。	密(1-2cm)の石灰・炭石を含む。	良好	内外面共に黄褐色	KR-133
S1 08 遺	R-262	74	-	212	① 0.6-7.8 ② 3.6-6 ③ 2.5	口縁部は、外傾して立ち上がる複合口縁。縁部は外方へ肥厚し、外傾する平坦面をなし、凹縁が深まる。口縁部下方は外方へ突出するが鈍く、丸味もつ。口縁部内面の段はゆるやか。	外側→ヨコナテ、内側→ヨコナテ。	密(1-3cm)の石灰・炭石を含む。	良好	内外面共に黄褐色	F-155
S1 08 遺	R-263	74	-	265/213	① 0.7-3.8 ② 3.6-6 ③ 2.4	口縁部は、肩子で外傾して立ち上がる複合口縁。縁部は外方へ肥厚し、平坦面をなし。口縁部下方はわずかに丸味をもつ。凹縁が深まる。口縁部内面の段はゆるやか。	外側→ヨコナテ、内側→ヨコナテ。	密(1cm)大の石灰・炭石を含む。	良好	外側→灰褐色 内側→黄褐色 口縁部外面に黄褐色あり。	F-163
S1 08 遺	R-264	74	-	170	① 0.5-6 ② 3.4-6 ③ 2.5	口縁部は、外傾して立ち上がる複合口縁。縁部は外方へ肥厚して外傾する平坦面をなし、凹縁が深まる。口縁部下方はわずかに丸味をもつ。凹縁が深まる。口縁部内面の段はゆるやか。	外側→ヨコナテ、内側→ヨコナテ。	密(1-4cm)の石灰・炭石を含む。	良好	内外面共に黄褐色	F-151
S1 08 遺	R-265	74	-	158	① 0.4-6 ② 3.6-6 ③ 2.5	口縁部は、外傾して立ち上がる複合口縁。縁部は外方へ肥厚して突出し、外傾する平坦面をなし。口縁部下方は鈍く突出し、丸味をもつ。凹縁が深まる。口縁部内面の段はゆるやか。	外側→ヨコナテ、内側→ヨコナテ。	密(1cm)大の石灰・炭石を含む。	良好	内外面共に黄褐色	KR-135
S1 08 遺	R-266	74	-	215	① 0.3-0.8 ② 3.7-6 ③ 2.1	口縁部は、外傾して立ち上がる複合口縁。縁部は外方へ肥厚して平坦面をなし、凹縁が深まる。口縁部下方は中や上方へ突出するが鈍く、丸味もつ。凹縁が深まる。口縁部内面の段はゆるやか。	外側→ヨコナテ、内側→ヨコナテ。	密(1-2cm)の石灰・炭石を含む。	良好	内外面共に黄褐色	KR-142
S1 08 遺	R-267	74	-	198	① 0.3-0.8 ② 3.6-6 ③ 2.3	口縁部は、外傾して立ち上がる複合口縁。縁部は外方へ肥厚し、平坦面をなし。口縁部下方は中や上方へ突出するが鈍く、丸味もつ。凹縁が深まる。口縁部内面の段はゆるやか。	外側→強いヨコナテ、内側→ヨコナテ。	やや中傾(1-3cm)大の石灰・炭石を含む。	良好	内外面共に黄褐色	KR-141
S1 08 遺	R-268	74	40	203	① 0.4-2.8 ② 3.6-6 ③ 2.5	口縁部は、外傾して立ち上がる複合口縁。縁部は外方へ肥厚して平坦面をなし、凹縁が深まる。口縁部下方は丸く突出する。口縁部内面の段はゆるやか。	外側→ヨコナテ、内側→ヨコナテ。	やや中傾(1cm)大の石灰・炭石を含む。	良好	内外面共に黄褐色	KR-134
S1 08 遺	R-269	74	-	099	① 0.2-1.8 ② 3.2-6 ③ 1.9	口縁部は、外傾して立ち上がる複合口縁。縁部は外方へ肥厚して平坦面をなし、凹縁が深まる。口縁部下方はゆるやかに凹縁し、凹縁が深まる。	外側→ヨコナテ、内側→ヨコナテ。	密(1cm)大の石灰・炭石を含む。	良好	内外面共に黄褐色	KR-140
S1 08 遺	R-270	74	-	111	① 0.5-9.8 ② 4.7-6	口縁部は、中や上方へ突出するが鈍く、丸味もつ。凹縁が深まる。口縁部下方は中や上方へ突出するが鈍く、丸味もつ。凹縁が深まる。口縁部内面の段はゆるやか。	外側→強いヨコナテ、内側→口縁部にヨコナテ。肩部以下へ、横方向へウケナズ。	密(1-2cm)大の石灰・炭石を含む。	良好	外側→黄褐色 内側→黄褐色	KR-137
S1 08 遺	R-271	74	-	44/157	① 1.6-6	厚手で、肩が大きく張り出す頸部の破片。	外側→ヨコナテ。肩縁部はヨコナテ。肩縁部以下はヨコナテ。	密(1-2cm)大の石灰・炭石を含む。	良好	内外面共に黄褐色	F-151
S1 08 遺	R-272	74	-	213	① 7.5-6	厚手で、肩が大きく張り出す。ほぼ球形を呈す頸部の破片。	外側→ヨコナテ、内側→肩縁部は黄褐色。肩部以下は右方へウケナズ。	密(1-5cm)大の石灰・炭石を含む。	良好	内外面共に黄褐色	頸部に赤成部分あり。F-150
S1 08 遺	R-273	74	-	259	① 5.3-6	頸部の破片である。	外側→黄褐色。底状が隆起される。以下ナテ。	密(1-2cm)大の石灰・炭石を含む。	良好	外側→黄褐色 内側→黄褐色	KN-97
S1 08 遺	R-274	74	-	208	① 4.6-6	頸部が大きく張り出す頸部の破片。	外側→ヨコナテ、内側→口縁部にヨコナテ。肩部以下へウケナズ。	密(1-2cm)の石灰・炭石を含む。	良好	内外面共に黄褐色	肩縁部に赤成部分あり。F-166
S1 08 遺	R-275	75	-	206	① 3.2-6 ② 5.1-8	頸部に平坦面を呈す破片。	外側→ナテ。内側→ハラナズ。	やや中傾(1-3cm)大の石灰・炭石を含む。	良好	外側→黄褐色 内側→黄褐色	KR-118
S1 08 遺	R-276	75	-	600	① 2.9-6 ② 4.9-8	厚手で、中や上方へ突出する頸部。頸部はやや外傾してナテ。	外側→ナテ。内側→上方へのハラナズ。	やや中傾(1-3cm)大の石灰・炭石・砂粒を含む。	良好	外側→灰褐色 内側→黄褐色	底縁に黒成あり。KR-112
S1 08 遺	R-277	75	-	260	① 2.3-6 ② 4.3-8	平面的な破片。頸部は中や内傾時に属する。	外側→ナテ。内側→黄褐色のため調査不明。	やや中傾(1-3cm)大の石灰・炭石を多く含む。	良好	外側→黄褐色 内側→黄褐色	KR-113
S1 08 遺	R-278	75	-	298	① 1.3-6 ② 4.3-8	平面的な破片。	内外面とも黄褐色不明。	やや中傾(1cm)大の石灰・炭石を含む。	やや不貞	外側→黄褐色 内側→灰褐色	KR-115
S1 08 遺	R-279	75	-	238	① 1.3-6 ② 4.3-8	中や上方へ突出する頸部の破片。	外側→ナテ。内側→ハラナズ。	密(1-2cm)大の石灰・炭石を含む。	やや不貞	外側→黄褐色 内側→黄褐色	KR-116
S1 08 遺	R-280	75	-	276	① 2.4-6 ② 3.4-8	わずかに平坦面を呈す破片の破片。	外側→ナテ。内側→ハラナズ。	密(1cm)大の石灰・炭石を含む。	良好	外側→黄褐色 内側→黄褐色	F-146
S1 08 遺	R-281	75	-	279	① 1.1-6 ② 3.9-8	わずかに平坦面を呈す破片。	外側→ナテ。内側→ハラナズ。	密(1cm)大の石灰・炭石を含む。	やや不貞	外側→黄褐色 内側→黄褐色	KR-117

得表21 宇谷第1遺跡出土土器調査表 ⑬

出土地層	土層番号	深層	図例	取上げ量	数量(m)	形 容 上 の 特 徴	平 面 上 の 特 徴	胎 土	焼成保存	色 調	備 考
S1 08 台付壁	h302	75	40	237 261	① 2.6m ② 7.8m	やや外反してハ字に開く脚部。腰部はやや内傾する。	外壁一辺部との接合部に横方向のヒガキ。胎土はナメ。内面一辺部が内傾のヘラケズリ。脚部にはヨコナデ。	底(1m大の石英・長石を含む)。	良好	内外面とも褐色	KR-121
S1 08 瓦葺土	h303	75	-	318	① 1.6m ② 3.3m	瓦葺の平線を呈す。瓦葺上部の基部。	外壁一ナメ。内面一不整ヨコナデ。	底(焼成土を含む)。	良好	内外面とも褐色	KR-114
S1 08 高坪	h304	75	40	156	① 16.0m ② 9.0 ③ 9.0	ほぼ垂直の面を呈し、腰部は浅い。前面は短く、直線的に開く。基部で大きく広がる。	外壁一風化のため調整不明。内面一不整ヨコナデ。基部シボリ目をナメと収める。	やや硬(1~2m大の石英・長石を含む)。	良好	内外面とも褐色	基部内側に赤色塗部。KR-52
S1 08 大型高坪	h305	75	-	193	① 22.2m ② 5.8m	やや中程度のやや傾大型高坪と思われる基部の破片。基部がやや外反し、丸く収める。	外壁一ヨコナデ。内面一丁寧なヨコナデ。	やや不貞(1~3m大の石英・長石を含む)。	やや不貞	内外面とも褐色	F-133
S1 08 高坪	h306	75	-	159	① 20.5m ② 3.5m	浅い現状を呈す高坪の破片。基部はわずかに外反し、丸く収める。	内外面ともナメ。	やや硬(1m大の石英・長石を含む)。	やや不貞	内外面共に褐色	F-132
S1 08 高坪	h307	75	-	157 303	① 17.8m ② 6.1m	浅い現状を呈す高坪の破片。基部は丸く収める。	外壁一風化のため調整不明。ナメ。基部部外壁に割欠あり。内面一丁寧なナメ。	底(1~3m大の石英・長石を含む)。	やや不貞	内外面共に褐色	F-123
S1 08 高坪	h308	75	40	175	② 8.4m	浅い現状を呈す高坪一帯の破片。基部は傾くや外反して開く。	外壁一ナメ。内面一不整ヨコナデ。基部シボリ目がある。	底(1~2m大の石英・長石を含む)。	良好	内外面共に褐色	F-136
S1 08 高坪	h309	75	-	211	④ 4.6m	直線的に開く上端部一帯の破片。基部は傾く。直線的に開く。	外壁一風化のため調整不明。内面一不整ヨコナデ。	やや硬(1~3m大の石英・長石を含む)。	やや不貞	内外面共に褐色	F-131
S1 08 高坪	h310	75	-	44 179	① 1.3m	浅い現状を呈すと思われる高坪部。内面がもろい。	外壁一不整ヨコナデ。内面一ナメ。	底(1~2m大の石英を含む)。	良好	内外面共に褐色	F-130
S1 08 高坪	h311	75	-	116	② 2.5m	高坪の基部部分である。	内外面共に風化している。	底(1~2m大の石英を含む)。	不貞	内外面共に褐色	KV-59
S1 08 高坪	h312	75	-	592	① 1.4m	浅い現状を呈すと思われる高坪部。	内外面とも風化のため調整不明。	やや硬(1m大の石英・長石を含む)。	やや不貞	内外面共に褐色	F-129
S1 08 高坪	h313	75	-	183 393	② 2.1m	浅い現状を呈すと思われる高坪部の破片。	内・外面とも風化が著しい。	底(1~3m大の石英・長石を含む)。	不貞	内外面共に褐色	F-128
S1 08 高坪	h314	75	-	599	① 1.6m	高坪部部の破片。浅い現状を呈すものか。	外壁一風化のため調整不明。内面一丁寧なナメ。	底(1~2m大の石英・長石を含む)。	やや不貞	内外面共に褐色	F-126
S1 08 高坪	h315	75	40	176	④ 6.0m	基部はやや傾く。直線的に開く。	外壁一(準)は、タテハケ。下半はナメ。内面一シボリ目がある。	底(1m大の石英・長石を含む)。	良好	外面一褐色 内面一白っぽい褐色	F-135
S1 08 高坪	h316	75	40	610	② 7.0m	直線的に開く基部の破片。	外壁一風化のため調整不明。内面一シボリ目がある。	やや硬(1~2m大の石英・長石を含む)。	良好	内外面共に褐色	F-140
S1 08 高坪	h317	75	40	603	④ 6.5m	直線的に開く基部の破片。	外壁一風化のため調整不明。内面一シボリ目がある。	やや硬(1~2m大の石英・長石を含む)。	良好	内外面共に褐色	F-143
S1 08 高坪	h318	75	40	109	② 7.2m	基部は直線的に開く。基部で大きく広がる。	外壁一風化のため調整不明。内面一上平部シボリ目がある。下半部ヘラケズリ。	底(1~2m大の石英・長石を含む)。	やや不貞	内外面共に褐色	F-141
S1 08 高坪	h319	75	40	157	④ 5.4m	直線的に開く基部の破片。	外壁一風化のため調整不明。内面一上半部シボリ目がある。下半部はヘラケズリ。	やや硬(1~2m大の石英・長石を含む)。	やや不貞	内外面共に褐色	F-142
S1 08 高坪	h400	75	40	605	④ 5.4m	やや外反して開く基部の破片。	外壁一縦方向にナメ。内面一シボリ目がある。	底(1m大の石英・長石を含む)。	良好	内外面共に褐色	F-137
S1 08 高坪	h401	75	40	300	④ 3.9m	基部一帯の破片。基部は直線的に開く。基部で大きく広がる。	外壁一風化のため調整不明。内面一シボリ目がある。	底(1~3m大の石英・長石を含む)。	やや不貞	内外面共に褐色	F-139
S1 08 高坪	h402	75	40	212	④ 4.1m	やや外反して開く基部の破片。	内・外面とも風化が著しい。内面にシボリ目がある。	やや硬(1m大の石英・長石を含む)。	やや不貞	内外面共に褐色	F-138
S1 08 高坪	h403	75	40	196 233 287	④ 9.2m ④ 6.9	基部はやや傾く。直線的に開く。基部で大きく広がる。	外壁一風化のため調整不明。内面一シボリ目がある。基部ヨコナデ。	底(1m大の石英・長石を含む)。	良好	内外面とも褐色 基部内面にヘラケ。KR-78	F-134
S1 08 高坪	h404	75	-	196 184	① 6.5m ② 8.5m	基部は直線的に開く。基部で大きく広がる。	外壁一風化のため調整不明。内面一シボリ目がある。	底(1m大の石英を含む)。	やや不貞	内外面とも褐色	F-144
S1 08 高坪	h405	75	-	286	② 2.6m ④ 17.0m	大きく広がる大型高坪と思われる脚部部。	内・外面ともナメ。	底(1m大の石英・長石を含む)。	やや不貞	内外面とも褐色	F-141
S1 08 小室	h406	75	41	291	④ 7.5m	脚部は様子で、ほぼ垂直となる小室。口縁部を欠く。	外壁一タテハケ。内面一傾くよる傾きナメ。	底(1~5m大の石英を含む)。	良好	外面一褐色 内面一褐色	F-145
S1 08 壁	h408	77	41	912	① 11.0m ④ 4.6m ④ 2.7	口縁部は、直立状態で立ち上がる複合口縁。腰部は浅い。口縁部は傾く。下方に垂れる。口縁部内側の段は不明瞭。基部は浅く、内面は光輝をもっている。	外壁一風化しているが、口縁部に13cm以上の平行状段が残される。基部ヨコナデ。内面一傾斜一帯部シボリ目がある。	底(1~2m大の石英を含む)。	良好	内外面共に褐色	KV-55
S1 08 壁	h410	77	-	419 420 420	① 20.0m ④ 4.3m ④ 3.0	やや外反して外傾する複合口縁。腰部は浅い。口縁部は傾く。やや中かに傾斜する。口縁部内側の段は不明瞭。	外壁一10cmの平行状段が残される。内面一ヨコナデ。	底(1m大の石英を含む)。	良好	内外面とも褐色	F-177
S1 08 壁	h411	77	-	419	① 16.2m ④ 3.6m ④ 2.7	口縁部は、外傾して立ち上がる複合口縁。立ち上がりは浅い。腰部は丸く収められる。口縁部下端はやや外方へ引き点である。口縁部内側の段は不明瞭。	外壁一7cmの傾斜平行状段が残される。内面一ヨコナデ。	やや硬(1~5m大の石英・長石を含む)。	良好	内外面とも褐色	F-153
S1 08 壁	h412	77	-	426	① 15.3m ③ 25.0m ④ 2.5	口縁部は、ほぼ直立して立ち上がる複合口縁。腰部は丸く、口縁部下端は、風化しているが、部分的にくくおろが下座している。口縁部内側の段は不明瞭。	外壁一口縁部に5cm以上の平行状段が残される。内面一口縁部にヨコナデ。	底(1~2m大の石英を含む)。	良好	内面一白っぽい褐色 外面一灰褐色 外壁一褐色一帯部	KV-56
S1 08 壁(原形)	h412	77	41	99 412	② 7.5m ④ 4.8m	平部の基部。	外壁一タテ方向のハの縁。横方向にナメ。内面一ナメ。	底(1~8cmの石英を多く含む)。	良好	内外面共に白っぽい褐色	KV-58

附表2 宇奈第1遺跡出土土器観察表 ①

出土遺物	土器 番号	種類	図版	取上 番号	深さ(cm)	形 状 上 の 特 徴	手 法 上 の 特 徴	胎 土	焼成状況	色 調	備 考
S K 03 壺	7445	78	-	503	①13.6cm ② 3.5cm ③ 3.0	口縁部は、やや外傾して立ち上がる筒状口縁。肩部は丸味をもつ。口縁部下部は、やや外方にのび、丸味をもつ。	外側—平行片流線が施される。 内側—ナデ。	灰(1mm大の石英を含む)	やや不貞	内外共に淡黄褐色	K R - 58
S K 03 壺	7446	78	-	503	①13.1cm ② 3.1cm	口縁部は、やや内傾に深くく、平上口縁。肩部は内傾する平肩をもつ。	内外両共に、ココナテ。	灰(ウツモ、1-2mm大の石英を含む)	良好	内外共に黄褐色	K R - 57
S K 03 壺	7447	78	42	52	①14.6cm ② 8.1cm ③ 2.3	口縁部は、内傾でやや丸く、成立気味に立ち上がる筒状口縁。肩部は内傾に深く、丸味をもつ。口縁部下部は、ごくわずかに下垂する。肩部は「く」字状に折れ、肩部はなだらかに頸部にゆる。口縁部内面の段は不明瞭。	外側—口縁部ココナテで肩部付近に凹線あり。肩部は平肩で内傾しココナテ。以下横方向ナデ。 内側—口縁部ココナテ。肩部横方向ナデ。以下右方向ナデ横方向ナデ。	灰(ウツモ、0.5-2mmの石英含む)	良好	外側—淡黄褐色 内側—黄褐色	K R - 14
S K 05 壺 (底部)	7448	78	42	54	① 7.7cm ② 4.9cm	底面は、平底である。	外側—縦方向にナデ。 内側—左方向にナデ右方向にナデ。	灰(ウツモ、0.5-2mm大の石英を含む)	良好	内側—明黄褐色 外側—淡黄褐色	外側に高低あり。7447と同様。 K R - 15
S K 04 壺	7449	78	42	660	①18.4cm ② 2.6cm ③ 2.1	口縁部は、ほぼ直立して立ち上がる筒状口縁。肩部は丸味をもつ。口縁部下部は、かなり肥厚しわずかに下垂する。口縁部内面の段は不明瞭。	外側—口縁部は、丸味に丸みのある筒状口縁が施される。 内側—ココナテ。口縁部の前面より、全体に粘土の層が施される。	灰(0.5-2mm大の石英・長石を含む)	良好	内側—淡黄褐色 外側—淡黄褐色	内側にスチ付。 K N - 61
S K 04 壺 (肩部)	7450	78	42	660	① 2.3cm ② 6.0cm	下部の底面。	内側—風化が著しい。割線不明。 外側—ナデ方向ナデ。	灰(0.5-2mm大の石英・長石を含む)	やや不貞	内側—淡黄褐色 外側—淡黄褐色	K N - 62
S K 04 台形鉢	7451	78	42	811	①17.0cm ②14.6 ③ 8.7	深い鉢部をもつ。肩部はやや外傾し、丸くおぼろげ。唇部は、直線的に傾く。頸部は、丸くおぼろげ。厚手。	外側—ナデ。唇部は傾斜が施される。 内側—鉢部は、下は、左方向にナデナデ。下半部は、右方向にナデナデ。唇部は、ナデ。頸部は傾斜が施される。	灰(1-3mmの石英・長石を含む)	良好	内側—黄褐色 外側—黄褐色	外側に黒あり。 K N - 79
S K 06 壺	7452	78	42	61	①18.2cm ② 2.8cm ③ 2.8	口縁部は、ほぼ直立して立ち上がる筒状口縁。肩部は、丸味あり、やや外方にのび、丸味をもつ。口縁部下部は、わずかに下垂する。口縁部内面の段は不明瞭。	外側—口縁部は、12条の平行流線。 内側—ココナテ。	灰(0.5-2mm大の石英を含む)	良好	内側—明黄褐色 外側—淡黄褐色	K N - 60
S K 07 底面型 壺	7453	78	-	1305	① 5.5cm	胴部の破片。	外側—平行流線、一部にナデ状工具による流線が一本入る。 内側—同心円状印。	磁化。	良好	内外共に灰色	K N - 63
S K 07 底面型 壺	7454	78	-	1306	① 7.4cm	胴部の破片。	外側—一枚子印あり。 内側—ナデ目調。	やや不貞 灰(1-2mm大の石英・長石を含む)	不貞	外側—淡黄褐色 内側—灰褐色	K N - 64
S K 09 壺	7455	79	-	32	①16.7cm ② 4.5cm ③ 3.2	口縁部は、わずかに外傾して立ち上がる筒状口縁。肩部は、丸味をもつ。口縁部下部は、下垂する。肩部は「く」字状に屈曲する。口縁部内面の段は不明瞭。	外側—口縁部は、12条の平行流線が施される。以下ナデ。 内側—口縁部は、ココナテ。頸部以下に左方向のナデ。	灰(ウツモ、1mm大の石英を含む)	良好	内外共に黄褐色	口縁部外側にスチ付。 K R - 38
S K 11 壺 (底面)	7456	79	42	856	① 1.7cm ② 3.8cm	底面は、平底である。	外側—ナデ。 内側—ナデナデ。	灰(ウツモ1-2mmの石英を含む)	良好	内外共に赤褐色	底面外側に黒あり。 K R - 31
S D 01 壺	7457	79	-	667	①14.0cm ② 3.9cm ③ 2.3	外傾して立ち上がる筒状口縁。肩部は、丸くおぼろげ。口縁部下部は、やや丸くおぼろげ。肩部から下部にかけて、肥厚し丸くおぼろげ。下部は丸くおぼろげ。厚手。	外側—縦線平行流線が見られるが風化が著しい。 内側—ナデ。	やや不貞(石英を含む)	不貞	内外共に灰色	S - 9
S D 01 壺	7458	79	-	730	①17.4 ② 4.5cm ③ 2.8	口縁部は、わずかに外傾して立ち上がる筒状口縁。肩部は、丸くおぼろげ。口縁部下部は、下垂している。口縁部内面の段は不明瞭。口縁部内面の段は不明瞭。	外側—口縁部は平行流線が施されるが、風化が著しい。 内側—ナデ。	灰(石英・長石・黒クワンモを含む)	良好	内外共に赤褐色	S - 6
S D 01 壺	7459	79	42	785	①18.0cm ② 6.0cm ③ 4.0	口縁部は、内傾で、やや外傾して立ち上がる筒状口縁。肩部は、丸味あり、やや外方にのび、丸味をもつ。口縁部下部は、かなり下垂する。肩部は「く」字状に屈曲する。	外側—口縁部はココナテ。肩部にナデ。 内側—口縁部はココナテ。頸部以下に右方向のナデ。	灰(ウツモ1-4mmの石英を含む)	良好	内外共に黄褐色	K R - 33
S D 01 壺	7460	79	-	764	①18.0cm ② 3.5cm	外傾して立ち上がる筒状口縁(下部は丸味に丸み)。肩部は、丸くおぼろげ。口縁部下部は、下垂し丸くおぼろげ。厚手。	外側—縦線平行流線が見られる。風化が著しい。 内側—ナデ。風化している。	やや不貞(石英を含む)	良好	内外共に灰色	S - 5
S D 01 壺	7461	79	-	665	①19.4cm ② 2.8cm	筒状口縁下部、外傾して立ち上がると思われる。肩部は、丸くおぼろげ。口縁部下部は、下垂し丸くおぼろげ。厚手。	外側—ココナテ。 内側—ナデ。風化が著しい。	灰(石英・長石を含む)	良好	内外共に灰色	S - 10
S D 01 壺	7462	79	-	1136	①15.0cm ② 3.2cm ③ 2.3	外傾して立ち上がる筒状口縁。肩部は、丸味に丸み。口縁部下部は、丸味に丸み。口縁部下部は、丸味に丸み。口縁部下部は、丸味に丸み。	外側—ナデ。風化している。 内側—ココナテ。	やや不貞(石英を含む)	良好	内外共に灰色	S - 8
S D 01 高杯	7463	79	-	1113	① 3.4cm	口縁部は、内傾で、やや外傾して立ち上がる筒状口縁。肩部は、丸味あり、やや外方にのび、丸味をもつ。口縁部下部は、下垂し丸くおぼろげ。厚手。	外側—縦線下部にココナテが入っている。 内側—ナデが見られる。	灰(長石・クロウツモを含む)	良好	内外共に灰色	S - 12
S D 01 高杯	7464	79	-	122	①21.2cm ② 3.2cm	外傾気味に立ち上がる高杯口縁。肩部は、やや外方にのび、丸味をもつ。口縁部下部は、丸味に丸み。口縁部下部は、丸味に丸み。	外側—ココナテ。風化が著しい。 内側—風化が著しい。	灰(長石・石英・黒クワンモを含む)	良好	内外共に灰色	S - 7
S D 01 底面	7465	79	-	727	① 3.1cm ② 4.7cm	底面が凹状の底面。底面部分から中央部へ向かって、わずかに立ち上げられている。	外側—ナデ。 内側—ナデ。風化が著しい。	やや不貞(石英・クロウツモを含む)	良好	内側—黄褐色 外側—灰色	S - 3
S D 02 底面	7466	79	42	627	① 3.8cm ② 3.6cm	平底の底面。	外側—風化が著しい。 内側—ナデナデ。風化が著しい。	やや不貞(石英を含む)	やや不貞	内側—淡黄褐色 外側—淡黄褐色	S - 1
S D 01 外(底面)	7467	79	-	665	① 1.0cm ② 31.4cm	基凸部等の一部分、凸部部の中央は、上面、下面ともうすくなっている。縁部は、上面の方が下面よりも、外側へ突出している。	上面、下面とも薄くなつたとと思われる。	灰	良好	灰色-黄褐色	S - 13

挿表23 宇谷第1遺跡出土土器観察表 ⑬

出土遺構	土器番号	種類	西暦	取上番号	法長(m)	形 態 上 の 特 徴	手 法 上 の 特 徴	胎 土	焼成温度	色 調	備 考
S D 01 環	R408	79	42	729	① 6.6 ② 2.4 ③ 2.3	小型の杯(手取杯)。	外壁→底面(粘土を切り、灰化物混入)。 内面→ナメタ。	灰(赤、黒、クワン石を含む)。	良好	内外両面に褐色	S-2
S D 02 環	R410	80	42	822 825	① 21.2 ② 5.6 ③ 2.8	口縁部は、肉厚で直立し立ち上がる複合口縁。縁部は、丸みをもち、口縁部内面は、なだらかに屈曲し、胴部に接する。縁部は「く」字状に折れる。口縁部内面の段は不明瞭。	内外両面にヨコナデ。	密(1~2mmの石英を含む)。	良好	内外両面に褐色。褐色	KR-21
S D 02 環	R411	80	-	300	① 17.9 ② 4.6 ③ 2.3	口縁部は、肉厚で直立し立ち上がる複合口縁。縁部は、丸みをもち、口縁部内面は、なだらかに屈曲し、胴部に接する。口縁部内面の段は不明瞭。	外壁→口縁部は平行沈線。以下はナメ。内面→ナメタ。	やや粗(1~2mmの石英を含む)。	やや不良	内外両面に淡黄褐色	KR-28
S D 02 環	R442	80	-	304	① 18.5 ② 4.7 ③ 2.3	口縁部は、直立し立ち上がる複合口縁。縁部は、丸みをもち、口縁部内面は、なだらかに屈曲し、胴部に接する。口縁部内面の段は不明瞭。	外壁→口縁部は平行沈線がわずかに認められる。以下はナメ。内面→ナメタ。	密(クワン石、0.5~2mmの石英を含む)。	良好	内外両面に褐色。淡褐色	KR-27
S D 02 環	R443	80	-	620	① 18.2 ② 4.3 ③ 2.1	口縁部は、外傾して立ち上がる複合口縁。縁部は、ゆるやかに内傾した面をもち、やや外反し丸みをもち、口縁部内面は、なだらかに屈曲し、胴部に接する。口縁部内面の段は不明瞭。	外壁→口縁部は平行沈線。以下はナメ。内面→ヨコナデ。	密(クワン石、0.5~2mmの石英を含む)。	良好	内外両面に黄褐色	口縁部外面にスチ付。KR-29
S D 02 環	R444	80	42	613 731	① 16.9 ② 4.7 ③ 2.3	口縁部は、外傾して立ち上がる複合口縁。縁部は、ゆるやかに内傾し、胴部に接する。縁部は「く」字状に折れる。口縁部内面の段は不明瞭。	外壁→口縁部は4条以上の平行沈線。胴部はナメ。内面→口縁部はナメ。胴部はケズリ状にナメタ。	密(クワン石、1mmの石英を含む)。	良好	内面→緑褐色。外壁→褐色。外壁→褐色	KR-19
S D 02 環	R445	80	42	824	① 16.1 ② 4.3 ③ 2.8	口縁部は、やや外傾して立ち上がる複合口縁。縁部は、丸みをもち、口縁部内面は、なだらかに屈曲し、胴部に接する。縁部は「く」字状に折れる。口縁部内面の段は不明瞭。	外壁→口縁部は8条以上の横ひし平行沈線。胴部はナメ。内面→口縁部はヨコナデ。胴部は方角にケズリ。	密(クワン石、1~3mmの石英を含む)。	良好	内外両面に緑褐色。	KR-20
S D 02 環	R446	80	-	500	① 14.1 ② 5.6 ③ 2.7	口縁部は、肉厚で直立し立ち上がる複合口縁。縁部は、丸みをもち、口縁部内面は、なだらかに屈曲し、胴部に接する。口縁部内面の段は不明瞭。	外壁→口縁部は4条の平行沈線。内面→ナメタ。	密(クワン石、0.5~2mmの石英を含む)。	良好	内外両面に淡黄褐色	KR-24
S D 02 環	R447	80	-	504	① 14.7 ② 2.7 ③ 2.2	口縁部は、やや外傾して立ち上がる複合口縁。縁部は、丸みをもち、口縁部内面は、なだらかに屈曲し、胴部に接する。口縁部内面の段は不明瞭。	内外両面に黒化している。	やや粗(クワン石、1mmの石英を含む)。	やや不良	内外両面に黄褐色	KR-26
S D 02 環	R448	80	-	500	① 13.4 ② 4.6 ③ 2.5	口縁部は、やや外傾して立ち上がる複合口縁。縁部は、丸みをもち、口縁部内面は、なだらかに屈曲し、胴部に接する。縁部は「く」字状に折れる。	外壁→直立している。内面→口縁部はナメ。胴部以下は方角にケズリ。	密(1~3mmの石英を含む)。	良好	内外両面に淡黄褐色	KR-23
S D 02 環	R449	80	-	504	① 12.6 ② 4.2 ③ 2.1	口縁部は、外傾して立ち上がる複合口縁。縁部は、ゆるやかに内傾し、胴部に接する。縁部は「く」字状に折れる。	内外両面にナメ。	密(クワン石、1mmの石英を含む)。	良好	内外両面に淡黄褐色	KR-25
S D 02 環	R450	80	-	619	① 17.1 ② 1.1 ③ 2.0	口の口縁部片である。縁部は、丸みをもち、口縁部内面は、なだらかに屈曲し、胴部に接する。縁部は「く」字状に折れる。	内外両面に傾方ヨコナデ。	密(クワン石、砂を含む)。	良好	内外両面に灰褐色	KR-22
S D 02 環	R451	80	-	620	② 2.6	口縁部破片である。縁部は、ゆるやかに内傾した面をもち、やや外反し丸みをもち、口縁部内面は、なだらかに屈曲し、胴部に接する。縁部は「く」字状に折れる。	外壁→平行沈線。	密(1mmの石英を含む)。	良好	内外両面に淡黄褐色	KR-30
S D 02 環	R452	80	-	301	① 14.9 ② 3.8 ③ 1.7	厚手の杯。5/4以上が欠損している。外壁外面には、縁部との接合の跡と見られる2つの同心円状の溝がある。内面のものは約1mm、外側のものは約4mmの深さである。外側のくぼみのまわりには、高さ3mm程度の粘土の盛り合わせがある。内面中央には、外面のくぼみに対応する凹みがある。二重凹み状の溝がある。	内外両面に黒化が著しい。	密(灰石を含む)。	やや不良	内面→淡黄褐色。外壁→褐色	S-4
S D 03 環	R453	80	43	877	① 16.8 ② 4.2 ③ 2.5	外傾して立ち上がる口縁。縁部は、丸みをもち、口縁部内面は、なだらかに屈曲し、胴部に接する。縁部は「く」字状に折れる。口縁部内面の段は不明瞭。	外壁→口縁部に傾斜平行沈線がある。胴部にかけてヨコナデが見られる。口縁部はナメ。内面→ナメタ。	密(赤、黒、長石を含む)。	良好	内外両面に褐色	S-14
S D 03 環	R454	80	43	669	① 17.4 ② 5.2 ③ 3.3	外傾して立ち上がる複合口縁。縁部は、丸みをもち、口縁部内面は、なだらかに屈曲し、胴部に接する。縁部は「く」字状に折れる。口縁部内面の段は不明瞭。	外壁→口縁部に傾斜平行沈線。黒化が著しい。内面→ヨコナデ。	やや粗(石英、黒石を含む)。	やや不良	内面→淡褐色。外壁→黄褐色	S-15
S D 03 環	R455	80	-	674	① 14.9 ② 2.3 ③ 1.8	外傾して立ち上がる複合口縁。縁部は、丸く、下縁部は、丸みをもち、口縁部内面は、なだらかに屈曲し、胴部に接する。縁部は「く」字状に折れる。	外壁→口縁部は傾斜平行沈線。黒化が著しい。内面→ナメ。黒化が著しい。	密	やや不良	内外両面に淡黄褐色	S-18
S D 03 環	R456	80	-	678	① 16.4 ② 3.7 ③ 2.7	外反斜めに外傾して立ち上がる複合口縁。縁部は、ゆるやかに内傾し、胴部に接する。縁部は「く」字状に折れる。口縁部内面の段は不明瞭。	外壁→傾斜あり。傾斜状文。黒化が著しい。内面→ナメ。黒化が著しい。	やや粗(石英を含む)。	不良	内外両面に黄褐色。口縁部には黒褐色あり。スチ付あり。	S-17
S D 03 環	R457	80	-	427	① 16.1 ② 3.6 ③ 1.9	外反斜めに外傾して立ち上がる複合口縁。縁部は、丸みをもち、口縁部内面は、なだらかに屈曲し、胴部に接する。縁部は「く」字状に折れる。口縁部内面の段は不明瞭。	外壁→黒化が著しい。内面→ナメ。黒化が著しい。	密(石英を含む)。	不良	内外両面に褐色	S-19
S D 03 環	R458	80	-	676	① 17.9 ② 3.5 ③ 2.5	外反斜めに外傾して立ち上がる複合口縁。縁部は、丸く、1つのはねになっており、縁部上面は、傾斜した面をもち、口縁部内面は、なだらかに屈曲し、胴部に接する。口縁部内面の段は不明瞭。	外壁→ナメ。内面→ヨコナデ。	やや粗(石英を含む)。	良好	内外両面に淡黄褐色	S-16
S D 03 環	R459	80	-	722	③ 3.0 ④ 6.0	底面は、平底である。	外壁→ヨコナデ。内面→傾斜沈線が残り、黒化が著しい。	密(黒石を含む)。	良好	内面→淡黄色。外壁→褐色	S-20
S D 03 環	R460	81	43	721 722 752	① 17.0 ② 3.6	外反斜めに外傾して立ち上がっている高杯。口縁部は、外へり出すように外反している。中央部付近は欠損している。	外壁→黒化が著しい。内面→黒化が著しい。	密(赤、黒、クワン石を含む)。	やや不良	内外両面に褐色	S-21
S D 03 環	R461	81	43	682	② 2.3	杯底片。外壁中央部には、2重凹み状の溝がある。また、外側の凹みの跡は傾斜した面をもち、やや外反し丸みをもち、口縁部内面は、なだらかに屈曲し、胴部に接する。縁部は「く」字状に折れる。	外壁→ナメ。内面→黒化が著しい。	密(石英、黒石を含む)。	やや不良	内面→黄褐色。外壁→褐色	S-22

挿表24 宇谷第1遺跡出土土器類調査表 ⑬

出土遺物	土器番号	種別	図版	取上番号	位置(m)	形態上の特徴	手法上の特徴	胎土	焼成保存	色調	備考
S D 灰 塗	Pa62	81	43	785	①15.3# ②4.1# ③2.7	口縁部は、やや外傾して立ち上がる複合口縁。口縁部は、尖角をもつ。口縁部は、短く短曲する。口縁内側の段は不明瞭。	外壁→風化している。内壁→口縁部はナデ、部分的に指爪圧痕残る。胴部以下は右方向にナズリ。	やや粗(ツラム、1~2mmの石灰を含む)	やや不貞	内外共に淡黄褐色	KR-32
S B 03 壁	Pa63	81	43	130	①15.4# ②9.8# ③2.0	口縁部は、外傾して立ち上がる複合口縁。胴部は尖角をもつ。口縁部は短く、わずかに下曲し、尖角を持って胴部に至る。口縁部内側は、風化的に平く。胴部は、なだらかに、胴縁は胴部に残る。	外壁→風化している。内壁→口縁部はナデ。胴部以下は右方向にナズリ。	やや粗(1~3mmの石灰、石灰を含む)	やや不貞	内面→灰褐色～淡赤褐色 外面→淡黄褐色～赤褐色	ビツトより上。 KR-59
直積外 壁	Pa64	81	43	1261	①17.0# ②12.0# ③24.7# ④2.5	外反尖角に外傾して立ち上がる複合口縁をもつ。口縁部は、外へ傾いた手面になっている。口縁内側の段はゆるやか。胴部は「く」の字状に彎曲。胴部はゆるやか。	外壁→口縁部にナデが見られる。胴部にはほぼ水平方向に「ハ」字が見られる。内壁→口縁部はナデが胴部に沿って、後ナデが見られる。胴部には「く」の字状の凹凸が残り残る。	やや粗(石灰を含む)	良好	内面→赤褐色～淡赤褐色 外面→赤褐色～淡赤褐色	口縁部、胴部にスズ付着。 S-25
直積外 壁(口縁)	Pa65	81	43	1359	①15.5# ②10.7# ③21.7# ④3.1	やや外傾して立ち上がる複合口縁をもつ。口縁部は、尖く、下傾部は角ばっている。口縁内側の段は明確。胴部は「く」の字状に彎曲している。胴部はゆるやか。	外壁→口縁部に平行沈線、胴部ナデ。内壁→風化している。内面→口縁部にはナデが見られる。	粗(石灰を含む)	良好	内外共に淡黄褐色	S-26、S-27
直積外 壁	Pa66	81	-	18	①14.9# ②3.8# ③2.4	口縁部は、ほぼ直立して立ち上がる複合口縁。胴部は、先細りして、狭くとがる。口縁下縁部は、なだらかに胴部に至る。口縁内側の段は不明瞭。	外壁→口縁部に平行沈線、胴部ナデ。内壁→風化している。	密(0.5~2mmの石灰を含む)	良好	内外共に淡黄褐色	KR-17
直積外 壁	Pa67	81	-	45	①15.2# ②4.1# ③2.8	口縁部は、わずかに外反するがほぼ直立する。口縁部は尖くおさまる。口縁下縁部はそのまま直曲し、胴部に至る。口縁部内側の段はゆるやか。	外壁→口縁部には略水平沈線。口縁部下縁から胴部にかけて僅い「ハ」字が見られる。内壁→口縁部は胴部にかけてコナデ、胴部以下左方向へ向うナズリ。	密(1~2mmの石灰、灰石を含む)	良好	内外共に淡黄褐色	口縁部外側にスズ付着。 KN-66
直積外 底部	Pa68	81	-	1369	①1.7# ②3.0 ③5.4	底面が平らな底面。	外壁→ナデ。風化著しい。内面→ナズリ。風化著しい。	やや粗(石灰を含む)	良	内面→黒褐色 外面→淡赤褐色	S-28
直積外 底(底面)	Pa69	81	-	742	②2.6# ③6.9	底面は平直である。	内外共に風化している。	やや粗(1~6mmの石灰を含む)	やや不貞	内外共に淡赤褐色	KR-18
直積外 底(底面)	Pa70	81	-	82	④4.6 ⑤6.6#	高反底面。	外壁→ナデ。内面→ナデ。	密(木灰を含む)	良	内外共に褐色	S-29
直積外 底(底面)	Pa71	81	-	1115	②2.0 ③3.0 ④3.0	(底面が平らな)底面。	外壁→ナデ。内面→ナデ。	密(クロロムを含む)	良好	内外共に淡黄褐色	S-29
直積外 底(底面)	Pa72	81	-	31	①15.5# ②10.4#	底面の縁部である。	外壁→ナデ。内面→ナデ。胴部は風化している。	密(1mmの石灰を含む)	良好	内外共に淡黄褐色	NA-72
直積外 底(底面)	Pa73	81	-	27	②22.8# ③2.3#	口縁部は大きく外傾して開く。胴部は外方へ引き出し、平坦面をなす。	外壁→ナデ。内面→ナデ。	緻密	良好	内外共に淡黄褐色	KN-68
直積外 底(底面)	Pa74	81	-	6	③3.6#	胴部の破片。	内面→同心円状。外壁→平行形。	密	良好	内外共に褐色	KN-67
直積外 底(底面)	Pa75	81	-	733	②3.4# ③6.2 ④4.0	底面の平らな底面。	外壁→ナデ。内面→石を押し、指で押える。(胴部)	密	良好	内外共に淡黄褐色	S-24
直積外 底(底面)	Pa76	81	-	45		やや内傾する平反の破片。	外壁→凹状に入る。内面→凸状に入る。	密	良好	内外共に淡黄褐色	KR-36

挿表25 宇谷第1遺跡出土土器調査表 ⑨

出土遺跡	土器番号	押込	取上番号	法長(cm)	高さ(cm)	形 態 上 の 特 徴	手 込 上 の 特 徴	胎 土	焼成保存	色 調	備 考
S102 土玉	h18	47	22	816 径 2.5-2.7 穴径 0.6-0.7	15.8	ややいびつな球形。ほぼ中心に穿孔してある。	手控の後サテ。	灰(ワシキを含む)	良好	淡茶褐色	KR-42
S104 土玉	h274	67	36	469 径 2.5-2.7 穴径 0.7-1.0	13.4			灰(ワシキ・炭石を含む)	良好	淡茶褐色～淡灰褐色	KR-3
S104 土玉	h275	67	36	471 径 2.6-2.7 穴径 0.8	13.0			灰(ワシキ・炭石を含む)	良好	明灰褐色	KR-4
S104 土玉	h276	67	36	470 径 2.6-2.7 穴径 0.7	12.2			灰(ワシキ・炭石を含む)	良好	暗茶褐色	KR-5
S104 土玉	h277	67	36	472 径 2.6-2.8 穴径 0.6-0.7	14.4			灰(ワシキ・炭石を含む)	良好	暗灰褐色	KR-6
S104 土玉	h278	67	36	473 径 2.6-2.7 穴径 0.6-0.8	12.2			灰(ワシキ・炭石を含む)	良好	淡茶褐色	KR-7 黒斑あり
S104 土玉	h279	67	36	474 径 2.8 穴径 0.8	14.6			灰(ワシキ・炭石を含む)	良好	暗茶褐色	KR-8 下部に黒斑あり
S104 土玉	h280	67	36	482 径 2.7-2.9 穴径 0.5-0.7	14.6			灰(ワシキ・炭石を含む)	良好	暗茶褐色	KR-9
S104 土玉	h281	67	36	483 径 2.7 穴径 0.8-1.0	12.4			灰(ワシキ・炭石を含む)	良好	暗茶褐色	KR-10
S104 土玉	h282	67	36	484 径 2.7 穴径 0.6-0.7	13.6			灰(ワシキ・炭石を含む)	良好	暗茶褐色	KR-11
S104 土玉	h283	67	36	485 径 2.9 穴径 0.7	13.6			灰(ワシキ・炭石を含む)	良好	暗茶褐色	KR-12 黒斑あり
S107 土玉	h338	71	38	257 径 2.8-2.9 穴径 0.7	20.2			灰(ワシキ・炭石を含む)	良好	淡茶褐色	KR-2 右下部にスズ付
S108 土玉	h407	76	41	596 径 3.1-3.2 穴径 0.8-0.9	24.2			灰(ワシキ・炭石・炭石を含む)	良好	淡茶褐色	KR-13 右下部に黒斑あり
S109 土玉	h413	77	41	98 径 2.8 穴径 0.5	15.4			灰(ワシキ・炭石を含む)	良好	暗灰褐色～暗灰褐色	KR-1
S102 土玉	h414	78	-	97 径 2.4 穴径 0.7	-			灰(ワシキ・炭石を含む)	良好	暗灰褐色～暗灰褐色	KR-60
S D01 土玉	h439	79	42	726 径 2.9-3.0 穴径 0.7-0.8	21.8			灰(炭石を含む)	良好	灰～灰黄褐色	S-11

挿表26 宇谷第1遺跡土製品観察表

出土遺跡	遺物番号	押込	取上番号	形 態	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	形 態 の 特 徴	備 考	
S K03	F-3	78	42	1332	刀子	8.1	1.4	0.5	刀身一長方形。基部から連続的に刀部へなる。基部の断面は長方形。	KR-9
S I03	F-2	66	36	1233	刀子	11.3	1.7	0.4	刀身長9.5cm。断面一筆直三角扁平形。刃先はやや鈍い。刀身の内部にスズが埋まっている。片側、基部に水漬が残る。	KR-7
S I03	F-1	66	35	1102	鉄製方形 鉄製片刃	6.4	9.8	0.4	刀部鉄根を左から折り返す。刃部は錆化のため不明瞭。折り返し部分に水漬が残る。	KR-8

挿表27 宇谷第1遺跡鉄製品観察表

取上遺物	番号	層位	取上番号	種別	石材	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重さ(g)	形	備	備考	
S1 02	S1	47	22	685	燧石	12.7	9.6	6.0	1050	断面は想入る幾門形を呈す。2ヶ所に敲打痕あり。		KR-61	
S1 02	S2	47	22	629	燧石	アブライト	7.8	3.7	2.5	83	縦溝は2つあり、両面とも良く使われ内磨する。		KR-64
S1 02	S3	47	22	1055	勾玉	燧石製	3.0	1.0	穴径 0.2-0.3	6.1	両側穿孔。黒緑色。		KR-3
S1 03	S4	66	35	227	勾玉	メノウ	4.2	1.5	穴径 0.15-0.4	17.2	片側穿孔。黒褐色。		KR-6
S1 03	S5	66	35	1052	管玉	軟玉	2.6	0.5	穴径 0.15-0.2	0.7	片側穿孔。淡緑色。		KR-4
S1 03	S6	66	35	946	管玉	軟玉	2.2	0.4	穴径 0.15-0.2	0.6	片側穿孔。淡緑色。		KR-3
S1 03	S7	66	35	380	燧石	アブライト	15.1	4.4	4.0	365	縦溝は6つある。うち1箇所は良く使われて内磨する。穿孔具の穴3つある。		KR-66
S1 03	S8	66	35	1511	燧石	アブライト	11.7	4.9	1.8△	135	残存の縦溝は1つあり、良く使われて内磨する。		KR-63
S1 03	S9	66	35	1302	燧石	角閃石安山岩	11.6	6.6	6.6	735	1つの面に敲打痕あり。		KR-62
S1 05	S10	67	36	228	管玉	燧石	1.65	0.3	穴径 0.1-0.15	0.2	片側穿孔。淡緑色。		KR-1
S1 05	S11	67	36	478	燧石	アブライト	8.2	4.3	2.7△	160	残存する縦溝は2つある。うち1箇所は良く使われて内磨する。		KR-67
S1 05	S12	67	36	1349	燧石	角閃石安山岩	11.4	6.5	6.1	670	両面に敲打痕あり。		KR-69
S1 05	S13	67	36	1367	燧石	ソウ石化した燧石	5.7	3.0	1.2	39.6	先端部が欠けているが、全面を使う。1箇所は良く使われ内磨する。		KR-65
S1 07	S14	71	38	630	燧石	アブライト	13.2	6.1	5.5	680	残存する縦溝は3つある。うち内側の2箇所は良く使われて内磨する。		KR-70
S1 08	S15	76	41	533	石鏃	岐阜安山岩	2.1	1.7	0.38	1.0	両端はやや削いが、形状は整っている。鉄入は非常に浅い逆U字形である。両側部はやや膨む。		T-1
S1 08	S16	77	41	1112	燧石	緑色燧石	7.8	2.6	0.35	10.4	両端が鋭直した鈍色燧石である。薄い石片で縦溝は4つある。		KR-71
S1 08	S17	77	41	359	燧石	燧石燧石	8.8	9.0	2.9	330	縦溝は2つあり、両面とも良く使われ内磨する。粒が少し粗い。		KR-68
S1 09	S18	77	41	793	燧石	アブライト	11.0	7.4	3.9	430	両端が欠損しているが、全面に磨った跡がある。よく使われている面は内磨する。		KR-75
S1 09	S19	77	41	741	燧石	燧石燧石	11.4	7.0	5.7	625	縦溝は1箇所で、良く使われて内磨する。粒が少し粗い。		KR-72
遺物外	S20	81	43	27	不明	石英安山岩	3.7	-	1.2	9.0	平べたい円盤。		KR-73
遺物外	S21	81	43	265	玉管製品	燧石製	1.8	0.8	1.6	1.6	平端面が残る。部分的に丸く調整されている。		KR-2

得張28 宇谷第1遺跡石製品観察表

出土場所	土器番号	種別	図版	取上げ番号	法長(m)	形制上の特徴	手法上の特徴	胎土	施彩存在	色調	備考	
S101	●内1	82	44	42	①15.4W ②11.4A ③2.5	口縁部は、やや外側に立ち上がる複合口縁。嘴部はない。口縁部は薄くはた、やや下側に張り出す。肩部は、肩部はあまり膨らまない。口縁部内面の段はゆるやか。	外面—口縁部4条以上の平行沈線が施されるが、嘴部にナシ。肩部にヨコナシ。首面に縦筋。胴部にニギギが認められる。 内面—口縁部ヨコナシ。胴部右方向へツケナシ。胴部以下右方向へツケナシ。	密(1—3mm大の石炭、灰石を含む)	やや不良	内外共に緑褐色 内面—灰褐色	口縁部—胴部にヒス付 底—8	
S101	変	内2	82	44	37	①15.5W ②3.5A ③2.8	口縁部は、やや外側に外側に外れて立ち上がる複合口縁。嘴部はない。口縁部は薄くはた、やや下側に張り出す。肩部は、肩部はあまり膨らまない。口縁部内面の段は不明瞭。	外面—口縁部5条以上の平行沈線。胴部にナシ。 内面—口縁部横方向にナシ。胴部以下左方向へツケナシ。	密(1—3mm大の石炭、灰石を含む)	良好	外面—緑褐色 内面—灰褐色	口縁部—胴部ヒス付。 底—5
S101	変	内3	82	41	8	①15.2W ②3.5A ③3.4 ④2.2	口縁部は、外反外側に外れて立ち上がる複合口縁。嘴部はない。口縁部は薄くはた、やや下側に張り出す。肩部は、肩部はあまり膨らまない。口縁部内面の段は不明瞭。	外面—口縁部5条以上の平行沈線が施される。 内面—口縁部横方向にナシ。胴部以下左方向へツケナシ。	密(1—2mm大の石炭、灰石を含む)	良好	内外共に灰褐色 内面—明褐色	KR-3
S101	変	内4	82	44	33	①15.3W ②2.5	口縁部は、外反して立ち上がる複合口縁。嘴部はない。口縁部は薄くはた、やや下側に張り出す。肩部は、肩部はあまり膨らまない。口縁部内面の段は不明瞭。	外面—口縁部5条以上の平行沈線を上二二筋筋。 内面—口縁部横方向。胴部以下下方向へツケナシ。	やや不良(1—2mm大の石炭、灰石、黒色を含む)	やや不良	内外共に灰褐色	KR-2
S101	変	●内5	82	-	33	①17.9W ②3.5A ③1.6	口縁部は、外反外側に外れて立ち上がる複合口縁。嘴部はない。口縁部は薄くはた、やや下側に張り出す。肩部は、肩部はあまり膨らまない。口縁部内面の段は不明瞭。	外面—口縁部5条以上の平行沈線。嘴部は横方向にナシ。 内面—口縁部横方向にナシ。胴部以下右方向へツケナシ。	やや不良(1—2mm大の石炭、灰石を含む)	やや不良	外面—褐色 内面—灰褐色	KR-1
S101	変	内6	82	-	11	①5.7A ②1.7B	平蓋を蓋す蓋物。	外面—割線している。 内面—ツケナシ。	密(1mm大の石炭、灰石を含む)	良好	外面—褐色	KR-6
S101	変	内7	82	-	25	①11.1W ②2.4A ③12.0 ④0.5	立ち上がりは内傾する。肩部は内い。交錯はやや上方へ延びる。	外面—口縁部ナシ。他は口縁部ナシ。 内面—縦筋ナシ。	密(黄砂を含む)	良好	内外共に灰褐色	KR-7
S102	変	内8	82	-	17	①13.9W ②1.9A	口縁部はゆるやかに内傾しながら下方へ下り、嘴部に至る。嘴部はない。次肩部の段は不明瞭。	外面—次肩部1/8のツケナシ。他は口縁部ナシ。 内面—口縁部ナシ。	やや不良(1—3mm大の砂粒を含む)	やや不良	内外共に灰褐色	NA-85
S102	変	内9	82	-	19	①14.0W ②3.3A ③4.8 ④1.2	立ち上がりは内傾する。肩部は薄く引き出される。交錯は水平に延びる。	外面—口縁部ナシ。 内面—口縁部ナシ。	やや不良(1mm大の石炭、灰石を含む)	良好	内外共に灰褐色	NA-90
S102	変	内10	82	44	4	①14.0W ②3.2A	口縁部はゆるやかに内傾しながら下方へ下り、嘴部に至る。肩部は内い。次肩部の段は不明瞭。	外面—次肩部1/4以下へツケナシ。他は口縁部ナシ。口縁部部にヒス付あり。 内面—次肩部も下方内傾。他は口縁部ナシ。	やや不良(砂粒を含む)	良好	内外共に灰褐色	F-170
S102	変	内11	82	44	3	①13.3W ②3.5A	口縁部ゆるやかに内傾しながら下方へ下り、嘴部に至る。肩部は内い。次肩部の段は不明瞭。	外面—口縁部ナシ。口縁部部にヒス付あり。 内面—口縁部ナシ。	密(砂粒を含む)	やや不良	内外共に灰褐色	NA-86
S102	変	内12	82	-	12	①9.6A ②1.9 ③21.5W ④2.4	肩部は、肩部が張り、腹筋を呈す。首筋に1条の凹線が認められる。	外面—口縁部ナシ。 内面—口縁部ナシ。	密(1—3mm大の石炭、灰石を含む)	良好	内外共に緑褐色	S-33
遺跡外 見取図	内13	83	-	4	①14.0W ②2.1A ③15.5 ④0.9	立ち上がりは内傾し、短い。肩部はない。交錯はやや上方へ延びる。	内外共に口縁部ナシ。	密(砂粒を含む)	良好	内外共に灰褐色	P-175	
遺跡外 見取図	内14	83	-	4	①12.8W ②2.4A ③14.0 ④0.7	立ち上がりはやや内傾し、短い。肩部はない。交錯は水平に引き出される。	内外共に口縁部ナシ。	密(黄砂を含む)	良好	内外共に灰褐色	F-172	
遺跡外 見取図	内15	83	-	27	①15.0W ②2.7A ③15.6 ④5.6 ⑤1.2	立ち上がりはやや内傾する。肩部は薄く引き出される。交錯は水平に延びる。	内外共に口縁部ナシ。	密	良好	内外共に灰褐色	NA-89	
遺跡外 見取図	内16	83	-	15	①16.0W ②3.5A ③11.0 ④0.9	立ち上がりは内傾し、短い。肩部は薄く引き出される。交錯はやや上方へ延びる。	内外共に口縁部ナシ。	密(黄砂を含む)	良好	内外共に灰褐色	F-171	
遺跡外 見取図	内17	83	44	1	①12.0W ②2.6A ③12.0 ④0.8	立ち上がりは内傾し、短い。肩部はない。交錯はやや上方へ延びる。	内外共に口縁部ナシ。	密(黄砂を含む)	良好	内外共に灰褐色	NA-84	
遺跡外 見取図	内18	83	44	12	①9.5W ②2.5A ③11.0 ④1.0	立ち上がりは短く内傾する。肩部はない。交錯はやや上方へ延びる。	内外共に口縁部ナシ。	密(黄砂を含む)	良好	内外共に灰褐色	F-171	
遺跡外 見取図	内19	83	-	4	①2.5A ②1.5B	外反して大きく深く窪んだ縁部の破片。三角部まで下へ延びる。	内外共に口縁部ナシ。	密	良好	内外共に緑褐色	NA-88	
遺跡外 見取図	内20	83	44	27	①22.8W ②3.5A	口縁部で「 σ 」の字に人々く窪く。	外面—口縁部ナシ。胴部以下ツケ横あり。 内面—口縁部ナシ。	密(1mm以下の砂粒を含む)	良好	外面—緑褐色 内面—灰褐色	KN-73	
遺跡外 見取図	内21	83	-	6	①1.5A ②1.6B	大きく広がる短縁部は、内面に配する。	内外共に口縁部ナシ。	密(黄砂を含む)	良好	内外共に灰褐色	F-173	
遺跡外 見取図	内22	83	44	9	①2.3A	ほぼ球形状を呈す容器。中央部に内凹した孔あり。	外面—口縁部ナシ。 内面—口縁部ナシ。	密(黄砂を含む)	良好	外面—緑褐色 内面—灰褐色	KN-74	
遺跡外 見取図	内23	83	44	8	①15.7W ②4.8A ③2.9	口縁部はやや外反外側に外れて立ち上がる複合口縁。嘴部はない。口縁部は薄くはた、やや下側に張り出す。肩部は、肩部はあまり膨らまない。口縁部内面の段は不明瞭。	外面—1条以上の平行沈線。所々をナシナシ。 内面—口縁部横方向にナシ。胴部以下下方向へツケナシ。	密(1—2mm大の石炭、灰石、黒砂を含む)	良好	内外共に灰褐色	KR-4	
遺跡外 見取図	内24	83	44	4	①15.5W ②4.1A	大きくく「 σ 」の字に外反する口縁部。嘴部はない。口縁部は薄くはた、やや下側に張り出す。肩部は、肩部はあまり膨らまない。口縁部内面の段は不明瞭。	外面—ツケナシ。 内面—口縁部ナシ。胴部以下下方向へツケナシ。	密(黄砂を含む)	良好	内外共に灰褐色	KR-7	

押表29 南谷大ナル遺跡出土土器観察表

出土場所	番号	種別	図版	取上げ番号	種別	材質	最大長(m)	最大幅(m)	最大高(m)	重量(kg)	形状	特徴	備考
S101	S1	82	-	49	磁石	磁化陶片	5.2	4.3	3.5	111	縦帯が3つある。下平欠欠。		S-32
遺跡外	S2	83	44	3	磁石	雲母安山岩	7.1	4.6	4.7	200	縦帯が4つある。先端欠欠。		S-31

押表30 南谷大ナル遺跡土器品観察表

圖 版

図版 1



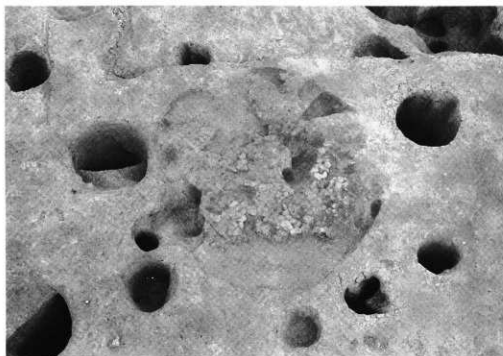
宇谷第1遺跡調査前全景(西上空より)



宇谷第1遺跡全景(南上空より)



宇谷第1遺跡
S101完掘状況
(西より)



宇谷第1遺跡
S101焼土検出状況
(北より)



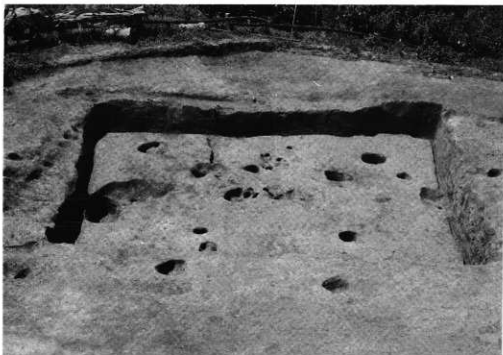
宇谷第1遺跡
S102・10完掘状況
(北より)

図版 3

宇谷第1遺跡
S103土器出土状況
(南より)



宇谷第1遺跡
S103完掘状況
(南より)

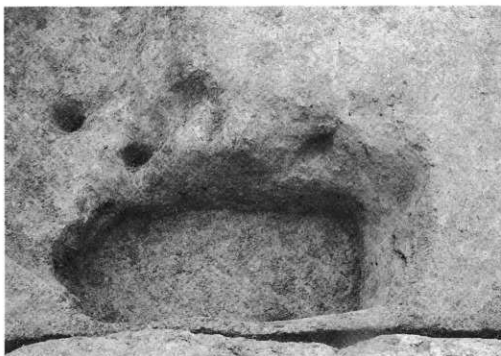


宇谷第1遺跡
S103完掘状況
(西より)

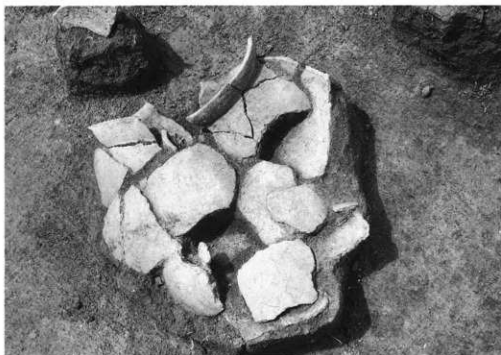




宇谷第1遺跡
S103南側仕切溝完掘状況
(北より)



宇谷第1遺跡
S103内SK15・16
完掘状況
(西より)



宇谷第1遺跡
S103甕(Po91)出土状況
(南より)

図版 5

宇谷第1遺跡
S103高坏(Po190)甕
(Po26)出土状況
(南より)

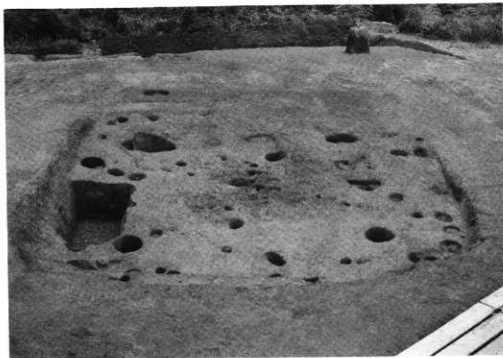


宇谷第1遺跡
S103甕(Po30)小型丸底
壺(Po241)出土状況
(北東より)



宇谷第1遺跡
S103刀子(F2)
出土状況
(北より)

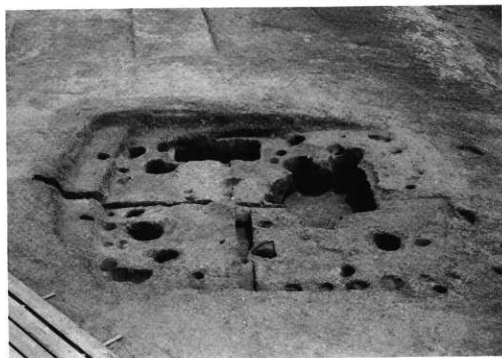




宇谷第1遺跡
S104-05完掘状況
(北より)



宇谷第1遺跡
S104-05完掘状況
(西より)



宇谷第1遺跡
S104-05貼床除去後
完掘状況
(西より)

図版 7



宇谷第1遺跡
S105内SK12炭化物出土状況
(東より)



宇谷第1遺跡
S105内SK13炭化物出土状況
(東より)



宇谷第1遺跡
S105内SK13完掘状況
(東より)



宇谷第1遺跡
S106-07完掘状況
(北より)



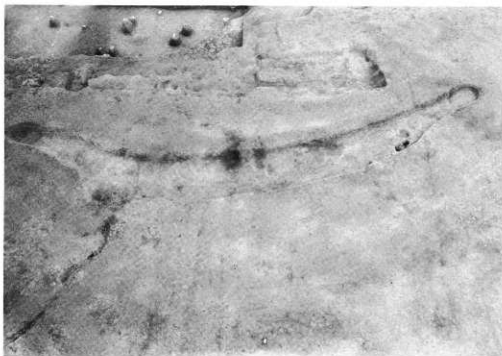
宇谷第1遺跡
S106ピット検出状況
(北より)



宇谷第1遺跡
S106甕(Po284)出土状況
(南より)

図版 9

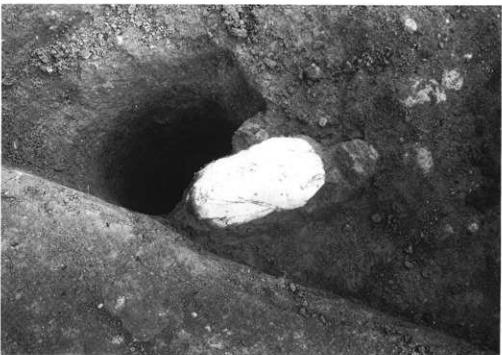
宇谷第1遺跡
SD04完掘状況
(北より)



宇谷第1遺跡
S107完掘状況
(西より)



宇谷第1遺跡
S107内磁石(S14)出土状況
(北より)





宇谷第1遺跡
S108完掘状況
(北より)



宇谷第1遺跡
S109完掘状況
(南より)



宇谷第1遺跡
S109柱穴位置
(北より)

図版11

宇谷第1遺跡
S109柱穴位置
(南より)

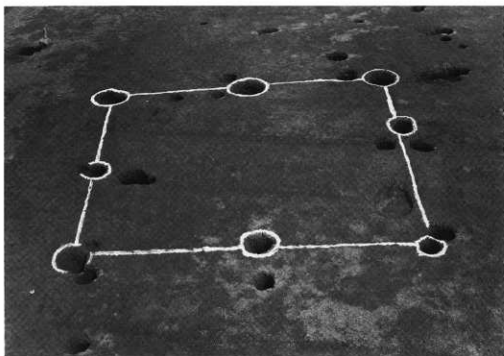


宇谷第1遺跡
ピット群発掘状況(その1)
(南より)

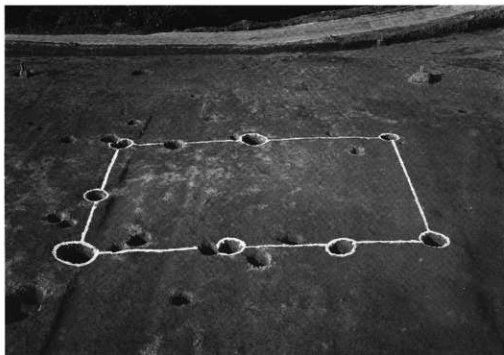


宇谷第1遺跡
ピット群発掘状況(その2)
(東より)

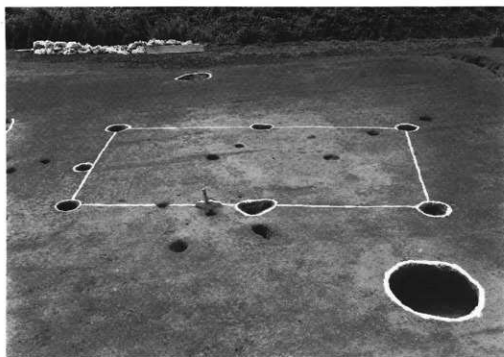




宇谷第1遺跡
SB01完掘状況
(北より)

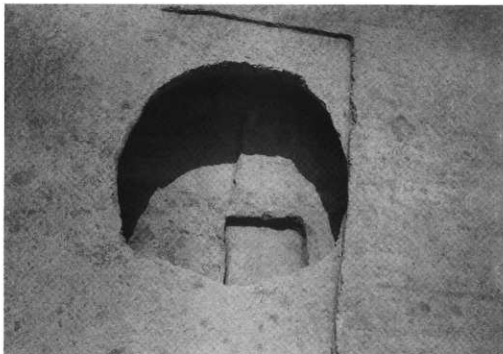


宇谷第1遺跡
SB02完掘状況
(西より)



宇谷第1遺跡
SB03完掘状況
(北より)

宇谷第1遺跡
SK01完掘状況
(北より)

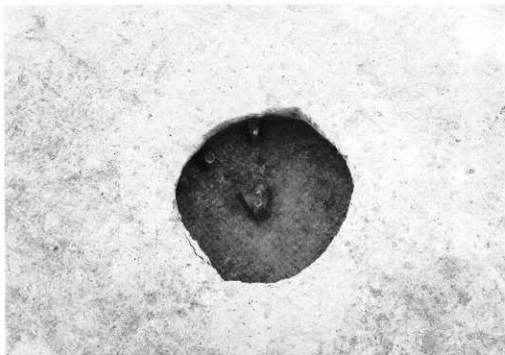


宇谷第1遺跡
SK02完掘状況
(東より)



宇谷第1遺跡
SK03完掘状況
(西より)

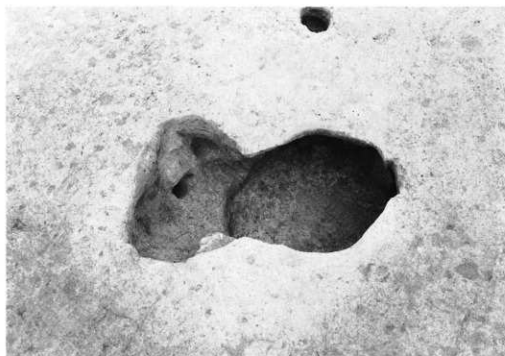




宇谷第1遺跡
SK04遺物出土状況
(東より)

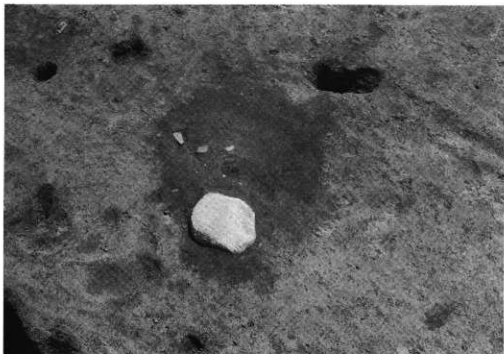


宇谷第1遺跡
SK04内台付鉢(Po421)
出土状況
(東より)



宇谷第1遺跡
SK05(右)・06(左)
完掘状況
(西より)

宇谷第1遺跡
SK07検出状況
(北より)

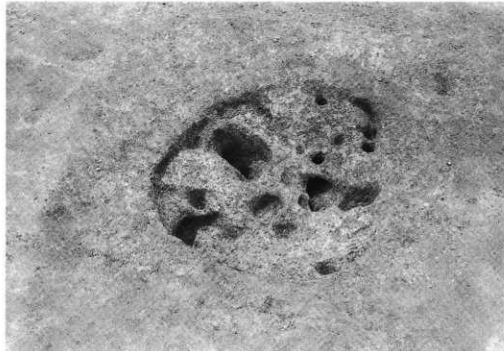


宇谷第1遺跡
SK08遺物出土状況
(南より)

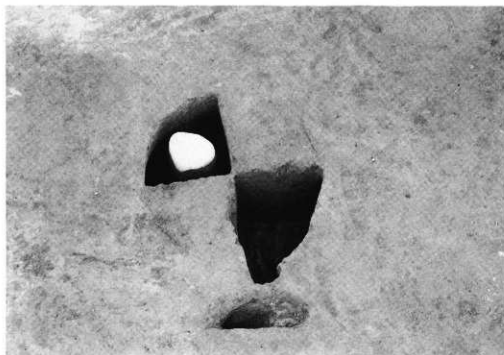


宇谷第1遺跡
SK09完掘状況
(南より)





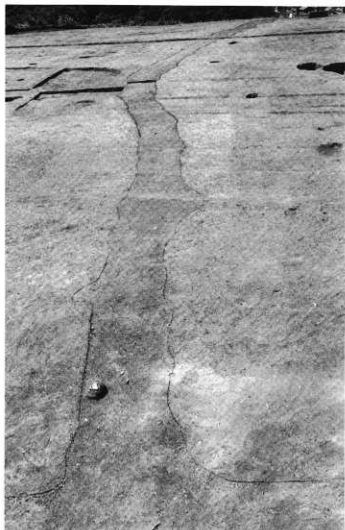
宇谷第1遺跡
SK10完掘状況
(北より)



宇谷第1遺跡
SK11検出状況
(南より)



宇谷第1遺跡
SD02検出状況
(南より)



宇谷第1遺跡SD01検出状況(南より)



宇谷第1遺跡SD01完掘状況(南より)



宇谷第1遺跡SD03検出状況(東より)



宇谷第1遺跡
SD05検出状況
(西より)



南谷大ナル遺跡
調査前全景
(東より)

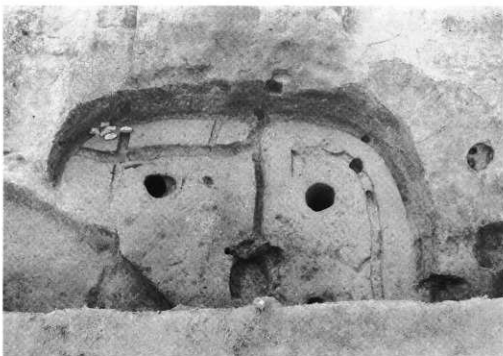


南谷大ナル遺跡全景
(北上空より)

南谷大ナル遺跡
S101検出状況
(南より)



南谷大ナル遺跡
S101完掘状況
(南より)



南谷大ナル遺跡
S101貼床除去後
完掘状況
(南より)





南谷大ナル遺跡
ピット群完掘状況
(北西より)



南谷大ナル遺跡
SS01石検出状況
(北より)



南谷大ナル遺跡
SS01完掘状況
(北より)

南谷大ナル遺跡
SD01完掘状況
(北より)

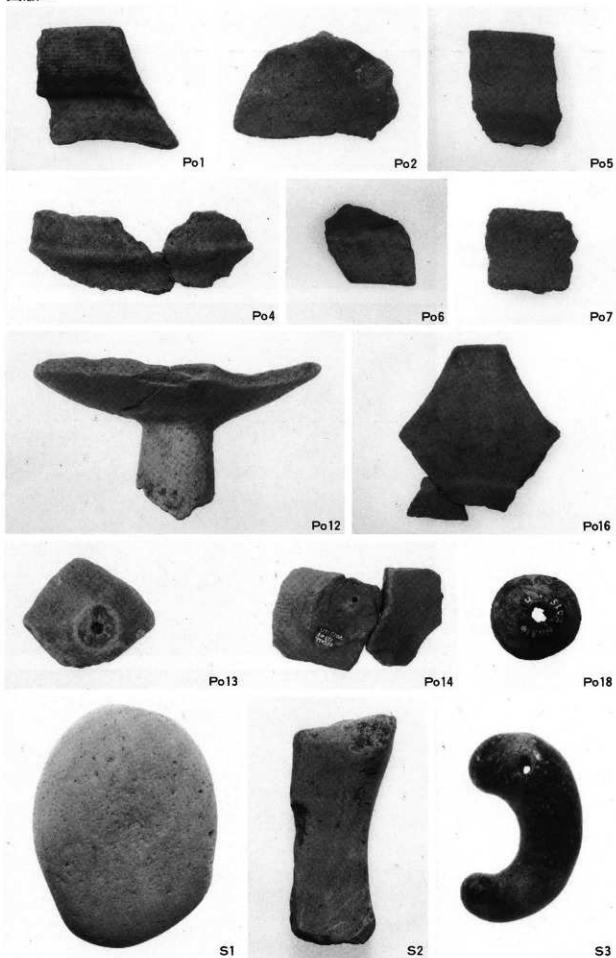


南谷大ナル遺跡
SD02完掘状況
(西より)

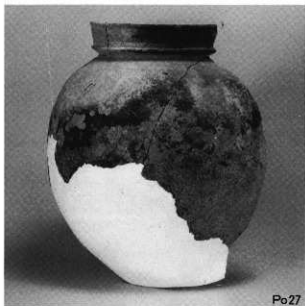
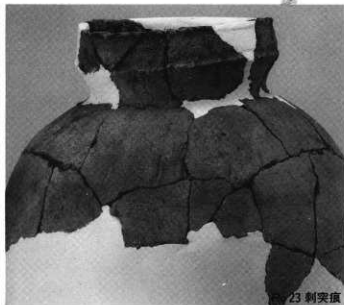
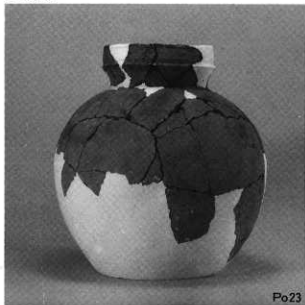


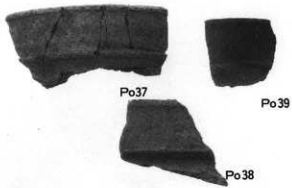
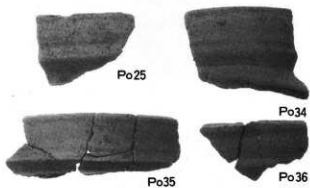
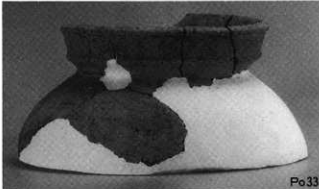
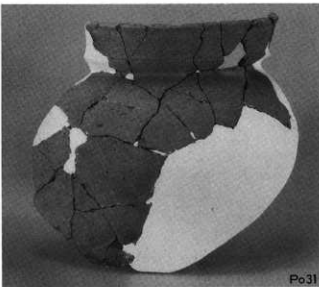
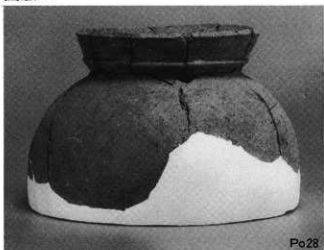
南谷大ナル遺跡
SD03完掘状況
(東より)



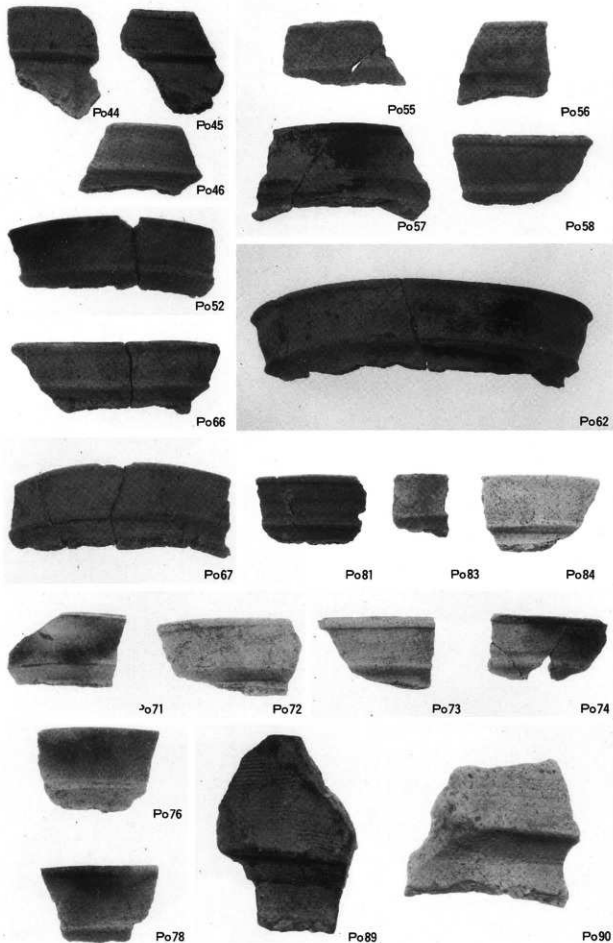


宇谷第1遺跡 S101(Po1, Po2)・S102(Po4~Po7, Po12~Po14, Po16, Po18, S1~S3)

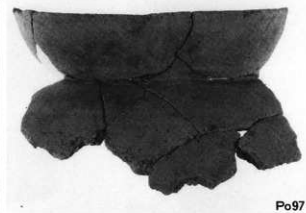
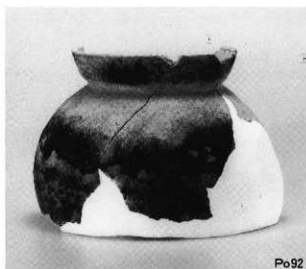
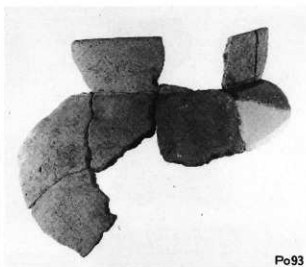


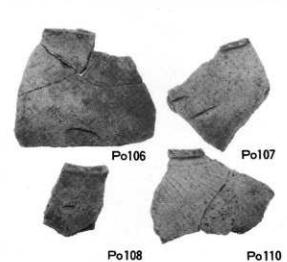
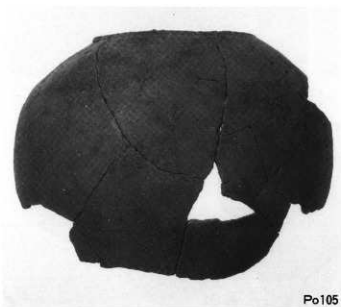
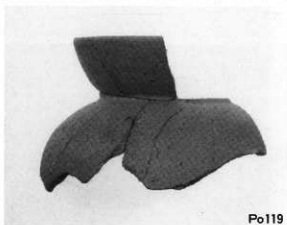
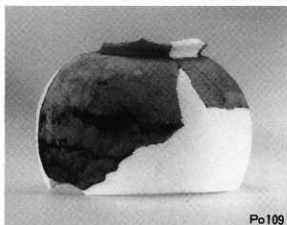
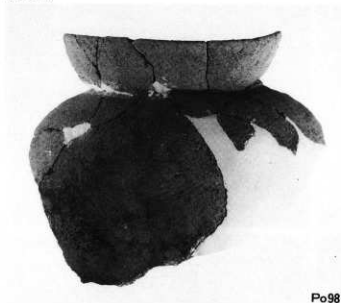


图版25



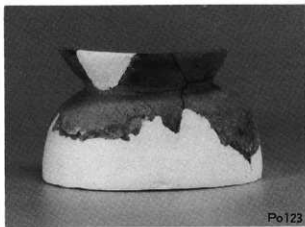
宇谷第1遺跡 SI03 (Po44~Po46, Po52, Po55~Po58, Po62, Po66, Po67, Po71~Po74, Po76, Po78, Po81, Po83, Po84, Po89, Po90)



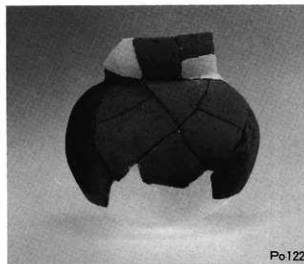




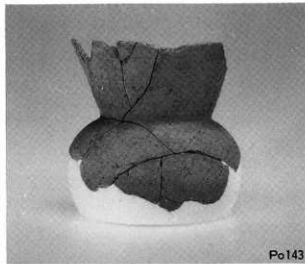
Po121



Po123



Po122



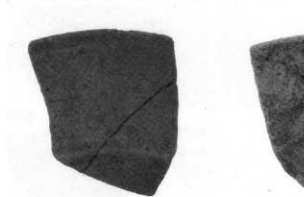
Po143



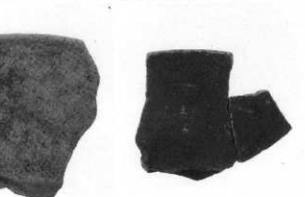
Po142



Po144



Po151



Po153



Po157



Po 148



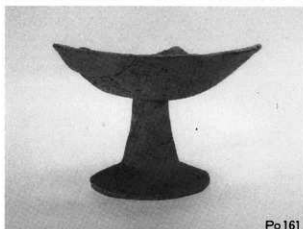
Po 150



Po 152



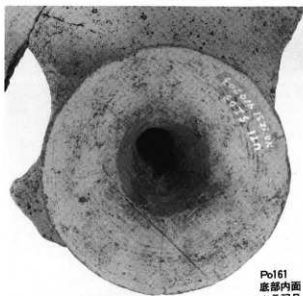
Po 158



Po 161



Po 159



Po161
底部内面
ヘラ記号



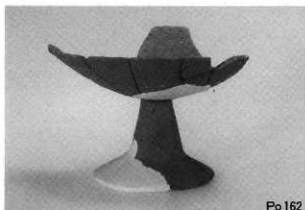
Po 160



Po163



Po166



Po162



Po165



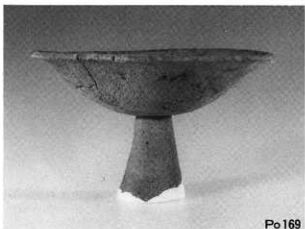
Po164



Po167



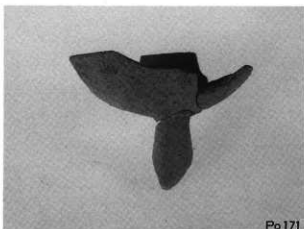
Po168



Po169



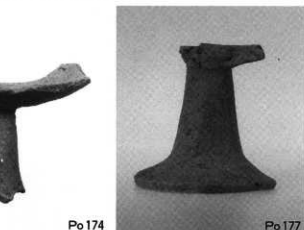
Po170



Po171



Po173



Po174



Po177



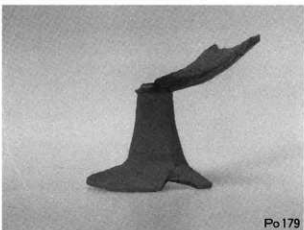
Po175



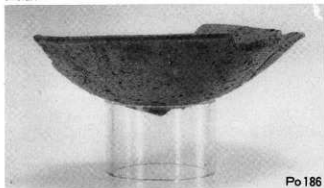
Po176



Po178



Po179



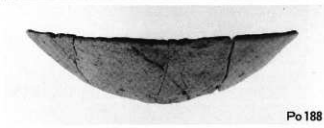
Po186



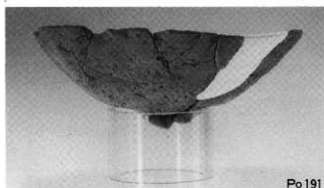
Po182



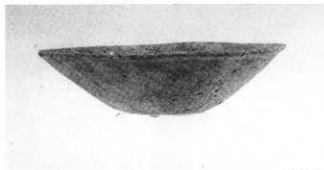
Po187



Po188



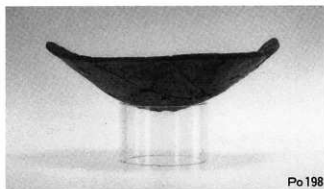
Po191



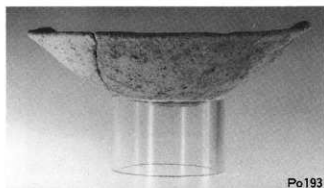
Po190



Po194



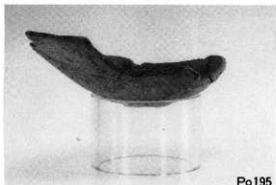
Po198



Po193



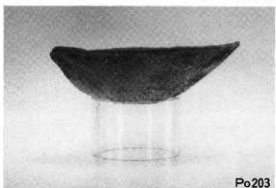
Po193
接合復



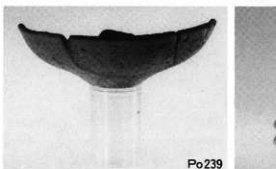
Po195



Po197



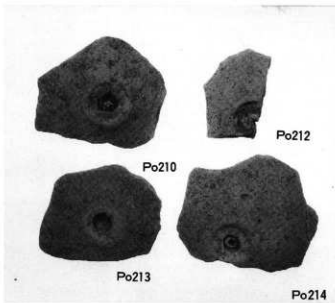
Po203



Po239



Po236

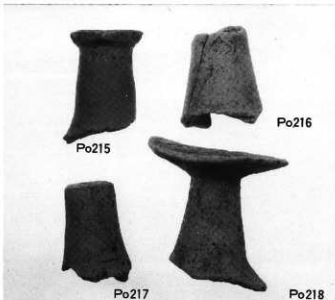


Po212

Po210

Po213

Po214

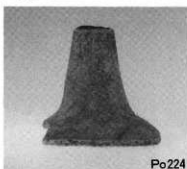


Po215

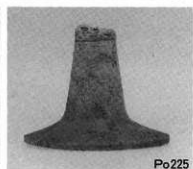
Po216

Po217

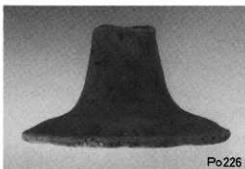
Po218



Po224



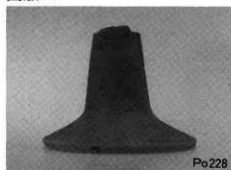
Po225



Po226



Po227



Po228



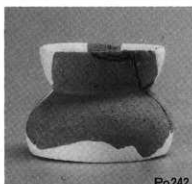
Po240



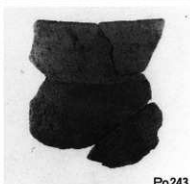
Po241



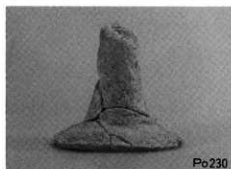
Po228
底部内面
へら記号



Po242



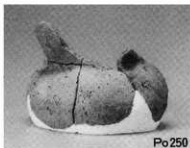
Po243



Po230



Po247



Po250



Po230
底部内面
へら記号



Po245



Po246



Po248



Po249



Po254



Po255



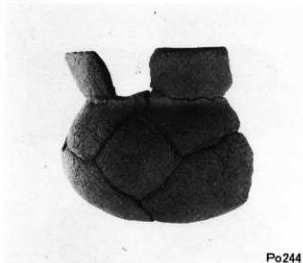
Po252



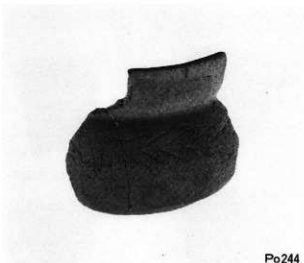
Po256



Po257



Po244



Po244



S4

S5

S6



S7



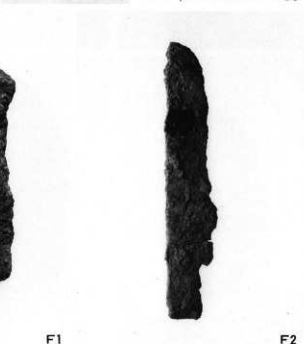
S8



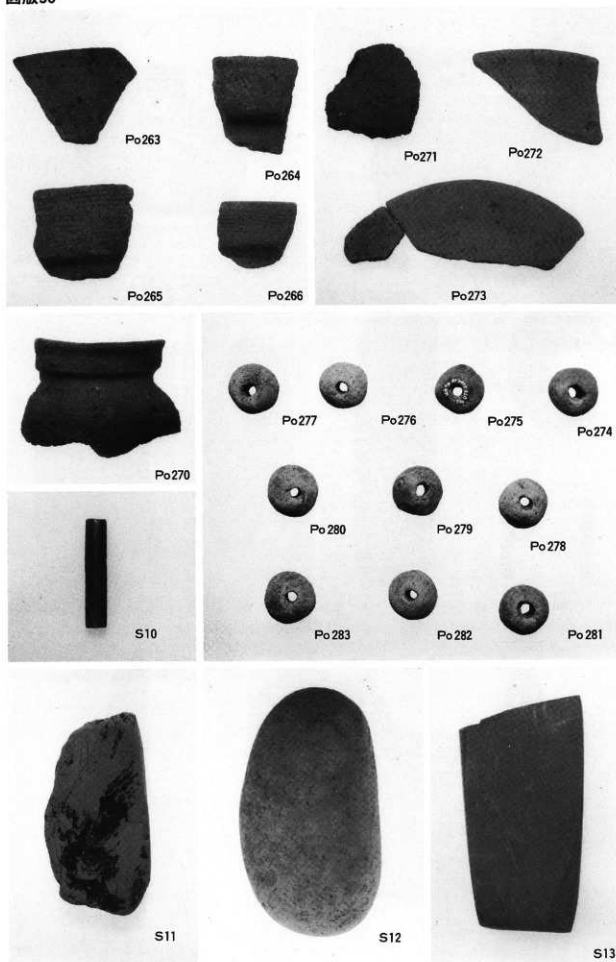
S9

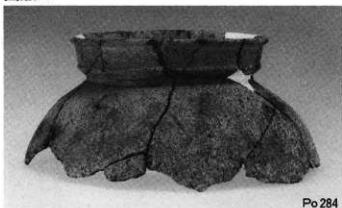


F1



F2

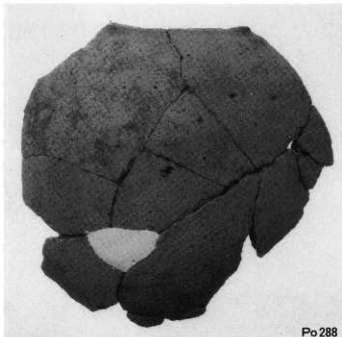




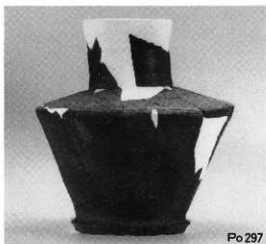
Po 284



Po 295



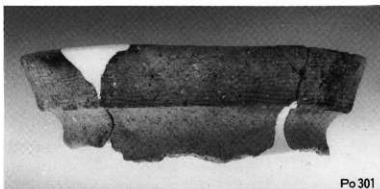
Po 288



Po 297



Po 307



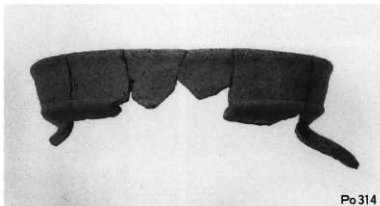
Po 301



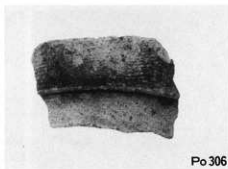
Po 302



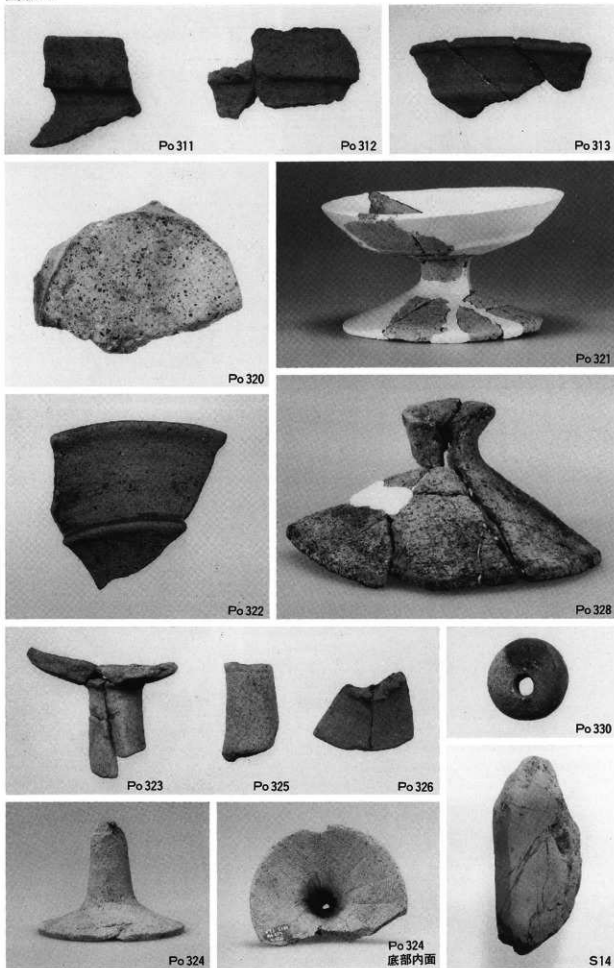
Po 304



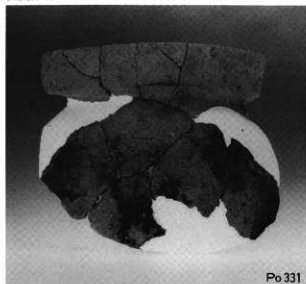
Po 314



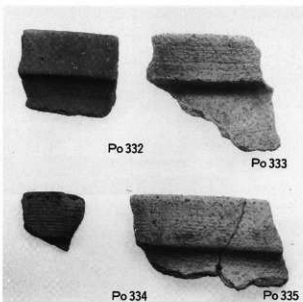
Po 306



宇谷第1遺跡 S107 (Po311~Po313, Po320~Po326, Po328, Po330, S14)



Po 331



Po 332

Po 333

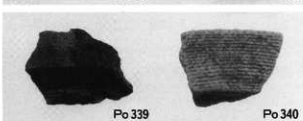
Po 334

Po 335



Po 337

Po 338

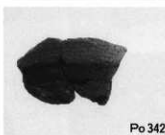


Po 339

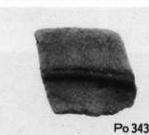
Po 340



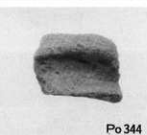
Po 336



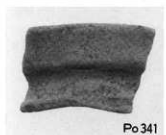
Po 342



Po 343



Po 344



Po 341



Po 345



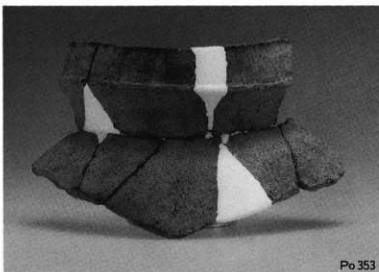
Po 346



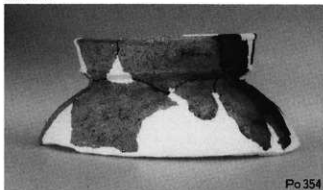
Po 347



Po 348



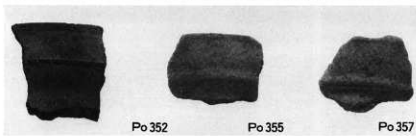
Po 353



Po 354



Po 359



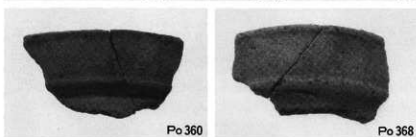
Po 352

Po 355

Po 357



Po 382

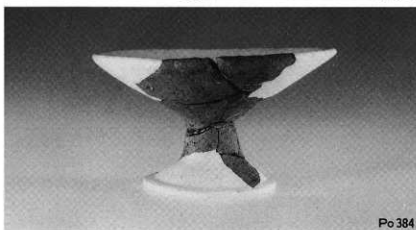


Po 360

Po 368



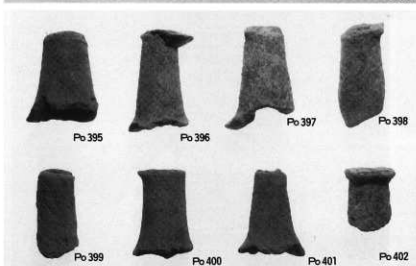
Po 388



Po 384



Po 403
底部内面



Po 395

Po 396

Po 397

Po 398

Po 399

Po 400

Po 401

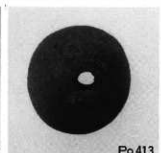
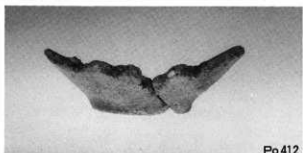
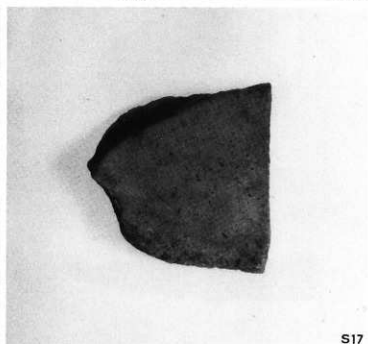
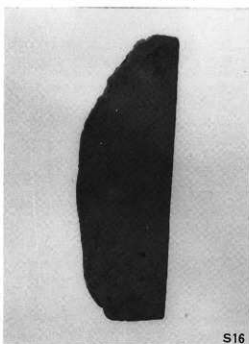
Po 402



Po 403 内面

宇谷第1遺跡 S108 (Po352、Po354、Po355、Po357、Po359、Po360、Po368、Po382、
Po384、Po388、Po395~Po403)

図版41



宇谷第1遺跡 S108 (Po406, Po407, S15~S17)

S109 (Po408, Po412, Po413, S18, S19)



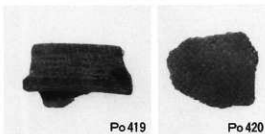
Po 417



Po 421

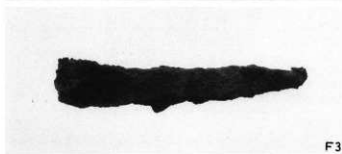


Po 418

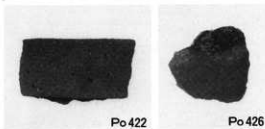


Po 419

Po 420

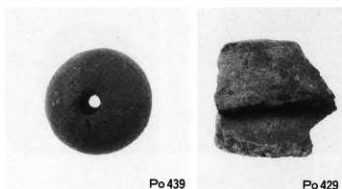


F 3



Po 422

Po 426

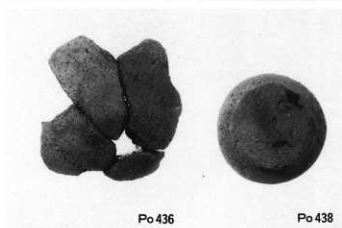


Po 439

Po 429



Po 440



Po 436

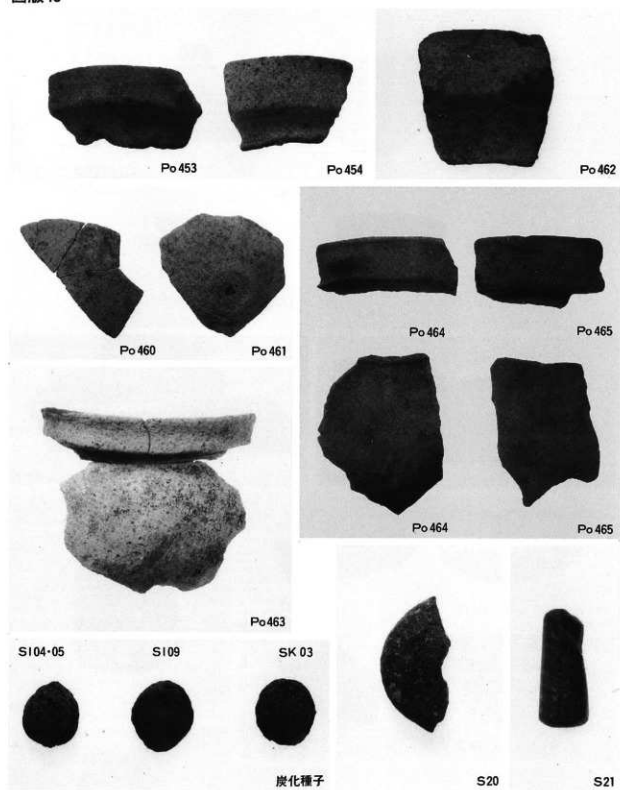
Po 438



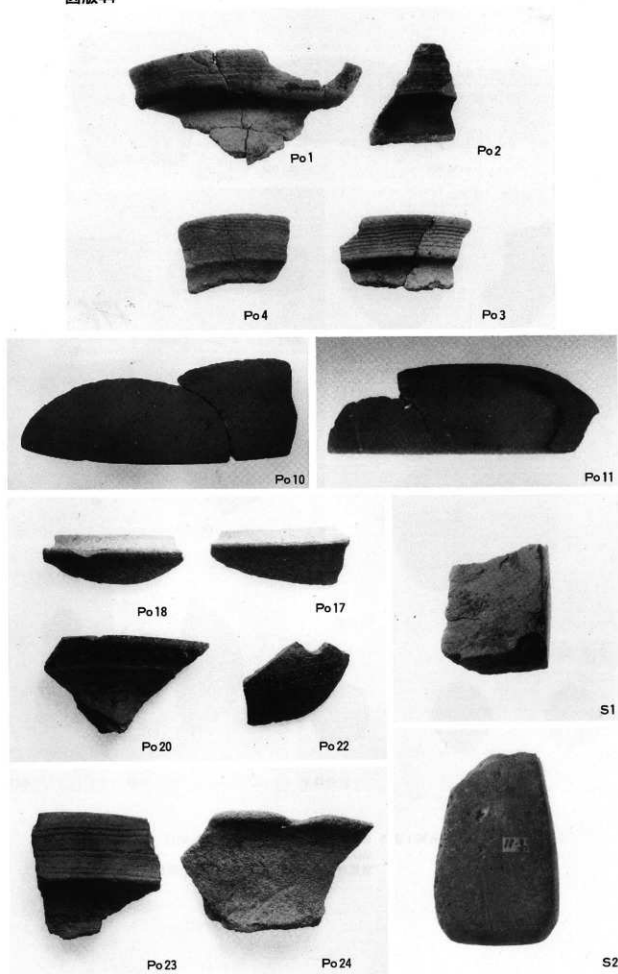
Po 444



Po 445



宇谷第1遺跡 SD03(Po453、Po454、Po460、Po461)
 SD05(Po462)・SB03(Po463)・
 遺構外(Po464、Po465、S20、S21)・炭化種子



南谷大ナル遺跡 S101 (Po1~Po4, S1)・SD02 (Po10, Po11)
遺構外 (Po17, Po18, Po20, Po22~Po24, S2)

鳥取県教育文化財団調査報告書28
一般国道9号(羽合道路)改築工事に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅱ

鳥取県東伯郡泊村

宇谷第1遺跡

鳥取県東伯郡羽合町

南谷大ナル遺跡

発行 1992・3・31

発行者 財団法人 鳥取県教育文化財団
〒680 鳥取市東町1丁目271番地
電話 鳥取(0857)26-8397

印刷 日ノ丸印刷株式会社
〒680 鳥取市寿町915
電話 鳥取(0857)22-2248